

汚水管路施設設計標準図

令和6年4月

鹿児島市水道局下水道部

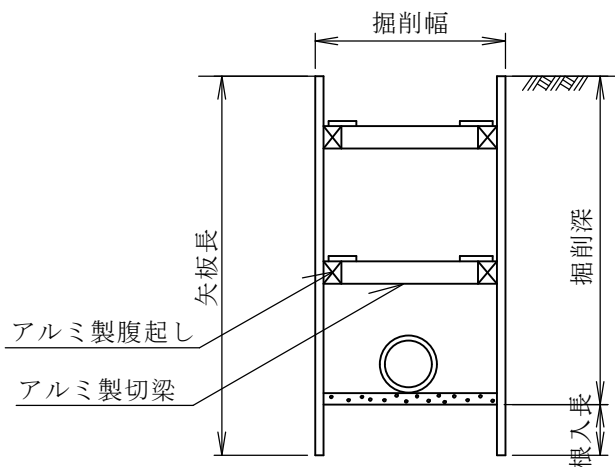
1. 汚水管路施設設計標準図

設計目次

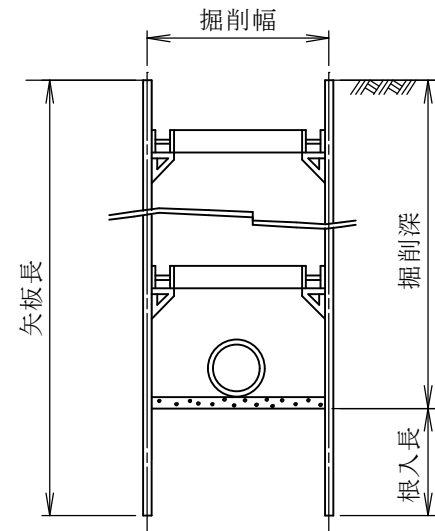
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
1	掘削幅及び土留め標準図	31	副管付マンホール構造標準図(2)
2	遠心力鉄筋コンクリート管(B形)布設標準図	32	足掛金物設置詳細図
3	遠心力鉄筋コンクリート管基礎工構造図	33	マンホール中心、インバート、蝶番、足掛金物設置要領(1)
4	硬質塩化ビニル管布設標準図	34	マンホール中心、インバート、蝶番、足掛金物設置要領(2)
5	強化プラスチック複合管布設標準図	35	完成図作成要領(1) 完成図の様式、配置及び記入例①
6	厚陶管布設標準図	36	完成図作成要領(2) 完成図の様式、配置及び記入例②
7	汚水取付管布設標準図	37	完成図作成要領(3) 本管・取付管等記入要領①
8	支管取付標準図	38	完成図作成要領(4) 本管・取付管等記入要領②
9	口径別管枕(内径200~800mm管用)標準図	39	完成図作成要領(5) 本管・取付管等記入要領③
10	口径別管枕(内径900~1350mm管用)標準図	40	完成図作成要領(6) 完成図凡例表
11	下水道用明示シート敷設標準図	41	完成図作成要領(7) 取付管位置平面図
12	鉄蓋据付詳細図(Aタイプ・Bタイプ)	42	完成図作成要領(8) 管きよ更生工法の完成図の記入例①
13	組立1号マンホール構造図(参考)	43	完成図作成要領(9) 管きよ更生工法の完成図の記入例②
14	組立2号マンホール構造図(参考)	44	完成図作成要領(10) マンホール更生工法の完成図の記入例
15	組立3号マンホール構造図(参考)	45	完成図作成要領(11) 取付管切替平面図
16	組立楕円マンホール構造図(参考)	46	完成図作成要領(12) 取付管切替詳細図
17	2号汚水ます(組立)構造図(参考)	47	完成図作成要領(13) 切込マンホール等の記入例
18	小型組立1号マンホール構造図(参考)	48	完成図作成要領(14) 各種様式の寸法①
19	小型組立2号マンホール構造図(参考)	49	完成図作成要領(15) 各種様式の寸法②
20	組立0号マンホール構造図(参考)	50	完成図作成要領(16) 各種様式の寸法③
21	組立マンホールの最大マンホール深さ(参考)	51	完成図作成要領(17) 伏越し部詳細図の記入例
22	可とう性マンホール継手の承認一覧表及び標準削孔一覧表	52	完成図作成要領(18) 圧送管の完成図の記入例①
23	1号汚水ます・掃除口Ⅲ型構造図	53	完成図作成要領(19) 圧送管の完成図の記入例②
24	1号マンホール構造図	54	完成図作成要領(20) 圧送管の完成図の記入例③
25	1号マンホール底版配筋図	55	完成図作成要領(21) マンホールポンプ所の完成図の記入例①
26	2号マンホール構造図	56	完成図作成要領(22) マンホールポンプ所の完成図の記入例②
27	3号マンホール構造図	57	完成図作成要領(23) マンホールポンプ所の完成図の記入例③
28	2号汚水ます構造図	58	完成図作成要領(24) マンホールポンプ所の完成図の記入例④
29	3号汚水ます構造図	59	完成図作成要領(25) 管路用地等の詳細図の記入例①
30	副管付マンホール構造標準図(1)	60	完成図作成要領(26) 管路用地等の詳細図の記入例②

掘削幅及び土留め標準図

建込工法（軽量鋼矢板）の場合



打込工法（軽量鋼矢板、鋼矢板）の場合



管径別掘削幅 [建込み工法]

単位 (mm)

管種・土留め 種別 管径	VP・VU			
	土留め無し	軽量鋼矢板		木矢板
		LSP-1, 2	LSP-3	
100	750	850	900	850
150	800	900	950	900
200	850	950	1000	950
250	900	1000	1050	1000
300	950	1050	1100	1050
350	1000	1100	1150	1100

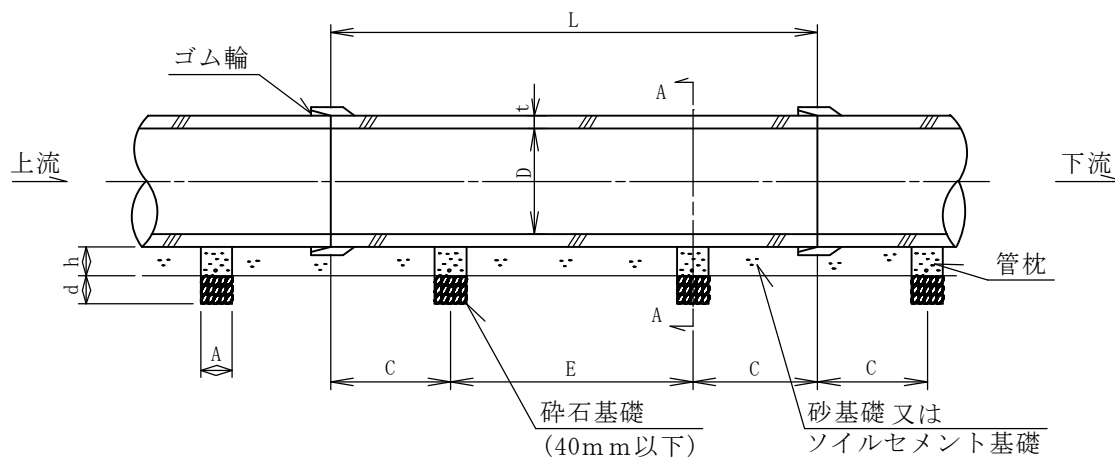
支保材（腹起し、切梁）設置段数

材料	種別	掘削深	設置段数
軽量鋼矢板 アルミ矢板		2.0m以下	1段
		3.5m以下	2段
		4.0m未満	3段

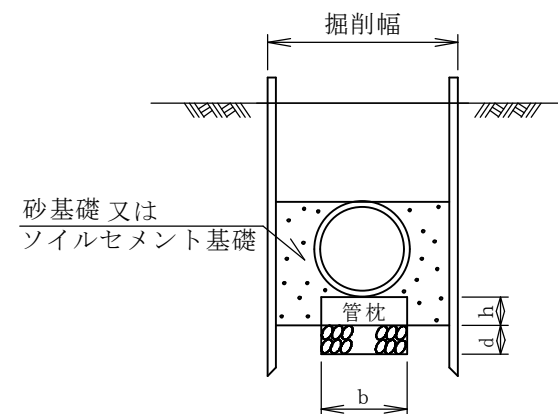
- (注) 1. 建込工法（軽量鋼矢板）の根入長は20cm以上とする。
 2. 打込工法の場合、腹起し材及び切梁材はH形鋼を使用すること。
 3. 鋼矢板の根入長及び支保材については、別途算出すること。

遠心力鉄筋コンクリート管 (B形) 布設標準図

側面図



標準断面図



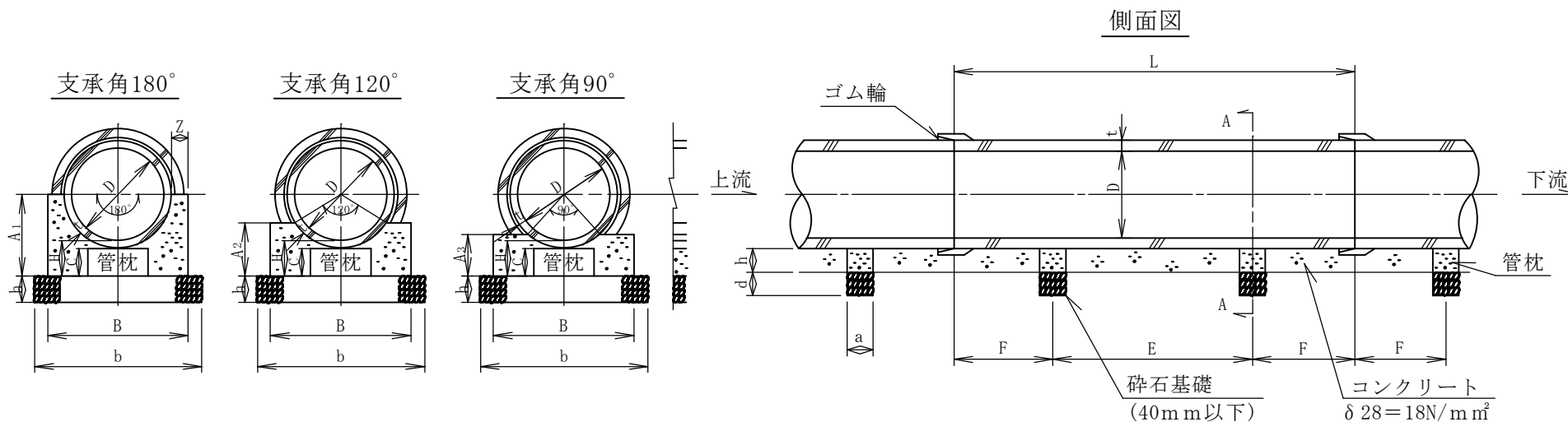
単位(mm)

構造寸法表

D	L	t	h	d	b	A	C	E
150	2000	26						
200	〃	27	100	100	300	150	500	1000
250	〃	28	〃	〃	〃	〃	〃	〃
300	〃	30	〃	〃	400	〃	〃	〃
350	〃	32	120	120	450	〃	〃	〃
400	2430	35	〃	〃	500	〃	610	1210
450	〃	38	〃	〃	550	〃	〃	〃
500	〃	42	150	150	600	〃	〃	〃
600	〃	50	〃	〃	700	〃	〃	〃
700	〃	58	〃	〃	800	〃	〃	〃
800	〃	66	〃	〃	1000	200	〃	〃
900	〃	75	200	200	1100	250	〃	〃
1000	〃	82	〃	〃	1200	〃	〃	〃
1100	〃	88	〃	〃	〃	〃	〃	〃
1200	〃	95	〃	〃	1600	〃	〃	〃
1350	〃	103	〃	〃	〃	〃	〃	〃

- (注)
1. 内径1500mm以上の管は、C形または、NC形とする。
 2. コンクリート基礎とする場合は、図面番号3を参照する。
 3. 材料の品質形状は、JIS A5303によること。
 4. 標準断面図は、市道部の復旧図であるため、国道・県道等の占用工事においては、それぞれの示方図に基づいて施工する。

遠心力鉄筋コンクリート管基礎工構造図

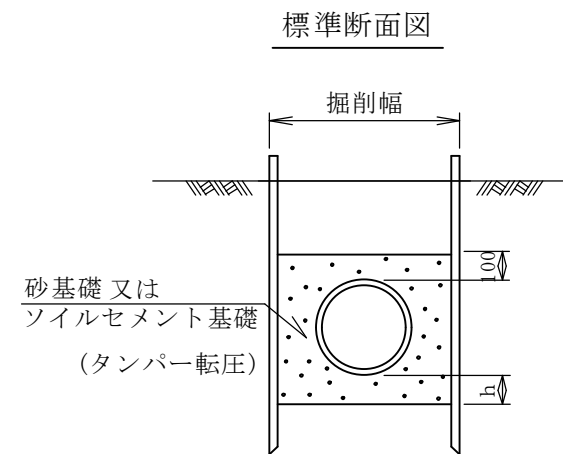
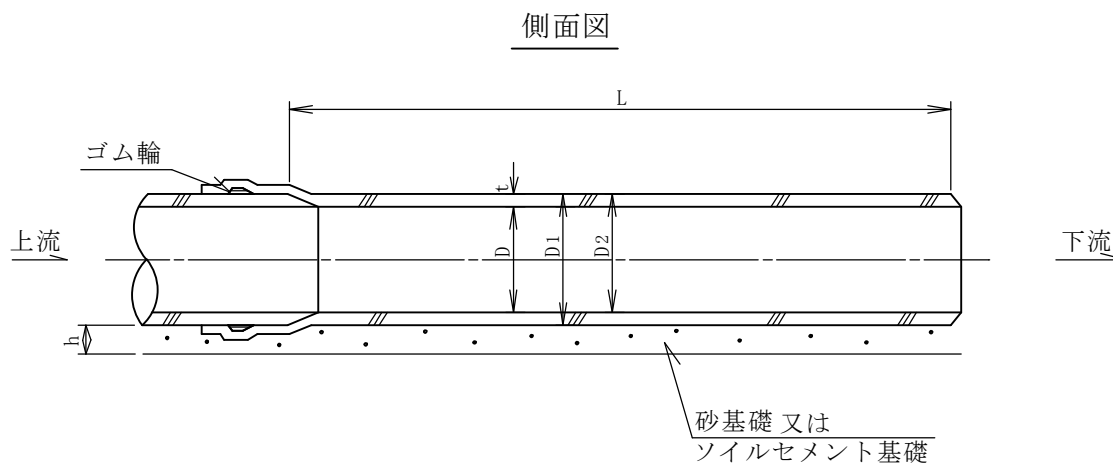


単位 (mm)

寸法表															
D	L	t	A ₁	A ₂	A ₃	B	C	H	Z	h	b	E	F	G	a
150	2000	26	175	135	104	350		126	74		550				
200	"	27	227	164	138	406	100	127	76	100	600	1000	500	300	150
250	"	28	253	177	145	450	"	128	72	"	650	"	"	"	"
300	"	30	280	190	153	500	"	130	70	"	700	"	"	400	"
350	"	32	327	224	181	560	120	152	73	120	760	"	"	450	"
400	2430	35	355	238	189	610	"	155	70	"	810	1210	610	500	"
450	"	38	383	250	198	670	"	158	72	"	870	"	"	550	"
500	"	42	442	286	226	730	150	192	73	150	930	"	"	600	"
600	"	50	500	325	253	850	"	200	75	"	1050	"	"	700	"
700	"	58	558	354	270	1010	"	208	97	"	1210	"	"	800	"
800	"	66	616	383	287	1130	"	216	99	"	1330	"	"	1000	200
900	"	75	725	463	354	1290	200	275	120	200	1490	"	"	1100	250
1000	"	82	782	491	371	1420	"	282	128	"	1620	"	"	1200	"
1100	"	88	838	519	387	1540	"	288	132	"	1740	"	"	"	"
1200	"	95	895	548	404	1670	"	295	140	"	1870	"	"	1600	"
1350	"	103	978	589	428	1850	"	303	147	"	2050	"	"	"	"

- (注) 1. 内径150~1350mmまではA、B形管共通寸法とする。
 2. 内径1500mm以上の管はC形または、NC形とする。
 3. これ以外の基礎工については別途に定めること。
 4. 基礎コンクリートの強度は $\delta 28=18\text{N/mm}^2$ とする。
 5. NC形の基礎コンクリート計上については別途決定するものとする。

硬質塩化ビニル管布設標準図



単位(mm)

管径	記号	D ₁	D	h	t	L	D+t	D ₂
100	VP	114	100	100	6.6	5000	106.6	107
	VU	〃	107	〃	3.1	4000	110.1	110
150	VP	165	146	〃	8.9	5000	154.9	155
	VU	〃	154	〃	5.1	4000	159.1	159
200	VP	216	194	〃	10.3	5000	204.3	204
	VU	〃	202	〃	6.5	4000	208.5	209
250	VP	267	240	〃	12.7	5000	252.7	253
	VU	〃	250	〃	7.8	4000	257.8	258
300	VP	318	286	〃	15.1	5000	301.1	301
	VU	〃	298	〃	9.2	4000	307.2	307
350	VU	370	348	120	10.5	〃	358.5	359
400	VU	420	395	〃	11.8	〃	406.8	407
450	VU	470	442	〃	13.2	〃	455.2	455
500	VU	520	489	150	14.6	〃	503.6	504
600	VU	630	592	〃	17.8	〃	609.8	610

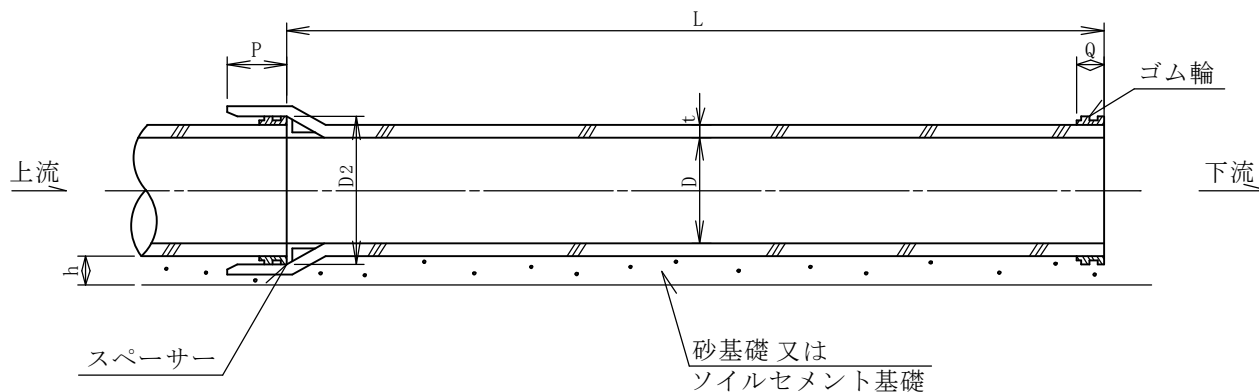
[管径別最小勾配]

管種 \ 管径	150	200	250
硬質塩化ビニル管 (VUorVP)	(以上) 4‰	(以上) 3‰	(以上) 2‰

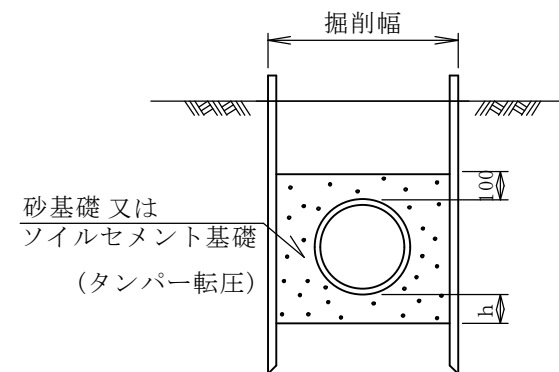
- (注)
- 標準基礎工(砂基礎工・ソイルセメント基礎工)の場合であり特殊基礎工は除く。
 - 材料の品質形状は、JIS K6741とする。
 - 標準断面図は、市道部の復旧図であるため、国道・県道等の占用工事においては、それぞれの示方図に基づいて施工する。

強化プラスチック複合管布設標準図

側面図



標準断面図



単位(mm)

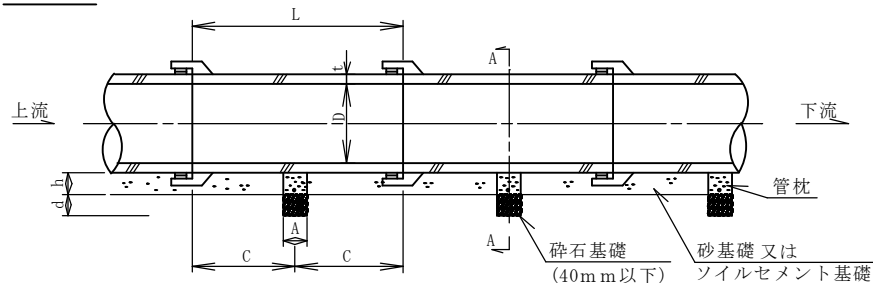
構造寸法表								
呼び径	D	D ₂	t	P	Q	L	h	b
200	200	229	7.0	140	50	4000	100	300
250	250	280	7.5	〃	〃	〃	〃	300
300	300	331	8.0	150	〃	〃	〃	400
350	350	382	8.5	〃	〃	〃	〃	450
400	400	434	9.0	160	〃	〃	〃	500
450	450	485	9.5	〃	〃	〃	〃	550
500	500	541	10.0	200	65	〃	〃	600
600	600	645	12.0	〃	〃	〃	〃	700
700	700	749	14.0	〃	〃	〃	〃	800
800	800	856	16.0	220	〃	〃	〃	1000
900	900	960	18.0	〃	〃	〃	〃	1100

- (注)
1. コンクリート基礎とする場合は、別途積算するものとする。
 2. 左表は、JSWAS K-2による。
 3. 標準断面図は、市道部の復旧図であるため、国道・県道等の占用工事においては、それぞれの示方図に基づいて施工する。

厚陶管布設標準図

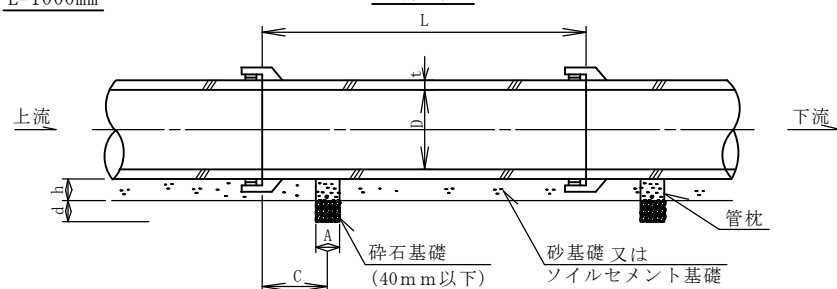
L=660mm

側面図



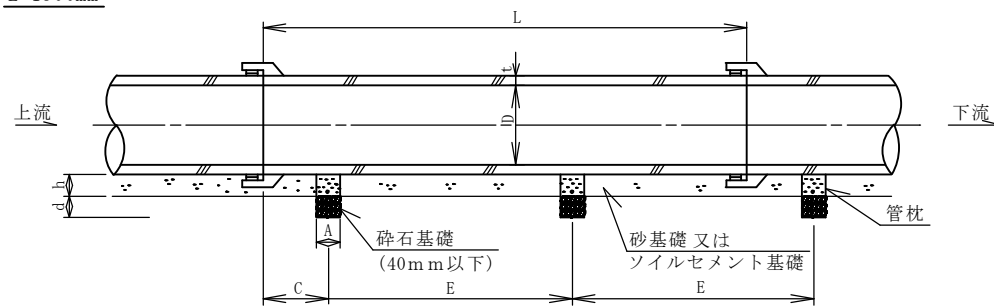
L=1000mm

側面図



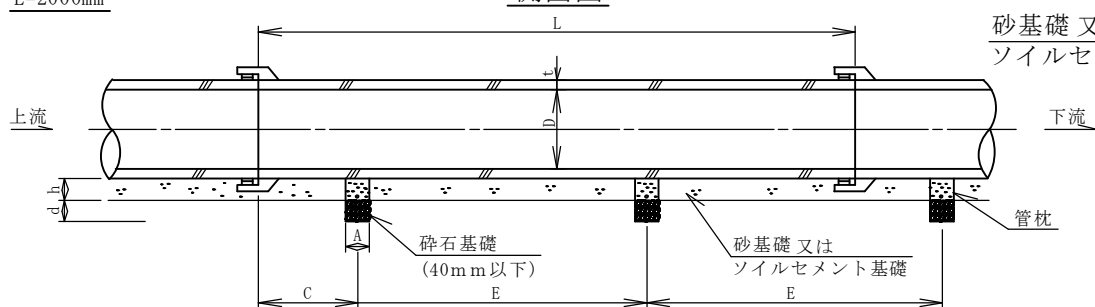
L=1500mm

側面図



L=2000mm

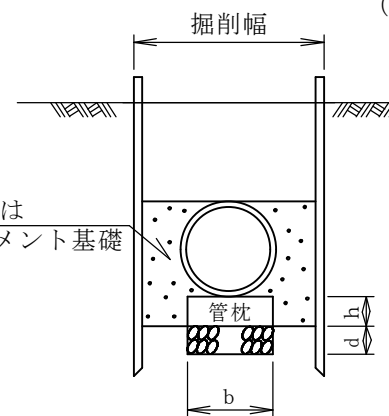
側面図



単位 (mm)

L	D	t	A	b	h	d	C	E
660	150	19						
	200	23	150	300	100	100	330	
1000	150	19	150	300	100	100	200	
	200	23						
	250	26						
	300	29						
1500	200	23	150	300	100	100	200	750
	250	26						
	300	29						
2000	250	26	150	300	100	100	200	1000
	300	29						
	350	32						
	350	32						

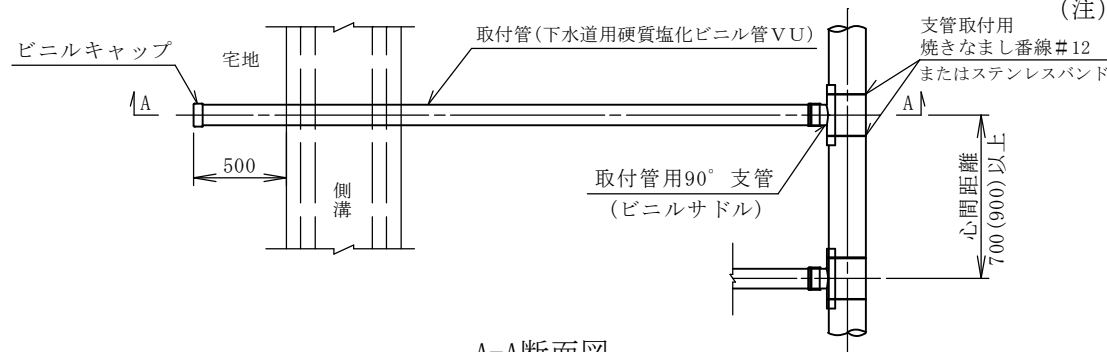
標準断面図



- (注) 1. 陶管は、厚陶管とする。
 2. 材料の品質形状は、JIS R1201によること。
 3. 各陶管の印を必ず上にして布設すること。
 4. 標準断面図は、市道部の復旧図であるため、国道・県道等の占用工事においては、それぞれの示方図に基づいて施工する。

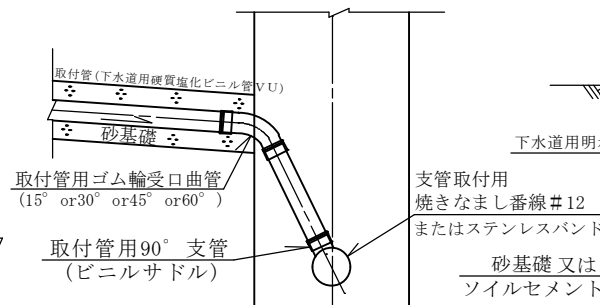
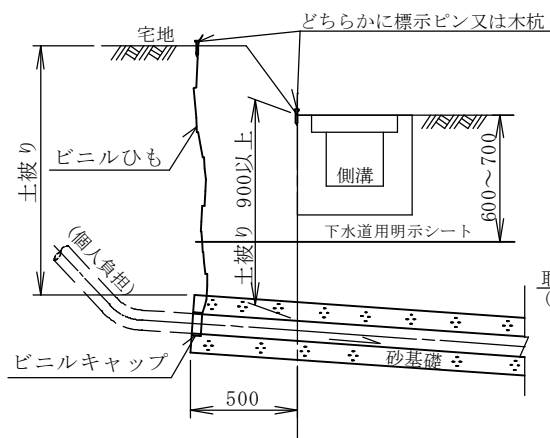
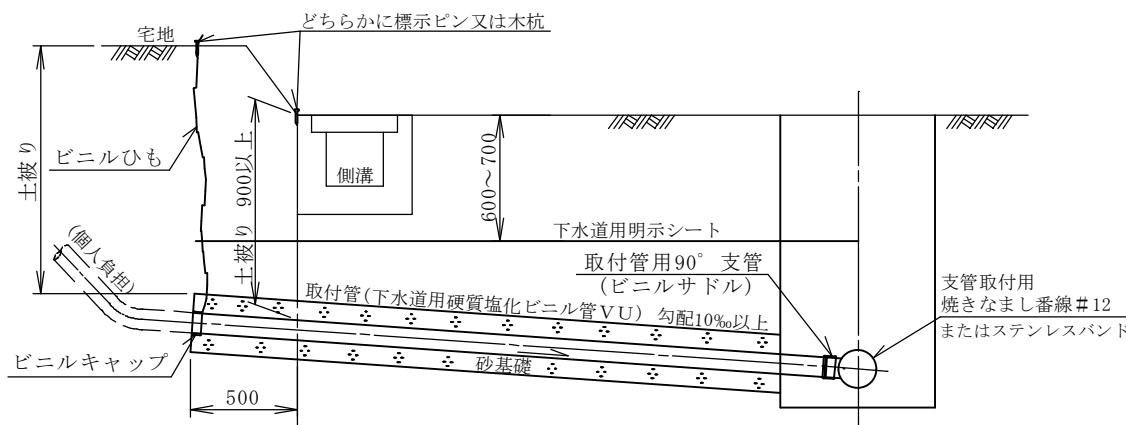
汚水取付管布設標準図

平面図



- (注)
1. 取付管の管底は、原則として本管の中心線より上方に取り付けること。
 2. 取付管の勾配は、10%以上とする。
 3. 取付管の土被りは、道路官民境界部分で原則として0.9m以上確保すること。
 4. 取付管の埋設深さは、宅地の広さを考慮して決定すること。
 5. 取付管位置標示のため、道路官民境界部分か宅地内の道路官民境界より50cmの部分に、標示ピン又は木杭を打ち込み、宅地内は、取付管にビニルひもを結び、宅地内で確認できるように地表面に出して標示すること。
 なお、木杭や標示ピンの設置は、汚水管布設工事において取付管をキャップ止めする場合とし、宅地内の掘削及び取付管位置標示に当っては、必ず土地所有者の了解を得ること。
 6. 木杭の寸法は、4.5cm×4.5cm×35cmとする。木杭は腐食しにくいものに赤のペンキを塗り、支障のない程度地表面より出しておくこと。
 7. 標示ピンには、必ず標示板を設置すること。標示ピン及び標示板の寸法・仕様は、別図のとおりとする。
 8. 上記の木杭、標示ピン及び標示板の寸法は、標準のものであり、現場条件により、標準のものが設置できない場合は、監督員と協議して決定すること。
 9. 取付管の継手部は、原則としてゴム輪受口とする。
 10. 近接してせん孔する場合は、心間距離を0.7m以上とること。
 また、呼び径φ200の支管を使用する場合は、0.9m以上とること。

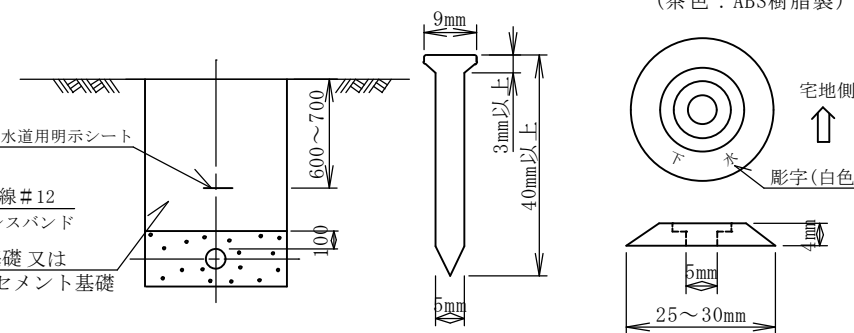
A-A断面図



標準断面図

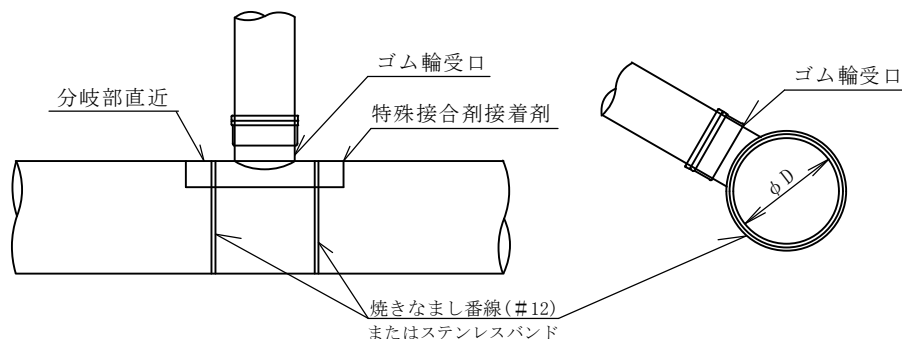
標示ピン(金属製)

標示板
(茶色：ABS樹脂製)



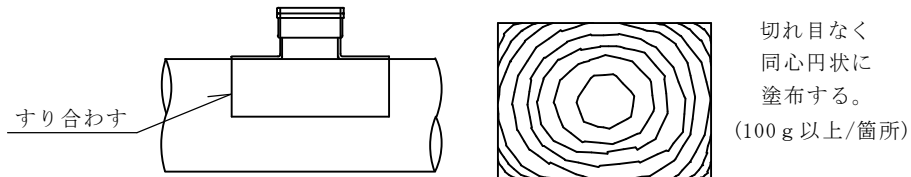
支管取付標準図

支管取付図

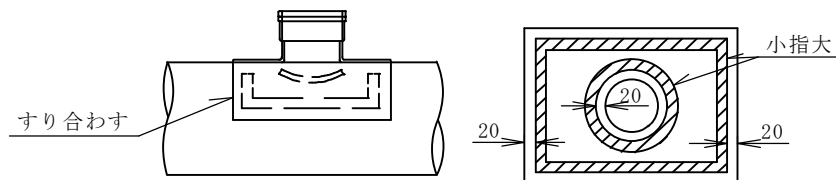


特殊接合剤による塗布方法

一液接合剤による塗布方法



二液接合剤による塗布方法



※ 特殊接合剤を取付管用90°支管に塗布後、焼きなまし番線(#12)またはステンレスバンドで装着させ、支管からはみ出した接合剤は、本管とすり合わせること。
 なお、特に本管せん孔部分にはみ出した接合剤は、入念にすり合わせ余分な分については、ふき取ること。

特殊接合剤の用途区分表

メーカー	本管管種	
	硬質塩化ビニル管	ヒューム管・陶管・強化プラスチック管
クボタシーアイ(株)	SVRボンド【一液型】 ※一段落支管の場合使用できない。 (例200×150は使用不可)	ケーシーボンド【二液混合型】
アロン化成(株)	BVボンド【一液型】	下水道用接合剤【二液混合型】
積水化学工業(株)	——	エスロンドレンタイト【二液混合型】
旭有機材工業(株)	アサヒBVボンド【一液型】	AV接合剤【二液混合型】
三菱樹脂(株)	BVボンド【一液型】	ヒューム管用支管接合剤【二液混合型】
(株)ヴァンテック	——	コマツボンド【二液混合型】
ビーオーケミカル(株)	——	B0メジコン【二液混合型】

1. 硬質塩化ビニル管に取り付ける場合は、各メーカーのチューブ入り接合剤【一液型】の使用を標準とする。

なお、二液混合型の接合剤を使用する場合は、各メーカーの製品カタログの用途区分に基づき監督員の承認を得てから施工する。

2. ヒューム管、陶管、強化プラスチック管に支管を取り付ける場合は、各メーカーの【二液混合型】の接合剤を使用する。

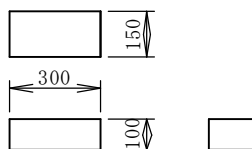
なお、上表にないメーカーの製品を使用する場合、製品カタログの用途区分に基づき監督員の承認を得てから施工する。

3. 一液型接合剤の1箇所当りの使用量は、100g以上を標準とする。

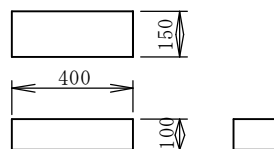
4. 二液型接合剤の1箇所当りの使用量は、各メーカーの標準使用量を参考とする。

口径別管枕(内径200~800mm管用)標準図

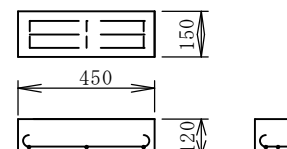
内径200・250用管枕 S=1/25



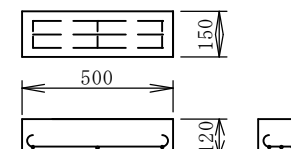
内径300用管枕 S=1/25



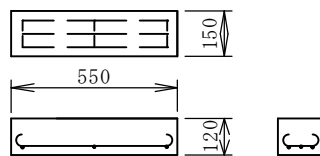
内径350用管枕 S=1/25



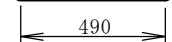
内径400用管枕 S=1/25



内径450用管枕 S=1/25



$\phi 4 \times 550 \times 3$ 本

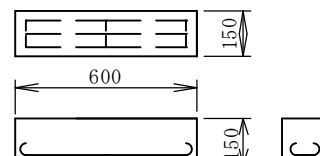


$\phi 4 \times 150 \times 3$ 本

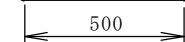


計 2.10m 0.21kg

内径500用管枕 S=1/25



$\phi 6 \times 600 \times 3$ 本

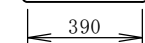


$\phi 6 \times 150 \times 3$ 本



計 2.25m 0.50kg

$\phi 4 \times 450 \times 3$ 本



$\phi 4 \times 150 \times 3$ 本



計 1.80m 0.18kg

$\phi 4 \times 500 \times 3$ 本

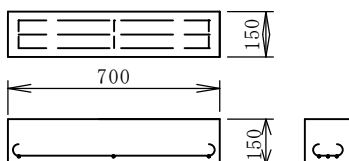


$\phi 4 \times 150 \times 3$ 本

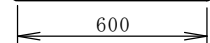


計 1.95m 0.20kg

内径600用管枕 S=1/25



$\phi 6 \times 700 \times 3$ 本

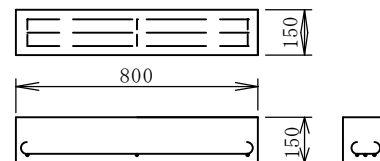


$\phi 6 \times 150 \times 3$ 本

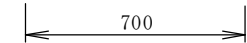


計 2.55m 0.57kg

内径700用管枕 S=1/25



$\phi 6 \times 800 \times 3$ 本

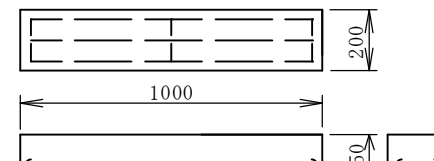


$\phi 6 \times 150 \times 3$ 本

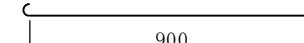


計 2.85m 0.64kg

内径800用管枕 S=1/25



$\phi 6 \times 1000 \times 3$ 本



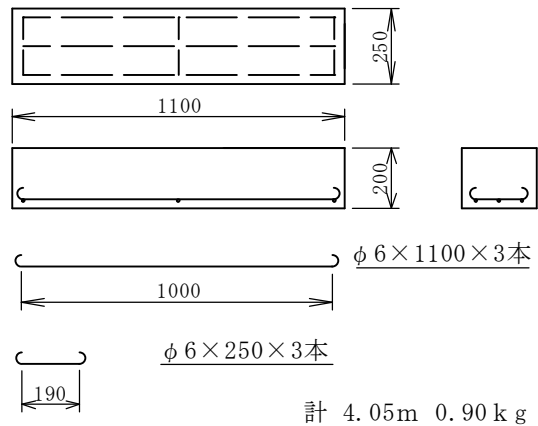
$\phi 6 \times 200 \times 3$ 本



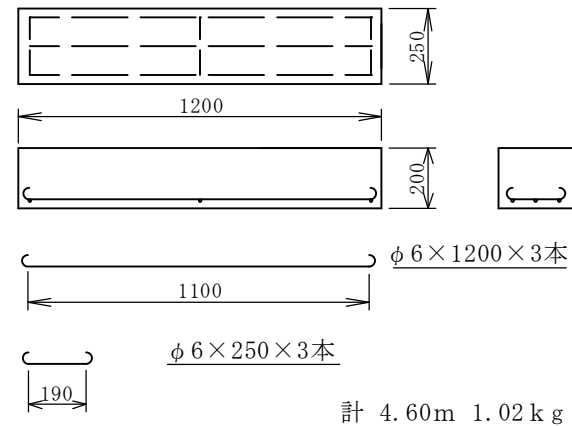
計 3.60m 0.80kg

口径別管枕(内径900~1350mm管用)標準図

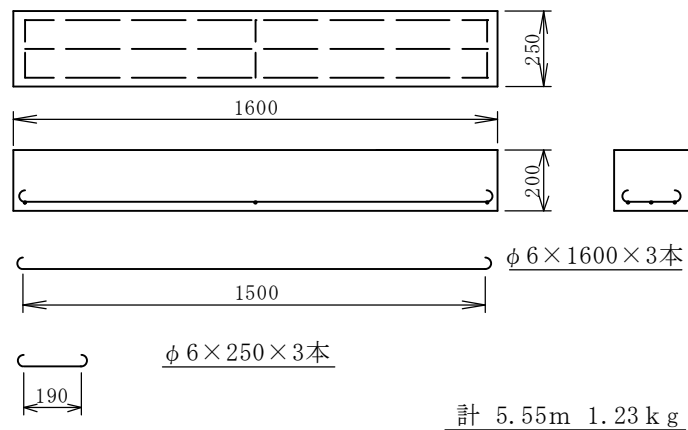
内径900用管枕 S=1/25



内径1000用管枕 S=1/25

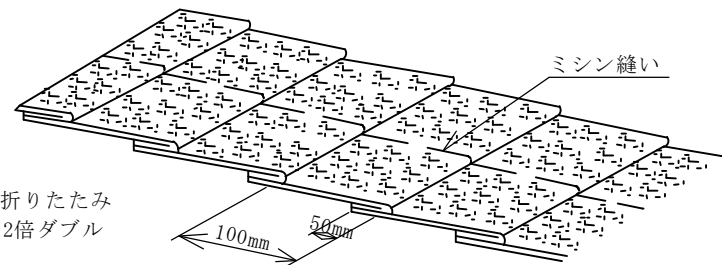
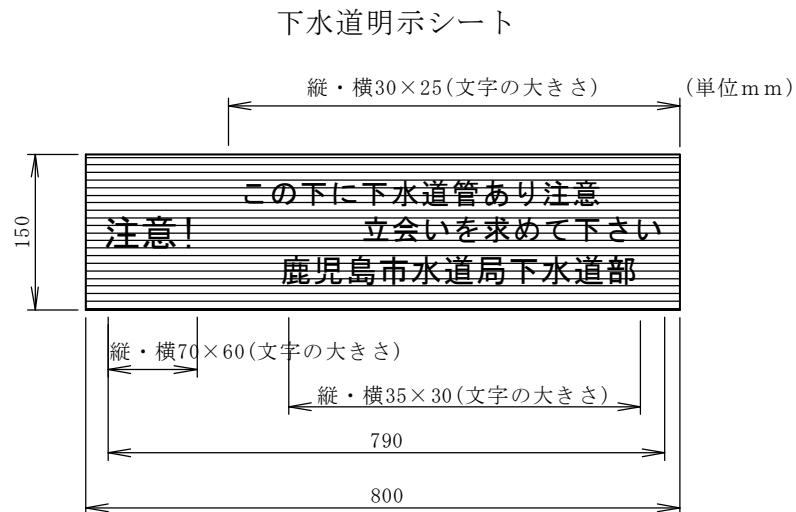


内径1350用管枕 S=1/25



下水道用明示シート敷設標準図

1. 形状、寸法



- 注 (1) 地は茶色、文字は白色とする。
 (2) 地の形状は巾150mm、厚さ0.1mm2倍折込みの50m巻とする。
 (3) 印刷文地の1サイクルは800mmとする。
 (4) 文字はゴシック体とする。

2. 材質

シートは、高密度ポリエチレンを織製したクロスに低密度ポリエチレンをラミネートしたものとし、可塑剤の添加がなく、耐薬品性にすぐれ、バクテリアにより腐食することのない、柔軟性に富んでいるものとする。

3. 構造

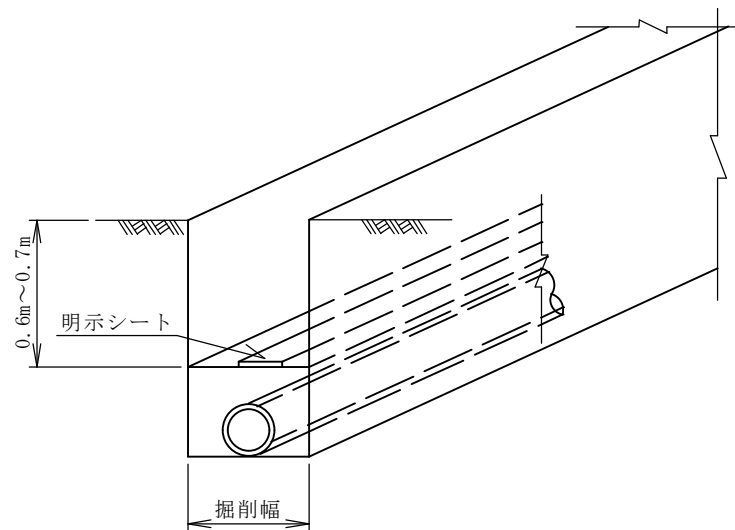
シートは、1000デニールのテープを縦及び横方向の各50mmの区間に17本以上織込んだものとし、その上にラミネート処理を施したものとする。

4. 色・印刷

シートの生地は茶色、文字・表示マークは白色で印刷ブレのないものとする。なお、生地の色及び印刷インクは、長期にわたり変色したり、はげたりするものであってはならない。

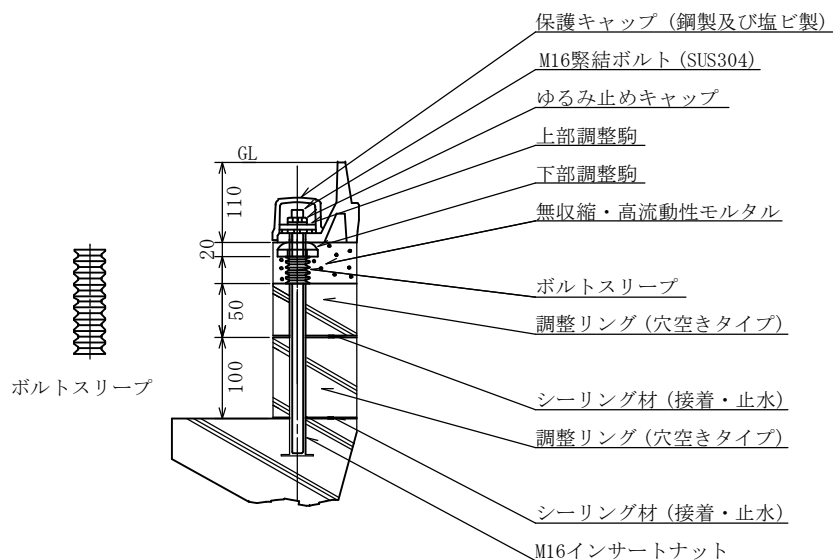
5. 敷設方法

管径、掘削幅の大小にかかわらず、縦断方向に路面下0.6m~0.7mの所に敷設する。

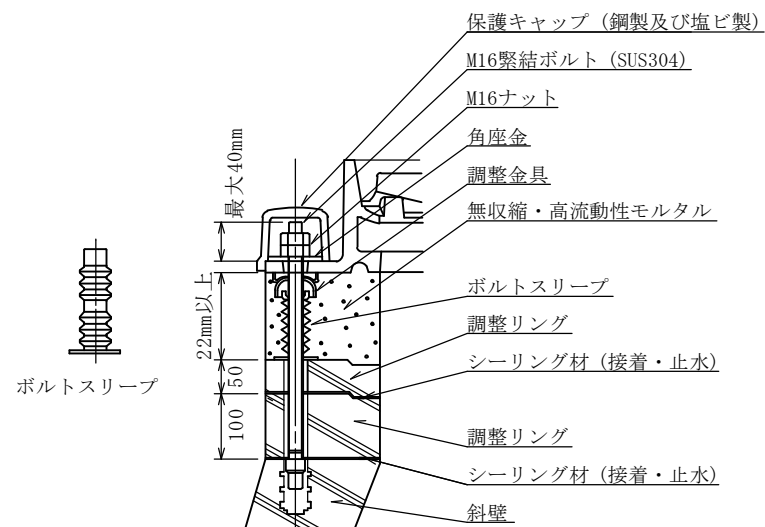


鉄蓋据付詳細図 (Aタイプ・Bタイプ)

(Aタイプ)



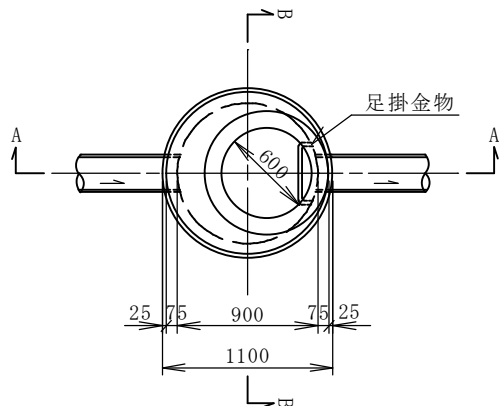
(Bタイプ)



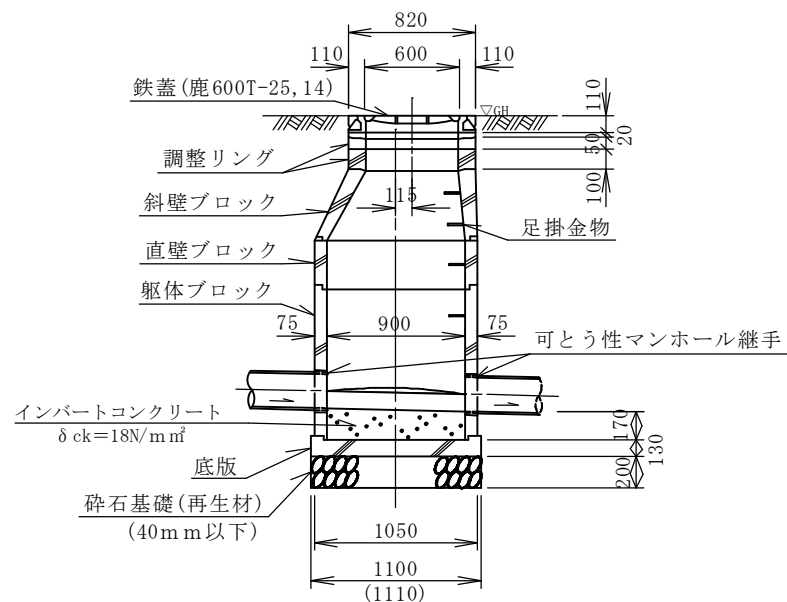
注 シーリング材については、必ず施工すること。(一重)

組立1号マンホール構造図 (参考)

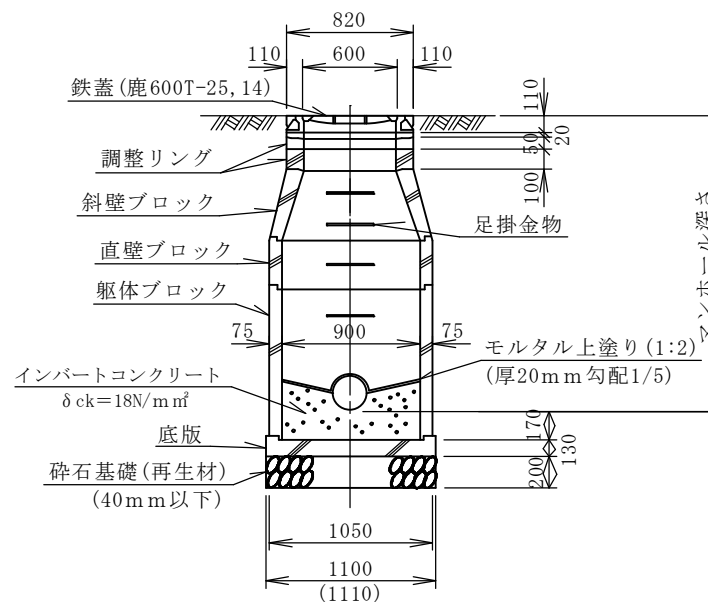
平面図



A-A断面図



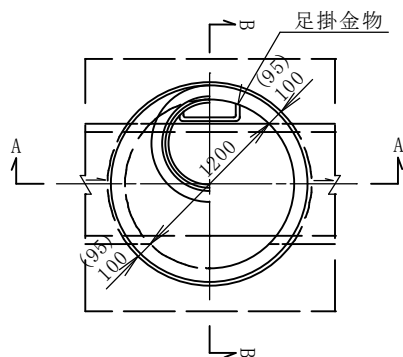
B-B断面図



1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2cmすりつける。
2. マンホールの調整リングは10cm、5cmの2段を標準とする。
3. 管接合部分は、可とう性マンホール継手を使用する。
4. マンホールの組合せは、承諾メーカーの材料表による。
5. この図面は、標準型マンホールのため、深さが5.0mを超える場合は、各メーカー仕様に基づいて選定すること。
6. マンホールの施工については、各メーカーの施工要領を遵守すること。

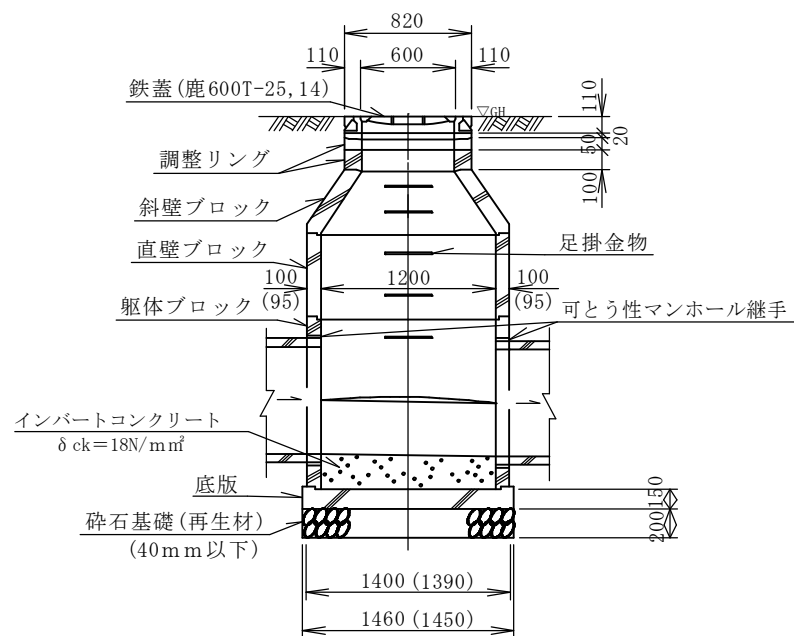
組立2号マンホール構造図 (参考)

平面図

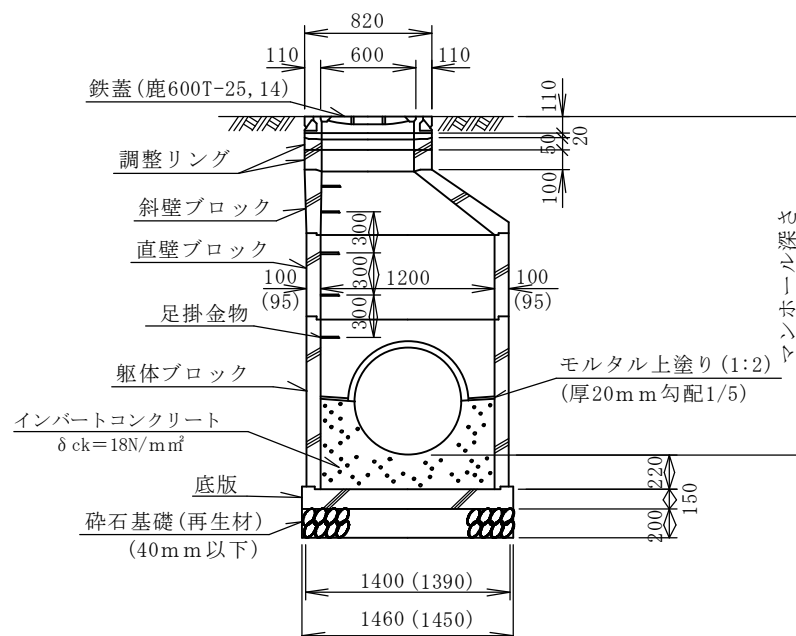


1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2cmすりつける。
2. マンホールの調整リングは10cm、5cmの2段を標準とする。
3. 管接合部分は、可とう性マンホール継手を使用する。
4. マンホールの組合せは、承諾メーカーの材料表による。
5. この図面は、標準型マンホールのため、深さが5.0mを超える場合は、各メーカー仕様に基づいて選定すること。
6. マンホールの施工については、各メーカーの施工要領を遵守すること。

A-A断面図

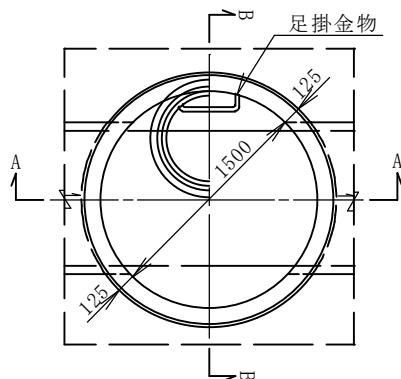


B-B断面図

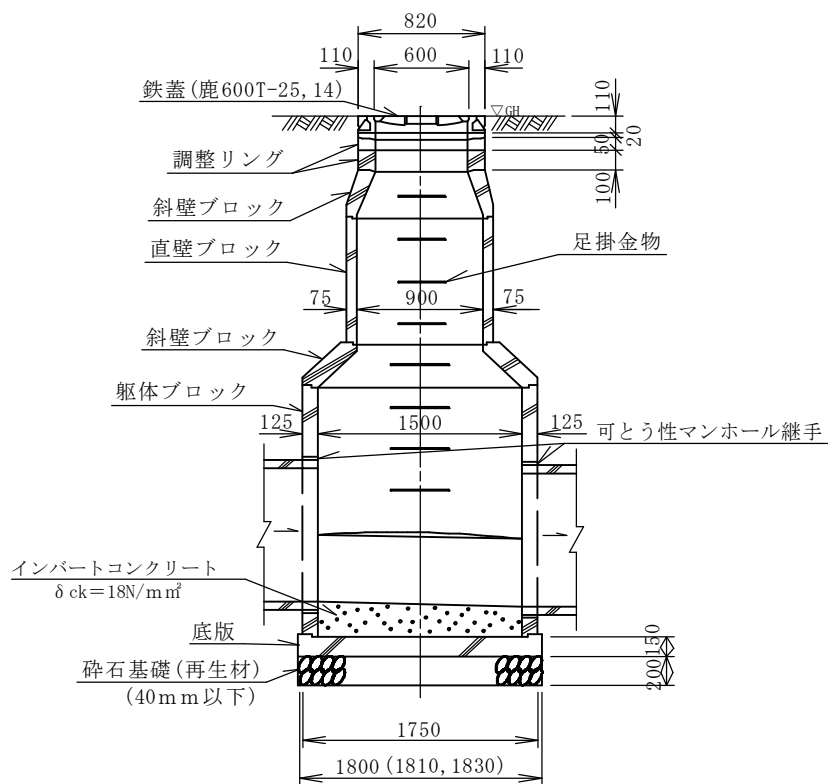


組立3号マンホール構造図 (参考)

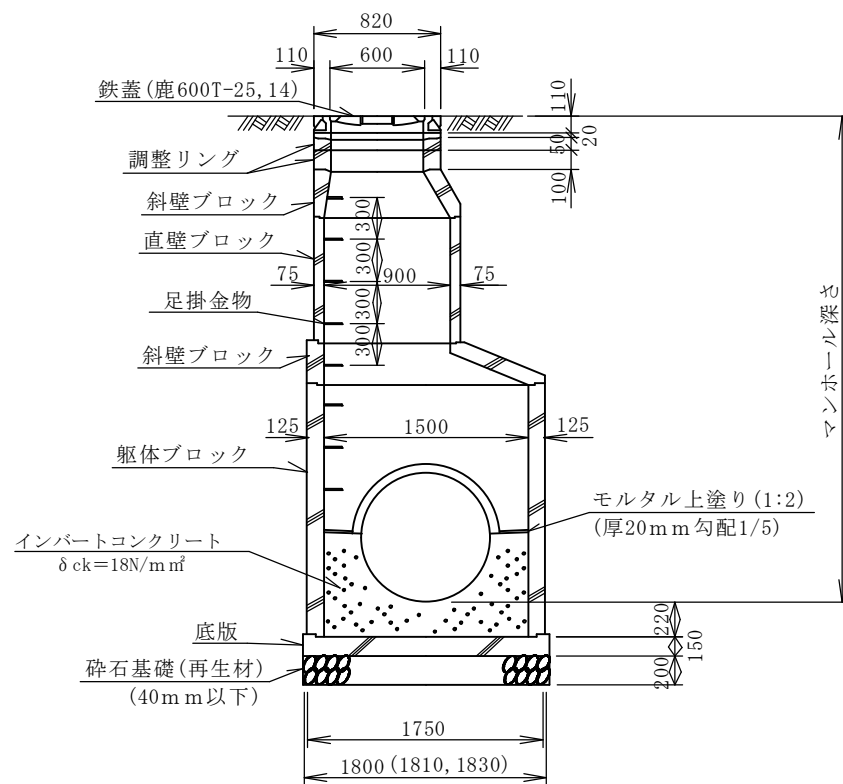
平面図



A-A断面図



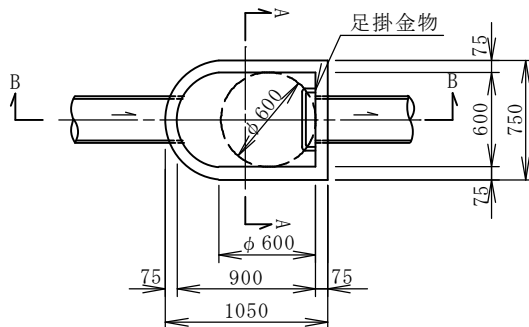
B-B断面図



1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2 cm すりつける。
2. マンホールの調整リングは10 cm、5 cmの2段を標準とする。
3. 管接合部分は、可とう性マンホール継手を使用する。
4. マンホールの組合せは、承諾メーカーの材料表による。
5. この図面は、標準型マンホールのため、深さが5.0mを超える場合は、各メーカー仕様に基づいて選定すること。
6. マンホールの施工については、各メーカーの施工要領を遵守すること。

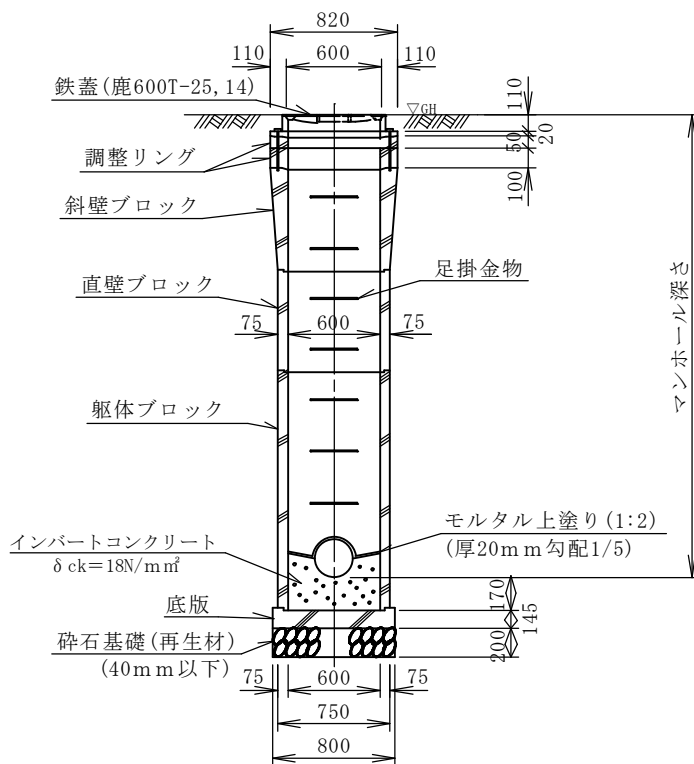
組立楕円マンホール構造図 (参考)

平面図

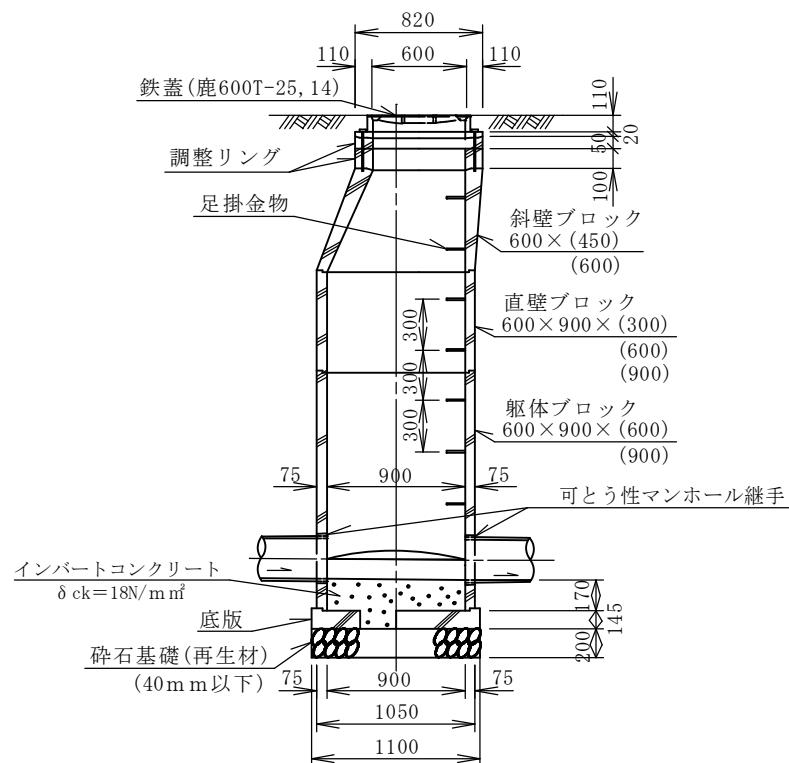


1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2 cm すりつける。
2. マンホールの調整リングは10 cm、5 cmの2段を標準とする。
3. 管接合部分は、可とう性マンホール継手を使用する。
4. マンホールの組合せは、承諾メーカーの材料表による。
5. この図面は、標準型マンホールのため、深さが3.5mを超える場合は、各メーカー仕様に基づいて選定すること。
6. マンホールの施工については、各メーカーの施工要領を遵守すること。

A-A断面図

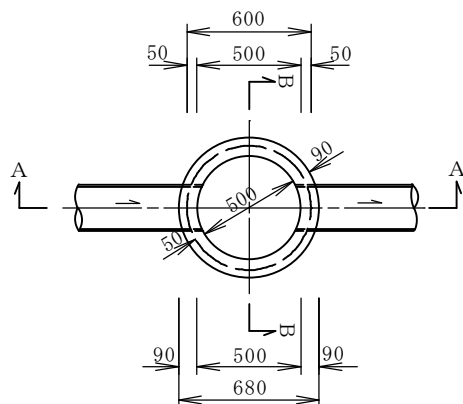


B-B断面図



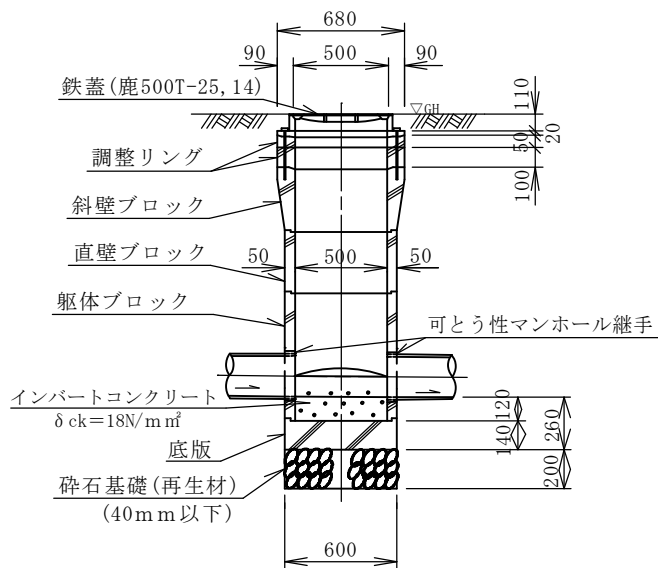
2号汚水ます(組立)構造図 (参考)

平面図

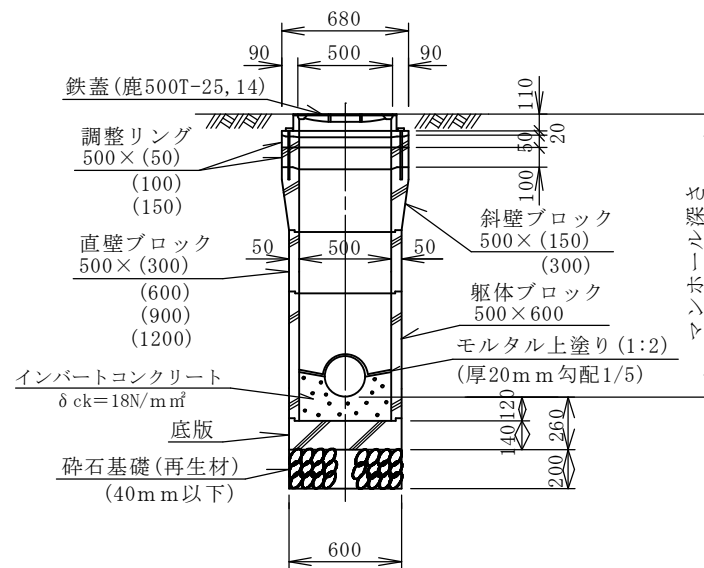


1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2 cm すりつける。
2. マンホールの調整リングは10 cm、5 cmの2段を標準とする。
3. 管接合部分は、可とう性マンホール継手を使用する。
4. マンホールの組合せは、承諾メーカーの材料表による。
5. この図面は、標準型マンホールのため、深さが2.2mを超える場合は、各メーカー仕様に基づいて選定すること。
6. マンホールの施工については、各メーカーの施工要領を遵守すること。

A-A断面図

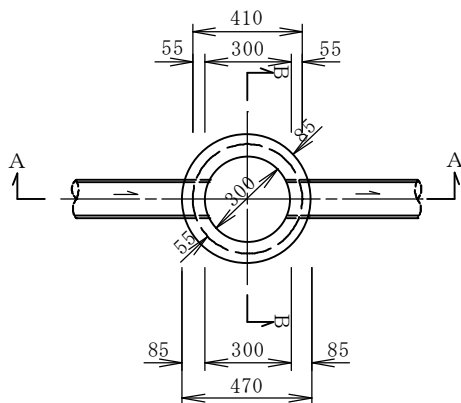


B-B断面図



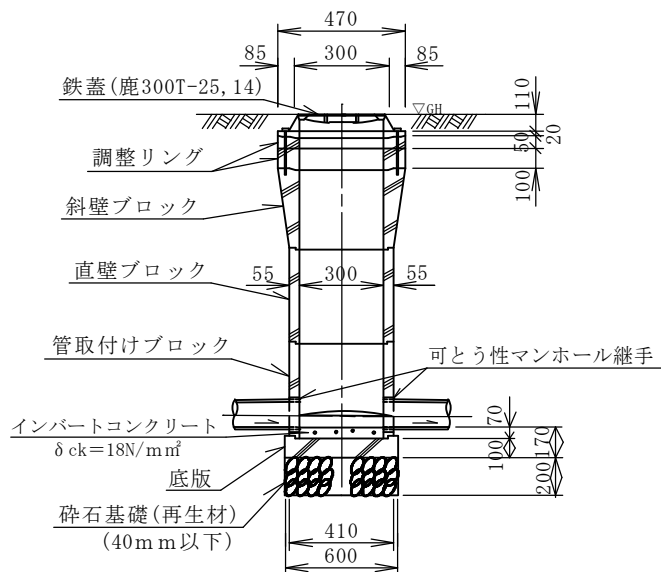
小型組立1号マンホール構造図 (参考)

平面図

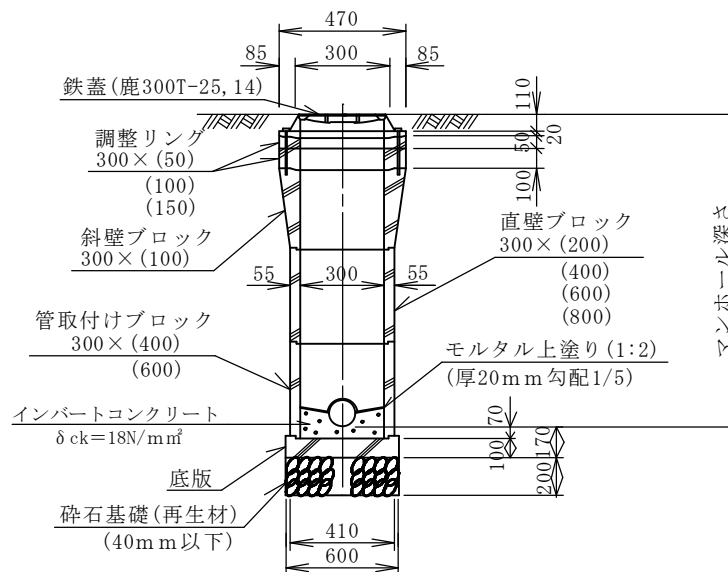


1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2cmすりつける。
2. マンホールの調整リングは10cm、5cmの2段を標準とする。
3. 管接合部分は、可とう性マンホール継手を使用する。
4. マンホールの組合せは、承諾メーカーの材料表による。
5. この図面は、標準型マンホールのため、深さが3.0mを超える場合は、各メーカー仕様に基づいて選定すること。
6. マンホールの施工については、各メーカーの施工要領を遵守すること。

A-A断面図

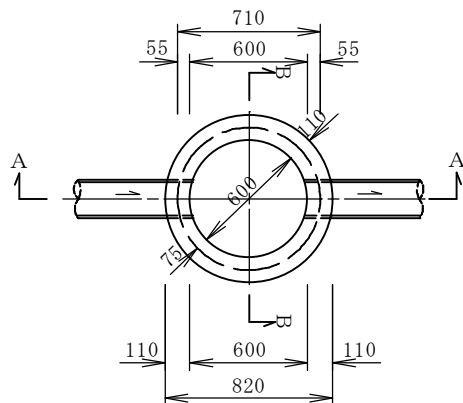


B-B断面図

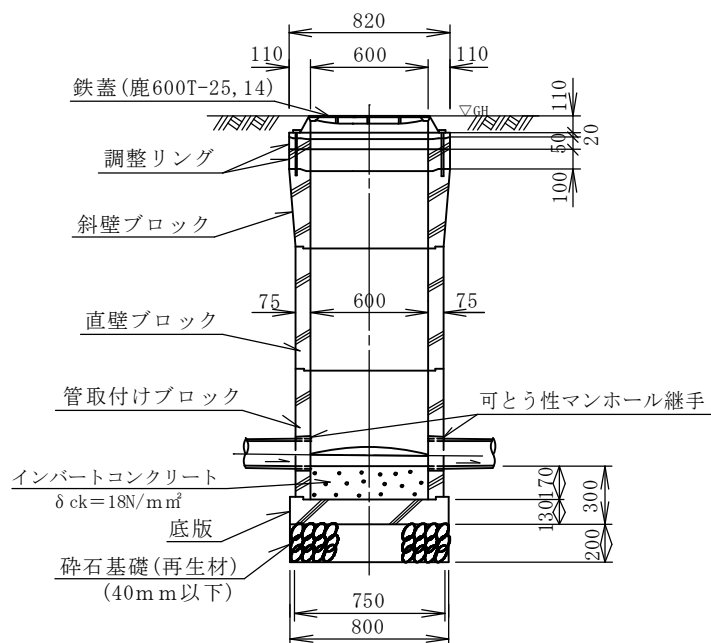


小型組立2号マンホール構造図 (参考)

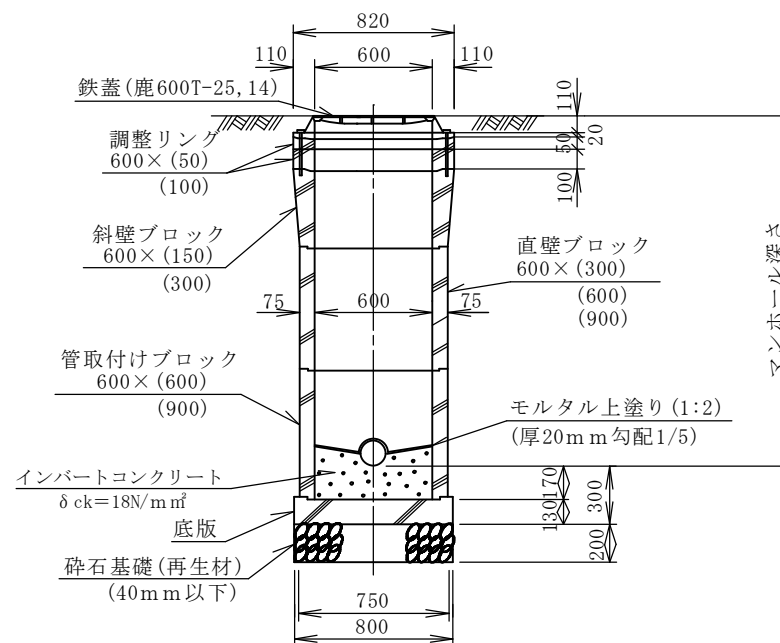
平面図



A-A断面図

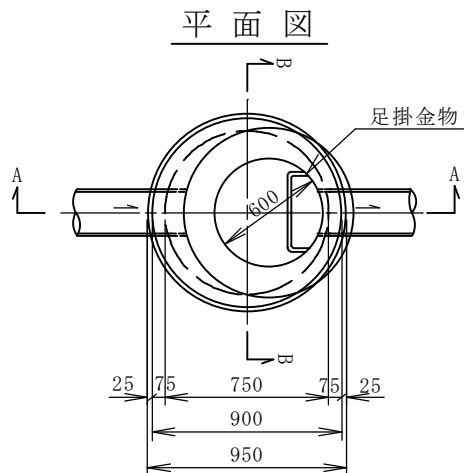


B-B断面図



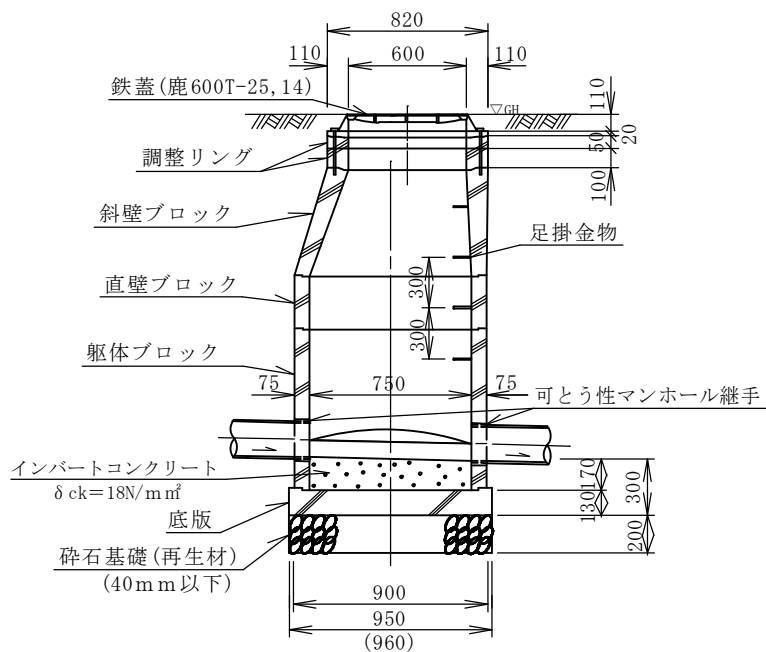
1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2cmすりつける。
2. マンホールの調整リングは10cm、5cmの2段を標準とする。
3. 管接合部分は、可とう性マンホール継手を使用する。
4. マンホールの組合せは、承諾メーカーの材料表による。
5. この図面は、標準型マンホールのため、深さが4.0mを超える場合は、各メーカー仕様に基づいて選定すること。
6. マンホールの施工については、各メーカーの施工要領を遵守すること。

組立0号マンホール構造図 (参考)

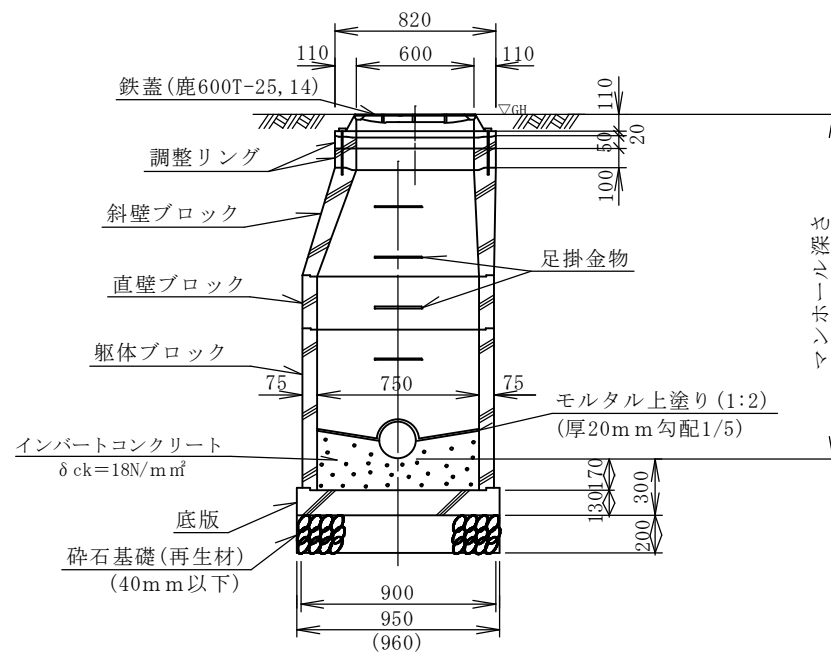


1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2cm すりつける。
2. マンホールの調整リングは10cm、5cmの2段を標準とする。
3. 管接合部分は、可とう性マンホール継手を使用する。
4. マンホールの組合せは、承諾メーカーの材料表による。
5. この図面は、標準型マンホールのため、深さが5.0mを超える場合は、各メーカー仕様に基づいて選定すること。
6. マンホールの施工については、各メーカーの施工要領を遵守すること。

A-A断面図



B-B断面図

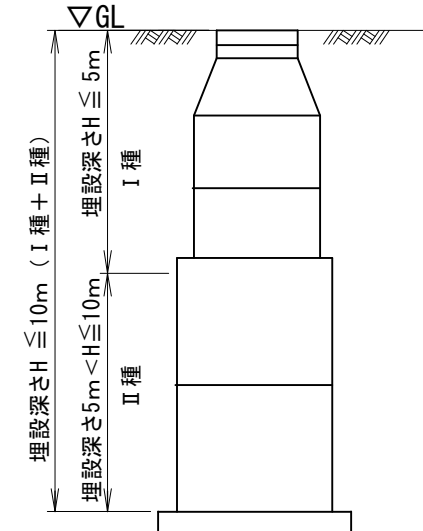


組立マンホールの最大マンホール深さ（参考）

組立マンホールの組立高における構成限度高さ（参考）

種類	内径 (mm)	プレホール		アドホール		コネクトホール	
		製造 業者 区分	インフラテック㈱	製造 業者 区分	中川ヒューム管工業㈱	製造 業者 区分	土佐屋コナート工業㈱
組立0号マンホール	750	I種	5.0m	I種	5.0m	I種	5.0m
組立1号マンホール	900	I種	5.0m	I種	5.0m	I種	5.0m
		II種	10.0m	II種	10.0m	II種	10.0m
組立2号マンホール	1200	I種	5.0m	I種	5.0m	I種	5.0m
		II種	10.0m	II種	10.0m	II種	10.0m
組立3号マンホール	1500	I種	5.0m	I種	5.0m	I種	5.0m
		II種	10.0m	II種	10.0m	II種	10.0m
組立楕円マンホール	600×900 (670)	—	5.0m	—	4.17m	—	3.71m

マンホールの組合せ仕様



(注)

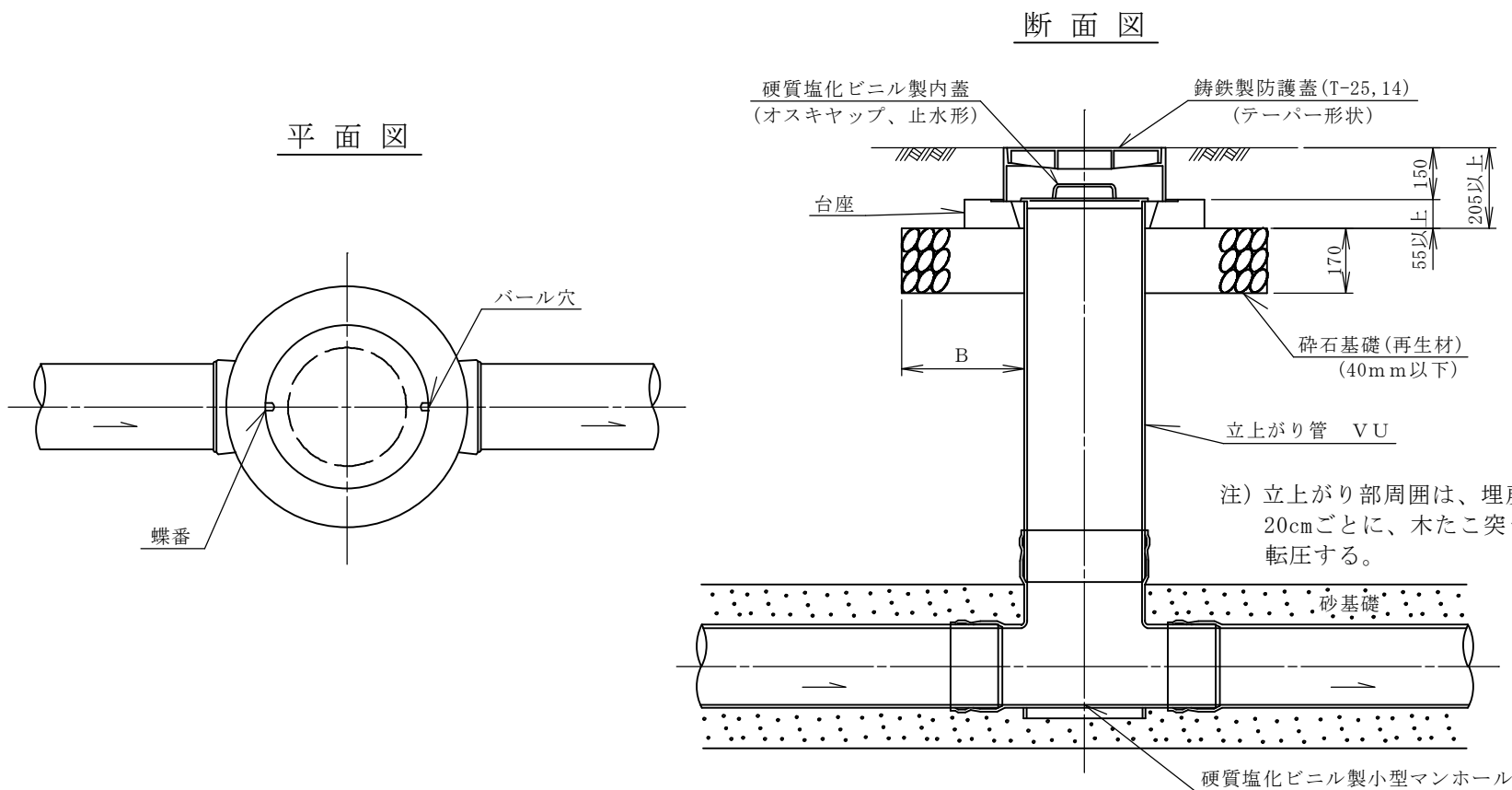
1. 組立マンホールについては、設置実績の多い3つの製品を記載している。
2. 組立0～3号マンホールについては、（社）日本下水道協会規格（JSWAS A-11）の登録品となる。
3. 区分については、（社）日本下水道協会規格に基づき埋設深さによりI種及びII種に分類されており、一般的な使用条件による適用深さは、I種5m、II種10mとなる。
4. 組立0～3号マンホールについては、埋設深さで構造（I・II種）を変えること。
5. 埋設深さ10mを超える製品については、受注生産となっていることから、各メーカーへ確認すること。
6. 矢板引抜きの影響については、構造計算に考慮されている。

可とう性マンホール継手の承認一覧表及び表標準削孔一覧表

可とう性マンホール継手の承認一覧表及び表標準削孔一覧表

内容 製品名	製造業者	適用管種	最大口径 (mm)	主要材料	取付方法	屈曲性	表標準削孔寸法 (mm)									
							管径	100	150	200	250	300	350	400	500	600
S型マンホール継手 (くら型)	積水化学工業(株)	VU	200	塩ビ性・ゴム	貼付型・アンカー固定 現場取付	10°			249~ 309	303~ 363	358~ 368					
サンタックキャップ	早川ゴム(株)	VU・HP	400	SBR	貼付型 現場取付	20°		164	206	252	304	358	410	464		
サンタックキャップFD	早川ゴム(株)	VU・HP	350(A) 300(B)	SBR	貼付型 現場取付	20°	(A) (B)		252 210	304 262			420			
NCラバーコーン	(株)ニチコン	VU・HP	300	エチレン ポロビレンゴム (EPDM)	拡張型 原則工場取付	15°		206	252	304	358	410				
スパーサージョイントNⅢ	(株)サンリツ	VU・HP	300	エチレン ポロビレンゴム (EPDM)	拡張型 原則工場取付	15°	(A) (B)	210 205	262 252	314 304	366 356	420 410				
ブーツ	(株)イトーヨーギョー	VU・HP	450(VU) 400(HP)	エチレン ポロビレンゴム (EPDM)	拡張型 工場及び現場取付	21° 33°	VU	181	252~ 262	304~ 314	356~ 366	404~ 420	506~ 530	506~ 530		
							HP		304~ 314	356~ 366	404~ 420	404~ 420	506~ 530	506~ 530		
コンツァシール	(株)イトーヨーギョー	VU・HP	800(VU) 1000(FRPM)	ゴム 高吸収性ポリマー	本体(シール材)を 膨張させて取付 現場取付	7°				271~ 306	322~ 327	373~ 378	425~ 478	475~ 480		
タイコージョイント	コーワ化成(株)	VU・HP	300	SBR	拡張型 工場及び現場取付	15°		210・206	210・206	252・262	304~314					
AZラバージョイント	吾孺ゴム工業(株)	VU・HP ・TP	300	エチレン ポロビレンゴム (EPDM)	拡張型 工場及び現場取付	15°										
ESジョイント	九州中川ヒューム(株)	VU・HP	300(V) 1500(HP・推)		拡張型 工場及び現場取付	10°										
TOMジョイント	トーゼン産業(株)	VU・HP	250	エチレン ポロビレンゴム (EPDM)	拡張型 工場及び現場取付	15°	(A)		252	304	356					
							(B)		262	314	366					
スパーサージョイント ゴライアス	(株)サンリツ	HP(推)	600	SBR 鋼製支管(SUS)	鋼製支管を管口に 固定し取付 現場取付	15°										
スパーサージョイント SR-CM50	(株)サンリツ	VU	200	SBR	拡張型 工場取付・2号汚水マス用	10°			206	252						

1号汚水ます・掃除口Ⅲ型構造図

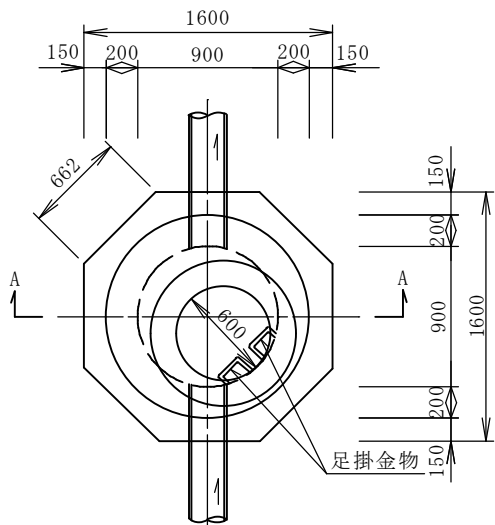


種別	立上がり管		汚水本管		分岐箇所	防護蓋	内蓋	砕石基礎(防護蓋)		
	管種	呼び径	管種	呼び径				B:mm	H:mm	S:m ²
1号汚水ます	V U	300	V P, V U	150, 200, 250, 300	硬質塩化ビニル製小型MH	铸铁製 300 T-14, 25	硬質塩化ビニル製 300	320	170	0.64
掃除口Ⅲ型	V U	200	V P, V U	150, 200, 250	硬質塩化ビニル製小型MH	铸铁製 200 T-14, 25	硬質塩化ビニル製 200	290	170	0.47

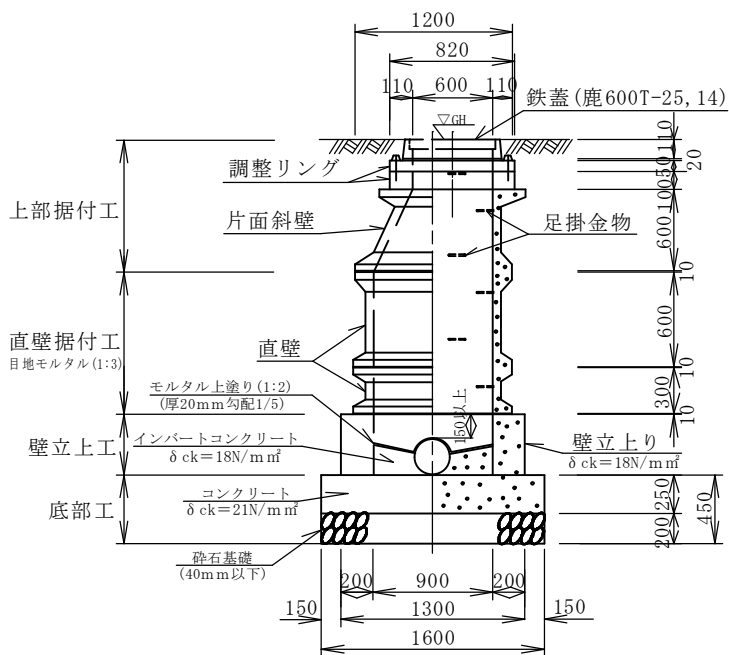
- 注) 1. 铸铁製防護蓋は、JSWAS G-3規格品による。
 2. 硬質塩化ビニル製マンホールは、1号汚水ますについては、JSWAS K-9規格品により、また掃除口Ⅲ型については、これに準じる。
 3. 内蓋は、JSWAS K-7規格品による。

1号マンホール構造図

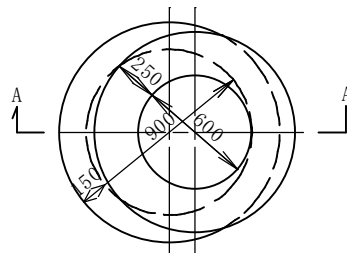
平面図



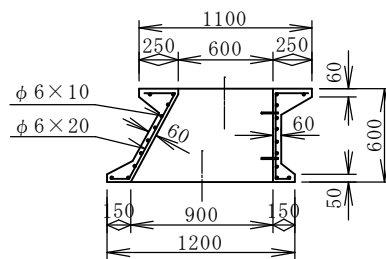
A-A断面図



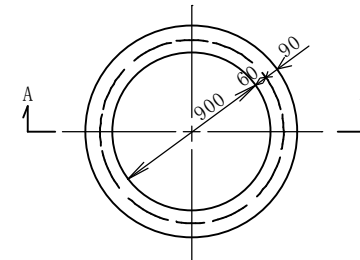
片面斜壁平面図



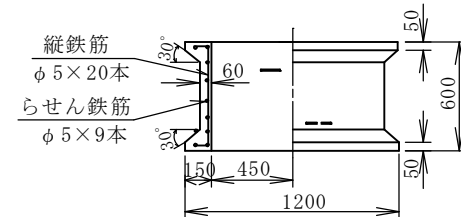
A-A断面図



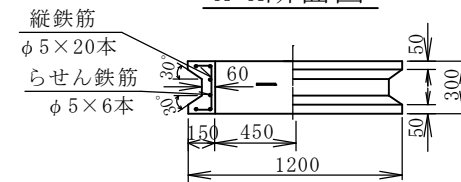
直壁平面図



A-A断面図



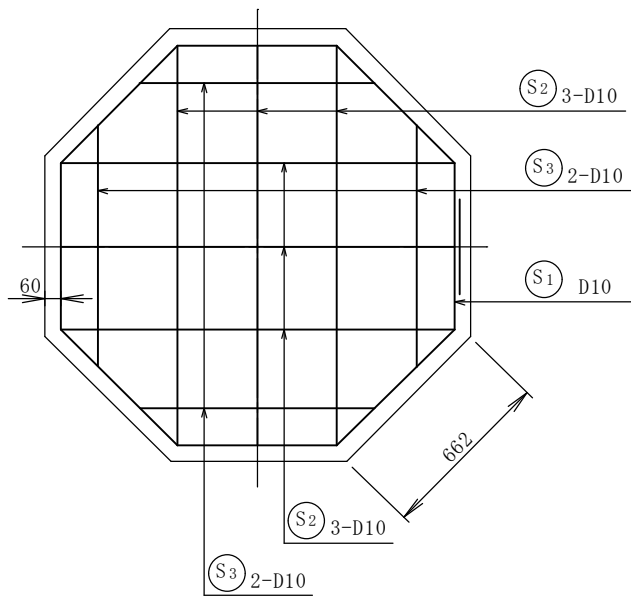
A-A断面図



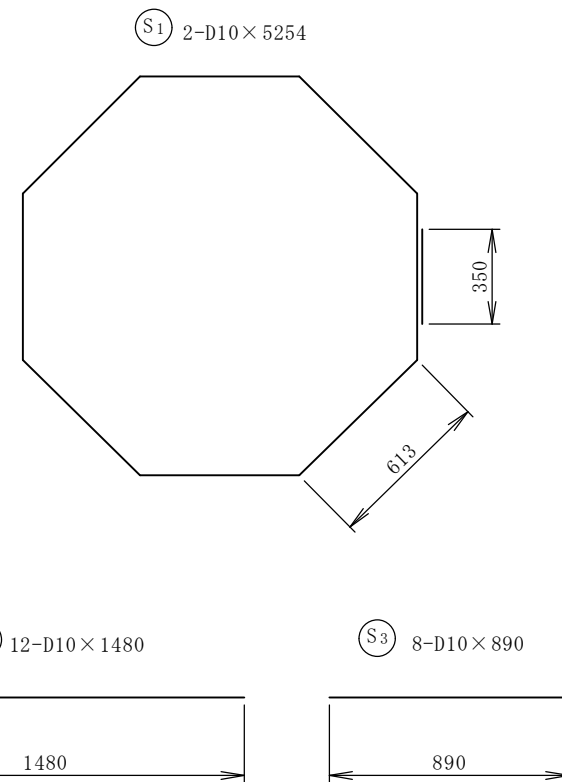
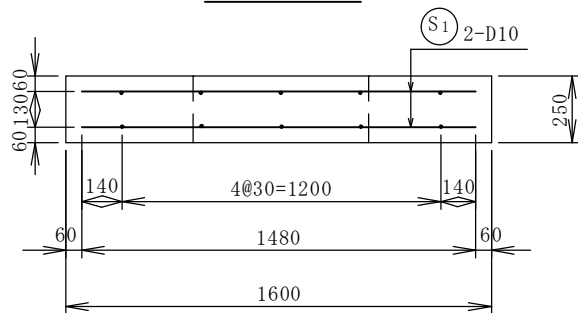
1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2cmすりつける。
2. 壁立上りコンクリートの打設高さは、原則として流入管又は地下水位がある場合、15cm以上その余裕をみるものとする。
3. マンホールの調整リングは10cm、5cmの2段を標準とする。

1号マンホール底版配筋図

平面図



側面図



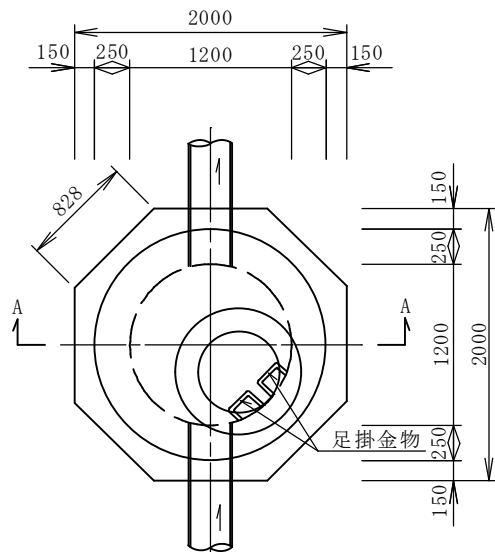
鉄筋表

符号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg)	重量 (kg)
S ₁	D10	5254	2	0.560	2.942	5.9
S ₂	D10	1480	12	0.560	0.829	9.9
S ₃	D10	890	8	0.560	0.498	4.0
合計						19.8

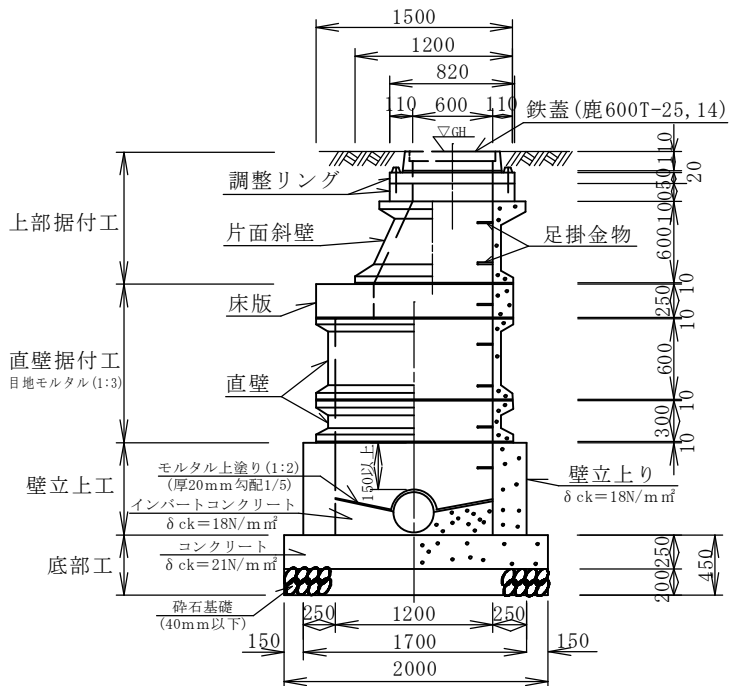
注) マンホール深が、5.0mを上回るマンホールについては、別途配筋構造を検討すること。

2号マンホール構造図

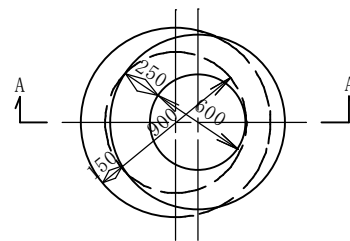
平面図



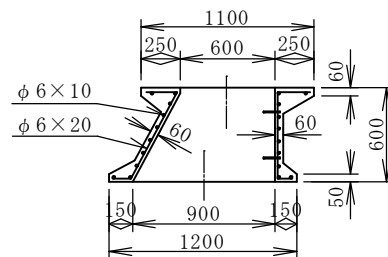
A-A断面図



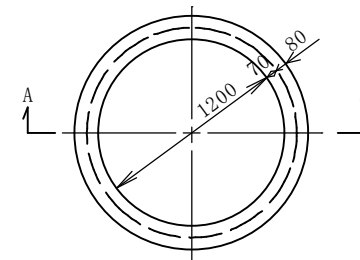
片面斜壁平面図



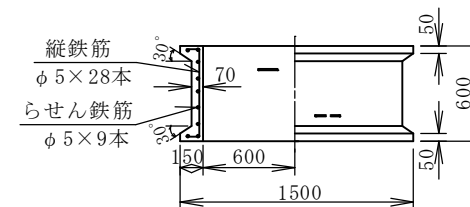
A-A断面図



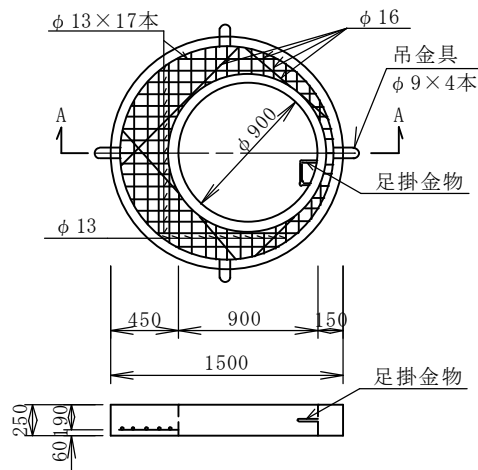
直壁平面図



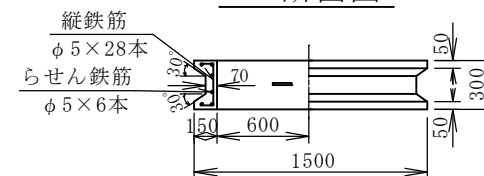
A-A断面図



床版平面図



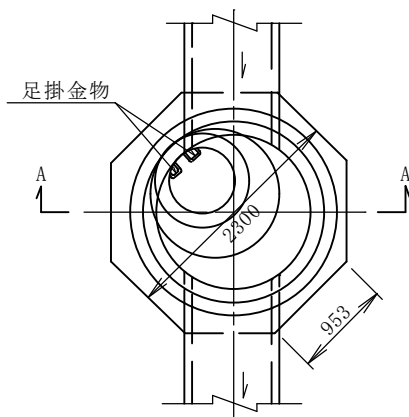
A-A断面図



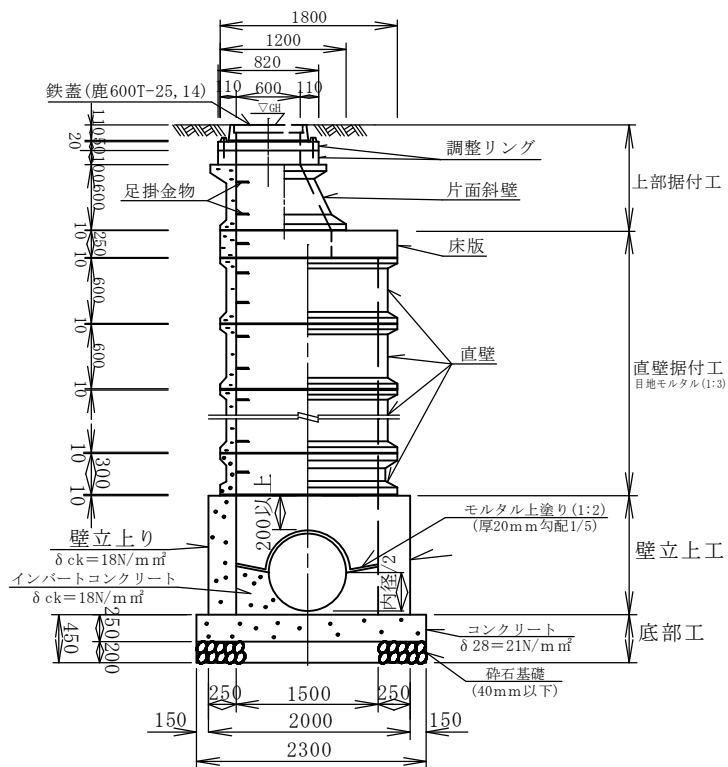
- インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2cmすりつける。
- 壁立上りコンクリートの打設高さは、原則として流入管又は地下水位がある場合、15cm以上その余裕をみるものとする。
- マンホールの調整リングは10cm、5cmの2段を標準とする。

3号マンホール構造図

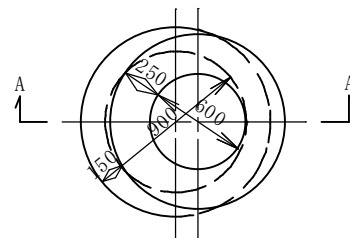
平面図



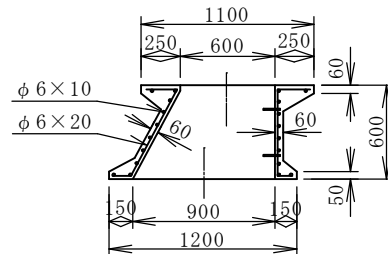
A-A断面図



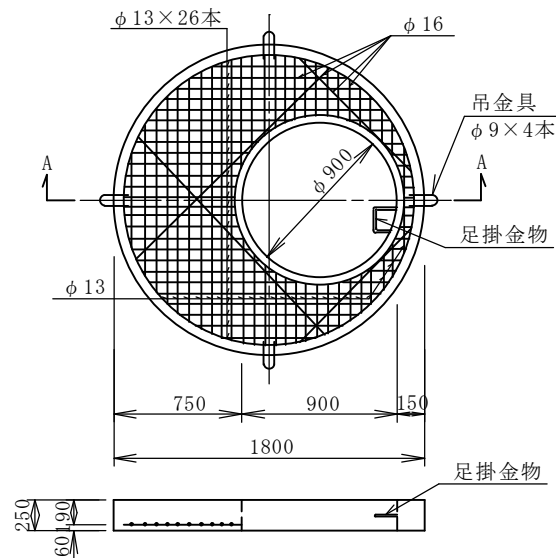
片面斜壁平面図



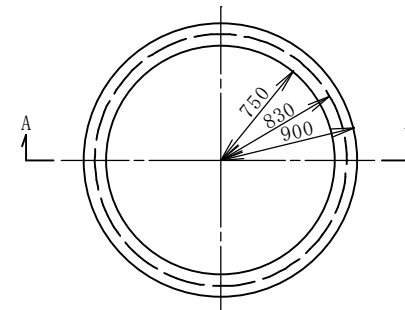
A-A断面図



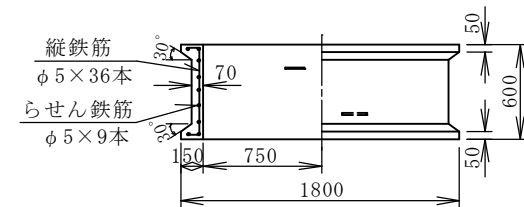
床版平面図



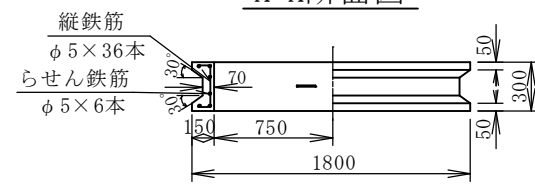
直壁平面図



A-A断面図



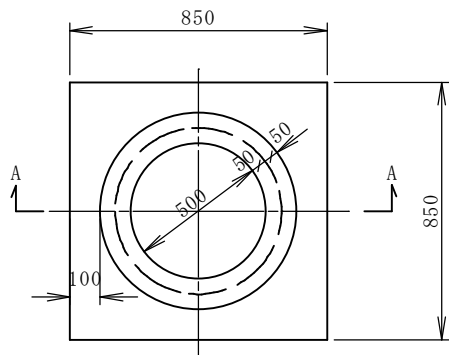
A-A断面図



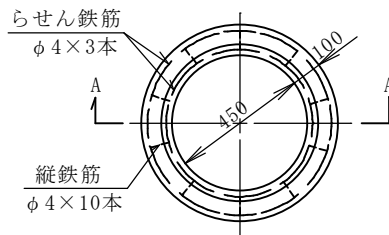
1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2cmすりつける。
2. 壁立上りコンクリートの打設高さは、原則として流入管又は地下水位がある場合、15cm以上その余裕をみるものとする。
3. マンホールの調整リングは10cm、5cmの2段を標準とする。

2号汚水ます構造図

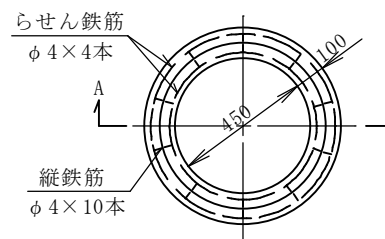
平面図 S=1/25



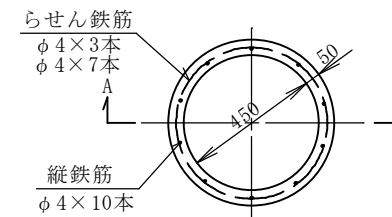
蓋受平面図 S=1/25



斜壁平面図 S=1/25



直壁平面図 S=1/25

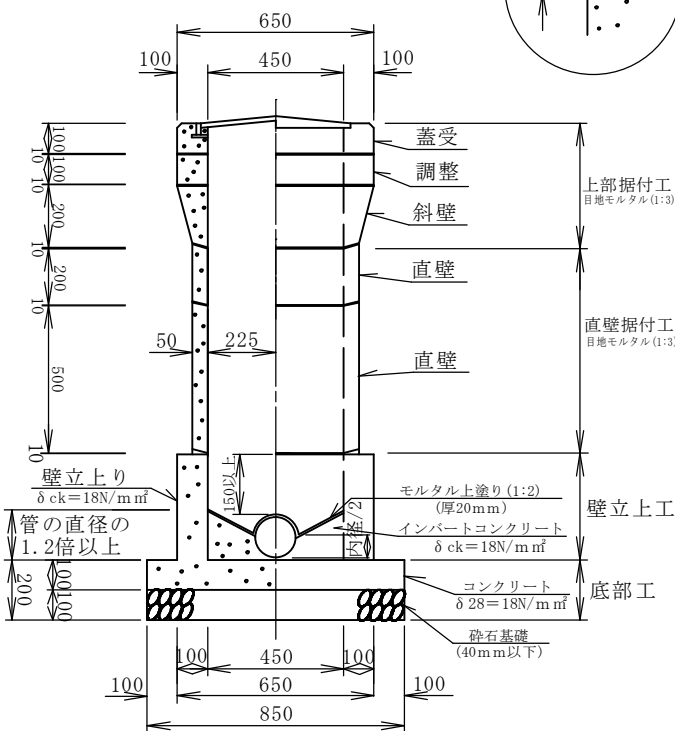
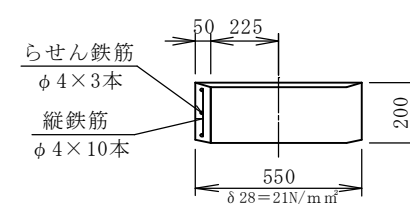
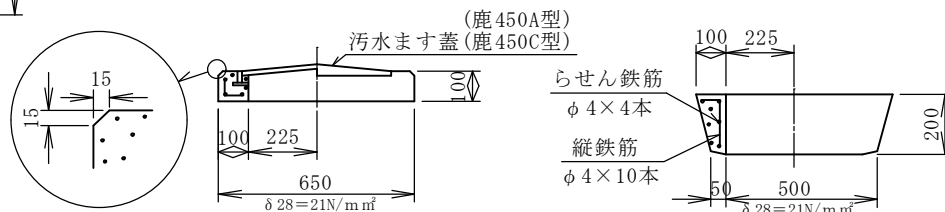


A-A断面図 側面図

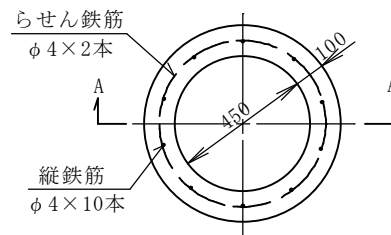
A-A断面図 側面図

A-A断面図 側面図

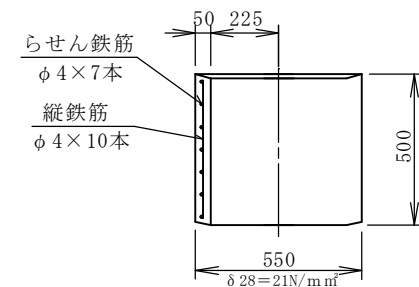
A-A断面図 側面図



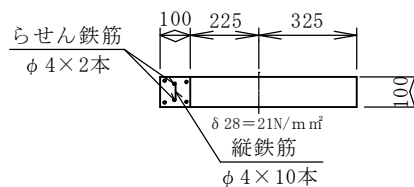
調整平面図 S=1/25



A-A断面図 側面図

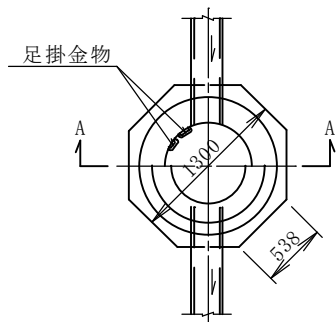


A-A断面図 側面図

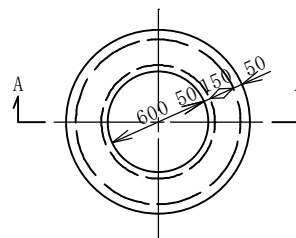


3号汚水ます構造図

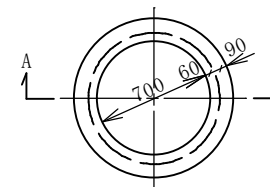
平面図



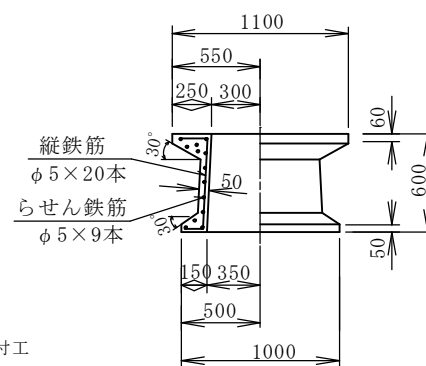
斜壁平面図



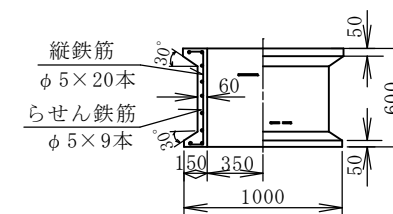
直壁平面図



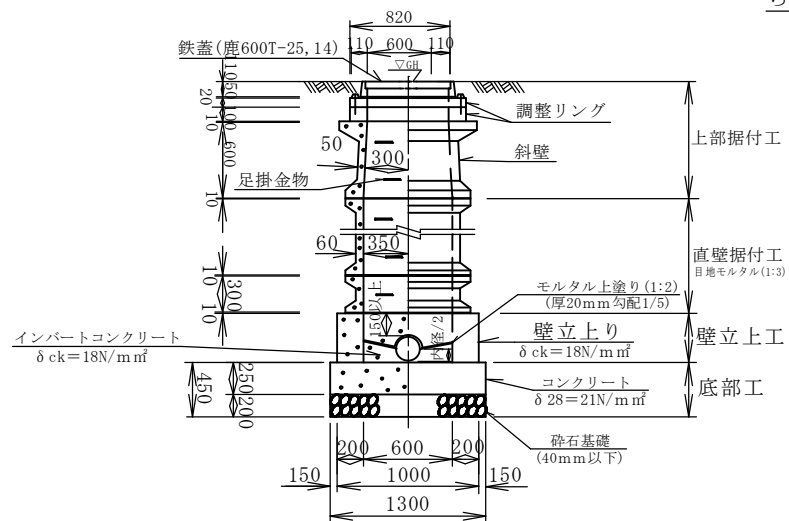
A-A断面図



A-A断面図



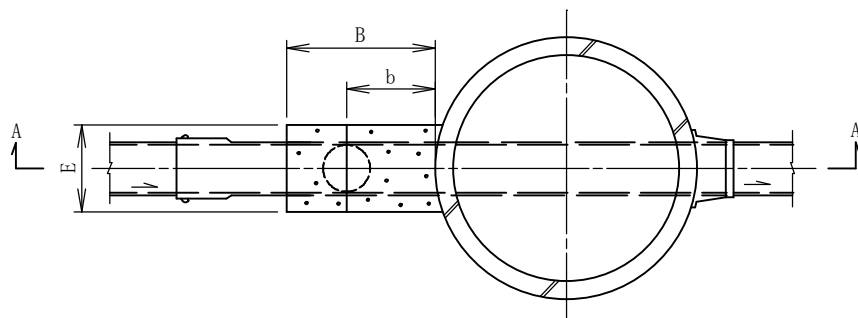
A-A断面図



1. インバートは、管径の1/2の高さを標準とし、インバート部分の縦断勾配は、2cmすりつける。
2. 壁立上りコンクリートの打設高さは、原則として流入管又は地下水位がある場合、15cm以上その余裕をみるものとする。
3. マンホールの調整リングは10cm、5cmの2段を標準とする。

副管付きマンホール構造標準図(1)

平面図



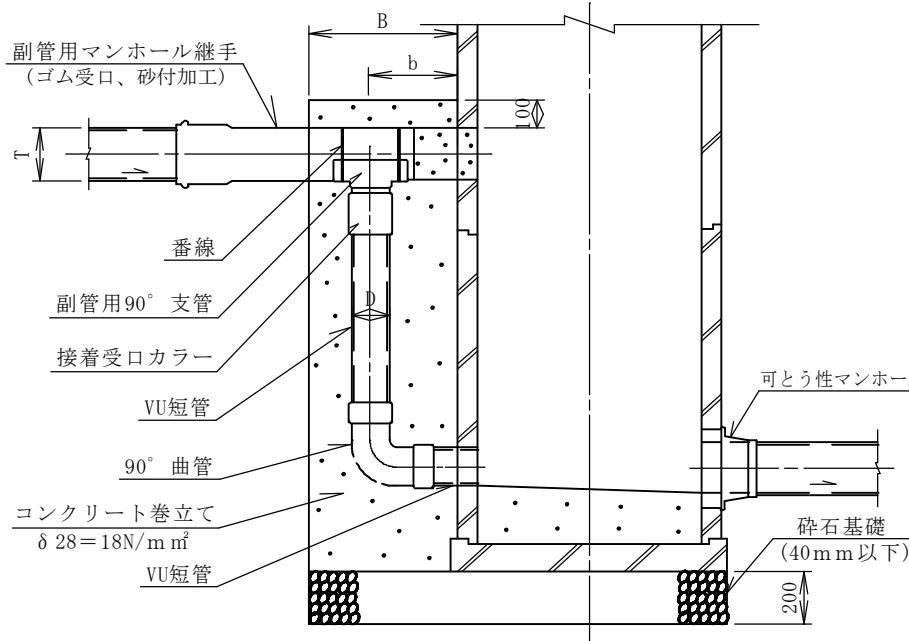
単位 (mm)

寸法表					
呼び径	T	D	B	b	E
φ 150×φ 150	150	150	510	320	370
φ 200×φ 150	200	150	510	320	420
φ 200×φ 200	200	200	550	340	420
φ 250×φ 200	250	200	550	340	470
φ 300×φ 200	300	200	550	340	520
φ 350×φ 200	350	200	550	340	570
φ 400×φ 200	400	200	550	340	620
φ 450×φ 250	450	250	610	370	670

(注)

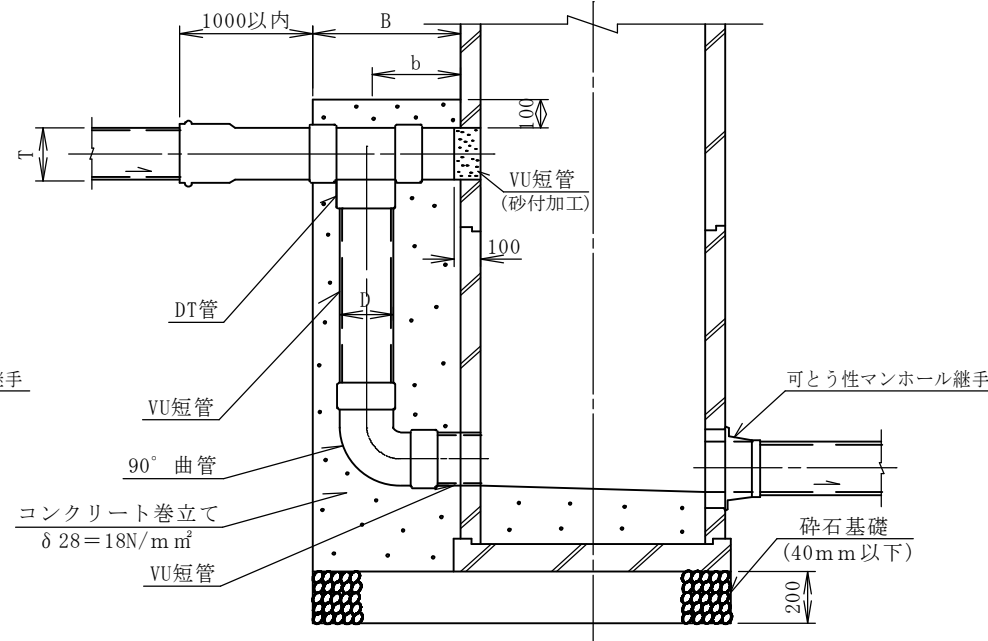
- マンホール内での点検や清掃作業を容易にするとともに、流水によるマンホール底部、側壁等の磨耗を防ぐため、上流側管底高と下流側管底高の段差が60cm以上のときに設置する。
- 副管防護部のコンクリート強度は $\delta 28 = 18\text{N/m}^2$ を使用する。
- 本管が陶管の場合は、 $L=1.00\text{m}$ の枝付管を使用する。
- 本管の副管径が同口径の場合は、DT管を使用する。
- 防護コンクリートの被りは100mm以上とする。

A-A 断面図
(副管用90°支管使用)



(注) 1. インバート部分の縦断勾配は、2cm又は下流管勾配の大きい方を標準とする。

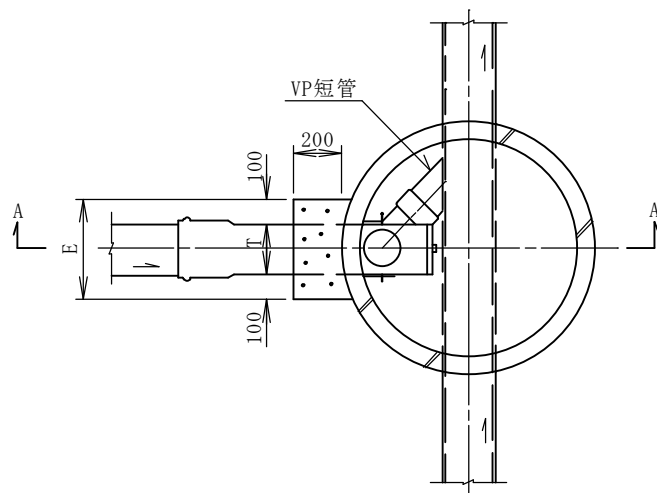
A-A 断面図
(DT管使用)



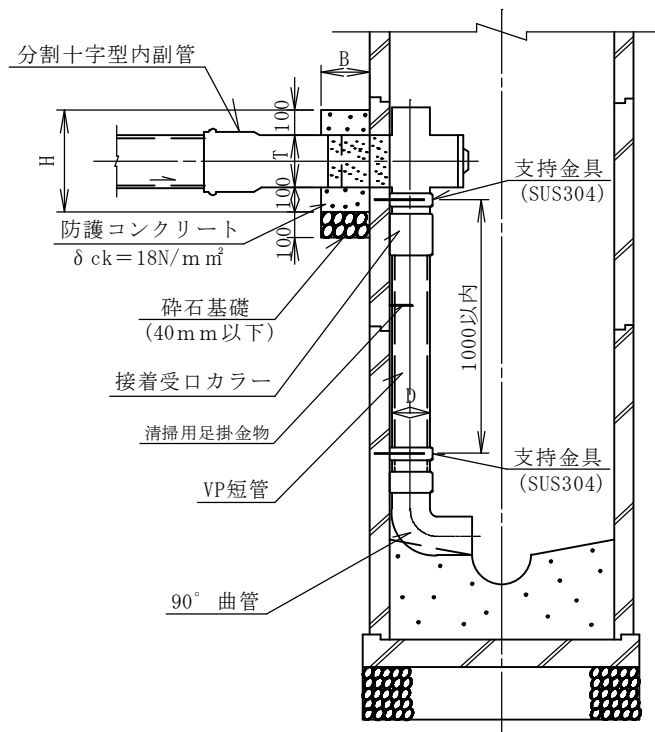
(注) 1. インバート部分の縦断勾配は、2cm又は下流管勾配の大きい方を標準とする。

副管付きマンホール構造標準図(2)

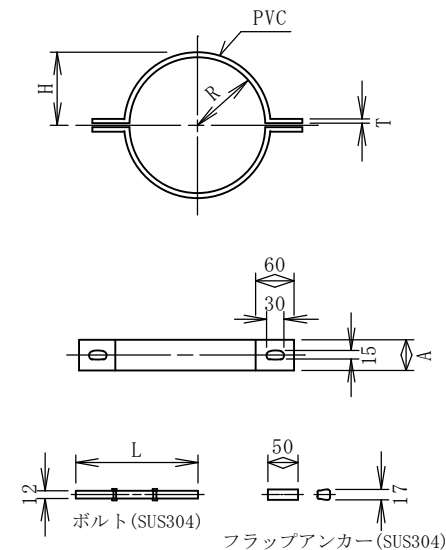
平面図



A-A 断面図



支持金具



寸法表

単位(mm)

呼び径	T	D	B	E	H
φ150×φ150	150	150	200	360	360
φ200×φ150	200	150	200	410	410
φ200×φ200	200	200	200	410	410
φ250×φ200	250	200	200	460	460
φ250×φ250	250	250	200	460	460

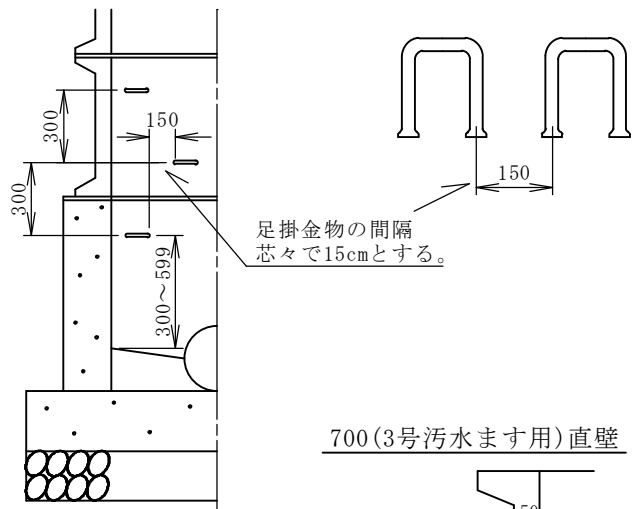
(注) 分割十字管については、参考図とする。
 清掃用足掛金物は、マンホール形状、
 寸法及び構造等の現場条件で設置できない
 場合があるため、監督員と協議すること。

支持金具規格表

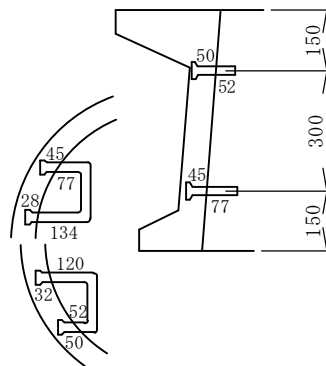
単位(mm)

呼び径	A	H	R	T	B
φ150	50	84	82 ± 2	7 ± 2	200
φ200	50	110	108 ± 2	7 ± 2	260
φ250	50	135	134 ± 2	7 ± 2	320

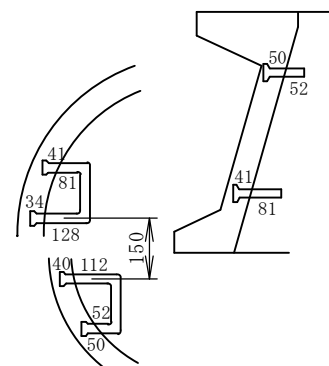
足掛金物設置詳細図



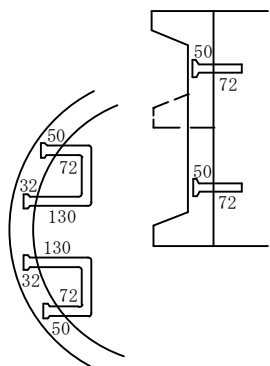
600×700(3号汚水ます用)斜壁



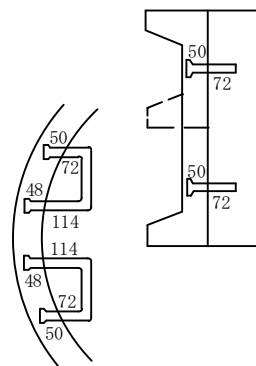
600×900斜壁



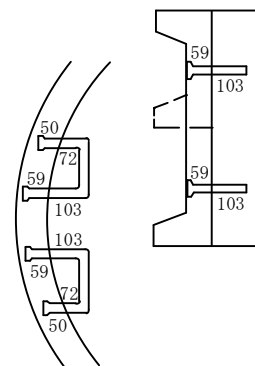
700(3号汚水ます用)直壁



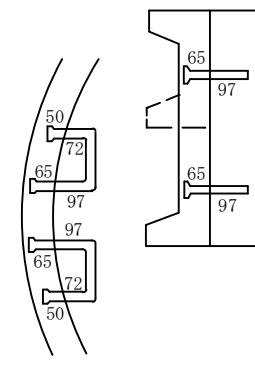
900直壁、600×900片面斜壁



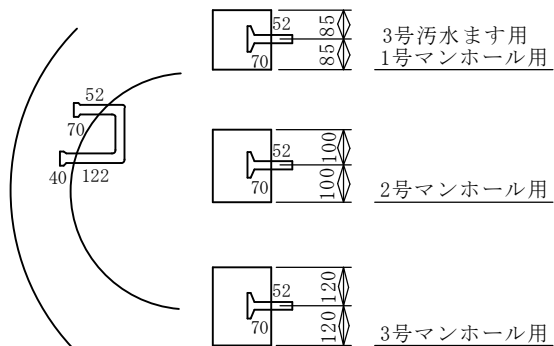
1200直壁、600×1200片面斜壁



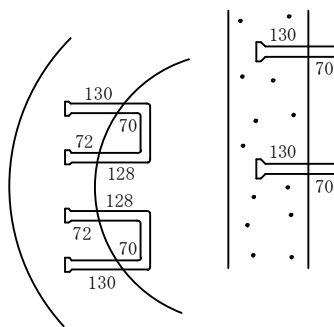
1500直壁



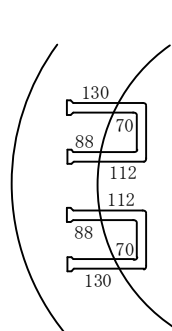
円形スラブ



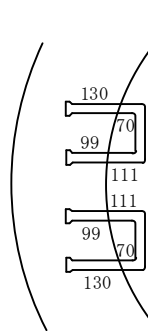
3号汚水ます立上り壁



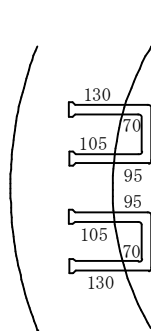
1号マンホール立上り壁



2号マンホール立上り壁

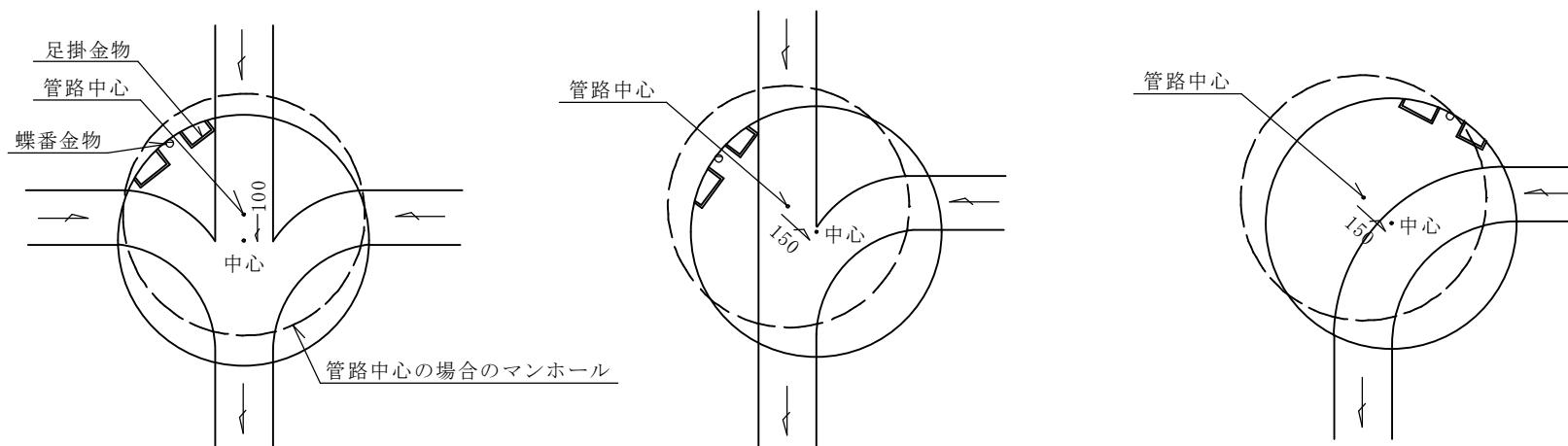


3号マンホール立上り壁

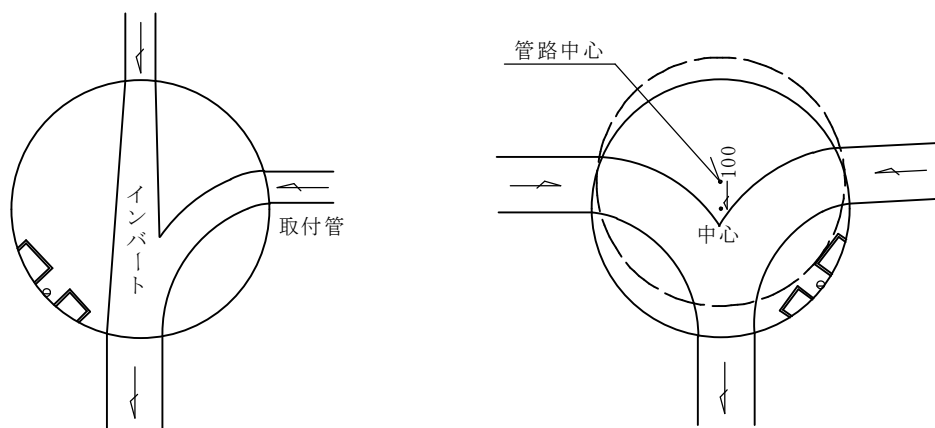


マンホール中心、インバート、蝶番、足掛金物設置要領(1)

(現場打ちマンホールの場合)



起点マンホールに取付管がある場合

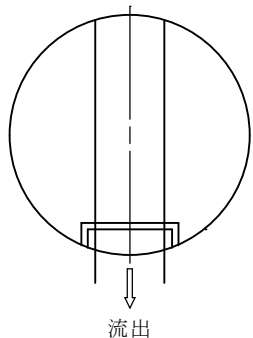


(注) 足掛金物は、原則として現場打ちマンホールでは上流側45度の位置で歩道側とし、将来的にも延長されないと判断される箇所は下流側とする。
蝶番金物は、足掛金物の位置に合わせるものとする。

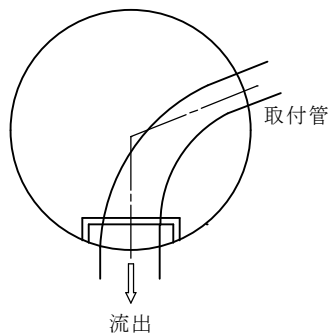
(※) 改良工事等において既設マンホールの鉄蓋を取り替える場合、蝶番金物の位置は、必ず既設足掛金物の位置に合わせること。

インバート工、蝶番位置、足掛金物設置要領(2)

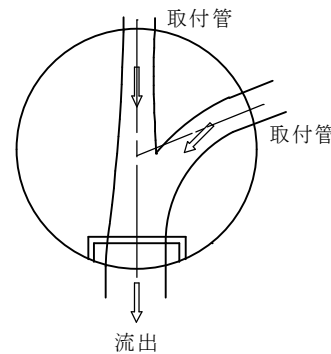
インバート(1)
起点・中間点のマンホール



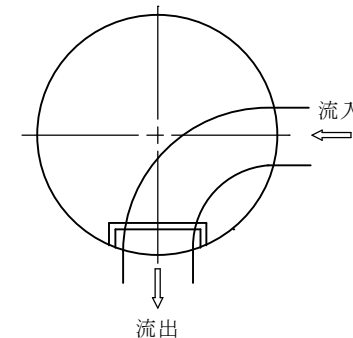
インバート(2)
取付管直入がある起点マンホール



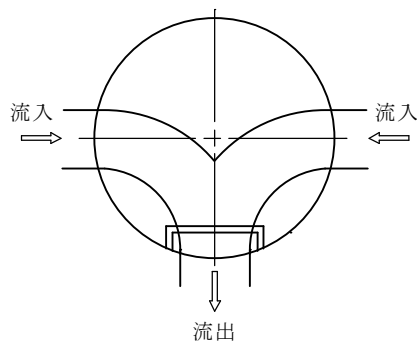
インバート(3)
取付管直入が複数ある起点マンホール



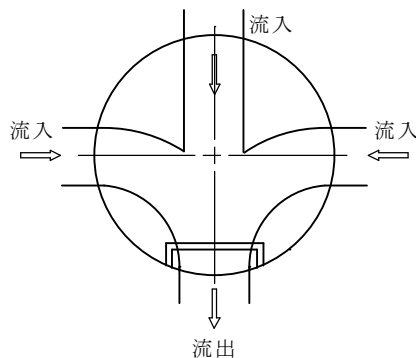
インバート(4)
屈曲点のマンホール



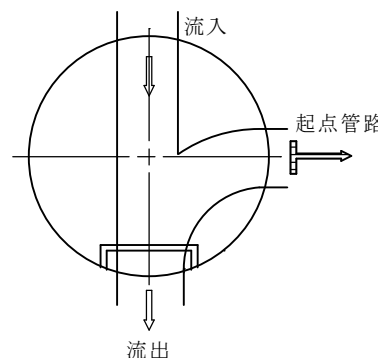
インバート(5)
交差点部のマンホール
(2方向から流入がある場合)



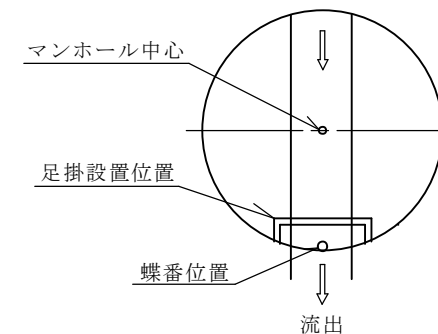
インバート(6)
交差点部のマンホール
(3方向から流入がある場合) (新設・既設のマンホールに起点管路を設ける場合)



インバート(7)
起点管路を設けるマンホール
(新設・既設のマンホールに起点管路を設ける場合)



蝶番・足掛金物設置位置



(注1) インバートの施工方法は、図(1)～(7)を標準とする。

但し、現場条件等で標準的な施工ができない場合は、監督員と協議し、施工する。

(注2) 既設マンホール及び新設マンホールに新たに起点管路を設ける場合のインバートは、

流出方向に向かって設ける。但し、新設管路の管底高がインバートの肩より高くなるときは、

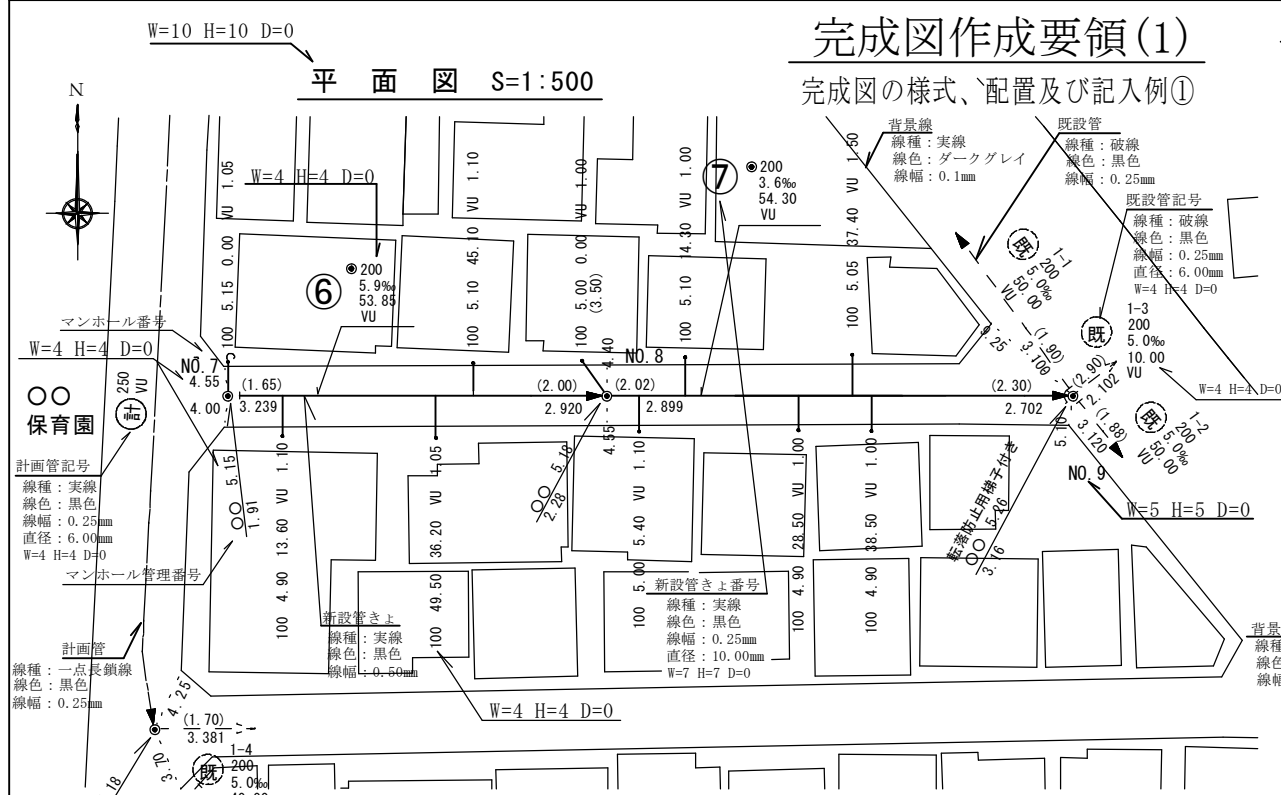
流出方向に向けてインバートを設ける必要はない。

(注) 1 足掛金物の設置位置は、原則下流側とする。

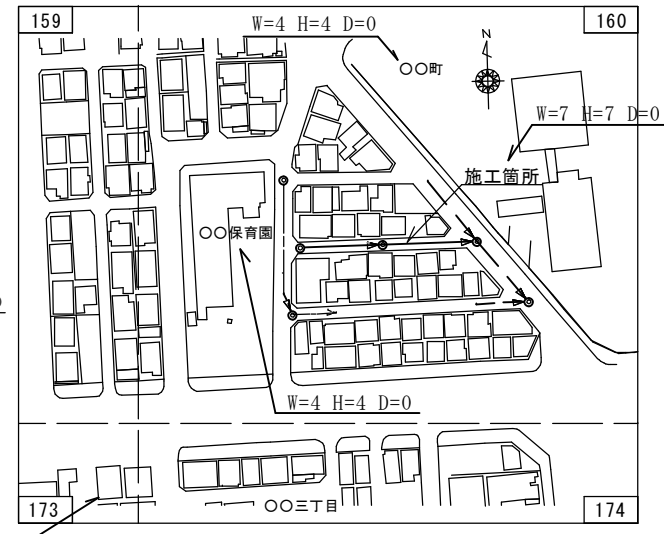
(注) 2 蝶番金物の位置は、足掛金物の位置に合せる。

完成図作成要領(1)

完成図の様式、配置及び記入例①



位置図 S=1:2,500



マンホール座標

マンホール(汚水ます)番号	X座標	Y座標	Z座標
No. 7	-00.000.000	-00.000.000	00.000.000
No. 8	-00.000.000	-00.000.000	00.000.000
No. 9	-00.000.000	-00.000.000	00.000.000

蓋種別表

マンホール(汚水ます)番号	蓋種別	蓋管理番号	蓋製造年度	マンホール製品名	転落防止梯子
No. 7	F600-00T-14	000-00-000	令和00年度	00000	無
No. 8	F600-00T-14	000-00-000	令和00年度	00000	無
No. 9	F600-00T-25	000-00-000	令和00年度	00000	有

完成数量

種類	完成数量
0000	00.00m
0000	00.00m
0000	00.00m
0000	00箇所
0000	00箇所
0000	00箇所
0000	00箇所 00.00m
0000	00箇所

道路占用等許可番号

種別	許可年月日	既許番号	路線名	管路番号
市道	令和元年12月10日		鴨池新町1号線	⑥ ⑦
			指令管路第00号	

公共下水道施設	145 146
平面図番号	160 161

〇〇丁目、〇〇町(施設箇所町名)

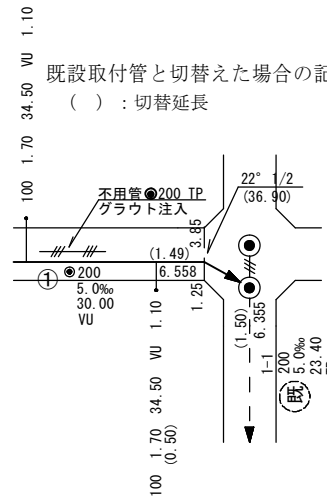
鹿児島市公共下水道			
図面名称	〇〇〇〇汚水管路施設工事	図面No.	1/2
	完成図(〇〇図面)	番号	2
縮尺	図示	縮尺	9/20
鹿児島市水道局			
主任技師署名	〇〇〇	機関代理人名	〇〇〇
工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇日		
受注者名	〇〇〇〇〇〇		

寸法記入例

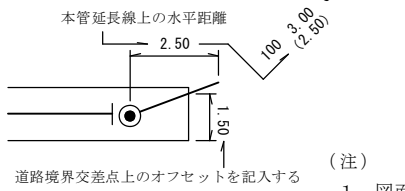
- 取付管斜め施工の場合のオフセット距離は、宅地内のキャップ止めの位置とする。
- () の距離、深さは、下段に記入する。

既設取付管と切替えた場合の記入例

() : 切替延長



行き止まり道路



管メーカー表

管きよ番号	製造者名	製品名
①	〇〇〇〇株式会社	〇〇〇〇パイプVU
②	〇〇〇〇株式会社	ヒューム管B形蓋
③	株式会社〇〇〇〇〇	推進工法用レジコンクリート管〇〇(〇〇)形
④	〇〇〇〇株式会社	〇〇パイプ自立管タイプ(t=9.0mm)

マンホール継手表

管きよ番号	製造者名・製品名(上流)	製造者名・製品名(下流)
①	〇〇〇〇	〇〇〇〇
②	〇〇〇〇	〇〇〇〇
③	〇〇〇〇	〇〇〇〇
既設	-	〇〇〇〇

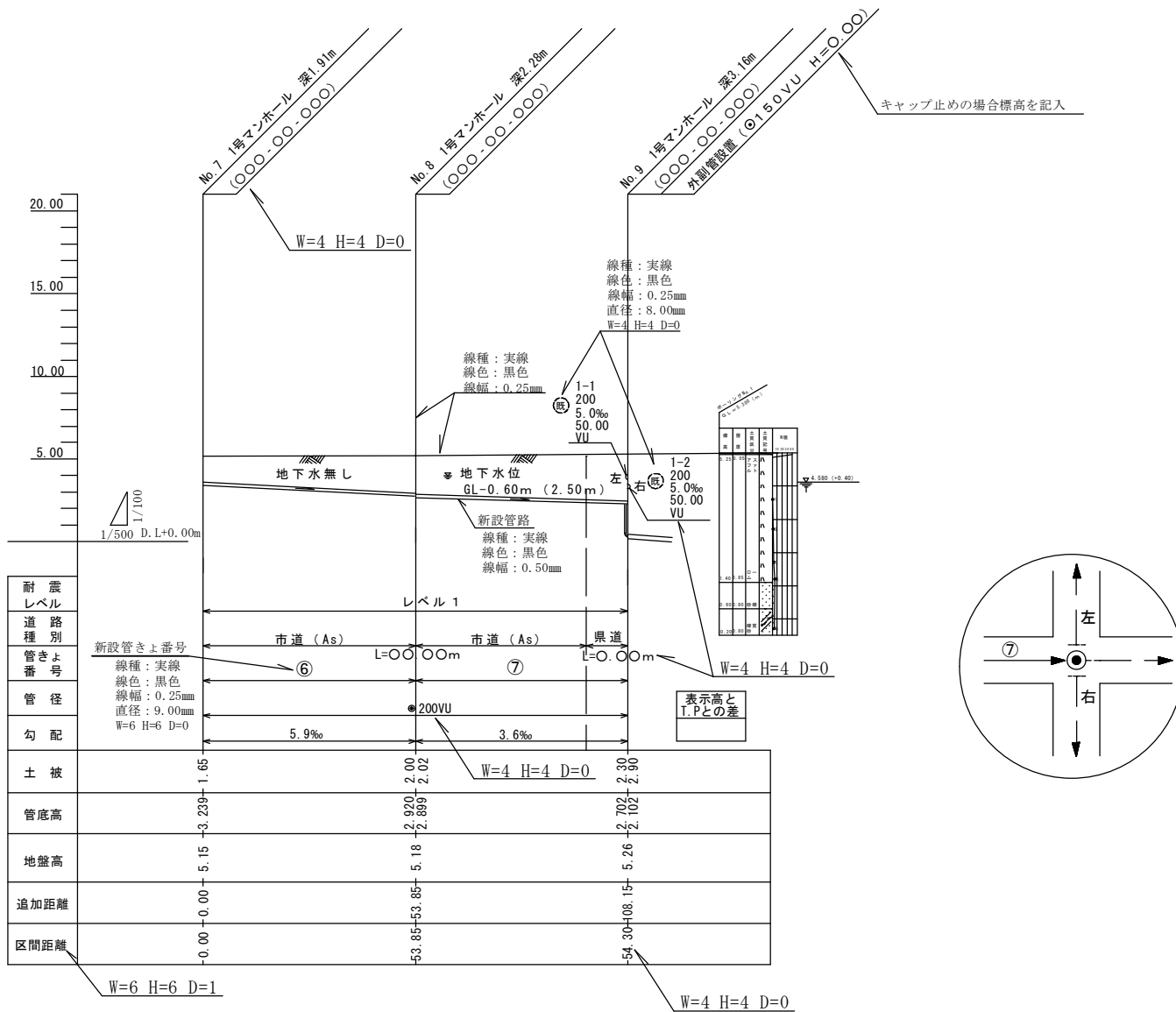
(注)

- 図面寸法については、A-1版(598×841mm)とする。
- 位置図、平面図、縦断図は、都市計画白図を使用し作成する。
- 位置図・平面図と縦断図は、同一図面で作成せず、別図面とする。
- 文字・数字のフォントは、ゴシック体とし、数字は、半角文字とする。また、文字・数字の大きさは、完成図作成要領(1)(2)(14)(15)を参照すること。
- このほか、完成図作成要領(14)及び(15)を参照し、必要に応じて表を挿入すること。

完成図作成要領(2)

完成図の様式、配置及び記入例②

W=10 H=10 D=0
縦断図



公共下水道施設	145	146
平面図番号	160	161

〇〇丁目、〇〇町(施設箇所町名)			
鹿兒島市公共下水道			
図面名称	〇〇〇汚水管路施設工事 完成図 (〇〇図面)	図面番号	1/2
縮尺	図示	原大	縮尺
鹿兒島市水道局			
主任技術者名	〇〇〇〇	現場代理人名	〇〇〇〇
工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		
受注者名	〇〇〇〇〇〇		

完成図作成要領(3)

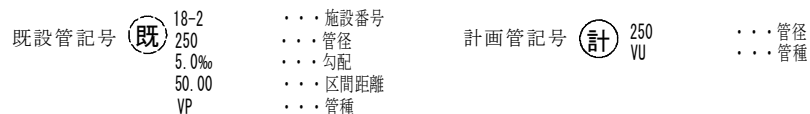
本管・取付管等記入要領①

1 位置図

- (1) 原則、都市計画白図を使用する。ただし、区画整理事業区域内、開発行為及び街路整備等の場合は計画図等を使用してもよい。
- (2) 原則、北を上とし、方位を示すこと。
- (3) 1/2500の図郭を示すこと。(図郭番号及びメッシュ線)

2 平面図

- (1) 原則、都市計画白図を使用する。ただし、区画整理事業区域内、開発行為及び街路整備等の場合は計画図等を使用してもよい。
- (2) 原則、北を上とし、方位を示すこと。また、位置図と方位は合わせる。
- (3) 全体計画区域線が平面図にある場合は、全体計画区域線を記入例図-1のとおり記入する。
- (4) 既設管及び計画管を記入する。注記は以下のとおりとする。



- (5) 曲管を使用した場合は、曲がり部のオフセット及び旗上げし、上段に曲管角度、下段に () 書きで上流マンホールからの追加距離を記入する。

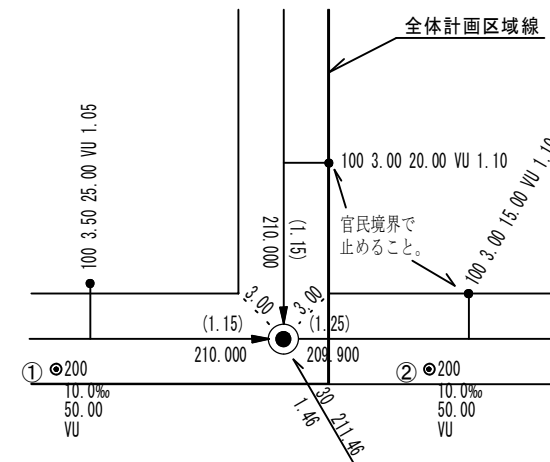
3 縦断図

- (1) 副管を設置した場合、マンホール種別等の旗上げの下段に副管種別(外・内)、副管管径及び副管高さを記入する。また、他工事で本管を布設する計画で副管のみを設置する場合は、キャップ止めした標高がわかるようにする。
- (2) 開削工事又は推進工事の場合、スパン毎に地下水の有無、任意の地点の地下水位及び上流マンホールからの追加距離を記入する。

地下水位

- 〇. 〇〇m (〇. 〇〇m) ← GLからの距離(上流マンホールからの追加距離)

記入例 図-1



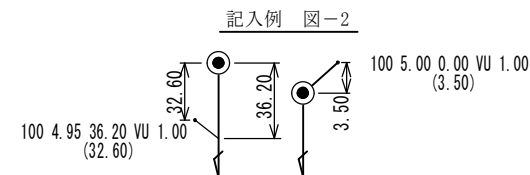
完成図作成要領(4)

本管・取付管等記入要領②

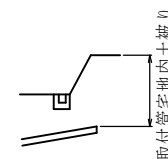
4 本管

管きよ番号 ①	◎250	管径
	5.90%	勾配
	53.85	区間距離
	VU	管種

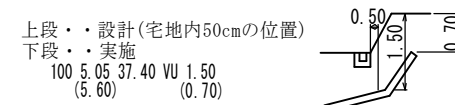
- (1) 勾配=(上流マンホール下流側管底-下流マンホール上流側管底)/区間距離とし、少数点第二位を四捨五入して小数一位止めとする。
- (2) 区間距離は、マンホール中心間とする。ただし、オフセットはマンホール蓋中心からとする。
- (3) 地質柱状図、地下水位、管割図、推進用可とう管の位置及び特殊マンホール・管防護・立坑基礎の構造等は、完成図に記入する。
- (4) カーブ推進は、管毎の座標記録表を記入する。
- (5) 仮設材(ライナープレート、鋼矢板等)の残存部分についても完成図に記入する。



記入例 図-3



記入例 図-4

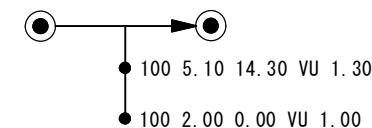


5 取付管

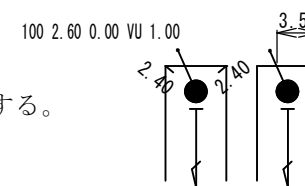
100 4.90 13.60 VU 1.10
管径 延長 追加延長 管種 取付管宅地内土被り

- (1) 追加延長
 - ①上流マンホール蓋中心より取付管分岐点までの距離。
 - ②斜めに施工した場合、記入例図-2のとおりとする。
 - ③測定する地点のマンホールが特殊マンホールの場合は、マンホールの中心より測る。
なお、マンホールの中心位置は、記入例図-7のとおり詳細図を記入する。
- (2) 取付管宅地内土被りは、記入例図-3のとおりとする。
- (3) 取付管を縦曲管で施工している場合の取付管宅地内土被りは、記入例図-4のとおりとする。
- (4) 取付管の途中に公設柵がある場合は、記入例図-5のとおりとする。
- (5) 行き止まり道路等で取付管をマンホール直入で設置した場合、記入例図-6のとおり記入する。
- (6) 取付管の管径等は、それぞれの取付管に近い位置に記入することとし、別表での記入は不可とする。

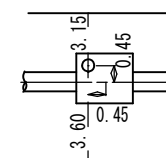
記入例 図-5



記入例 図-6



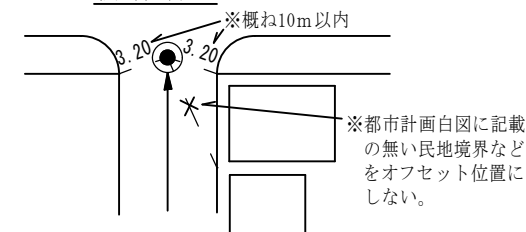
記入例 図-7



6 マンホール等

- (1) マンホール番号はNo.○、マンホール管理番号は数字、管きよ番号は、①, ②, ③…で表す。
- (2) マンホール等からの引き出し線上部にはマンホール管理番号(蓋管理番号の右3桁を整数で記入)と地盤高を、下部にはマンホール深を記入する。
- (3) 管底高は、管きよの下部に記入する。
- (4) 土被りは、括弧書きで管きよの上部に記入する。
- (5) マンホール等の位置を表すオフセットは、道路境界を基準とし、両側及び両側角よりマンホール等の中心点まで点線で表し、概ね10m以内の距離で記入する。また、オフセット位置については、民地境界等は避け、都市計画白図で確認できる位置を現地で選定する。(記入例図-8)

記入例 図-8



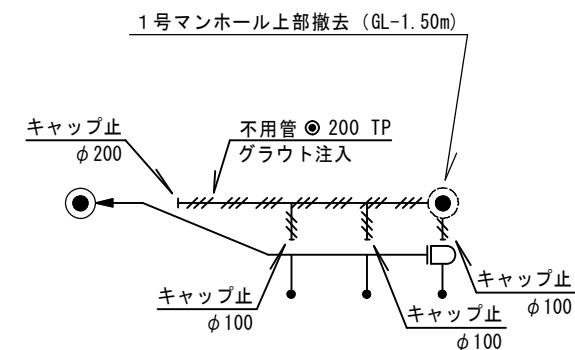
完成図作成要領(5)

本管・取付管等記入要領③

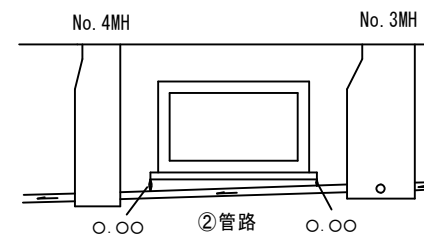
7 その他

- (1) すべての距離測定は、小数第二位を二捨三入(5cm単位となる)した数字で記入し(m)で表す。
- (2) 管底高は小数第三位まで、地盤高、本管土被り、マンホール深及び取付管宅地内土被りは小数第二位まで(m)で表す。
- (3) 移設工事等により、不用となった管を撤去せず存置する場合は、既存施設から切離し、管径及び栓止め状況等を記入する。(記入例図-9)
- (4) 水路横断部や他の地下埋設物の横断部等が近接している箇所及びやむを得ず基準外施工となっている箇所については、記入例図-10のとおり詳細図を記入する。
- (5) この標準図にない材料を使用した場合は、標準図相当の構造図を記入すること。

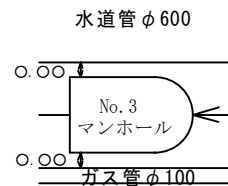
記入例 図-9



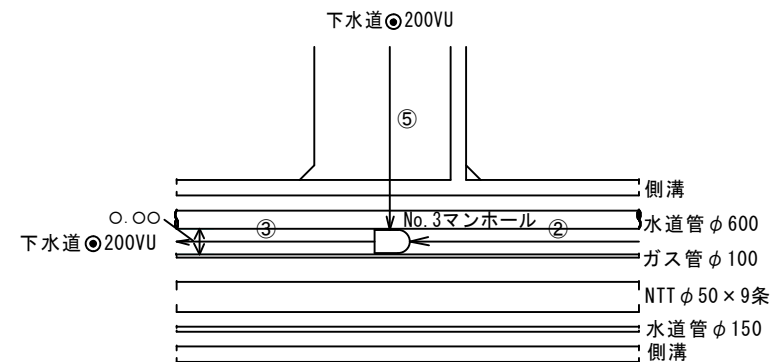
記入例 図-10



No. 3MH部詳細図



※必要に応じて記載すること。



完成図作成要領(6)

完成図凡例表

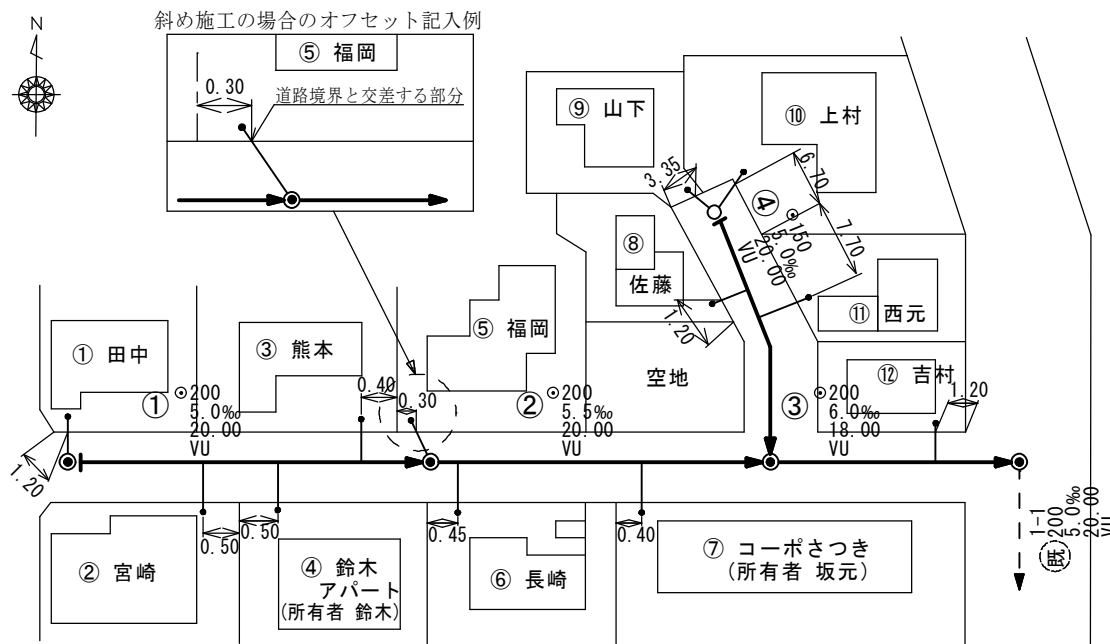
記号	名称(種別)	記号	名称(種別)
	幹線管きよ		楕円マンホール
	枝線管きよ		内副管付マンホール記号
	取付管		外副管付マンホール記号
	曲管		起点マンホール記号
	汚水圧送管		伏越し(1条管)
	汚泥圧送管		伏越し(2条管)
	掃除口		ポンプ場
	1号汚水樹		処理場
	2号汚水樹		空気弁
	3号汚水樹・0号MH		仕切弁
	1号マンホール		排泥弁
	2号マンホール		マンホールポンプ
	3号マンホール		管きよ属性変化点
	4号マンホール		地中管きよ接合部
	5号マンホール		隧道
	6号マンホール		さや管
	7号マンホール		既設管
	特殊マンホール		計画管
	小型1号マンホール		
	小型2号マンホール		

記号	名称(種別)
HP	ヒューム管
TP	陶管
VP	硬質塩化ビニール管
VU	下水道用硬質塩化ビニール管
RTP	更生陶管
PRTP	部分更生陶管
SP	鋼管
DIP	ダクトイル铸铁管
FRPM	プラスチック複合管
HTP	ヒューム陶管
PE	ポリエチレン管
PRP	リブ付硬質塩化ビニール管
RHP	更生ヒューム管
SCP	合成陶管
RCP	レジンコンクリート管
VM	硬質塩化ビニル管
CIP	铸铁管
EGP	硬質塩化ビニル卵形管
VH	耐衝撃性硬質塩化ビニル管
PRHP	部分更生ヒューム管
STK	一般構造用炭素鋼鋼管

完成図作成要領(7)

取付管位置平面図

取付管位置平面図 S=1:500



位置図 S=1:2,500

※完成図作成要領(1)参照

記入要領

- 取付管のオフセットは、隣地境界及び道路境界から取付管が道路境界を交差する位置での距離を記入すること。
※オフセットの距離は、小数第2位を5cm単位でまるめて表示する。
※境界がはっきりしない場合は、監督員と協議し、記入すること。
- 管路には、管種・管径を記入すること。
- 家屋平面図内に取付管位置確認書の番号と所有者を記入する。また、借家及びアパート等は、()に所有者名を記入すること。

公共下水道施設 平面図番号	+
------------------	---

〇〇丁目、〇〇町

鹿児島市公共下水道

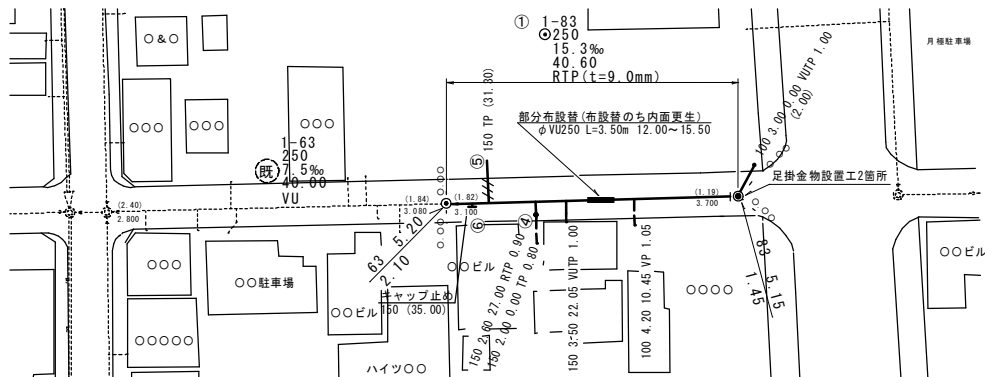
図面名称	〇〇〇〇汚水管路施設工事 完成図(〇〇図面)			図面 番号	1/2
縮尺	図示	課長 印	係長 印	サイン	設計 印
鹿児島市水道局					
主任技術者名	〇〇〇〇	現場代理人名	〇〇〇〇		
工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日				
受注者名	〇〇〇〇〇〇				

完成図作成要領(8)

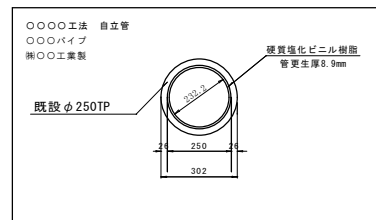
管きよ更生工法の完成図の記入例①

平面図 S=1:500

〇〇町 ①



更生工法標準断面図 S=1:100



※更生材の材質、製品名、メーカー等を記入すること。

位置図 S=1:2,500

※完成図作成要領(1)参照

管きよ番号①完成数量

工種	管径	管種	工法名	完成数量
管更生工	φ250	RTP	〇〇〇工法	40.60m
取付管更生工	φ150	RTP	〇〇取付管〇〇工法	1箇所(2.60m)
取付管工	φ150	VU	開削工法	1箇所(2.50m)
一体型内面補修工	φ100	-	-	1箇所
支管切替工	φ150	VU	-	0箇所
足掛金物設置工	-	-	-	2箇所
マンホール蓋取替工	φ600	-	-	3箇所
ます設置工	φ300	-	-	4箇所

完成数量合計(①~⑤)

工種	管径	管種	工法名	完成数量
管更生工	φ250	RTP	〇〇〇工法	〇〇.〇〇m
取付管更生工	φ150	RTP	〇〇取付管〇〇工法	〇箇所(〇.〇〇m)
取付管工	φ150	VU	開削工法	〇箇所(〇.〇〇m)
一体型内面補修工	φ100	-	-	〇箇所
支管切替工	φ150	VU	-	〇箇所
足掛金物設置工	-	-	-	〇箇所
マンホール蓋取替工	φ600	-	-	〇箇所
ます設置工	φ300	-	-	〇箇所

管きよ番号①取付管施工内容表

番号	排水設備番号	施工内容(※)	(廃止の場合は施工前の取付管)							備考		
			管径	施工延長	取付管延長	追加延長	施工管種	既設管種	施工後管種		取付管宅地内土壌または公設マス深	宅内第一への構造
①	00-000000	取付管布設替	φ100	2.50	3.00	0.00	VU	TP	VUTP	1.00 (取付管宅地内土壌)	コンクリートマス	
②	00-000000	一体型内面補修	φ100	-	4.20	10.45	-	VP	VP	1.05 (取付管宅地内土壌)	コンクリートマス	支管部 部分更生 250×100 支管分0.10m
③	00-000000	取付管布設替	φ150	2.50	3.50	22.05	VU	TP	VUTP	1.00 (取付管宅地内土壌)	掃除口	
④	00-000000	取付管更生	φ150	2.60	2.60	27.00	RTP	TP	RTP	0.90 (公設マス深)	掃除口	公設マス 既設
⑤	00-000000	穿孔無し	φ150	-	-	31.30	-	TP	TP	-	-	他の取付管を使用 今後使用予定なし
⑥	-	穿孔無し	φ150	-	-	35.00	-	TP (検止め済み)	TP	-	-	検止め済

※取付管位置は、上流側マンホール蓋中心から取付管口径中心までの距離とする。
 ※備考欄には参考のため補修工法及び補修数量は記入すること。
 ※取付管を廃止とした場合は備考欄に理由を記入すること。

※このほか、完成図作成要領(14)及び(15)を参照し、必要に応じて表を挿入すること。

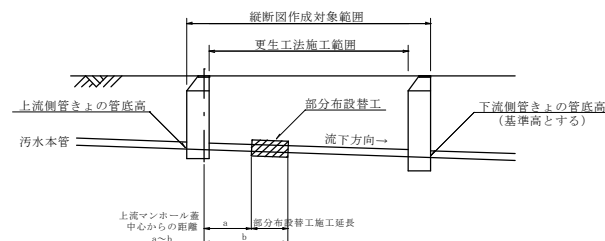
※ 完成合計数量については、図面番号No.1のみに記載する。
 ※ 工種(取付管施工内容表の施工内容の工種区分)
 ・取付管工 → 取付管布設替・部分取付管布設替
 ・取付管更生工 → 取付管更生
 ・一体型内面補修工 → 一体型内面補修
 ・支管切替工 → 支管切替

記入要領

- ※ 取付管延長は汚水本管中心から公私境界間までの距離+0.5mとする。
- ※ 更生工法の縦断面図は、下流側管きよの管底高を基準高とし、測量した値を用いて作成すること。(下図参照)
- ※ 部分布設替工を施工した場合は、その施工範囲の延長及び上流マンホール蓋中心からの距離を平面図に記入すること。(下図参照)
- ※ マンホール直入の取付管、公設マスの有無、位置情報等を正確に記入すること。
(公共下水道台帳と異なる場合は台帳の修正を要するため測量結果その他資料を提出し協議すること。)

※ 施工内容について

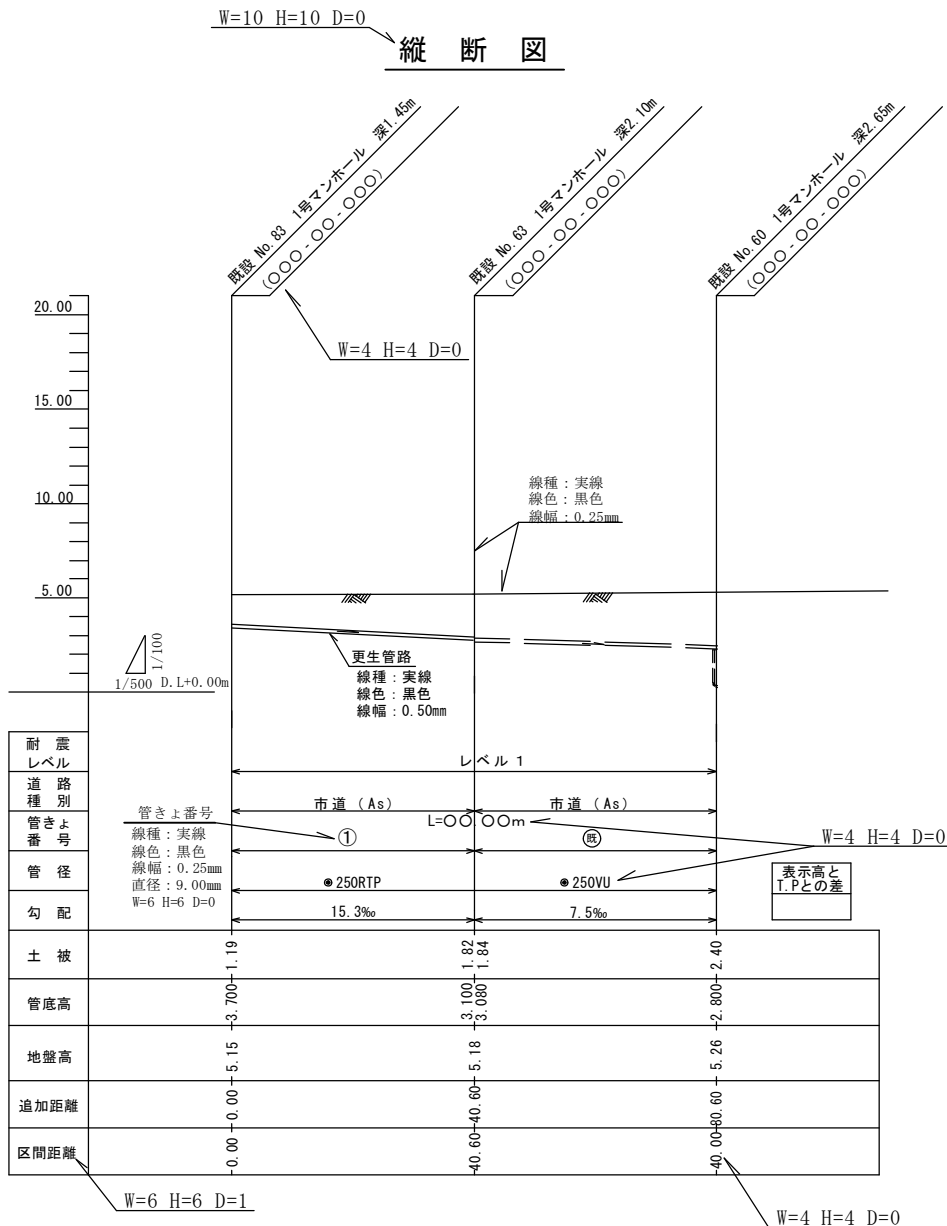
- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・穿孔無し(本管更生時に穿孔しなかったもの) ・撤去(管路を撤去したもの) ・切断(管路を部分的に切断して、本管と切り離したもの) ・接続無し(本管の布設替時等に接続しなかったもの) | <ul style="list-style-type: none"> ・改良・修繕取付管 ・取付管更生(取付管更生を行ったもの) ・一体型内面補修(支管部を部分更生工法にて内面補修を行ったもの) ・取付管布設替(開削での取付管の布設替えを行ったもの) ・支管切替(開削で支管切替を行ったもの) ・穿孔のみ(本管更生後の穿孔のみを行ったもの) |
|--|--|



完成図作成要領(9)

管きよ更生工法の完成図の記入例②

W=10 H=10 D=0
縦断図



公共下水道施設	145	146
平面図番号	160	161

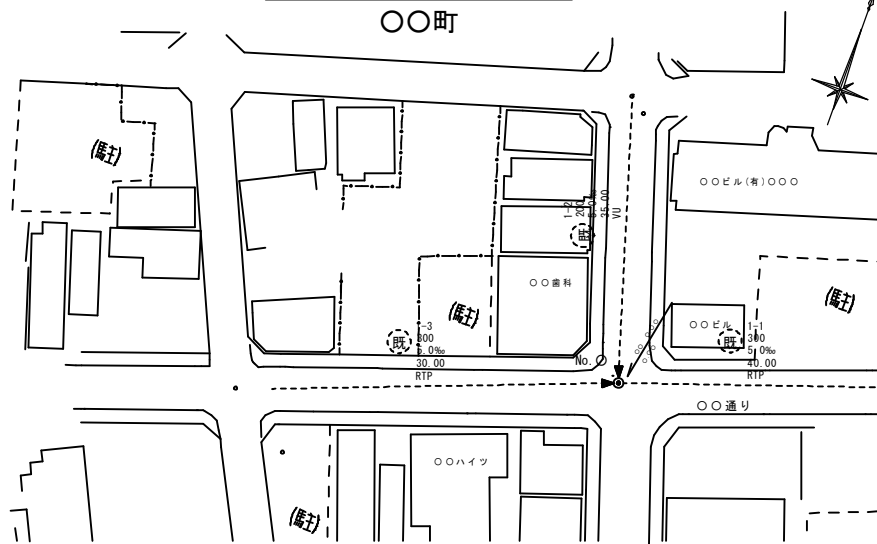
〇〇丁目、〇〇町(施設箇所町名)

鹿兒島市公共下水道			
図面名称	〇〇〇汚水管路施設工事 完成図 (〇〇図面)	図面番号	1/2
縮尺	図示	訂正	訂正
鹿兒島市水道局			
主任技術者名	〇〇〇〇	現場代理人名	〇〇〇〇
工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		
受注者名	〇〇〇〇〇〇		

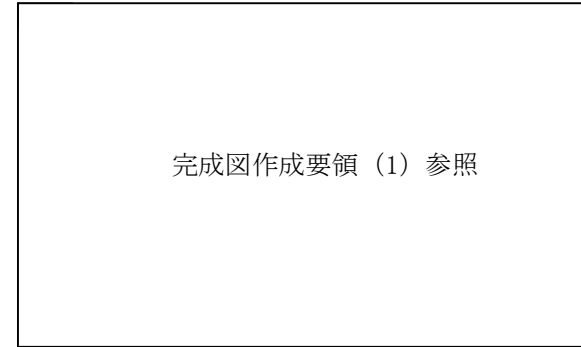
完成図作成要領(10)

マンホール更生工法の完成図の記入例

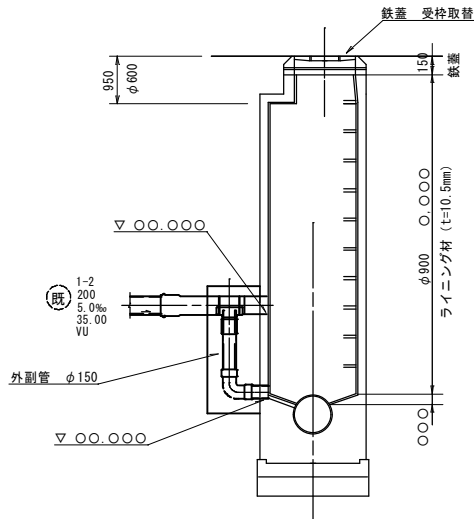
平面図 S=1:500



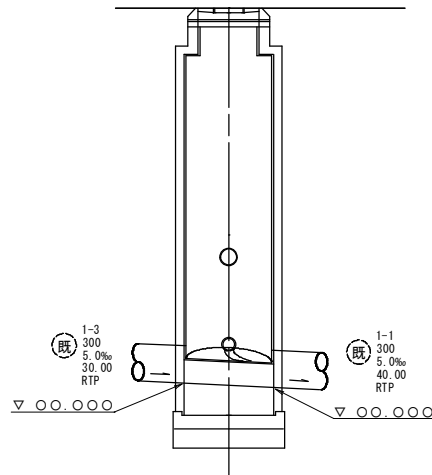
位置図 S=1:2,500



A-A断面図 S=1/20



B-B断面図 S=1/20



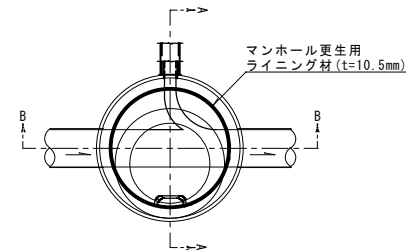
完成数量

マンホール番号	工種	工法名	完成数量
No. 1	マンホール更生	〇〇工法	1箇所

蓋種別表

マンホール(汚水ます)番号	蓋種別	蓋管理番号	蓋製造年度	マンホール製品名	転落防止梯子有・無
No. 7	メーカー名 F600-〇〇I-14	〇〇〇-〇〇-〇〇〇	令和〇〇年度	既設	無

平面図 S=1/20



公共下水道施設 平面図番号	129	
------------------	-----	--

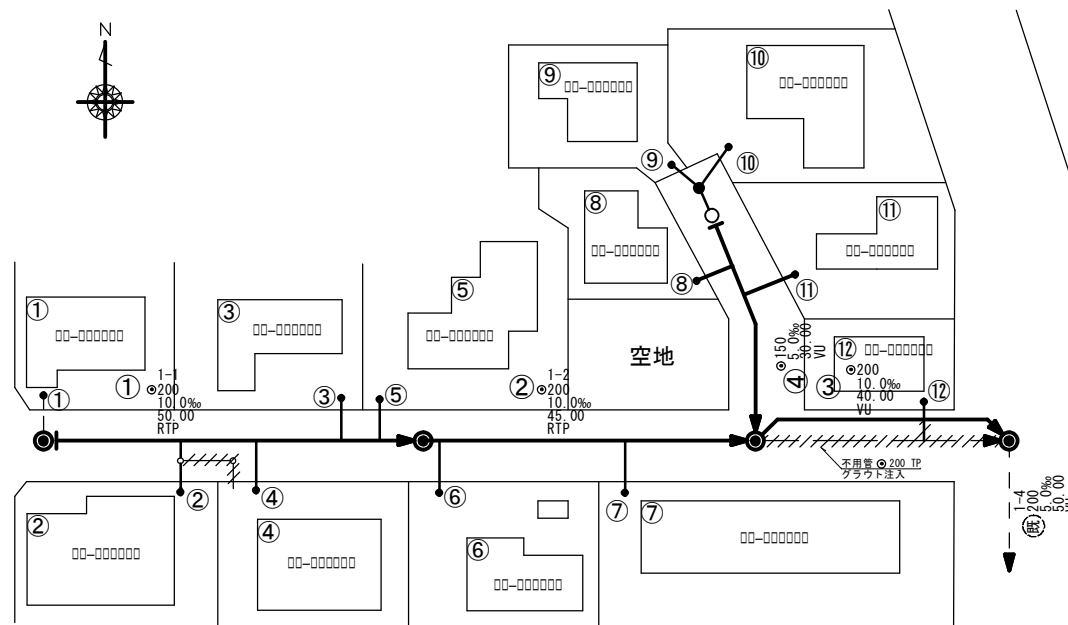
〇〇町 (施設箇所町名)			
鹿児島市公共下水道			
図面名称	〇〇〇〇汚水管路改良工事 完成図(〇〇図面)	図面番号	〇〇
縮尺	図示	縮尺	① ② ③ ④
鹿児島市水道局			
主任技術者名	〇〇〇	現場代理人名	〇〇〇
工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		
受注者名	〇〇〇〇〇		

※詳細平面図及び断面図の縮尺は見やすい縮尺とすること。

完成図作成要領(11)

取付管切替平面図

取付管切替平面図 S=1:500



記入要領

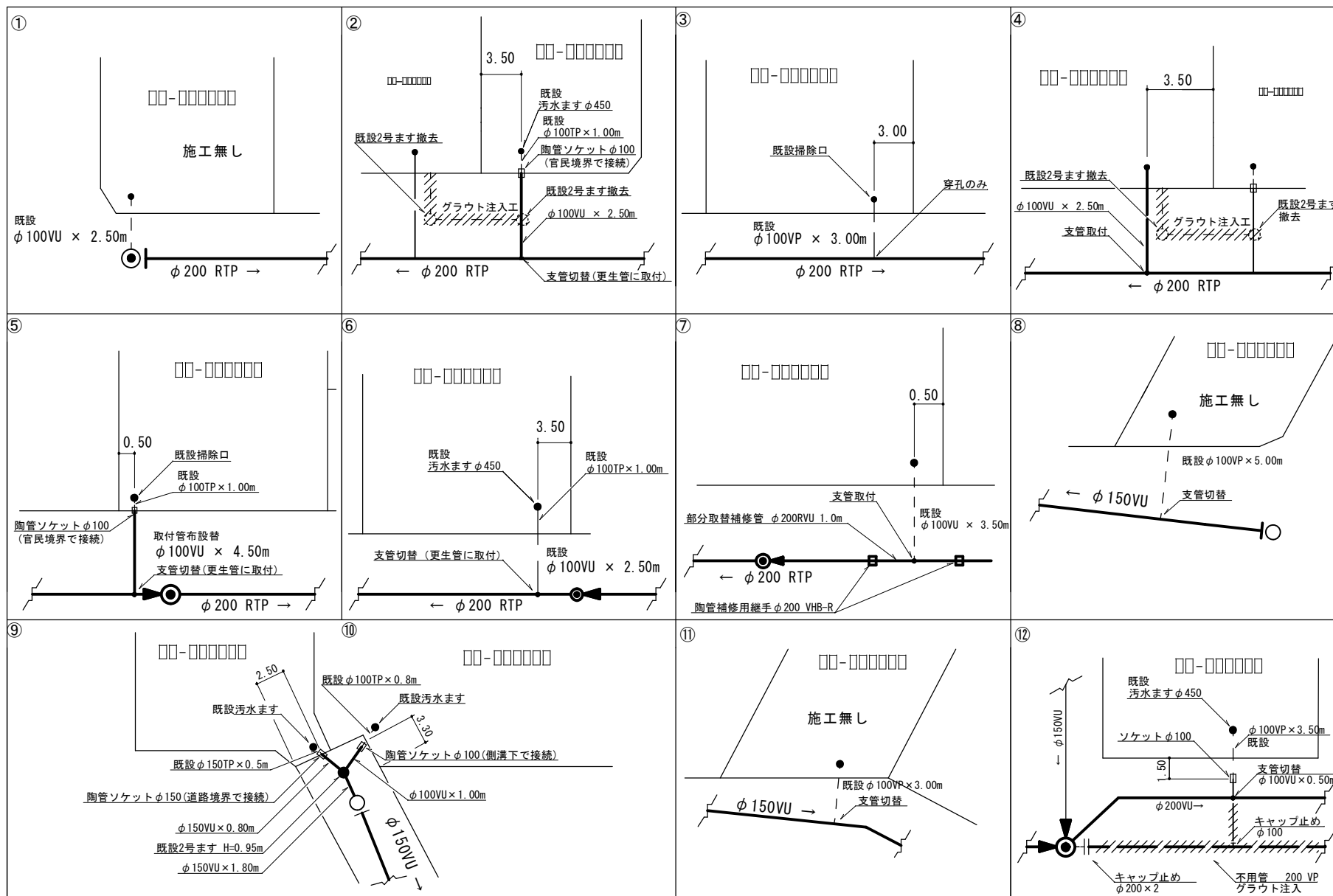
- 1 取付管の取替を行った工事は、新設・改良を問わず取付管切替平面図を作成記入することとする。
- 2 取付管及び取付管切替平面図の家屋に通し番号を記入し、さらに家屋には排水設備番号(2桁-6桁)も記入する。
- 3 取付管切替詳細図は縮尺なしとし、取付管切替工の施工内容を明確に分かりやすく記入すること。
また、既設管の処置についても同様に記入すること。

○○丁目、○○町(施設箇所町名)

鹿児島市公共下水道			
図面名称	○○○汚水管改良工事	図面番号	○/○
	完成図(取付管切替平面図)	番号別	
縮尺	図示	◎	◎ 付
鹿児島市水道局			
主任技術者名	○○○	取替代理人名	○○○ ◎
工事完成年月日	令和○○年○○月○○日		
受注者名	○○○○○ ◎		

完成図作成要領(12)

取付管切替詳細図

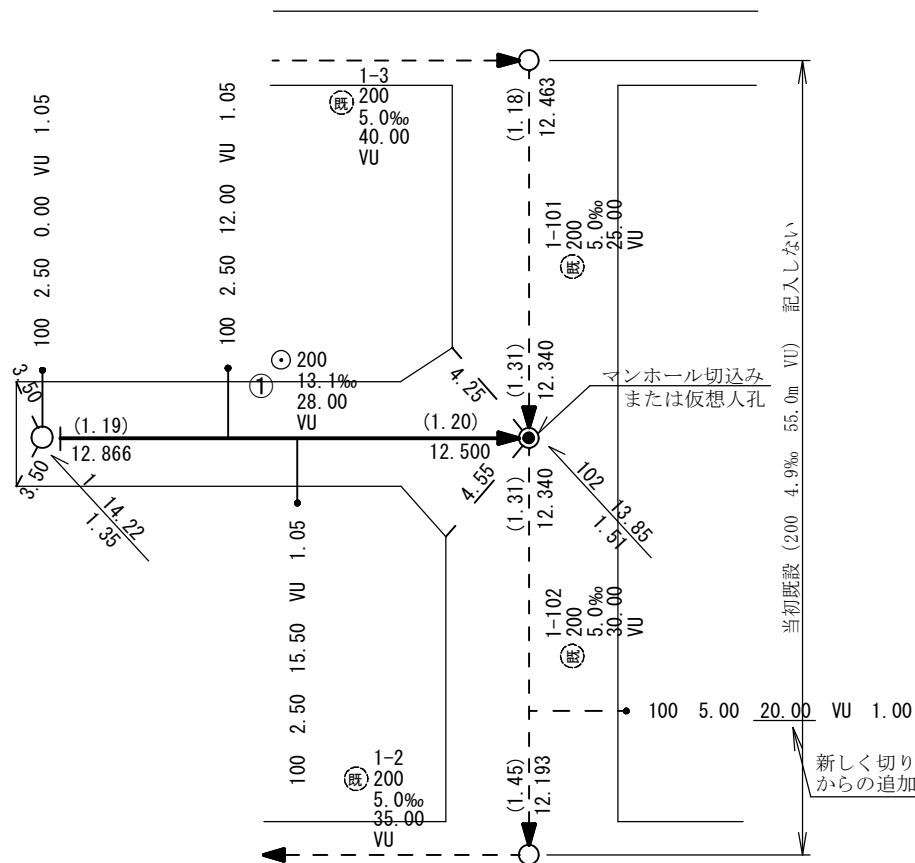


完成図作成要領(13)

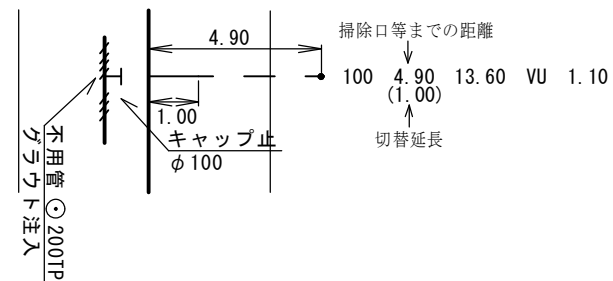
切込マンホール等の記入例

既設管路から分岐した場合の完成図記入例

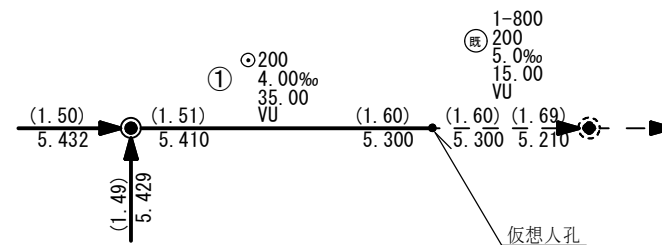
1. 新設及び改良工事において、既設管路から分岐(マンホール設置または支管分岐時には仮想人孔)し、整備する場合、完成図に既設管の各路線延長を記入すること。



新設及び改良工事等で取付管切替をする場合の完成図記入例



キャップ止め等の既設管路へ接続した場合の完成図記入例



完成図作成要領(14)

各種様式の寸法①

W=3.5 H=3.5 D=0 W=3.5 H=3.5 D=0 W=6 H=6 D=0

蓋種別表

マンホール (汚水ます)番号	蓋種別	蓋管理番号	蓋製造年度	マンホール製品名	転落防止用梯子 有・無
No. 1	メーカー名 F600-〇〇T-25	〇〇〇-〇〇-〇〇〇	令和〇〇年度	〇〇〇〇〇	無
No. 2	メーカー名 F500-〇〇T-14	〇〇〇-〇〇-〇〇〇	令和〇〇年度	〇〇〇〇〇	無
No. 3	メーカー名 F300-〇〇T-14	〇〇〇-〇〇-〇〇〇	令和〇〇年度	〇〇〇〇〇	有

30 40 40 40 40 30 220

道路占用等許可番号

種別	許可年月日 許可番号	路線名	管路番号
国道	令和元年12月10日 国九整鹿占第〇〇号		
県道	令和元年12月10日 指令 第〇〇号		
市道	令和元年12月10日 指令 第〇〇号	鴨池新町1号線 1251	(例) ⑥ ⑦
里道	令和元年12月10日 指令 第〇〇号		
港湾	令和元年12月10日 鹿建総 第〇〇号		
河川	令和元年12月10日 鹿建総 第〇〇号		

10 10 10 10 10 10 10 10 10 10

10 30 30 30 100

W=3.5 H=3.5 D=0

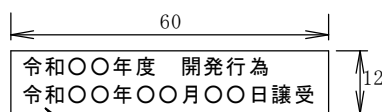
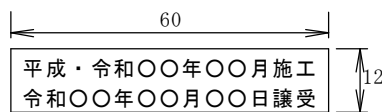
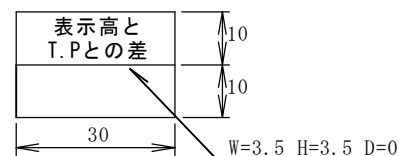
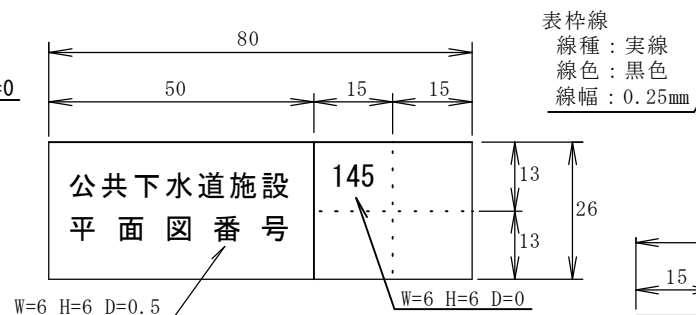
完成数量

W=3.5 H=3.5 D=0

	完成数量
◎ 250VP	〇〇. 〇〇m
◎ 200VP	〇〇. 〇〇m
◎ 200VU	〇〇. 〇〇m
組立1号マンホール	〇〇箇所
組立楕円マンホール	〇〇箇所
小型組立2号マンホール	〇〇箇所
取付管◎100VU	〇〇箇所 〇〇. 〇〇m
取付管切替 ◎100VU	〇〇箇所

10 10 10 10 10 10 10 10 10 10

30 40 70



W=3 H=3 D=0

108 15 45 12 12 12 12

鹿児島市公共下水道

(開発行為の場合は空欄)

図面名称	〇〇〇〇汚水管路施設工事 完成図(〇〇図面)	図面 番号 No. 〇
縮尺	図示	課長 係長 担当者 (印) (印) サイン

W=5 H=5 D=0 W=3.5 H=3.5 D=0

鹿児島市水道局

(開発行為の場合は開発者名)

主任技術者名	現場代理人名
(印)	(印)

W=5 H=5 D=0 W=3 H=3 D=0

工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日
受注者名	〇〇〇〇〇〇 (印)

W=3.5 H=3.5 D=0

20 15 7 12 20 22 12

※ マンホール座標および蓋種別表について、原則として完成数量表の下部に記入する。ただし、完成数量表下部に余裕がない場合は、完成数量の近くであればこの限りではない。

※ 完成図の各様式の大きさは、要領の寸法を標準とする。ただし、製図機械等による図面作製で誤差が生じる場合これに近い寸法で作成する。

完成図作成要領(15)

各種様式の寸法②

W=6 H=6 D=0

W=3.5 H=3.5 D=0

マンホール継手表

管きよ番号	製造者名・製品名 (上流)	製造者名・製品名 (下流)
①	○○○○○ ○○○○○	○○○○○ ○○○○○
②	○○○○○ ○○○○○	○○○○○ ○○○○○
③	○○○○○ ○○○○○	○○○○○ ○○○○○
既 設	—	○○○○○ ○○○○○

(注) 可とう性マンホール継手を使用していない場合は、製造者名・製品名の欄に使用できなかった理由を書くこと。

W=3.5 H=3.5 D=0

110

表枠線
線種：実線
線色：黒色
線幅：0.25mm

W=6 H=6 D=0

W=3.5 H=3.5 D=0

マンホール座標

マンホール (汚水ます)番号	X座標	Y座標	Z座標
No. 1	-○○,○○○.○○○	-○○,○○○.○○○	○○○○○.○○○
No. 2	-○○,○○○.○○○	-○○,○○○.○○○	○○○○○.○○○
No. 3	-○○,○○○.○○○	-○○,○○○.○○○	○○○○○.○○○

150

外枠線
線種：実線
線色：黒色
線幅：0.50mm

W=6 H=6 D=0

W=3.5 H=3.5 D=0

管メーカー表

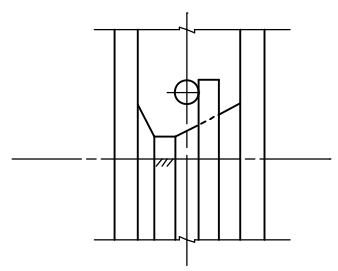
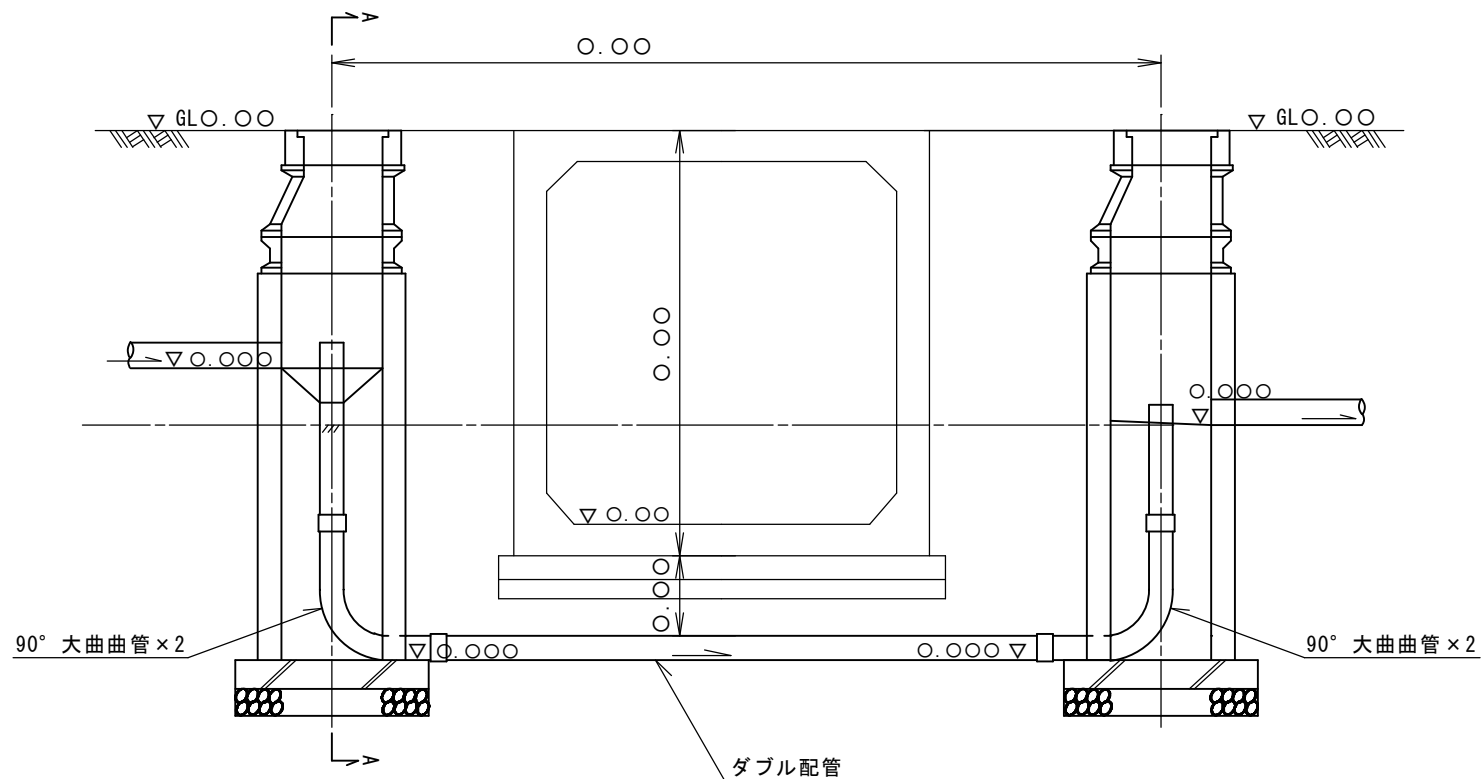
管きよ番号	製造者名	製品名
①	○○○○○(株)	○○○○パイプVU
②	○○○○○(株)	ヒューム管 B形管
③	(株)○○○○○	推進工法用レジンコンクリート管 ○○(○○)形
④	○○○○(株)	○○パイプ 自立管タイプ(t=9.0mm)

125

W=3.5 H=3.5 D=0

完成図作成要領(17)

伏越し部詳細図の記入例

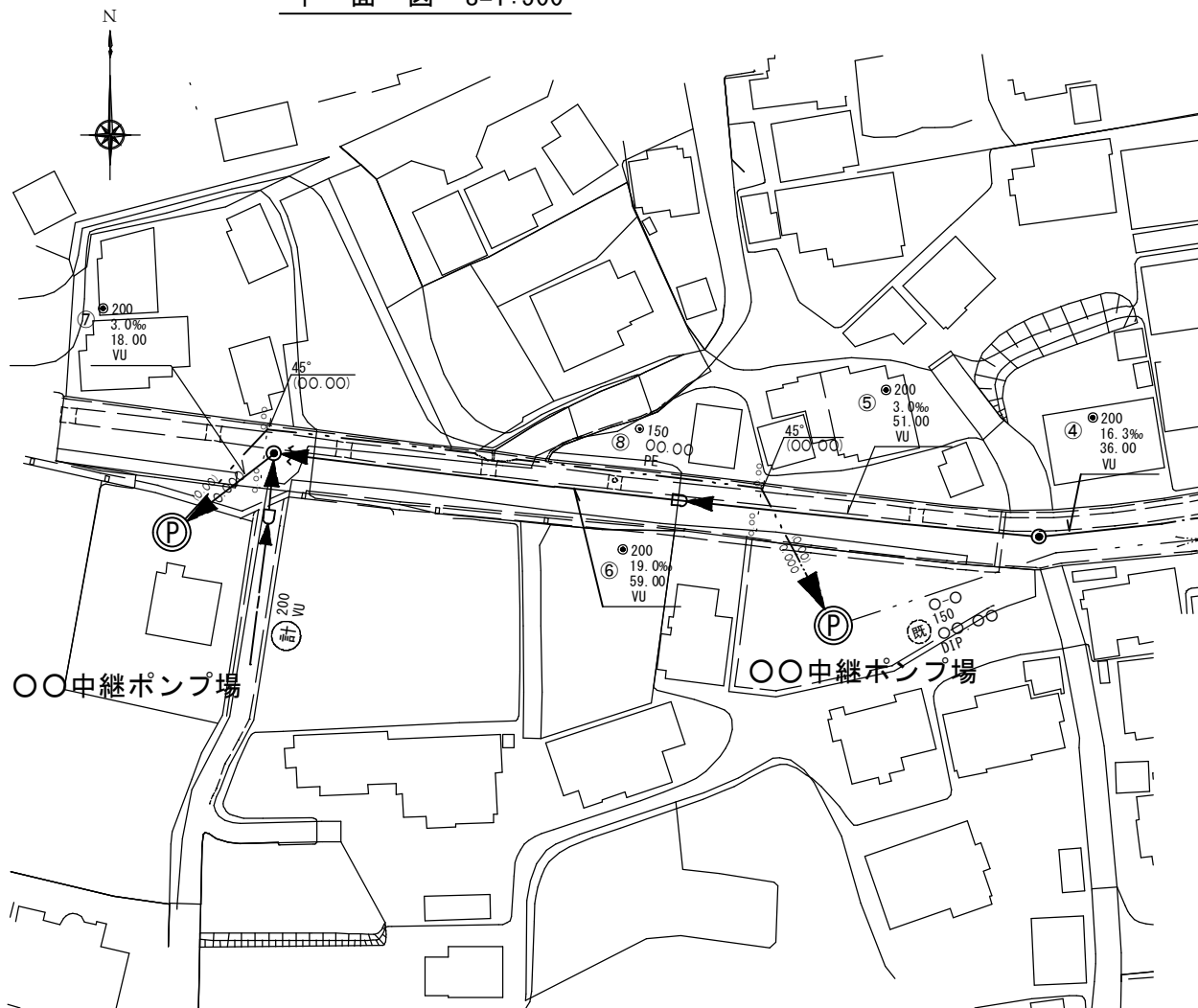


A-A 断面図

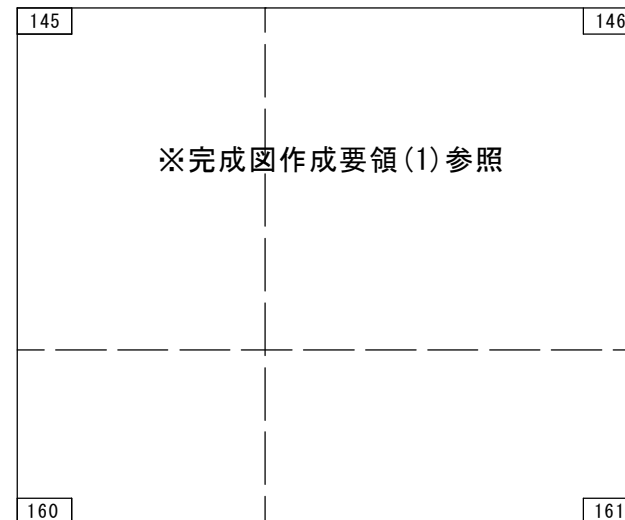
完成図作成要領(18)

圧送管の完成図の記入例①

平面図 S=1:500



位置図 S=1:2,500



- (注)
1. 図面寸法については、A-1版(598×841mm)とする。
 2. 平面図・位置図は、都市計画白図を使用し作成する。
 3. 平面図・縦断図は、同一図面で作成せず、別図面とする。
 4. 文字・数字のフォントは、ゴシック体とし、数字は、半角文字とする。また、文字・数字の大きさは、完成図作成要領(6)を参照すること。
 5. このほか、完成図作成要領(14)及び(15)を参照し、必要に応じて表を挿入すること。

道路占用等許可番号

種別	許可年月日 許可番号	路線名	管路番号
市道	令和元年12月10日 指令道管第〇〇号	〇〇〇線 路線番号	⑧

公共下水道施設	145 146
平面図番号	160 161

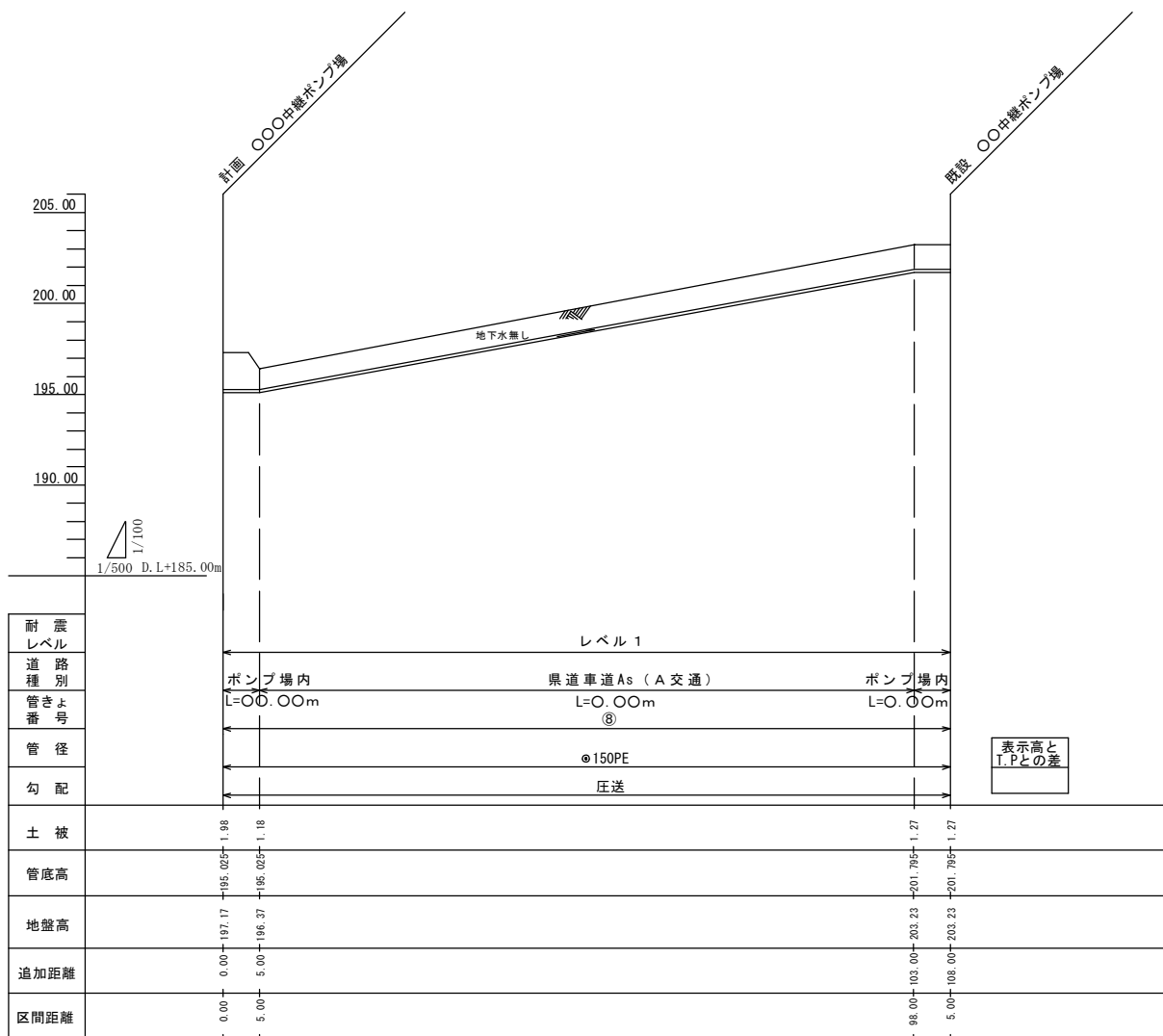
〇〇丁目、〇〇町(施設箇所町名)

鹿兒島市公共下水道			
図面名称	〇〇〇汚水管路施設工事 完成図(〇〇図面)	図面番号	1 2
縮尺	図示	標準	1/50
鹿兒島市水道局			
主任技術者名	〇〇〇〇	現場代理人名	〇〇〇〇
工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		
受注者名	〇〇〇〇〇〇		

完成図作成要領(19)

圧送管の完成図の記入例②

縦断図



表示高と
I.Pとの差

公共下水道施設	145	146
平面図番号	160	161

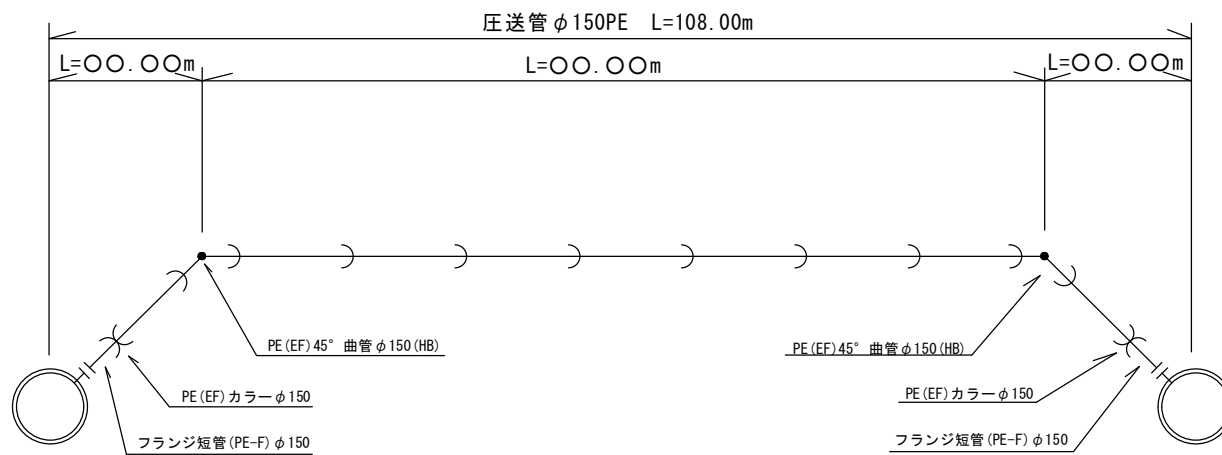
〇〇丁目、〇〇町(施設箇所町名)

鹿児島市公共下水道			
図面名称	〇〇〇汚水管路施設工事 完成図(〇〇図面)	図面 番号	1/2
縮尺	図示	訂本	訂正
鹿児島市水道局			
主任技術者名	〇〇〇〇	現場代理人名	〇〇〇〇
工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		
受注者名	〇〇〇〇〇〇		

完成図作成要領(20)

圧送管の完成図の記入例③

管割図 S=free



〇〇中継ポンプ場
組立2号レジンマンホール

〇〇中継ポンプ場
組立2号レジンマンホール

公共下水道施設	145	146
平面図番号	160	161

〇〇丁目、〇〇町(施設箇所町名)

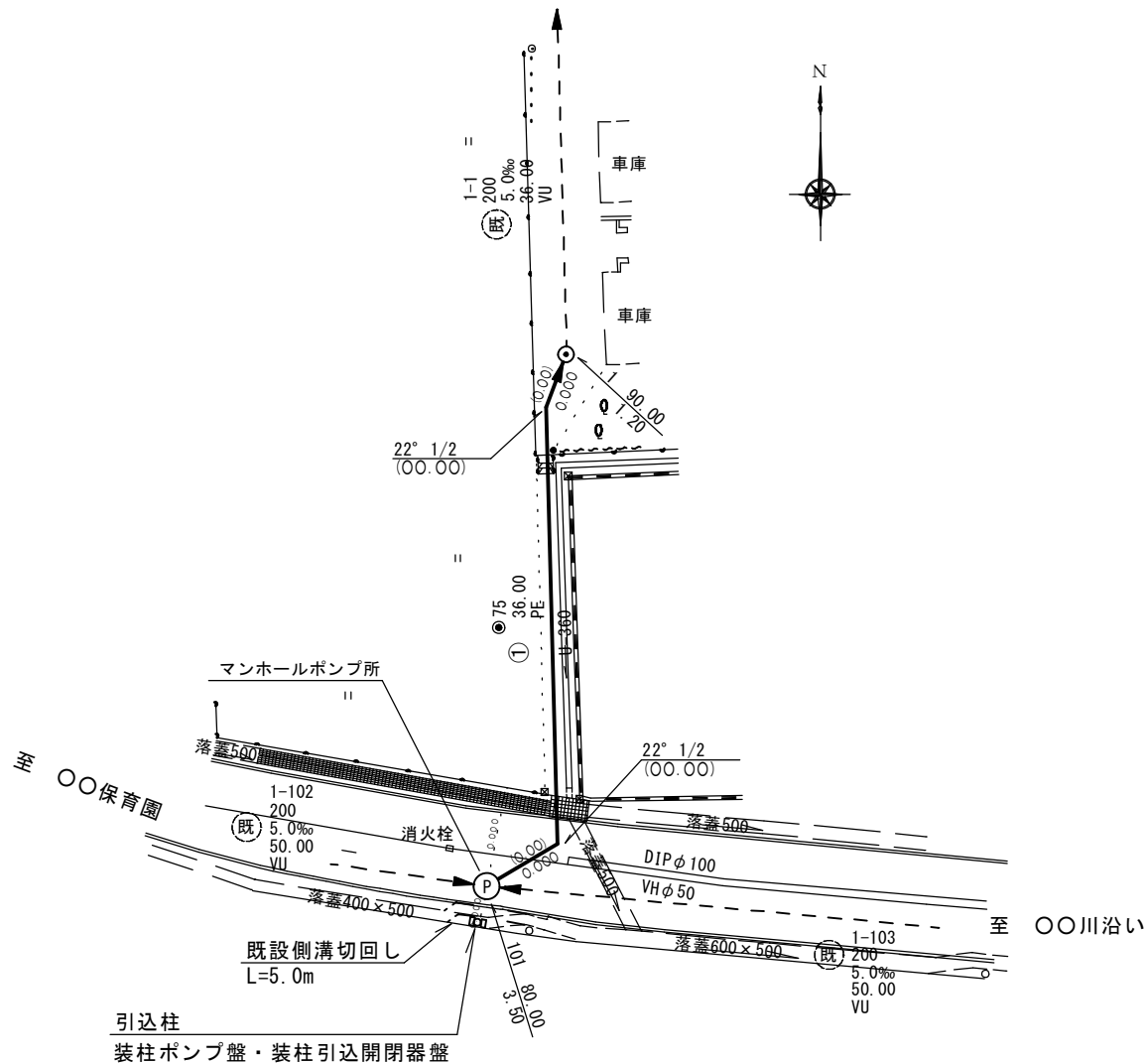
鹿兒島市公共下水道			
図面名称	〇〇〇汚水管路施設工事 完成図(〇〇図面)	図面No	1/2
縮尺	図示	縮尺	① ② ③ ④
鹿兒島市水道局			
主任技術者名	〇〇〇〇	現場代理人名	〇〇〇〇
工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		
受注者名	〇〇〇〇〇〇		

完成図作成要領(21)

マンホールポンプ所の完成図の記入例①

平面図 S=1:500

位置図 S=1:2,500



※完成図作成要領(1)参照

※ 完成図作成要領(14)及び(15)を参照し、必要に応じて表を挿入すること。

公共下水道施設	145	146
平面図番号	160	161

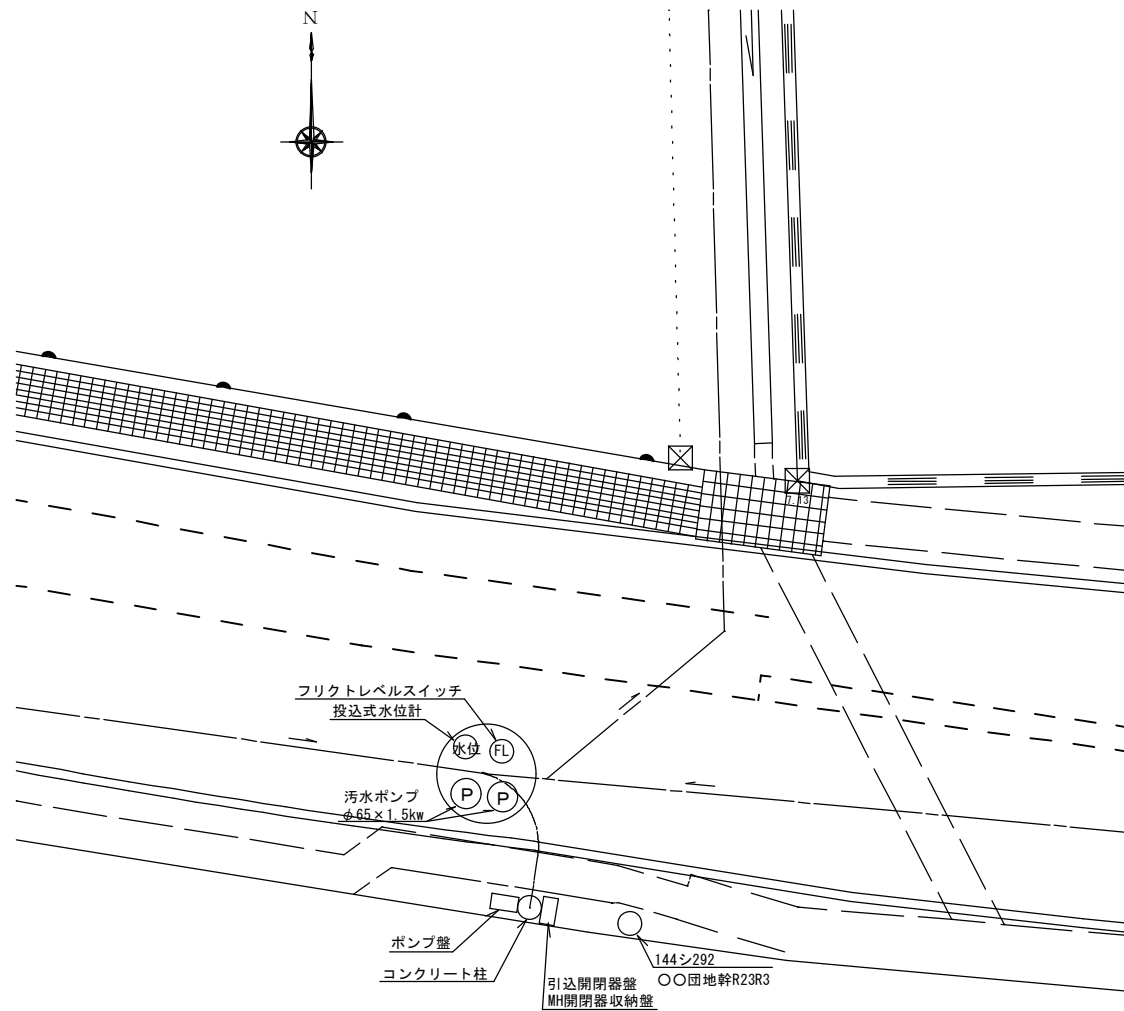
○○丁目、○○町(施設箇所町名)

鹿兒島市公共下水道			
図面名称	○○○汚水管路施設工事	図面No	1
	完成図(○○図面)	番号	2
縮尺	図示	原大	縮小
鹿兒島市水道局			
主任技術者名	○○○○	現場代理人名	○○○○
工事完成年月日	令和○○年○○月○○日		
受注者名	○○○○○○		

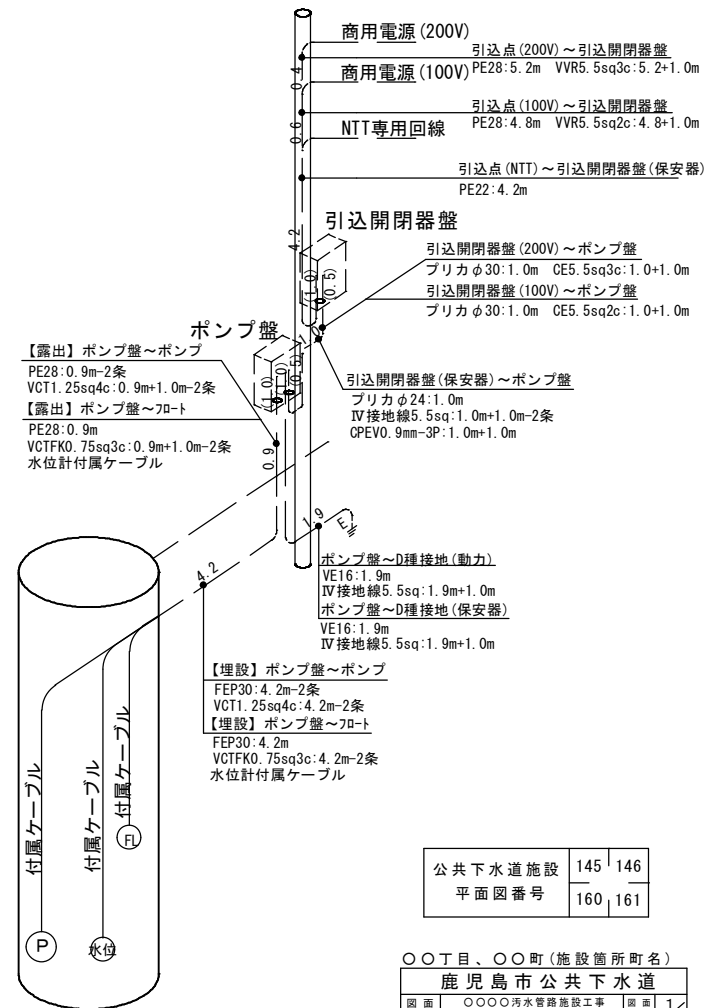
完成図作成要領(22)

マンホールポンプ所の完成図の記入例②

平面図 S=1:500



配管配線アイソメ図



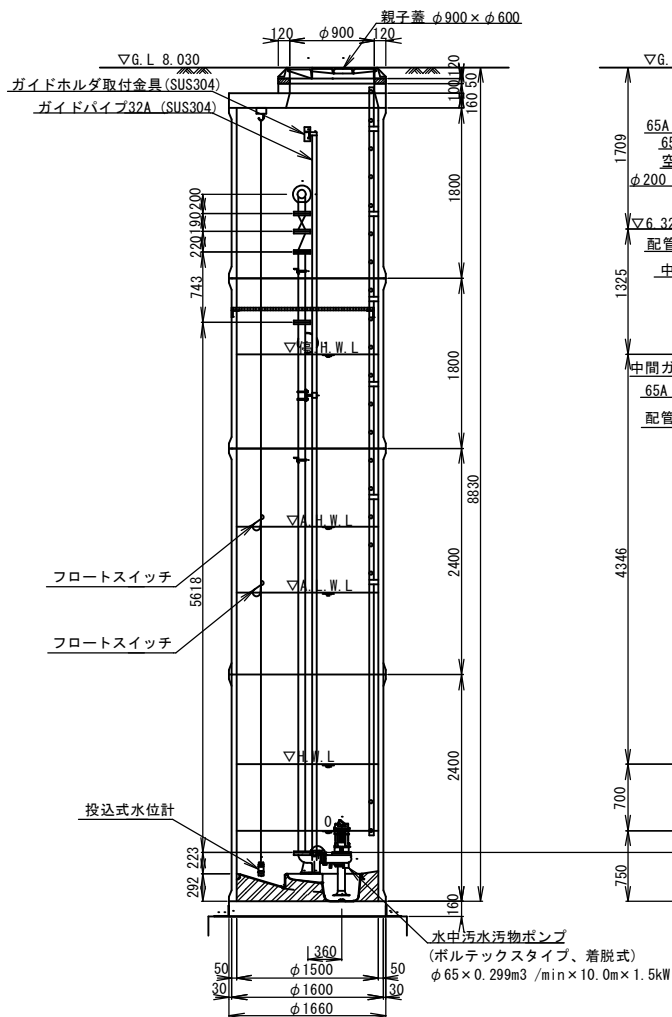
公共下水道施設	145	146
平面図番号	160	161

○●丁目、○○町(施設箇所町名)

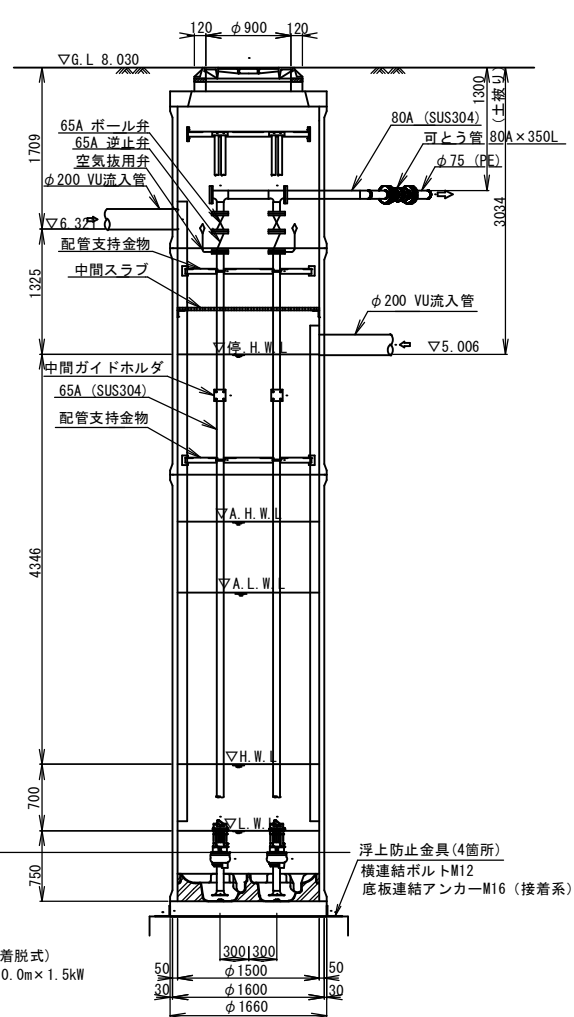
鹿兒島市公共下水道			
図面名称	○○○汚水管路施設工事	図面No	1
	完成図(電気配線図)	番号	2
縮尺	図示	①	②
鹿兒島市水道局			
主任技術者名	○○○○	現場代理人名	○○○○
工事完成年月日	令和○○年○○月○○日		
受注者名	○○○○○○○		

完成図作成要領(23)

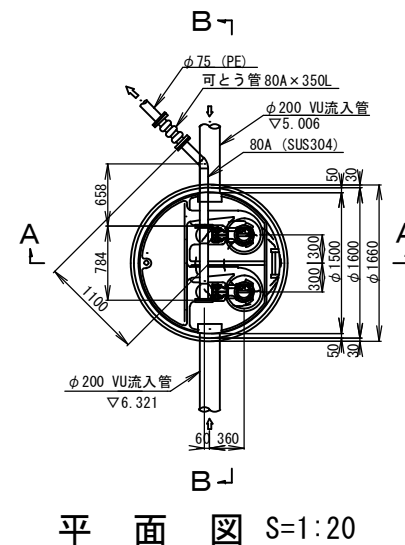
マンホールポンプ所の完成図の記入例③



A-A断面図 S=1:20



B-B断面図 S=1:20



平面図 S=1:20

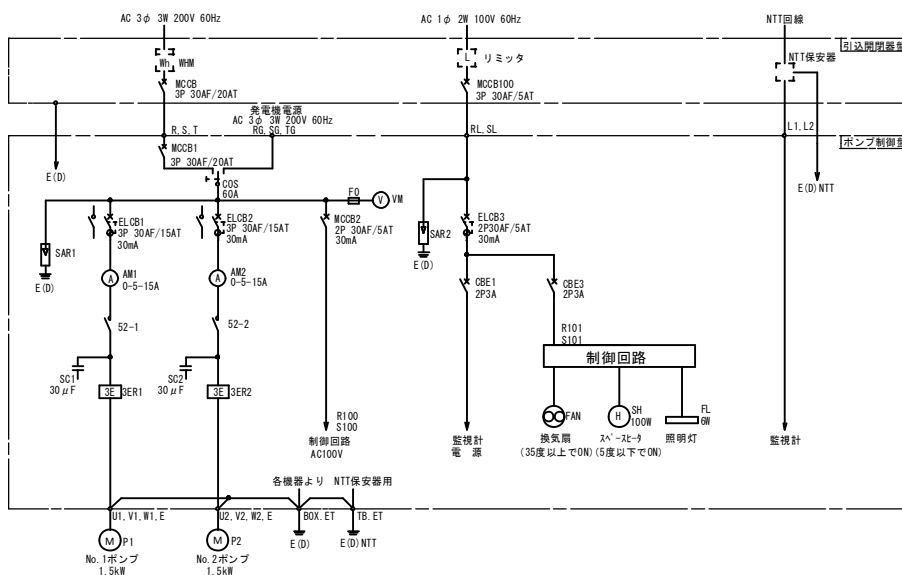
公共下水道施設	145	146
平面図番号	160	161

〇〇丁目、〇〇町(施設箇所町名)			
鹿児島市公共下水道			
図面名称	〇〇〇汚水管路施設工事 完成図(場内配管詳細図)	図面番号	1/2
縮尺	図示	製本	図示
鹿児島市水道局			
主任技術者名	〇〇〇〇	現場代理人名	〇〇〇〇
工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		
受注者名	〇〇〇〇〇〇		

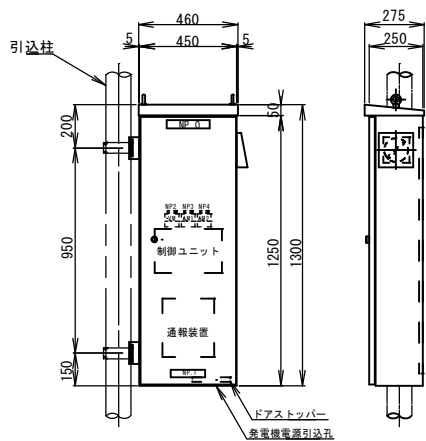
完成図作成要領 (24)

マンホールポンプ所の完成図の記入例④

単線結線図



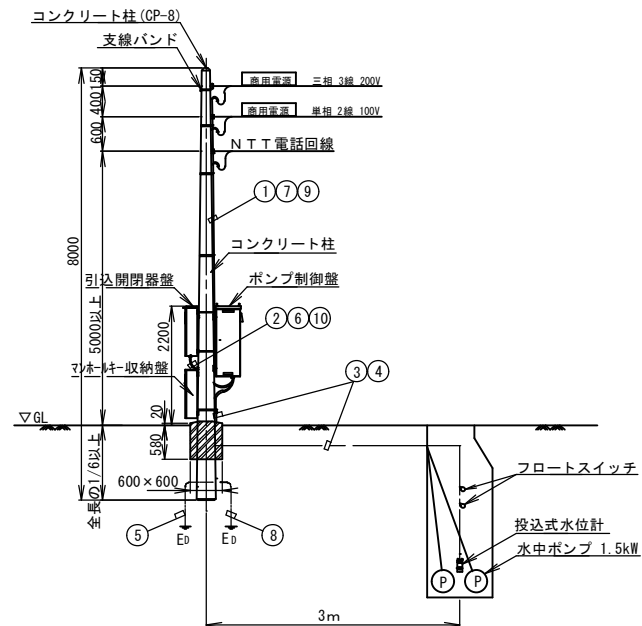
ポンプ制御盤 S=Free



ネームプレート表

NP, No	名称
0	ポンプ地名銘板
1	社名板
2	電源電圧
3	No. 1ポンプ
4	No. 2ポンプ

動力引込図及び動力配線図 S=Free



配線表

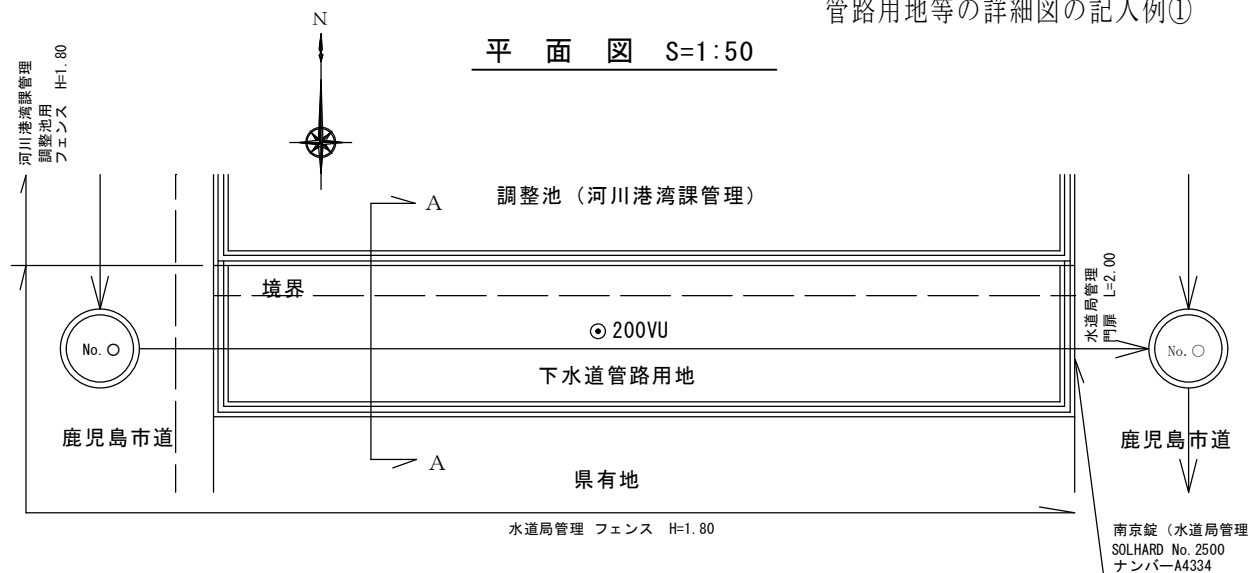
No	自	至	電線	電線管		備考
				露出	埋設	
①	動力引込点	引込開閉器盤	VVR5.5mm ² × 3心 × 1	PE28	—	
②	引込開閉器盤	ポンプ制御盤	CE5.5mm ² × 3心 × 1	金属製可とう電線管φ30	—	
③	ポンプ制御盤	No. 1ポンプ 動力	付属ケーブル	PE28	FEP30	
④	ポンプ制御盤	No. 2ポンプ 動力	付属ケーブル	PE28	FEP30	
⑤	ポンプ制御盤	投込式水位計	付属ケーブル	PE28	FEP30	
⑥	ポンプ制御盤	フロートスイッチ	VCTFK0.75mm ² × 3心 × 2	—	—	
⑦	ポンプ制御盤	接地棒	IV5.5mm ² × 1	VE16	VE16	
⑧	NTT引込点	保安器 (引込開閉器盤)	—	PE22	—	
⑨	保安器	ポンプ制御盤	CPEV0.9mm × 3P × 1	金属製可とう電線φ24	—	
⑩	引込開閉器盤内	ポンプ制御盤	IV5.5mm ² × 2	—	—	
⑪	引込開閉器盤	ポンプ制御盤	IV5.5mm ² × 1	VE16	VE16	
⑫	ポンプ制御盤	接地棒	IV5.5mm ² × 1	—	—	
⑬	蛍灯引込点	引込開閉器盤	VVR5.5mm ² × 2心 × 1	PE28	—	
⑭	引込開閉器盤	ポンプ制御盤	CE5.5mm ² × 2心 × 1	金属製可とう電線管φ30	—	

○ ○ 丁目、○ ○ 町 (施設箇所町名)

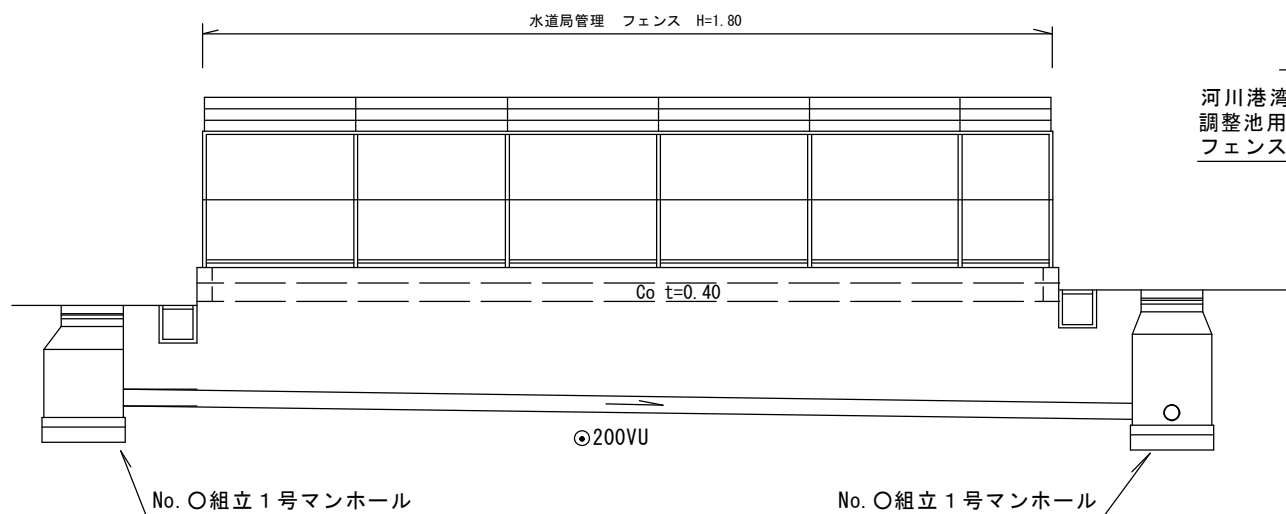
鹿兒島市公共下水道			
図面名称	○○○汚水管路施設工事	図面No	1
名称	完成図 (電気設備図)	番号	2
縮尺	図示	原寸	1/2
鹿兒島市水道局			
主任技術者名	○○○	現場代理人名	○○○
工事完成年月日	令和○○年○○月○○日		
受注者名	○○○○○○		

完成図作成要領(25)

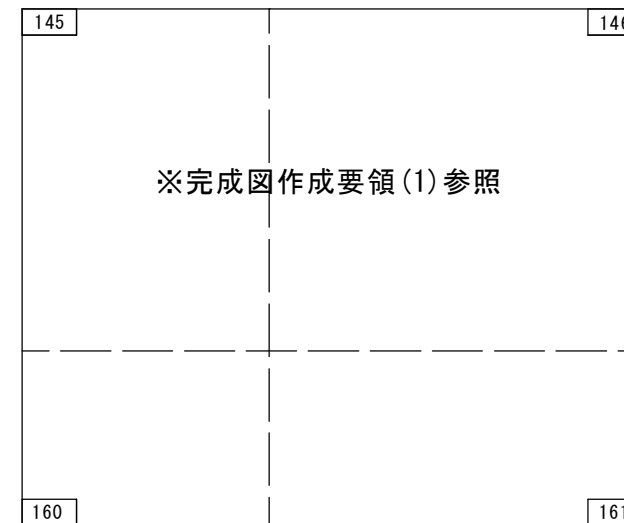
管路用地等の詳細図の記入例①



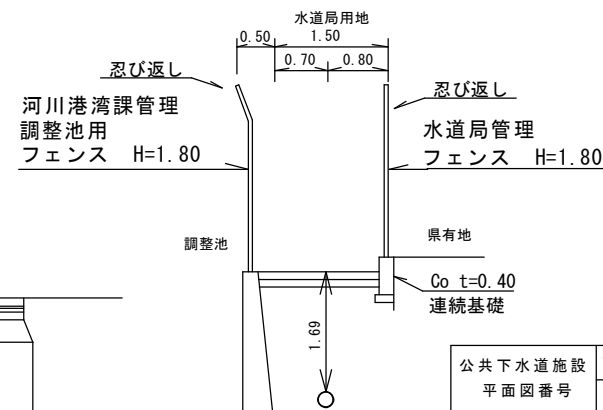
断面図 S=1:50



位置図 S=1:2,500



A-A断面図 S=1:50



公共下水道施設 平面図番号	145 160	146 161
------------------	------------	------------

〇〇丁目、〇〇町(施設箇所町名)

鹿児島市公共下水道			
図面名称	〇〇〇汚水管路施設工事 完成図(〇〇図面)	図面番号	1 2
縮尺	図示	原寸	1/2

鹿児島市水道局

主任技術者名	〇〇〇〇	現場代理人名	〇〇〇〇
工事完成年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		
受注者名	〇〇〇〇〇〇		

(注)

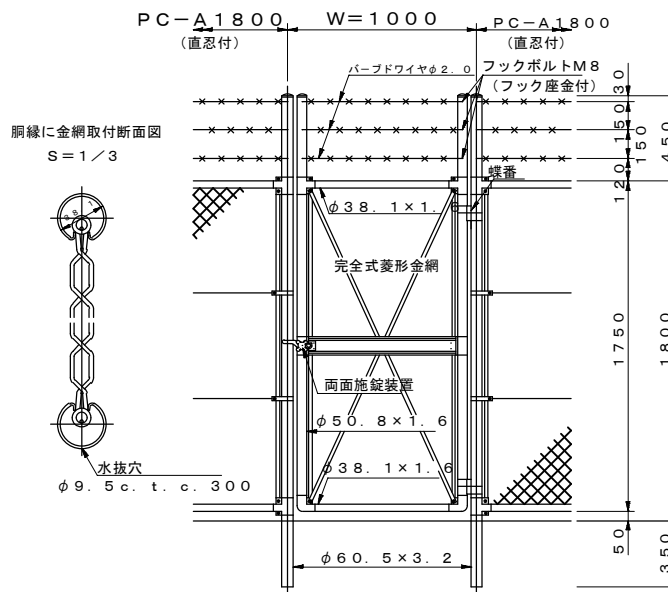
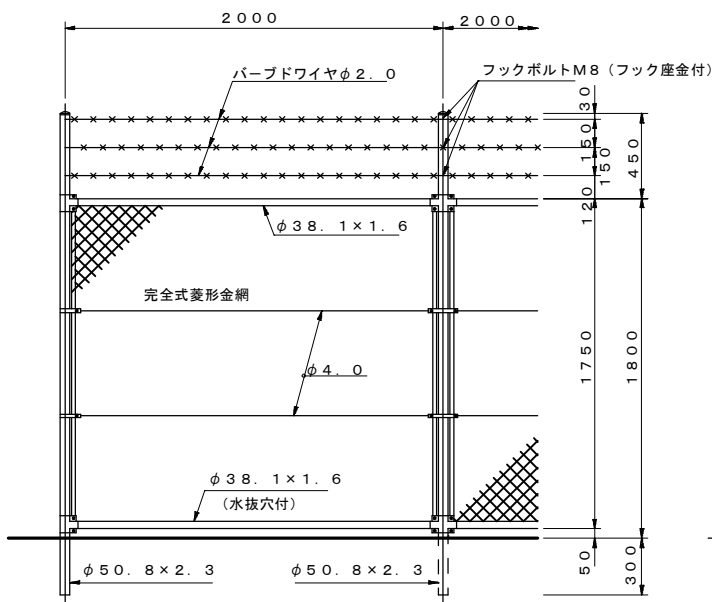
- 下水道管路用地及び他者の管理する用地でフェンス等で囲われている用地や特殊な地形にやむを得ず布設する場合は、用地等の平面図などを作成すること。
- 用地やフェンス等は、管理区分を記載すること。

完成図作成要領 (26)

管路用地等の詳細図の記入例②

ネットフェンス詳細図 S=1/20

PC-A1800 (直忍付)



単位：mm

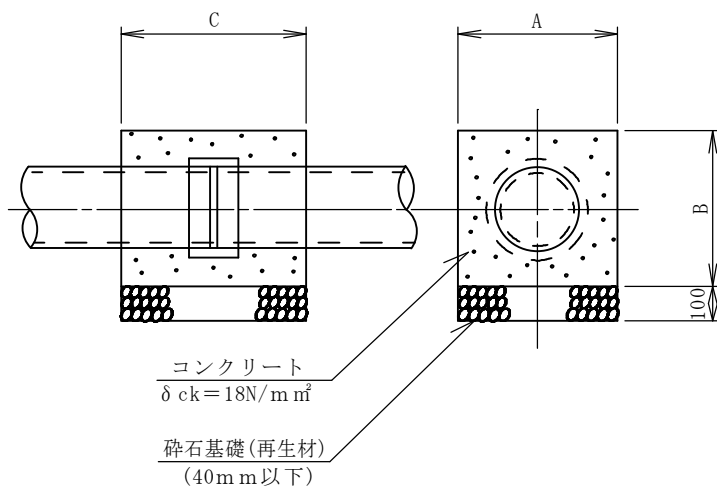
完全式菱形金網φ2.6×40mm
 [スプリングネット] [400g 亜鉛めっきハガネ鉄線]
 (素線抗張力850N/mm² ~ 1050N/mm²)
 (亜鉛付着量400g/m²以上)

○○丁目、○○町(施設箇所町名)

鹿兒島市公共下水道			
図面名称	○○○汚水管路施設工事 完成図(○●図面)	図面番号	1/2
縮尺	図示	製本	① ② ③
鹿兒島市水道局			
主任技術者名	○○○	現場代理人名	○○○
工事完成年月日	令和○○年○○月○○日		
受注者名	○○○○○○		

管継手部防護工、管拔出工

管継手部防護工

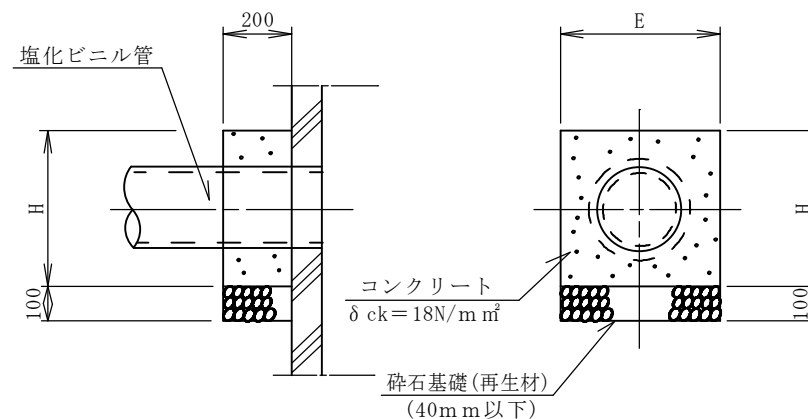


寸法表

単位(mm)

口径	A	B	C
φ 100	350	350	500
φ 150	400	400	500
φ 200	550	550	550
φ 250	600	600	550
φ 300	650	650	550

管拔出防護工

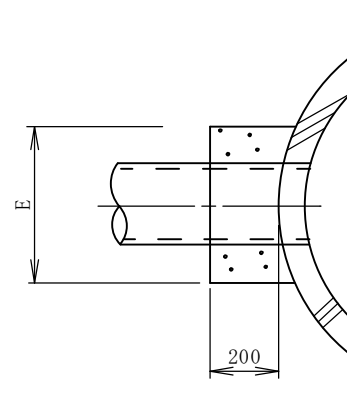


下記の数値については、すべて塩化ビニル管にて考慮する。

寸法表

単位(mm)

口径	E	H
φ 100	320	320
φ 150	370	370
φ 200	420	420
φ 250	470	470
φ 300	520	520
φ 350	570	570
φ 400	620	620



2. 各種管材寸法図(参考)

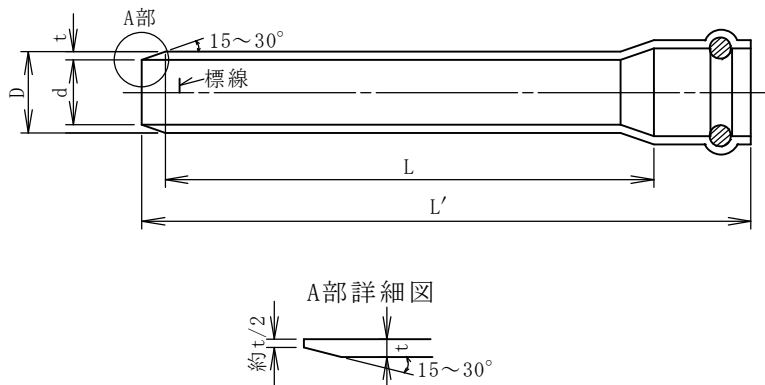
管 材 目 次

図面番号	図 面 名 称	
1	下水道用硬質塩化ビニル管寸法表	
2	硬質塩化ビニル管寸法表	
3	下水道用硬質塩化ビニル管(曲管)寸法表	
4	硬質塩化ビニル管(曲管)寸法表	
5	下水道用硬質塩化ビニル管(マンホール継手及びカラー)寸法表	
6	下水道用硬質塩化ビニル管(外副管用マンホール継手及び支管)寸法表	
7	下水道用硬質塩化ビニル管(内副管用マンホール継手)寸法表	
8	硬質塩化ビニル管(マンホール継手)寸法表	
9	下水道用硬質塩化ビニル管(LT管、DT管、曲管)寸法表	
10	下水道用硬質塩化ビニル管(支管)寸法表	
11	下水道用硬質塩化ビニル管(可変継手、ヤリトリ継手、オスキャップ、媒介継手、陶管継手)寸法表	
12	小口径管推進工法用塩化ビニル管寸法表	
13	下水道用強化プラスチック複合管寸法表	
14	遠心力鉄筋コンクリート管(B形)寸法表	
15	下水道推進工法用鉄筋コンクリート管(標準管)寸法表	
16	下水道推進工法用鉄筋コンクリート管(ゴム輪、クッション材の形状)寸法表	
17	下水道推進工法用鉄筋コンクリート管(中押管)寸法表	
18	下水道推進工法用鉄筋コンクリート管(中押管S)寸法表	
19	下水道推進工法用鉄筋コンクリート管(中押管T)寸法表	
20	下水道推進工法用鉄筋コンクリート管詳細寸法表	
21	小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管寸法表(1)	
22	小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管寸法表(2)	
23	小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管(ゴム輪、クッション材の形状)寸法表	
24	厚陶管(直管)及びA型圧縮ジョイント寸法表	
25	下水道用硬質塩化ビニル管(取付管用曲管)寸法表	
26	下水道用硬質塩化ビニル管(90° 自在支管)寸法表	

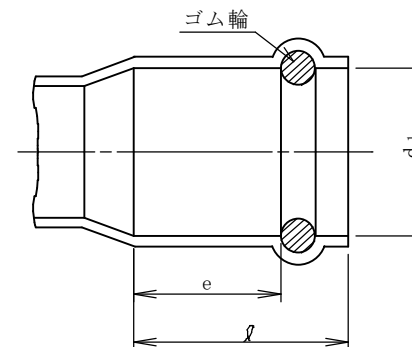
下水道用硬質塩化ビニル管寸法表

(直管呼び100~600)

直管部寸法



ゴム輪受口寸法



ゴム輪受口寸法

直管部寸法

呼び	外径 (mm)		管厚 (mm)		近似内径 d (mm)	長さ L (mm)	長さ L' (mm)	重量 (Kg/m)
	D	許容差	t	許容差				
100	114	± 0.4	3.1	+ 0.8	107	4000 ± 15	4145	1.737
150	165	± 0.5	5.1	+ 0.8	154	4000 ± 15	4165	3.941
200	216	± 0.7	6.5	+ 1.0	202	4000 ± 15	4150	6.572
250	267	± 0.9	7.8	+ 1.2	250	4000 ± 15	4170	9.758
300	318	± 1.0	9.2	+ 1.4	298	4000 ± 15	4190	13.701
350	370	± 1.2	10.5	+ 1.4	348	4000 ± 15	4215	18.051
400	420	± 1.3	11.8	+ 1.6	395	4000 ± 15	4280	23.059
450	470	± 1.5	13.2	+ 1.8	442	4000 ± 15	4310	28.875
500	520	± 1.6	14.6	+ 2.0	489	4000 ± 15	4330	35.346
600	630	± 3.2	17.8	+ 2.8	592	4000 ± 15	4385	52.679

呼び	受口内径 d1	接合長さ e	受口長さ l
	最小 (mm)	最小 (mm)	最大 (mm)
100	114.5	42	145
150	165.7	47	165
200	216.9	52	185
250	268.1	57	205
300	319.3	62	225
350	371.5	67	240
400	421.7	72	260
450	471.9	77	285
500	522.1	82	305
600	633.8	93	355

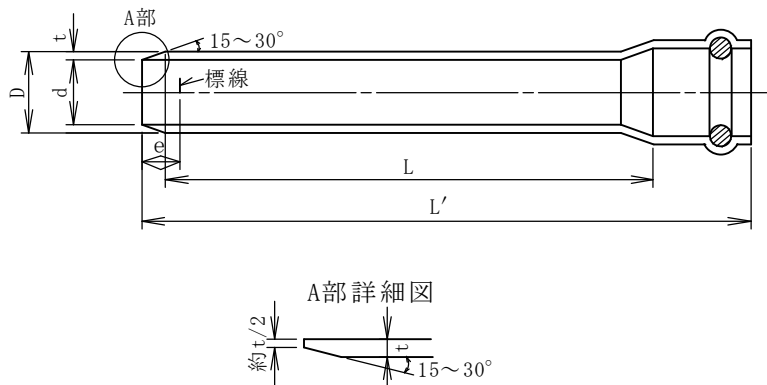
- (注) 1. 外径Dとは、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の外径測定値の平均値
 2. 表中1m当りの質量は、比重1.43で計算したものである。
 3. 上表は、JSWAS K-1による。
 4. 材料の品質形状については、JIS K6741とする。

- (注) 1. 波線で示す形状にすることもできる。
 2. ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状は規定しない。
 3. 受口内径 d1は、直角2方向以上の内径測定値の平均値とする。
 4. 上表は、JSWAS K-1による。

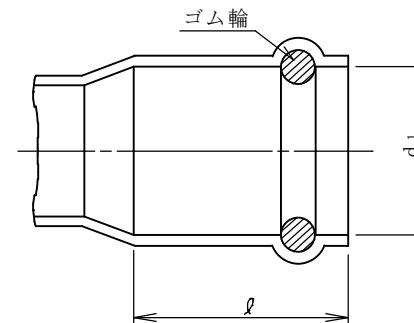
硬質塩化ビニル管寸法表

(直管呼び100~500)

直管部寸法



ゴム輪受口寸法



直管部寸法

単位(mm)

呼び径	外径 D	外径の許容差		厚さ		近似内径 d	有効長 L	長さ L'	重量 (Kg/本)
		最大 最小	平均	最小 t	許容差				
100	114	± 0.6	± 0.4	6.6	+ 1.0	100	5000	5143	18.0
150	165	± 1.0	± 0.5	8.9	+ 1.4	146	5000	5163	35.7
200	216	± 1.3	± 0.7	10.3	+ 1.4	194	5000	5191	54.0
250	267	± 1.6	± 0.9	12.7	+ 1.8	240	5000	5210	82.0
300	318	± 1.9	± 1.0	15.1	+ 2.2	286	5000	5230	116.8
350	370	—	± 1.2	14.3	+ 2.0	339	5000	5242	129.9
400	420	—	± 1.3	16.2	+ 2.2	385	5000	5255	166.8
450	470	—	± 1.5	18.1	+ 2.6	431	5000	5274	210.5
500	520	—	± 1.6	20.0	+ 2.8	477	5000	5287	257.9

- (注) 1. 最大・最小外径とは、任意箇所における外径測定値のうち最大値と最小値をいう。
 2. 平均外径とは、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の外径測定値の平均値
 3. 質量は参考であり、数値は比重1.43で計算したものである。
 4. 上表は、JIS K6741による。

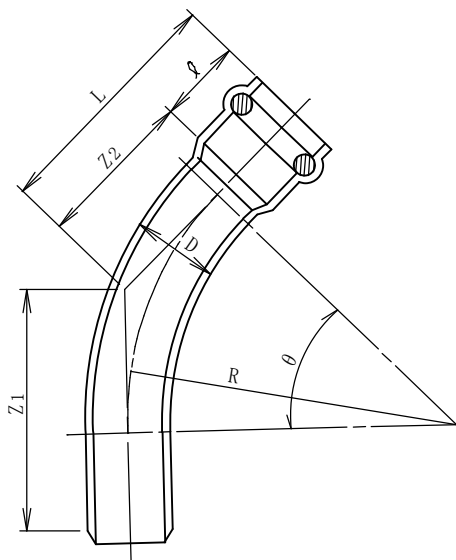
ゴム輪受口寸法 単位(mm)

呼び径	平均内径 d ₁ 最小値	有効挿入長さ e 最小値	受口長さ ℓ 最大値
100	115.3	132	130
150	166.6	152	145
200	218.0	180	170
250	269.3	199	185
300	320.7	219	200
350	373.0	231	215
400	423.4	244	225
450	473.7	263	240
500	524.1	276	250

- (注) 1. 平均内径とは、受口の任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の内径測定値の平均値をいう。
 2. 受口及びゴム輪の形状は、規定しない。
 3. 上表は、JIS K-6741による。

下水道用硬質塩化ビニル管(ベンド)寸法表

ゴム輪受口片受ベンド



単位(mm)

形状	呼び径	L	Z ₁	Z ₂
5 5/8° ベンド	150	306	300	150
	200	285	300	150
	250	355	400	200
	300	370	450	200
	350	560	515	425
	400	645	570	505
	450	674	620	525
	500	710	670	555
11 1/4° ベンド	150	306	300	150
	200	335	350	200
	250	405	450	250
	300	420	500	250
	350	605	585	470
	400	700	650	560
	450	744	710	595
	500	785	770	630
22 1/2° ベンド	150	356	350	200
	200	385	450	250
	250	505	550	350
	300	570	650	400
	350	745	725	610
	400	870	825	730
	500	934	905	785

単位(mm)

形状	呼び径	L	Z ₁	Z ₂
45° ベンド	150	456	450	300
	200	535	600	400
	250	705	750	550
	300	820	900	650
	350	1070	1025	935
	400	1265	1190	1125
	450	1369	1315	1220
	500	1480	1435	1325
90° ベンド	150	756	750	600
	200	935	1000	800
	250	1305	1350	1150
	300	1520	1600	1350
	350	1880	1845	1745
	400	2250	2185	2110
	450	2474	2425	2325
500	—	—	—	

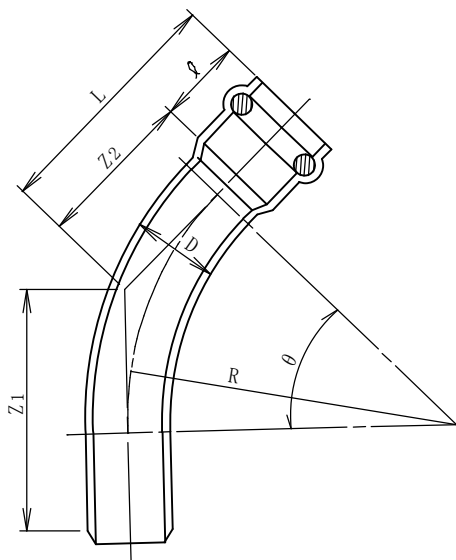
(参照) 単位(mm)

形状	呼び径	D	R	ℓ
各ベンド 共通	150	165	500	156
	200	216	700	135
	250	267	1000	155
	300	318	1200	170
	350	370	1400	135
	400	420	1700	140
	450	470	1700	149
	500	520	2100	155

- (注) 1. 使用原管はJIS K 6741 VU管である。
 2. Dの許容差±8%、Lの許容差±10%、Zの許容差±10%とする。
 3. 寸法については参考値である。

硬質塩化ビニル管(ベンド)寸法表

ゴム輪受口片受ベンド



単位 (mm)

形状	呼び径	L	Z ₁	Z ₂
5 5/8° ベンド	100	205	220	75
	150	245	262	100
	200	290	355	120
	250	325	400	140
	300	350	445	150
11 1/4° ベンド	100	220	235	90
	150	270	284	125
	200	320	385	150
	250	360	435	175
	300	395	485	195
22 1/2° ベンド	100	250	265	120
	150	315	330	170
	200	380	445	210
	250	430	505	245
	300	480	575	280

単位 (mm)

形状	呼び径	L	Z ₁	Z ₂
45° ベンド	100	315	329	185
	150	410	426	265
	200	510	575	340
	250	580	655	395
	300	660	755	460
	90° ベンド	100	490	505
90° ベンド	150	675	690	530
	200	860	925	690
	250	990	1065	805
	300	1160	1255	960

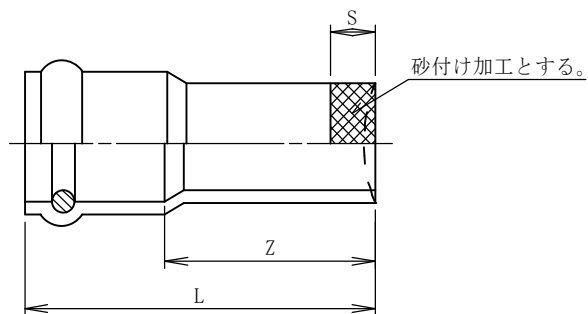
(参照) 単位 (mm)

形状	呼び径	D	R	ℓ
各ベンド 共通	100	114	300	130
	150	165	450	145
	200	216	600	170
	250	267	700	185
	300	318	850	200

- (注) 1. 使用原管はJIS K 6741 VP管である。
 2. Dの許容差±8%、Lの許容差±10%、Zの許容差±10%とする。
 3. 寸法については参考値である。

マンホール継手及びカラー(下水道用硬質塩化ビニル管)寸法表

上流用マンホール継手
(ゴム輪受口)

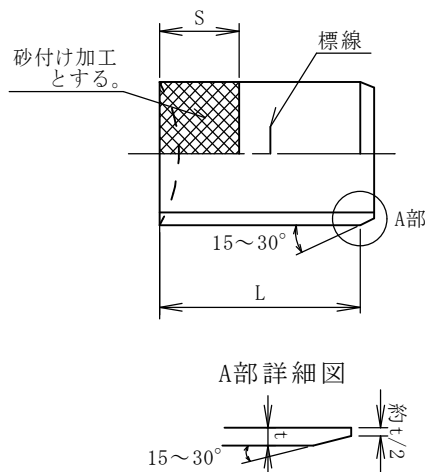


単位 (mm)

呼び径	L	Z	S
100	637	500 ± 15	200
125	645		
150	656		
200	635		250
250	655		
300	670		
350	695		
400	755		300
450	780		
500	800		350
600	845		

(注) 1. マンホールの内径に合わせて、破線で示す形状にすることもできる。
2. 受口は本管形とする。

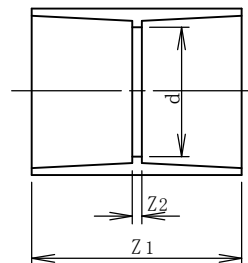
下流用マンホール継手



単位 (mm)

呼び径	L	S
100	500 ± 15	200
125		
150		
200		250
250		
300	1000 ± 15	300
350		
400		350
600		

接着受口カラー
(略号WTB)



単位 (mm)

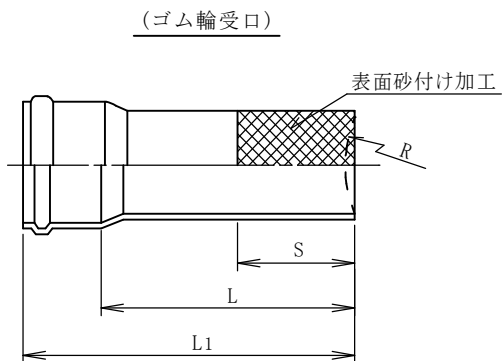
呼び径	Z ₁	Z ₂	d
75	84	4	83
100	105	5	107
125	135	5	131
150	165	5	154
200	235	5	202
250	276	5	250
300	307	5	298

(注) 1. Z₁の許容差は、呼び径75~150は±10mm、呼び径200~300は±20mmとする。
2. Z₂の許容差は、±2mmとする。

(注) 1. マンホールの内径に合わせて、破線で示す形状にすることもできる。

下水道用硬質塩化ビニル管(外副管用マンホール継手及び支管)寸法表

副管用マンホール継手

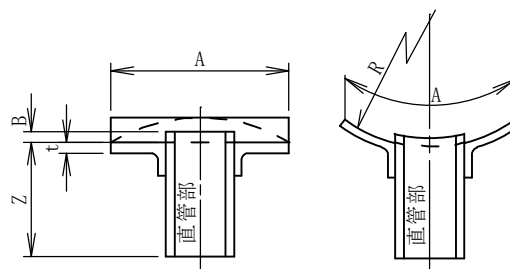


単位 (mm)

呼び径	L	L1	S
150	1000 ± 15	1156	200
200		1135	250
250		1155	
300		1170	
350		1195	
400		1255	300
450	1280		
500	1300		
600	1345	350	

- (注) 1. マンホールの内径に合わせて、破線で示す形状にすることもできる。
 2. 受口は本管形とする。

副管用90°支管

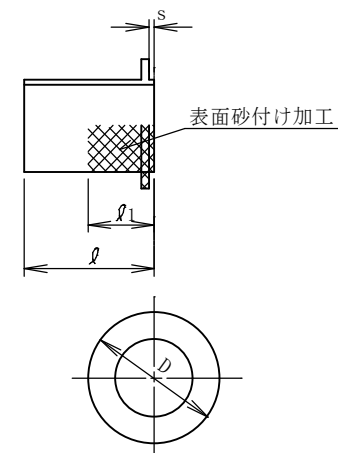


単位 (mm)

呼び径	Z	t (最小)	A (最小)	B (最大)	R
200×150	140	4	300	6.5	108.0
250×150	140	4	300	7.8	133.5
250×200	160	4	300	9.2	159.0
300×150	140	4	300	10.5	185.0
300×200	160	4	300	11.8	210.0
350×150	140	4	300	13.2	235.0
350×200	160	4	300		
400×200	160	4	300		
400×250	200	4	300		
450×200	160	4	300		
450×250	200	4	300		

- (注) 1. Zの許容差は±10mmとする。
 2. Rは標準値を示す。
 3. 直管部の寸法は別図、直管部寸法(共通)による。
 4. 波線で示す形状にすることもできる。
 5. 上表は、JSWAS K-1による。

陶管継手(枝付管用支管)副管用 — [鹿児島市型]

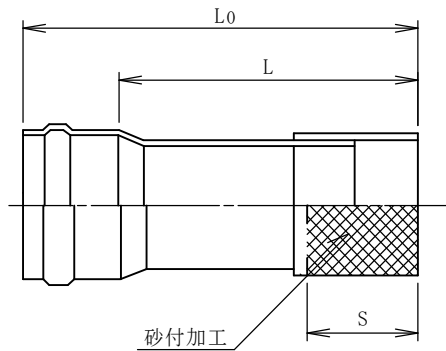


単位 (mm)

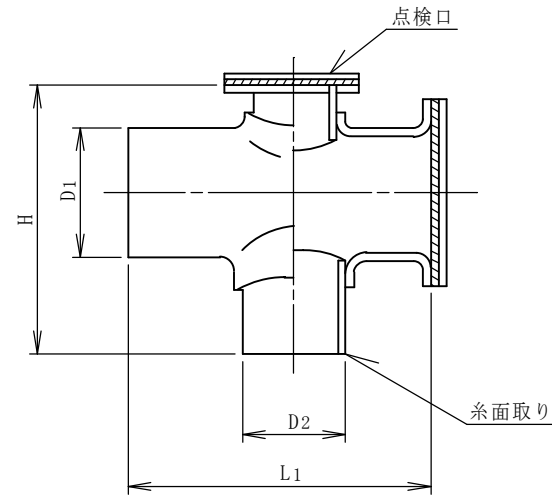
呼び径	D	l1	l	s
150	202	80	212	4
200	262	80	280	4

下水道用硬質塩化ビニル管(内副管用マンホール継手)寸法表

副管用マンホール継手



内副管用十字管



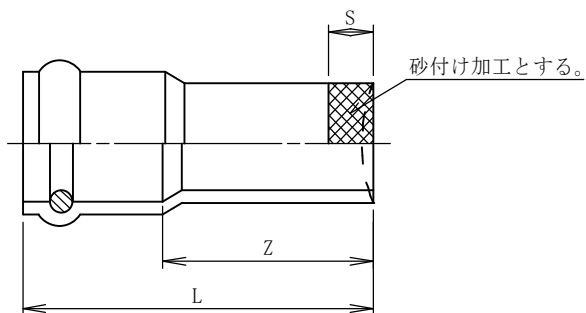
単位 (mm)

マンホール継手				十字管				
管径	L ₀	L	S	管径	L ₁	H	D ₁	D ₂
150	656	500	200	150×150	395	365	165	165
200	635	500	250	200×150	430	416	216	165
				200×200	480	436	216	216
250	655	500	250	250×200	505	487	267	216
				250×250	555	522	267	267

(注) 1. 内副管用十字管については参考図とする。

マンホール継手(硬質塩化ビニル管)寸法表

上流用マンホール継手
(ゴム輪受口)

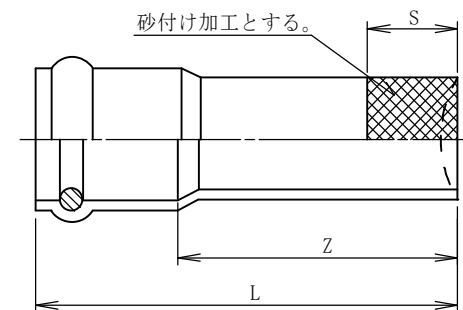


単位 (mm)

呼び径	Z	L	S
100	500 ± 15	637	200
125		645	
150		656	
200		635	250
250		655	
300		670	
350	695	300	
400	755		
450	780		
500	800		

- (注) 1. マンホールの内径に合わせて、破線で示す形状にすることもできる。
2. ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状は規定しない。

副管用マンホール継手
(ゴム輪受口)

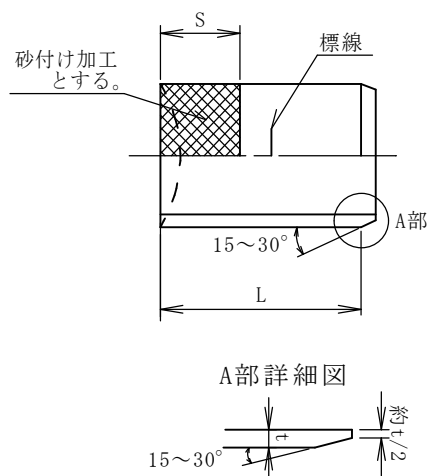


単位 (mm)

呼び径	Z	L	S
150	1000 ± 15	1145	200
200		1170	
250		1185	
300		1200	250
350		1215	
400		1225	
450	1240	300	
500	1250		

- (注) 1. マンホールの内径に合わせて、破線で示す形状にすることもできる。
2. ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状は規定しない。

下流用マンホール継手

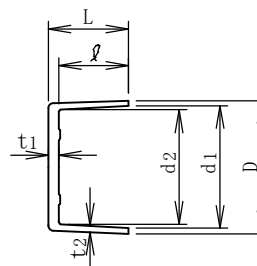


単位 (mm)

呼び径	L	S
100	500 ± 15	200
125		
150		
200		250
250		
300		
350	1000 ± 15	300
400		
450		
500		

- (注) 1. マンホールの内径に合わせて、破線で示す形状にすることもできる。

キャップ



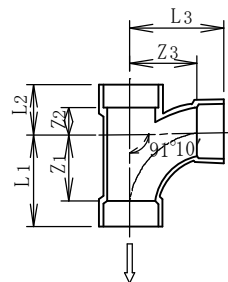
単位 (mm)

呼び径	d1	公差	d2	公差	l	公差	D	L	t1	t2
100	114.55	0.30	113.55	±0.30	50	±1.0	122.625	54.20	4.50	4.10
150	165.85	0.40	164.25	±0.40	80		176.000	85.20	5.44	5.44

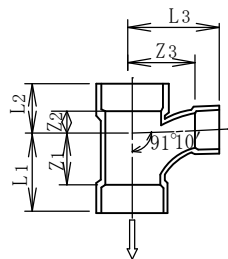
- (注) l、d1、d2、l は基本寸法を示す。

下水道用硬質塩化ビニル管 (LT管、DT管、曲管) 寸法表

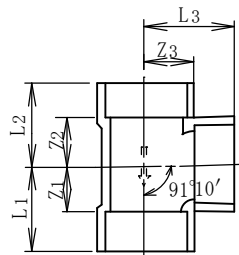
90°大曲がりY (LT)



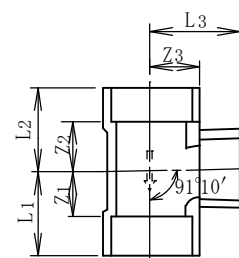
径違い90°大曲がりY (LT)



90°曲がりY (DT)



径違い90°曲がりY (DT)



単位 (mm)

呼び径	Z ₁	Z ₂	Z ₃	L ₁	L ₂	L ₃
100	128	45	128	178	95	178
※150	170	65	170	252	147	252

- (注) 1. Z₁、Z₂、Z₃の許容差は±2mmとする。
 2. 流れ角度91° 10' の許容差は±30' とする。
 3. L₁、L₂、L₃は標準寸法を示す。
 4. 上表は、JIS K6739による。
 ただし、※印はメーカー規格

単位 (mm)

呼び径	Z ₁	Z ₂	Z ₃	L ₁	L ₂	L ₃
150×100	128	53	152	208	133	202

- (注) 1. Z₁、Z₂、Z₃の許容差は±2mmとする。
 2. 流れ角度91° 10' の許容差は±30' とする。
 3. L₁、L₂、L₃は標準寸法を示す。
 4. 上表は、JIS K6739による。

単位 (mm)

呼び径	Z ₁	Z ₂	Z ₃	L ₁	L ₂	L ₃
150	88	88	88	167	167	167
200	115	115	115	225	225	225
250	150	150	150	280	280	280

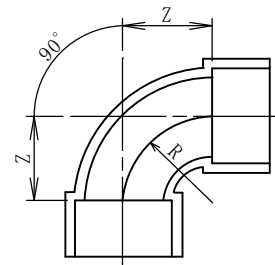
- (注) 1. Z₁、Z₂、Z₃の許容差は±2mmとする。
 2. 流れ角度91° 10' の許容差は±30' とする。
 3. 流れ方向を示す矢印を図のように外側に突き出しにする。
 4. L₁、L₂、L₃は標準寸法を示す。

単位 (mm)

呼び径	Z ₁	Z ₂	Z ₃	L ₁	L ₂	L ₃
150×100	62	62	89	142	140	140
200×150	88	88	118	198	198	198
150×100	86	94	145	217	225	209
250×200	114	114	140	244	244	240

- (注) 1. Z₁、Z₂、Z₃の許容差は±2mmとする。
 2. 流れ角度91° 10' の許容差は±30' とする。
 3. 流れ方向を示す矢印を図のように外側に突き出しにする。
 4. L₁、L₂、L₃は標準寸法を示す。

90°曲管 (副管および排水設備用)

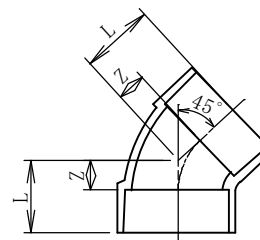


単位 (mm)

呼び径	Z	R
100	128	128
150	170	170
200	196	196
250	225	225
300	250	250

- (注) 1. Zの許容差は±15mmとする。
 2. 上表は、JSWAS K-1による。

45°曲管

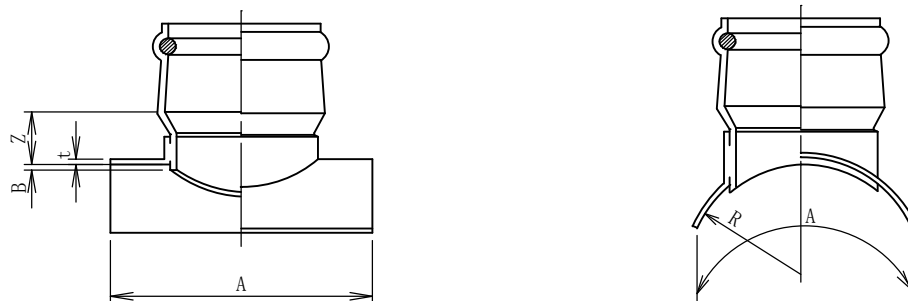


単位 (mm)

呼び径	Z	L
150	44	124
※200	54	164
※250	68	196

- (注) 1. Zの許容差は±2mmとする。
 2. Lは標準寸法を示す。
 3. 上表は、JIS K6739による。
 ただし、※印はメーカー規格

下水道用硬質塩化ビニル管(支管)寸法表



硬質塩化ビニル管用支管(取付管用)

単位(mm)

呼び径	Z	t (最小)	A (最小)	B (最大)	R	呼び径	Z	t (最小)	A (最小)	B (最大)	R
150-100	45	4	230	5.1	82.5	400-100	45	4	300	11.8	210
200-100	45	4	300	6.5	108	400-150	50				
200-150	50					400-200	50				
250-100	45	4	300	7.8	133.5	450-100	45	4	300	13.2	235
250-150	50					450-150	50				
250-200	50					450-200	50				
300-100	45	4	300	9.2	159	500-100	45	4	300	14.6	260
300-150	50					500-150	50				
300-200	50					500-200	50				
350-100	45	4	300	10.5	185	600-100	45	4	300	17.8	315
350-150	50					600-150	50				
350-200	50					600-200	50				

鉄筋コンクリート管・陶管用支管(取付管用)

単位(mm)

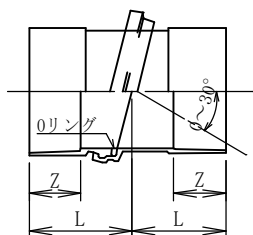
呼び径	Z	t	A	B	R
150-100	45	5	225	20	101
200-100	45	5	225	20	127
200-150	50		275		
250-100	45	5	225	20	153
250-150	50		275		
300-100	45	5	225	20	180
300-150	50		275		

(注) 1. Zの許容差は±15mmとする。

- (注) 1. Zの許容差は±15mmとする。
 2. Rは標準値を示す。
 3. 波線で示す形状にすることもできる。
 5. 上表は、JSWAS K-1による。

下水道用硬質塩化ビニル管(可変継手、ヤリトリ継手、オスキャップ、媒介継手、陶管用継手)寸法表

可変継手(0~30°)

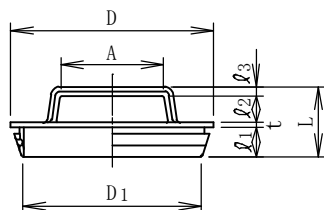


単位(mm)

呼び径	Z	L
100	50	95
150	80	132.5

(注) 1. 上記寸法は、参考値である。

オスキャップ(止水形：VU)

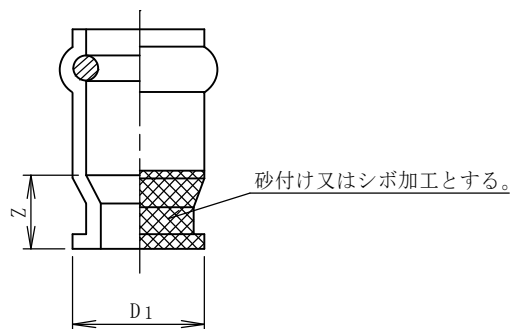


単位(mm)

呼び径	D	D1	L	l1	l2	l3	t	A
150	165	151	70	25	30	10	5	97
200	216	196						110
300	318	292						110

(注) 1. 上記寸法は、参考値である。

陶管用継手

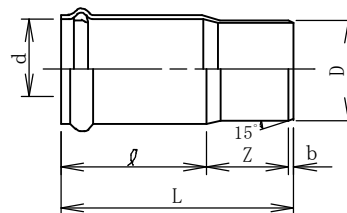


単位(mm)

呼び径	D1	Z
100	138	70
125	168	70
150	198	80
200	248	80

(注) 1. D1の許容差は±5mmとする。
 2. Zの許容差は±15mmとする。
 3. 受口は、取付け管形とする。
 4. 上記寸法は、参考値である。

ヤリトリ継手

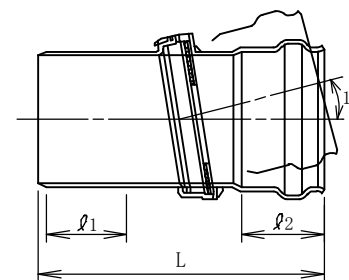


単位(mm)

呼び径	d	D	l	Z±10	L	b
100	115.5	114	209	125	340	6
150	166.5	165	270	155	435	10
200	218.6	216	308	180	500	12

(注) 1. 上記寸法は、参考値である。

可変継手(0~15°)本管用

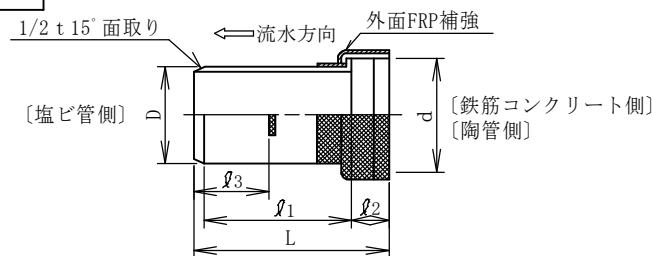


単位(mm)

呼び径	L	l1	l2
150	476.2	156	156
200	449.0	130	135
250	550.6	150	155

(注) 1. 上記寸法は、参考値である。

媒介継手



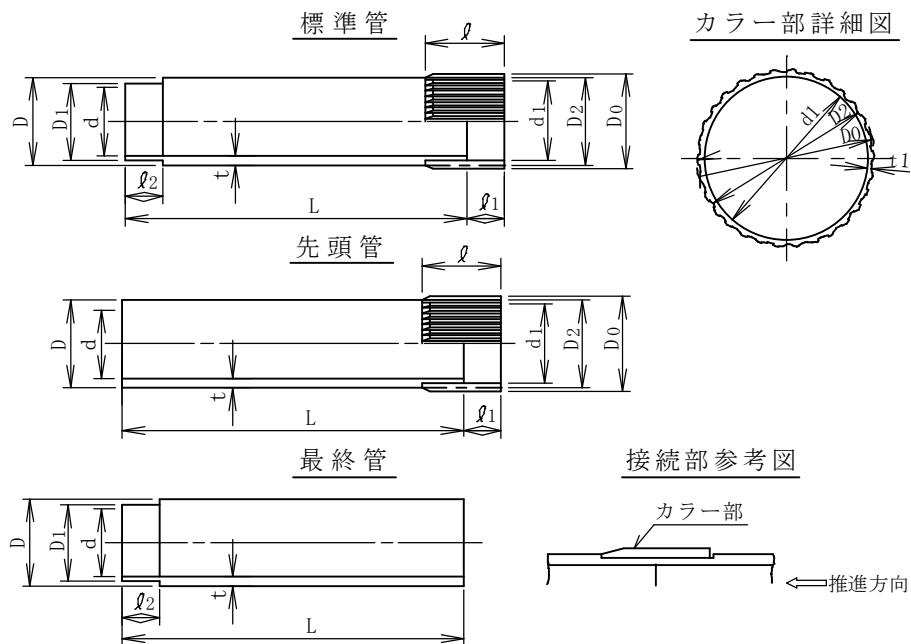
単位(mm)

呼び径	L	l1	l2	l3	D	d
150	361	250	100	157	165	206
200	414	300	100	139	216	258
250	417	300	100	160	267	310
300	445	325	100	180	318	364

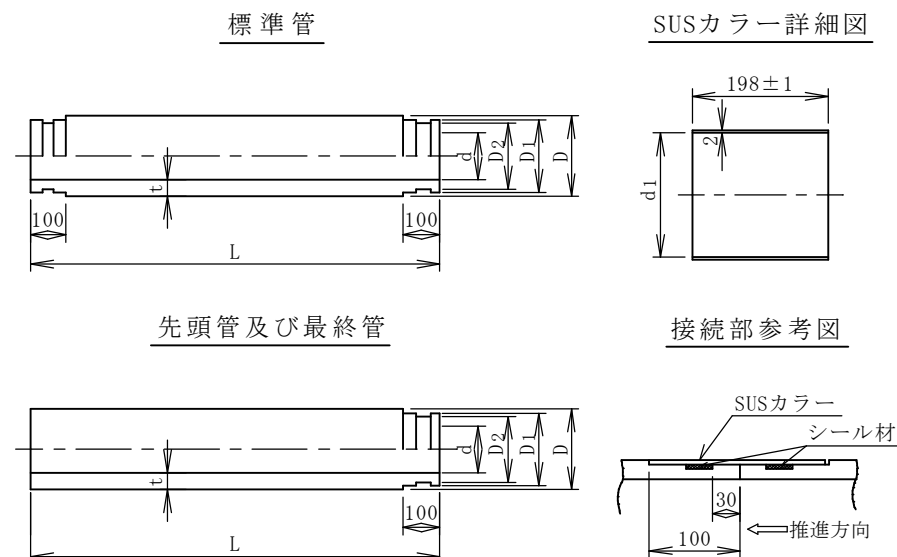
(注) 1. 使用原管は、JISK6741(硬質塩化ビニル管)のVU管とします。
 2. 流水の方向は、塩ビ管から鉄筋コンクリート管とします。
 3. 上記寸法は、参考値である。

小口径管推進工法用塩化ビニル管寸法表

接着形リブカラー付直管VU(略号STRS)



ゴム輪形SUSカラー付直管VP(略号SUSR)



単位 (mm)

呼び径	D	D1	D0 (参考)	D2 (参考)	d1	d (参考)	ℓ (参考)	ℓ1	ℓ2	t	t1 (最小)	L
150	165±0.5	161±0.5	171.0	167	162.1±0.5	154	160	79.0 ⁰ _{-3.5}	81.0 ^{+3.5} ₀	5.1 ^{+0.8} ₀	2.0	1000±3
200	216±0.7	210±0.7	222.0	218	211.4±0.6	202	230	114.0 ⁰ _{-3.5}	116.0 ^{+3.5} ₀	6.5 ^{+1.0} ₀	3.0	1000±3
250	267±0.9	261±0.9	273.4	269	262.6±0.6	250	280	139.0 ⁰ _{-3.5}	141.0 ^{+3.5} ₀	7.8 ^{+1.2} ₀	3.0	
300	318±1.0	310±1.0	326.0	319	311.8±0.7	298	330	164.0 ⁰ _{-3.5}	166.0 ^{+3.5} ₀	9.2 ^{+1.4} ₀	3.5	
350	370±1.2	362±1.0	379.0	372	364.0±0.7	348	400	198.5 ⁰ _{-3.5}	201.5 ^{+3.5} ₀	10.5 ^{+1.4} ₀	3.5	2000±5
400	420±1.3	410±1.1	430.0	422	412.2±0.8	395	440	218.5 ⁰ _{-3.5}	221.5 ^{+3.5} ₀	11.8 ^{+1.6} ₀	4.5	
450	470±1.5	458±1.3	480.0	472	460.6±0.9	442	500	248.5 ⁰ _{-3.5}	251.5 ^{+3.5} ₀	13.2 ^{+1.8} ₀	5.0	

- (注) 1. D、D1及びd1は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の直径測定値の平均値又は円周測定値を円周率3.142で除した値をいう。
 2. 先頭管とは先導体に接続する管で、最終管とは推進時の最後に使用する管である。また、標準管とはその間の推進時に使用する管をいう。
 3. 差し口先端部は、糸面取りとする。

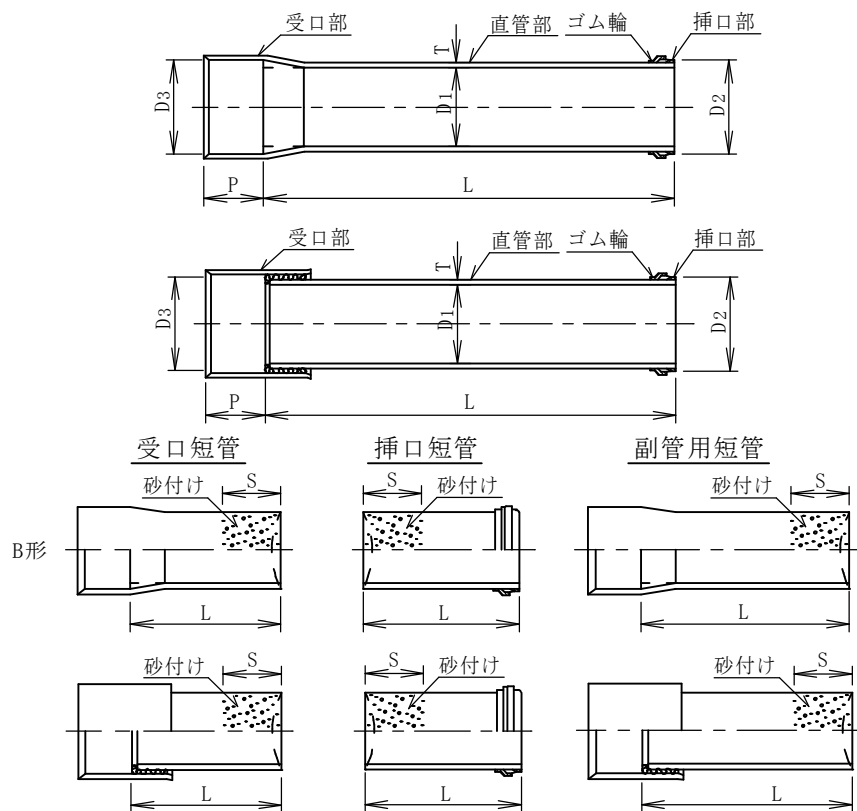
単位 (mm)

呼び径	D	D1	D2	d (参考)	d1	t	L
150	165±0.5	160 ^{+0.6} _{-0.3}	154 ^{+0.6} _{-0.3}	146	161.3±0.5	8.9 ^{+1.4} ₀	1000±3
200	216±0.7	211 ^{+0.6} _{-0.3}	205 ^{+0.6} _{-0.3}	194	212.3±0.5	10.3 ^{+1.4} ₀	1000±3
250	267±0.9	262 ^{+0.6} _{-0.3}	256 ^{+0.6} _{-0.3}	240	263.3±0.5	12.7 ^{+1.8} ₀	
300	318±1.0	313 ^{+0.6} _{-0.3}	307 ^{+0.6} _{-0.3}	286	314.3±0.5	15.1 ^{+2.2} ₀	
350	370±1.2	365 ^{+1.0} _{-0.5}	359 ^{+1.0} _{-0.5}	339	366.7±0.5	14.3 ^{+2.0} ₀	2000±5
400	420±1.3	415 ^{+1.0} _{-0.5}	409 ^{+1.0} _{-0.5}	385	416.7±0.5	16.2 ^{+2.2} ₀	
450	470±1.5	465 ^{+1.0} _{-0.5}	459 ^{+1.0} _{-0.5}	431	466.7±0.5	18.1 ^{+2.6} ₀	

- (注) 1. D、D1及びd1は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の直径測定値の平均値又は円周測定値を円周率3.142で除した値をいう。
 2. 先頭管とは先導体に接続する管で、最終管とは推進時の最後に使用する管である。また、標準管とはその間の推進時に使用する管をいう。
 3. 差し口先端部は、糸面取りとする。

下水道用強化プラスチック複合管寸法表

直管 (B形)



単位 (mm)

呼び径	受口短管		挿口短管		副管用短管	
	有効長 (標準) L	砂付け長さ (参考) S	有効長 (標準) L	砂付け長さ (参考) S	有効長 (標準) L	砂付け長さ (参考) S
200~350	500	250	500	250	1000	250
400~700	750	300	750	300	1250	300
800~1350	1000	400	1000	400	1500	400
1500~2000	1500	600	1500	600	2000	600
2200~3000	2000	800	2000	800	—	—

(注) 厚さ(T)、内径(D1)、挿口部外径(D2)、受口部内径(D3)、及び受口部長さ(P)は、直管の同じ呼び径の寸法とする。
また、破線で示す形状であってもよい。

単位(mm)

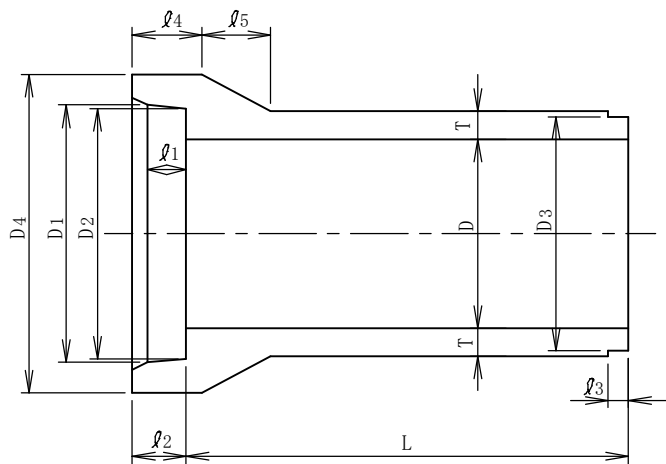
呼び径	厚さ		有効長		内径		挿口部 外径		受口部			
	T	許容差	L	許容差	D1	許容差	D2	許容差	内径		長さ	
									D3	許容差	P	許容差
200	7.0				200		229		230.5		140	
250	7.5				250		280		281.5			
300	8.0	+3			300	±1.5	331	±1.0	332.5	±1.0	150	±5
350	8.5	-0			350		382		383.5			
400	9.0				400		434		435.5		160	
450	9.5				450		485		486.5			
500	10.0				500		541		542.5			
600	12.0				600		645		646.5		200	
700	14.0				700		749		750.5			
800	16.0				800		856		857.5			
900	18.0	+5	4000	+30	900		960	±1.5	961.5	±1.5		
1000	20.0	-0		-10	1000		1068		1069.5		220	
1100	22.0				1100		1172		1173.5			
1200	24.0				1200		1276		1277.5			
1350	27.0				1350		1432		1433.5			
1500	30.0				1500	±3.0	1588		1589.5		250	±10
1650	33.0				1650		1748		1749.5		300	
1800	36.0				1800		1904		1905.5			
2000	40.0				2000		2112		2113.5			
2200	44.0	+7			2200		2320	±2.0	2321.5	±2.0		
2400	48.0	-0			2400		2532		2533.5		400	
2600	52.0				2600		2740		2741.5			
2800	56.0				2800		2948		2949.5			
3000	60.0				3000		3156		3157.5		430	

- (注) 1. 破線で示す形状であってもよい。
 2. 有効長(L)は、4000mm以下の他の長さとする事ができる。
 3. 内径(D1)及び受口部内径(D3)は、任意箇所における相互に等間隔な、2方向以上の内径測定値の算術平均値とする。
 4. 挿口部外径(D2)は、任意箇所における相互に等間隔な、2方向以上の外径測定値の算術平均値あるいは円周長を円周率3.1416で除した値とする。

遠心力鉄筋コンクリート管(B形)寸法表

単位(mm)

呼び径	内径 D	D ₁	D ₂	D ₃	D ₄	厚さ T	ℓ ₁	ℓ ₂	ℓ ₃	ℓ ₄	ℓ ₅	有効長 L	参考重量 (kg)
150	150	210	206	194	262	26	65	90	32	115	50	2000	77
200	200	262	258	246	316	27	65	90	32	115	55	2000	103
250	250	314	310	298	370	28	65	90	32	120	60	2000	131
300	300	368	364	350	424	30	65	90	36	120	60	2000	165
350	350	422	418	404	482	32	65	90	36	120	65	2000	204
400	400	478	474	460	544	35	70	95	36	125	70	2430	306
450	450	534	530	516	606	38	70	95	36	125	75	2430	373
500	500	592	588	574	672	42	70	95	36	130	85	2430	459
600	600	708	704	690	804	50	75	100	36	135	100	2430	660
700	700	824	820	802	936	58	75	105	40	140	115	2430	899
800	800	940	936	918	1068	66	80	110	40	150	130	2430	1170
900	900	1058	1054	1036	1204	75	85	115	40	160	150	2430	1520
1000	1000	1172	1168	1150	1332	82	96	120	40	165	165	2430	1850
1100	1100	1286	1282	1260	1458	88	100	125	42	175	175	2430	2190
1200	1200	1400	1396	1374	1586	95	104	130	42	185	190	2430	2600
1350	1350	1566	1562	1540	1768	103	108	135	42	195	205	2430	3190



(注) 1. 呼び径150～350の管の有効長は1000m/m
 呼び径400～1350の管の有効長は1200m/mとすることができる。

※ 参考

下水道用鉄筋コンクリート管の種類

単位(mm)

外圧強さ	呼び径		
	B形	C形	NC形
1種	150～1350	1500～3000	1500～3000
2種	150～1350	1500～3000	1500～3000
3種	—	—	1500～3000

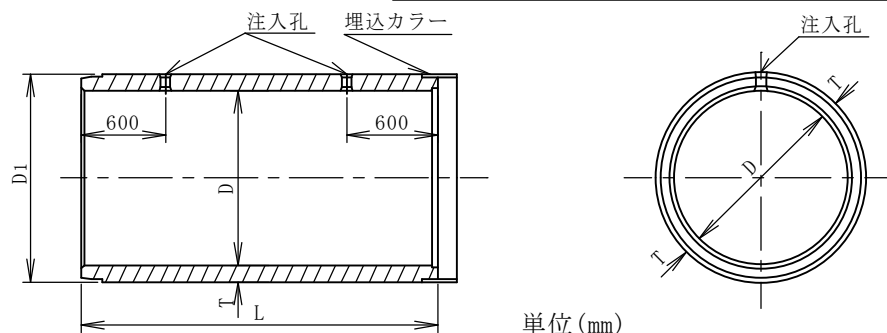
寸法の許容差 B形

単位(mm)

呼び径	内径 D	D ₁	D ₃	厚さ T	ℓ ₂	ℓ ₃	有効長 L
150～250	±3	±2	±2	+3 -2	±5	±4	+10 -5
300～600	±4			+4 -2			
700～900		+3	±5				
1000～1350	±6	-2		+6 -3			

(注) 1. 上表は、JIS A5303による。

下水道推進工法用鉄筋コンクリート管(標準管)寸法表



呼び径	内径 D	D ₁	πD ₁	厚さ T	有効長 L
800	800±4	933 ⁺³ ₋₂	2931±3	80 ⁺⁴ ₋₂	2430 ⁺¹⁰ ₋₅
900	900±6	1053 ⁺³ ₋₂	3308±3	90 ⁺⁶ ₋₃	
1000	1000±6	1173 ⁺³ ₋₂	3685±3	100 ⁺⁶ ₋₃	
1100	1100±6	1283 ⁺³ ₋₂	4031±3	105 ⁺⁶ ₋₃	
1200	1200±6	1403 ⁺³ ₋₂	4408±3	115 ⁺⁶ ₋₃	
1350	1350±8	1563 ⁺⁴ ₋₃	4910±6	125 ⁺⁸ ₋₄	
1500	1500±8	1743 ⁺⁴ ₋₃	5476±6	140 ⁺⁸ ₋₄	
1650	1650±8	1913 ⁺⁴ ₋₃	6010±6	150 ⁺⁸ ₋₄	
1800	1800±10	2083 ⁺⁴ ₋₃	6544±6	160 ⁺¹⁰ ₋₅	
2000	2000±10	2313 ⁺⁴ ₋₃	7267±6	175 ⁺¹⁰ ₋₅	
2200	2200±10	2543 ⁺⁴ ₋₃	7989±6	190 ⁺¹⁰ ₋₅	
2400	2400±12	2763 ⁺⁵ ₋₃	8680±9	205 ⁺¹² ₋₆	
2600	2600±12	2993 ⁺⁵ ₋₃	9403±9	220 ⁺¹² ₋₆	
2800	2800±12	3223 ⁺⁵ ₋₃	10125±9	235 ⁺¹² ₋₆	
3000	3000±12	3453 ⁺⁵ ₋₃	10848±9	250 ⁺¹² ₋₆	

- (注) 1. 標準管の有効長は、2430⁺¹⁰₋₅とすることができる。
 2. 標準管の形状は、カラーなしとすることができる。ただし、有効長は2430⁺¹⁰₋₂₀、1200⁺¹⁰₋₂₀とする。
 3. 有効長の最大と最小との差は3mm以内とする。
 4. 呼び径1000以上の標準管には、緊結用埋込みナットを付けることができる。
 5. 注入孔の数及び位置は必要に応じて変更することができる。
 6. 上表は、JSWAS A-2による。

管の種類

		種類		呼び径の範囲
		種類	種類の記号	
標準管		1種-500	E1-5	800~3000
		1種-700	E1-7	
		2種-500	E2-5	
中押管		S		1000~3000
	T	1種-500	ET1-5	
		2種-500	ET2-5	

(注) 1. 中押管はSとTを1組として使用する。

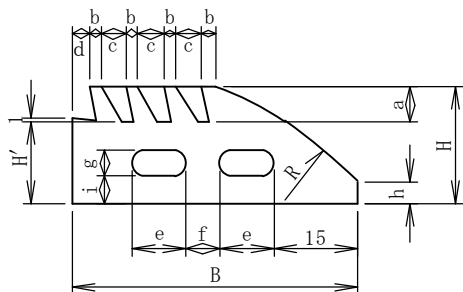
管の外圧強さ

(単位: kgf/m {kN/m})

呼び径	ひび割れ荷重		破壊荷重	
	1種	2種	1種	2種
800	3600 {35.30}	7200 {70.61}	5900 {57.86}	10800 {105.91}
900	3900 {38.25}	7800 {76.49}	6600 {64.72}	11700 {114.74}
1000	4200 {41.19}	8400 {82.38}	7300 {71.59}	12600 {123.56}
1100	4350 {42.68}	8700 {85.32}	8000 {78.45}	13000 {127.49}
1200	4500 {44.13}	9000 {88.26}	8800 {86.30}	13500 {132.39}
1350	4800 {47.07}	9600 {94.14}	10000 {98.07}	14400 {141.22}
1500	5100 {50.01}	10200 {100.03}	11200 {109.83}	15300 {150.04}
1650	5400 {52.96}	10800 {105.91}	12400 {121.60}	16200 {158.87}
1800	5700 {55.90}	11400 {111.80}	13600 {133.37}	17100 {167.69}
2000	6000 {58.84}	12000 {117.68}	14400 {141.22}	18000 {176.52}
2200	6300 {61.78}	12600 {123.56}	15100 {148.08}	18900 {185.35}
2400	6600 {64.72}	13200 {129.45}	15800 {154.95}	19800 {194.17}
2600	6900 {67.67}	13800 {135.33}	16600 {162.79}	20700 {203.00}
2800	7200 {70.61}	14400 {141.22}	17300 {169.66}	21600 {211.82}
3000	7500 {73.55}	15000 {147.10}	18000 {176.52}	22500 {220.65}

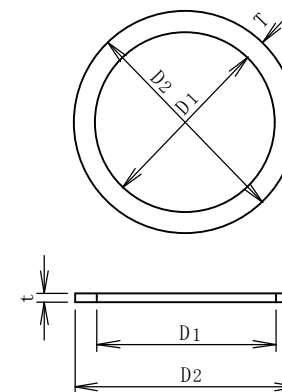
- (注) 1. ひび割れ荷重とは、管に幅0.5mmのひび割れを生じたときの試験機が示す荷重を有効長(L)で除した値をいい、破壊荷重とは、試験機が示す最大荷重を有効長(L)で除した値をいう。
 2. 中押し管についてはTのみ、ひび割れ荷重を適用する。

下水道推進工法用鉄筋コンクリート管(ゴム輪、クッション材の形状)寸法表



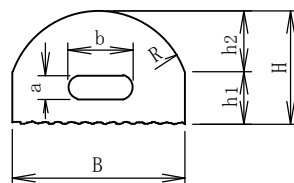
単位 (mm)

呼び径	B	H	H'	h	a	b	c	d	e	f	g	i	R	長さ L
800~1000	50	15	10	2	5	2	4	3	10	5	4	3	80	ゴム輪装着 部周長の 85%
1350~2200		20	14	3	6		4.5							
2400~3000	60	23.5	16.5	5	7	2.5	5	3.5	12	8	5	5	100	



単位 (mm)

呼び径	内径 D1	外径 D2	幅 T
800	830	944	57
900	930	1064	67
1000	1030	1184	77
1100	1130	1294	82
1200	1230	1414	92
1350	1380	1578	99
1500	1530	1758	114
1650	1680	1928	124
1800	1830	2098	134
2000	2030	2328	149
2200	2230	2558	164
2400	2430	2780	175
2600	2630	3010	190
2800	2830	3240	205
3000	3030	3470	220



単位 (mm)

呼び径	B	H	h1	h2	a	b	R	長さ L
1000~1200	26	13	6	7	3	9	15	ゴム輪装着 部周長の 90%
1350~2200	30	19	9	10	4	11	16	
2400~3000	34	22.5	11.5	11	4.5	12	18	

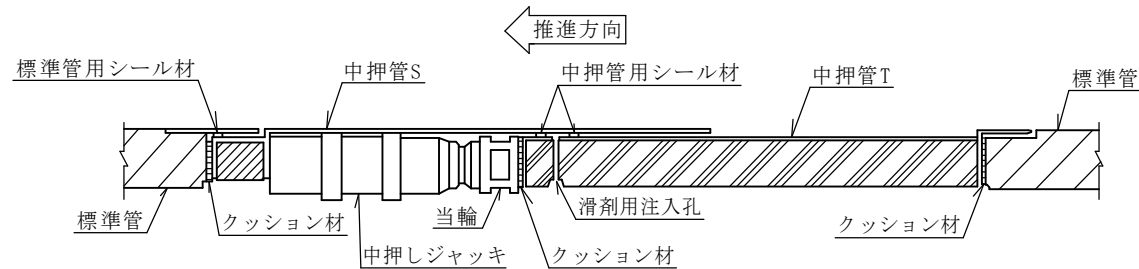
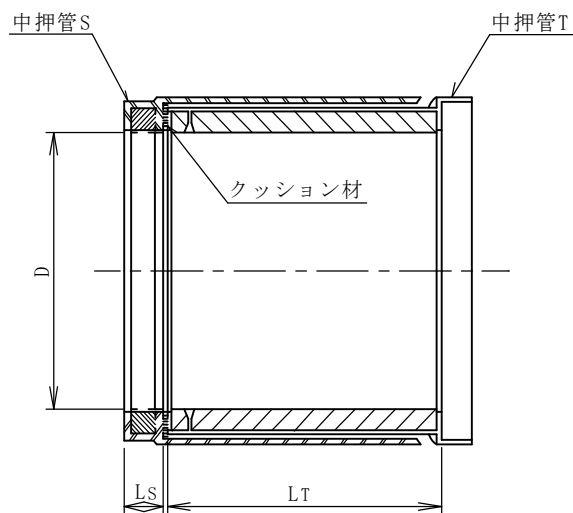
単位 (mm)

種類	呼び径	B	H	L (%)
標準管用	800~3000	±2.0	±0.5	±1.0
中押管用	1000~3000	±1.0		

※ゴム輪、クッション材の形状及び寸法については、JSWAS A-2(参考資料)による。

(注) 1. クッション材の厚さ(t)は8~12mmが一般的である。なお、作業性、経済性を考慮し、円周方向に適当な数に分割してもよい。

下水道推進工法用鉄筋コンクリート管(中押管)寸法表



中押管の長さ(1組) 単位(mm)

呼び径	中押管Sの有効長LS	中押管Tの有効長LT	中押管の長さ
1000	150	1150	1310
1100			1315
1200			1365
1350	155	1200	1370
1500			1440
1650			1440
1800	160	1250	1440
2000			1440
2200			1440
2400			1440
2600			1440
2800	180	1250	1440
3000			1440

中押ジャッキの諸元及び当輪の厚さ

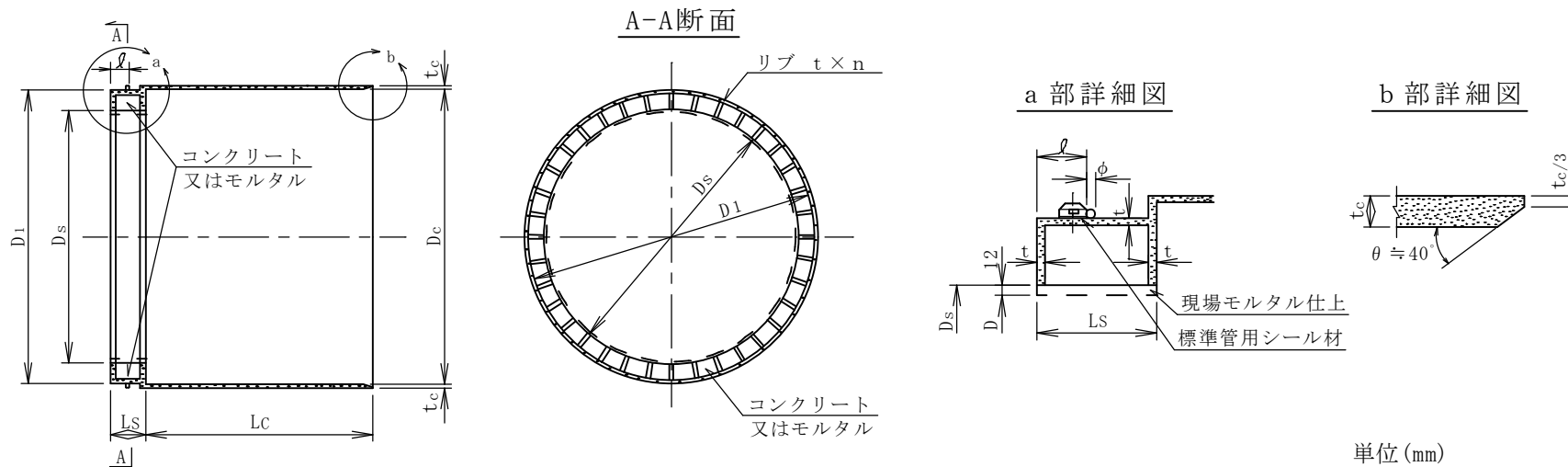
単位(mm)

呼び径	ジャッキ			当輪の厚さ
	推力(t)	ストローク	外径	
1000~1200	30	300	135	70
1350~2200	50		165	82
2400~3000	100		225	94

(注) 1. ジャッキの寸法は、メーカーによって多少異なるので、最大のものを示す。

(注) 1. 中押管の長さにはクッション材の厚さ(10mm)を考慮している。

下水道推進工法用鉄筋コンクリート管(中押管S)寸法表

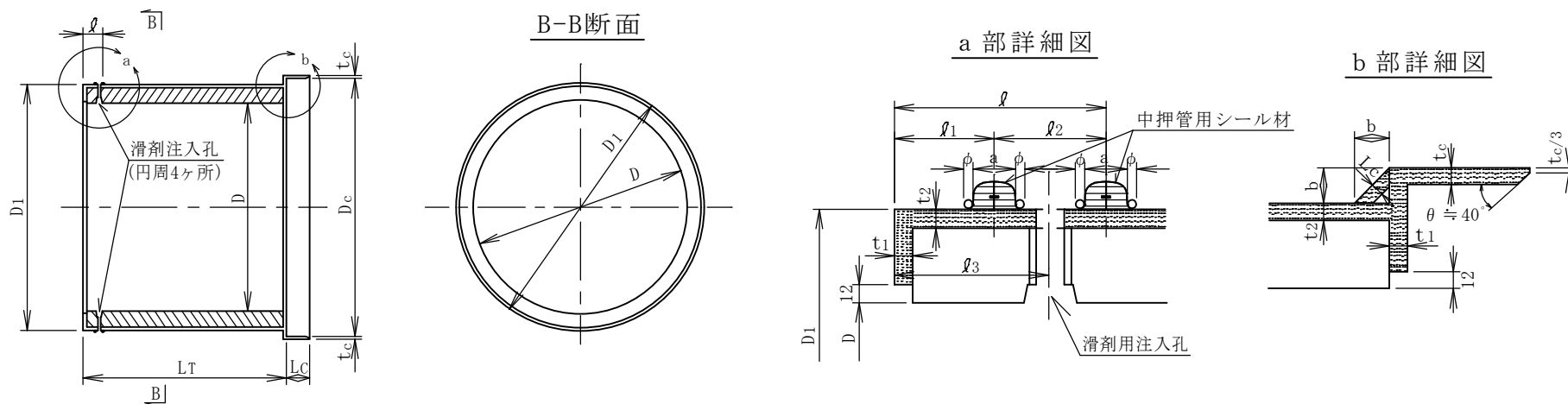


単位 (mm)

呼び径	内径 D	D _s	D ₁	$\pi \times D_1$	D _c	$\pi(D_c+2t_c)$	有効長 L _s	L _c	ℓ	t _c	t	ϕ	リブ n (枚)	
1000	1000	1024	1173 ⁺³ ₋₂	3685 ± 3	1182	3770 ± 3	150 ± 2	1100 ⁺⁵ ₋₃	60	9	16	6	28	
1100	1100	1124	1283 ⁺³ ₋₂	4031 ± 3	1292	4115 ± 3								
1200	1200	1224	1403 ⁺³ ₋₂	4408 ± 3	1406	4492 ± 3	155 ± 2	1150 ⁺⁵ ₋₃	60	12	19	9	36	
1350	1350	1374	1563 ⁺⁴ ₋₃	4910 ± 6	1576	5027 ± 5								
1500	1500	1524	1743 ⁺⁴ ₋₃	5476 ± 6	1756	5592 ± 5	160 ± 2	1150 ⁺⁵ ₋₃	60	12	22	9	40	
1650	1650	1674	1913 ⁺⁴ ₋₃	6010 ± 6	1926	6126 ± 5								
1800	1800	1824	2083 ⁺⁴ ₋₃	6544 ± 6	2096	6660 ± 5	180 ± 2	1200 ⁺⁵ ₋₃	70	16	25	9	44	
2000	2000	2024	2313 ⁺⁴ ₋₃	7267 ± 6	2326	7383 ± 5								
2200	2200	2224	2543 ⁺⁴ ₋₃	7989 ± 6	2556	8105 ± 5	180 ± 2	1200 ⁺⁵ ₋₃	70	16	25	9	48	
2400	2400	2424	2763 ⁺⁵ ₋₃	8680 ± 9	2778	8828 ± 5								
2600	2600	2624	2993 ⁺⁵ ₋₃	9403 ± 9	3008	9550 ± 5	180 ± 2	1200 ⁺⁵ ₋₃	70	16	25	9	52	
2800	2800	2824	3223 ⁺⁵ ₋₃	10125 ± 9	3238	10273 ± 5								
3000	3000	3024	3453 ⁺⁵ ₋₃	10848 ± 9	3468	10996 ± 9	180 ± 2	1200 ⁺⁵ ₋₃	70	16	25	9	58	
														64
														72
														78
														84
														90

(注) 1. 上表は、JSWAS A-2による。

下水道推進工法用鉄筋コンクリート管(中押管T)寸法表



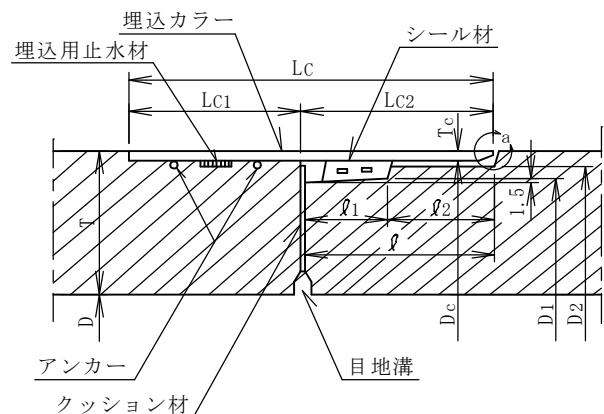
単位 (mm)

呼び径	内径 D	D ₁	$\pi \times D_1$	D _c	$\pi(D_c+2t_c)$	有効長 L _T	L _c	l	l ₁	l ₂	l ₃	a	b	t _c	t ₁	t ₂	ϕ
1000	1000 ± 6	1164 ⁺³ ₋₂	3657 ± 3	1191	3770 ± 3	1150 ⁺⁵ ₋₃	130 ± 2	125	60	65	92.5	26	18	4.5	9	6	6
1100	1100 ± 6	1274 ⁺³ ₋₂	4002 ± 3	1301	4115 ± 3								21				
1200	1200 ± 6	1388 ⁺³ ₋₂	4361 ± 3	1421	4492 ± 3												
1350	1350 ± 8	1551 ⁺⁴ ₋₃	4873 ± 6	1588	5027 ± 5	1200 ⁺⁵ ₋₃	140	65	75	102.5	30	24	6	6	9	9	
1500	1500 ± 8	1731 ⁺⁴ ₋₃	5438 ± 6	1768	5592 ± 5												
1650	1650 ± 8	1901 ⁺⁴ ₋₃	5972 ± 6	1938	6126 ± 5												
1800	1800 ± 10	2071 ⁺⁴ ₋₃	6506 ± 6	2108	6660 ± 5												
2000	2000 ± 10	2301 ⁺⁴ ₋₃	7229 ± 6	2338	7383 ± 5												
2200	2200 ± 10	2531 ⁺⁴ ₋₃	7951 ± 6	2568	8105 ± 5	1250 ⁺⁵ ₋₃	150 ± 2	150	70	80	110	34	30	9	12	9	
2400	2400 ± 12	2749 ⁺⁵ ₋₃	8636 ± 9	2792	8828 ± 5												
2600	2600 ± 12	2979 ⁺⁵ ₋₃	9359 ± 9	3022	9550 ± 5												
2800	2800 ± 12	3209 ⁺⁵ ₋₃	10081 ± 9	3252	10273 ± 5												
3000	3000 ± 12	3439 ⁺⁵ ₋₃	10804 ± 9	3482	10996 ± 9												

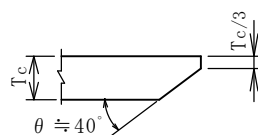
(注) 1. 上表は、JSWA A-2による。

下水道推進工法用鉄筋コンクリート管詳細寸法表

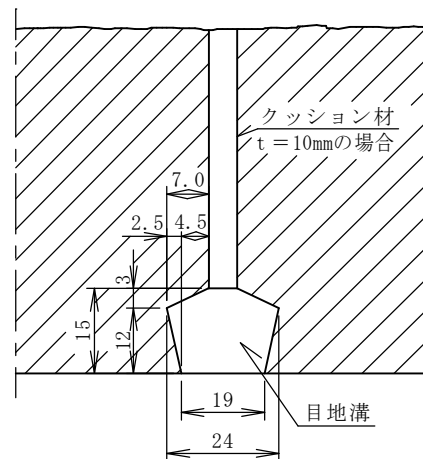
継手部詳細図



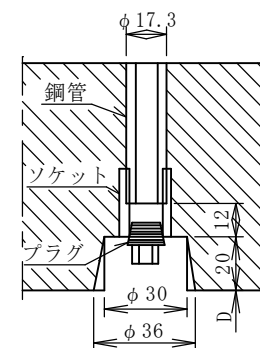
a 部詳細図



目地溝の形状



滑剤用注入孔の形状



単位 (mm)

呼び径	Lc1	Lc2	Lc	tc	Dc	$\pi(Dc+2tc)$	D2	l	l1	l2		
800	120	130±2	250 ⁺⁵ ₋₂	4.5	951	3016±3	942	132±2	60	72		
900					1071	3393±3	1062					
1000					1191	3770±3	1182					
1100					1301	4115±3	1292					
1200					1421	4492±3	1412					
1350				6	130±2	250 ⁺⁵ ₋₂	1588				5027±5	1577
1500							1768				5592±5	1757
1650							1938				6126±5	1927
1800							2108				6660±5	2097
2000							2338				7383±5	2327
2200	9	150±2	300 ⁺⁵ ₋₂	2568	8105±5	2557	152±2	70	82			
2400				2792	8828±5	2779						
2600				3022	9550±5	3009						
2800				3252	10273±5	3239						
3000				3482	10996±5	3469						

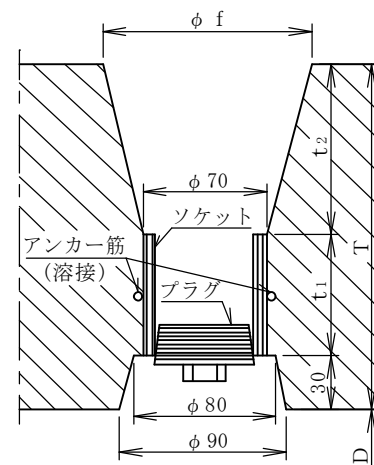
(注) 1. 上表は、JSWAS A-2による。

注入孔の寸法 単位 (mm)

呼び径	厚さ T	t1	t2	φf
800	80	30	20	90
900	90	30	30	90
1000	100	60	10	90
1100	105	60	15	90
1200	115	60	25	90
1350	125	60	35	100
1500	140	60	50	100
1650	150	60	60	100
1800	160	60	70	100
2000	175	60	85	100
2200	190	60	100	100
2400	205	60	115	110
2600	220	60	130	110
2800	235	60	145	110
3000	250	60	160	110

(注) 1. 上表は、JSWAS A-2による。

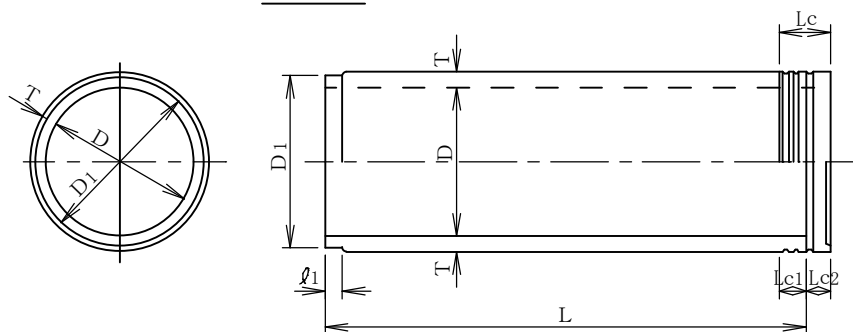
注入孔の形状



(注) 1. プラグの形状は、テーパをつけていないものとする。

小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管寸法表(1)

標準管

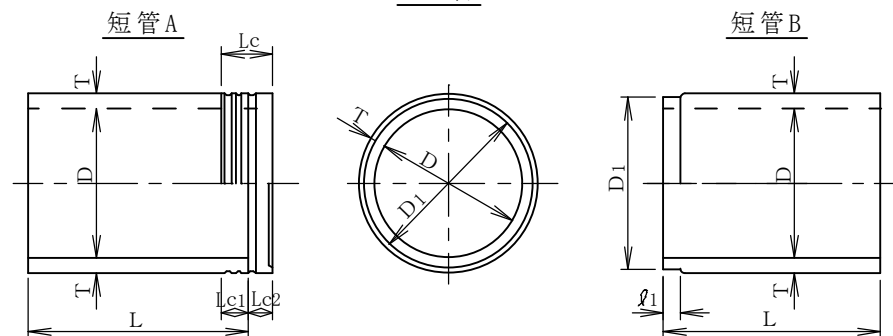


単位(mm)

呼び径	内径 D	D ₁	$\pi \times D_1$	厚さ T	有効長 L	ϕ_1
250	250±3	340±2	1068±3	55 ⁺⁴ ₋₂	2000 ⁺¹⁰ ₋₅	51 ⁺³ ₋₁
300	300±4	394±2	1238±3	57 ⁺⁴ ₋₂		
350	350±4	450±2	1414±3	60 ⁺⁴ ₋₂	2430 ⁺¹⁰ ₋₅	
400	400±4	506±2	1590±3	63 ⁺⁴ ₋₂		
450	450±4	564±2	1772±3	67 ⁺⁴ ₋₂		
500	500±4	620±2	1948±3	70 ⁺⁴ ₋₂		
600	600±4	736±2	2312±3	80 ⁺⁴ ₋₂		
700	700±4	856 ⁺³ ₋₂	2689±3	90 ⁺⁴ ₋₂		

(注) 1. 有効長(L)は、呼び径250及び300については1000mm、呼び径350～700については1200mmとすることができる。
 2. 上表は、JSWAS A-6による。

短管



単位(mm)

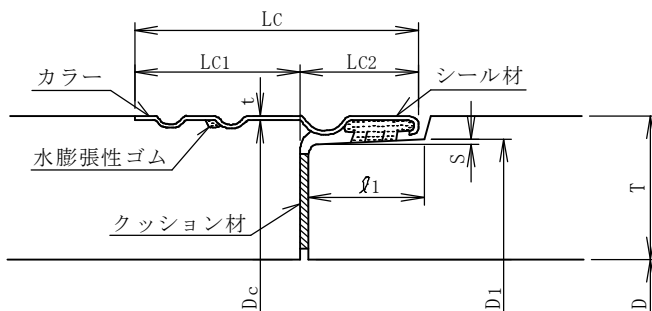
呼び径	内径 D	D ₁	$\pi \times D_1$	厚さ T	有効長 L	ϕ_1
250	250±3	340±2	1068±3	55 ⁺⁴ ₋₂	990 ⁺²⁰ ₋₁₀	51 ⁺³ ₋₁
300	300±4	394±2	1238±3	57 ⁺⁴ ₋₂		
350	350±4	450±2	1214±3	60 ⁺⁴ ₋₂	1200 ⁺²⁰ ₋₁₀	
400	400±4	506±2	1590±3	63 ⁺⁴ ₋₂		
450	450±4	564±2	1772±3	67 ⁺⁴ ₋₂		
500	500±4	620±2	1948±3	70 ⁺⁴ ₋₂		
600	600±4	736±2	2312±3	80 ⁺⁴ ₋₂		
700	700±4	856 ⁺³ ₋₂	2689±3	90 ⁺⁴ ₋₂		

管の種類

形状	種類			種類の記号	呼び径の範囲
	外圧強さ	圧縮強度	継手性能		
標準管	1種	50	SJS SJA SJB	X51	200～700
		70		X71	
短管A	2種	50		X-A51	
		50		X-A52	
短管B	1種	50	X-B51		
		2種	50	X-B52	

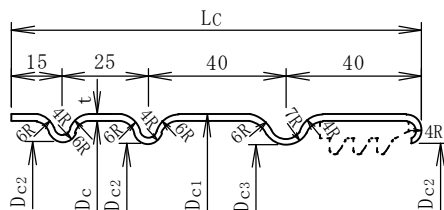
(注) 1. 種類の記号のXは、継手性能のSJS、SJA及びSJBのいずれかを示す。
 2. 継手とは、受口及び差し口を組み合わせたものをいう。
 3. 継手性能は、表-3に示す。
 4. X71には、縦方向に異形棒鋼を配筋する。

小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管寸法表(2)

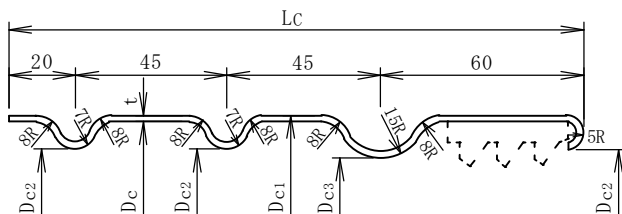


カラー詳細

呼び径250～300



呼び径600及び700



継手部寸法表

単位(mm)

呼び径	Lc	Lc1	Lc2	t	Dc	$\pi(Dc+2tc)$	Dc1	Dc2	Dc3	S
250	120 $\begin{smallmatrix} +5 \\ -2 \end{smallmatrix}$	70	50±2	1.5	355	1125±3	358	342	339	1.5
300					409	1294±3	412	396	393	
350					465	1470±3	468	452	449	
400					521	1646±3	524	508	505	
450					579	1828±3	582	566	563	
500	170 $\begin{smallmatrix} +5 \\ -2 \end{smallmatrix}$	90	80±2	2.0	635	2004±3	638	622	619	2.5
600					754	2381±3	758	738	735	
700					874	2758±3	878	858	855	

(注)1. カラーは、JIS G 4305または、JIS G 4307に規定するSUS316、SUS304N1とする。

管の外圧強さ

(単位:kgf/m {kN/m})

呼び径	ひび割れ荷重	破壊荷重
250	3300 {32.36}	5000 {49.03}
300	3500 {34.32}	5300 {51.98}
350	3800 {37.27}	5700 {55.90}
400	4000 {39.23}	6000 {58.84}
450	4300 {42.17}	6500 {63.74}
500	4500 {44.13}	6800 {66.69}
600	4700 {46.09}	7100 {69.63}
700	4900 {48.05}	7400 {72.57}

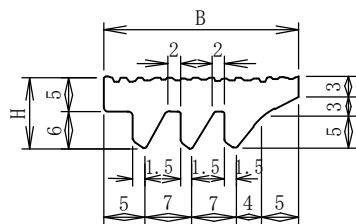
(注)1. ひび割れ荷重とは、管に幅0.05mmのひび割れを生じたときの試験機が示す荷重を有効長(L)で除した値をいい、破壊荷重とは、試験機が示す最大荷重を有効長(L)で除した値をいう。

小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管(ゴム輪・クッション材の形状)寸法表

形状及び寸法

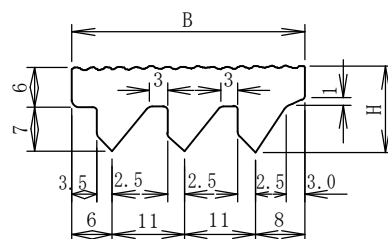
ゴム輪の形状及び寸法

呼び径250～500



呼び径600、700

単位 (mm)

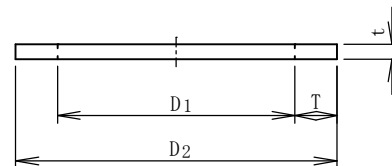
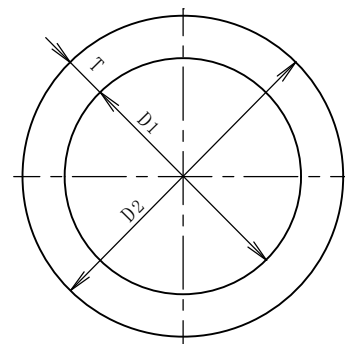


単位 (mm)

呼び径	B	H	周長
250	28	11	1135
300			1310
350			1485
400			1665
450			1850
500	36	13	2030
600			2415
700			2800

(注) 1. 周長はカラー内周長×1.02

クッション材の形状及び寸法



単位 (mm)

呼び径	内径 D ₁	外径 D ₂	幅 T	厚さ t
250	260	330	35	3~ 4.5
300	310	384	37	
350	360	440	40	
400	410	496	43	
450	460	554	47	
500	510	610	50	6~ 10
600	610	726	58	
700	710	846	68	

備考 現在使用されている材質としては、合板、スチロール樹脂、パーティクルボード、硬質繊維板等がある。

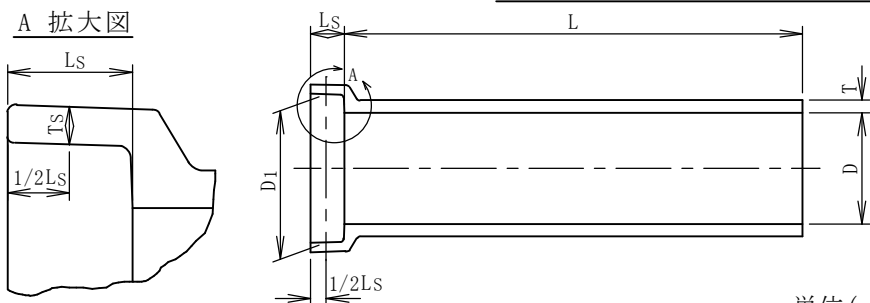
寸法の許容差

寸法の許容差 単位 (mm)

呼び径	H	B	周長(%)
250～500	±0.5	±1.0	±1.0
600～700			

※ゴム輪、クッション材の形状及び寸法については、JSWAS A-6(参考資料)による。

厚陶管(直管)及びA型圧縮ジョイント寸法表



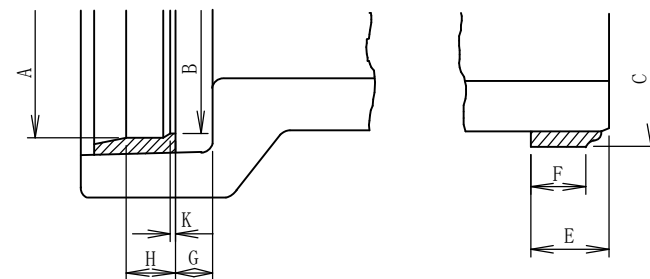
単位(mm)

呼び径	内径 D	厚さ T	受口内径 D1	受口厚さ Ts	受口深さ Ls	有効長 L	反り (mm/m)	参考重量 (kg)
150	150±4	19 ⁺² ₋₀	215±10	18±2	60±5	660 1000	4以下	17 26
200	200±5	23 ⁺² ₋₀	280±13	22±3	66±5	660 1000 1500		27 38 55
250	250±5	26 ⁺³ ₋₀	340±15	25±3	70±5	1000		54 80 106
300	300±6	29 ⁺³ ₋₀	400±18	28±3	75±5			75 107 139
350	350±7	32 ⁺³ ₋₀	460±20	32±4				1500
400	400±8	35 ⁺⁴ ₋₀	520±25	35±4	2000			119 171 223
450	450±9	38 ⁺⁴ ₋₀	585±30	38±4				200 255

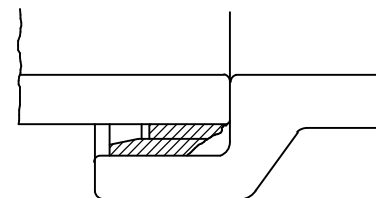
- (注) 1. 受口内径(D1)及び受口厚さ(Ts)は、受口深さ(Ls)の約1/2の位置の寸法とする。
 2. 有効長(L)の許容差は、-1%~+2%とする。
 3. 上表は、JIS R1201による。

外圧強さ、吸水率及び耐酸度

呼び径	外圧強さ (kgf/m ² {kN/m ² })	吸水率 (%)	耐酸度 (%)
150	2800 {27.5} 以上	9.0以下	0.25以下
200	3000 {29.4} 以上		
250	3200 {31.4} 以上		
300	3400 {33.3} 以上		
350	3600 {35.3} 以上		
400	3800 {37.3} 以上		
450	4000 {39.2} 以上		



接合図



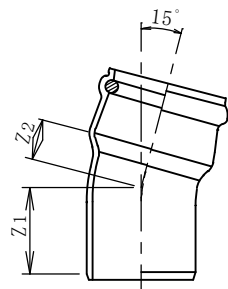
単位(mm)

管の呼び径	受口部					差し口部		
	内径		すき	利き幅	突起部幅	外径	全幅	利き幅
	A	B	G	H	K	C	E	F
150	200	196	20	20	3	201	30	15
200	262	258				265		
250	317	311				320	35	20
300	373	367				376		
350	432	426				435		
400	488	480				491		
450	549	541	552					

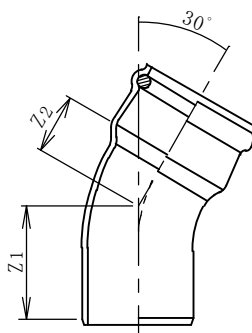
- (注) 1. 上記寸法は、標準寸法である。

下水道用硬質塩化ビニル管(取付管用曲管)寸法表

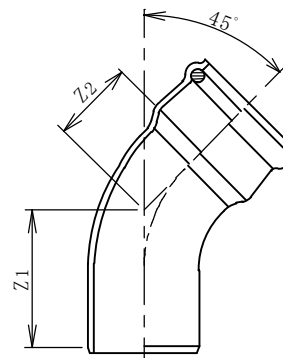
15° 曲管 (略号15SR)



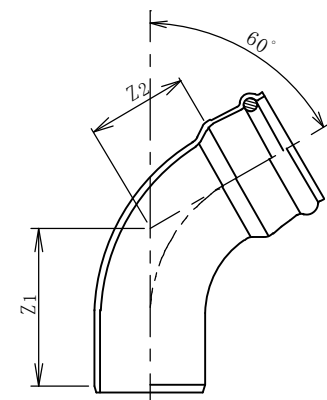
30° 曲管 (略号30SR)



45° 曲管 (略号45SR)



60° 曲管 (略号60SR)

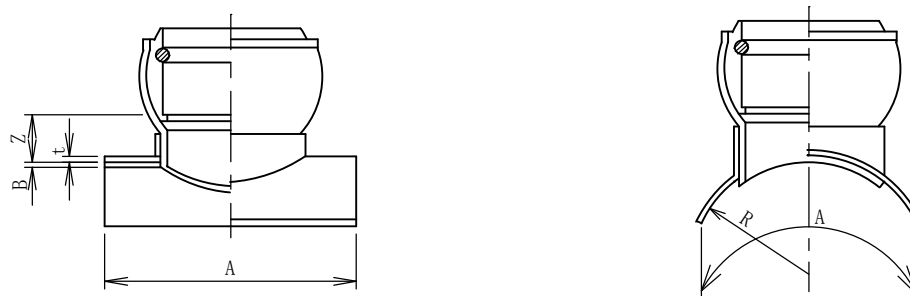


単位 (mm)

15° 曲管			30° 曲管			45° 曲管			60° 曲管		
呼び径	Z1	Z2(最小)	呼び径	Z1	Z2(最小)	呼び径	Z1	Z2(最小)	呼び径	Z1	Z2(最小)
100	110	5	100	138	5	100	167	35	100	199	55
150	129	15	150	159	15	150	191	40	150	227	60
200	149	25	200	187	25	200	228	55	200	274	75

- (注) 1. Z1の許容差は、±15mmとする。
 2. ゴム輪受口は、取付管形とする。
 3. 面取りの形状は、規定しない。

下水道用硬質塩化ビニル管(90°自在支管)寸法表



硬質塩化ビニル管用支管(取付管用) (略号90SVRF) 単位(mm)

呼び径	Z (最小)	t (最小)	A (最小)	B (最大)	R	呼び径	Z (最小)	t (最小)	A (最小)	B (最大)	R
150×100	—	—	—	—	—	400×100	21	4	300	6.5	108
200×100	21	4	300	6.5	108	400×150	35				
200×150	35					400×200	49				
250×100	21	4	300	7.8	133.5	450×100	21	4	300	7.8	133.5
250×150	35					450×150	35				
250×200	49					450×200	49				
300×100	21	4	300	9.2	159	500×100	21	4	300	9.2	159
300×150	35					500×150	35				
300×200	49					500×200	49				
350×100	21	4	300	10.5	185	600×100	21	4	300	10.5	185
350×150	35					600×150	35				
350×200	49					600×200	49				

鉄筋コンクリート管・陶管用支管(取付管用)
(略号90SHRF) 単位(mm)

呼び径	Z (最小)	t (最小)	A (最小)	B (最大)	R
150×100	—	—	—	—	—
200×100	21	4	205	25	127
200×150	35		255		
250×100	21	4	205	26	153
250×150	35		255		
250×200	49		300		
300×100	21	4	205	28	180
300×150	35		255		
300×200	49		300		
350×100	21	4	205	30	207
350×150	35		255		
350×200	49		300		

- (注) 1. Rは、標準値を示す。
 2. 破線で示す形状にすることもできる。
 3. ゴム輪受口は、取付管形(自在)とする。

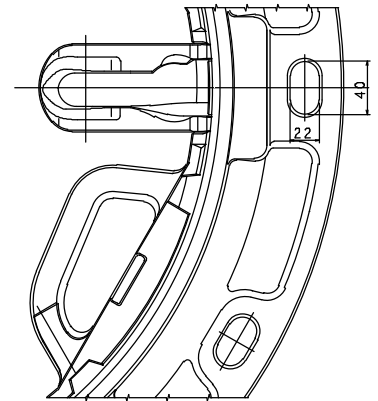
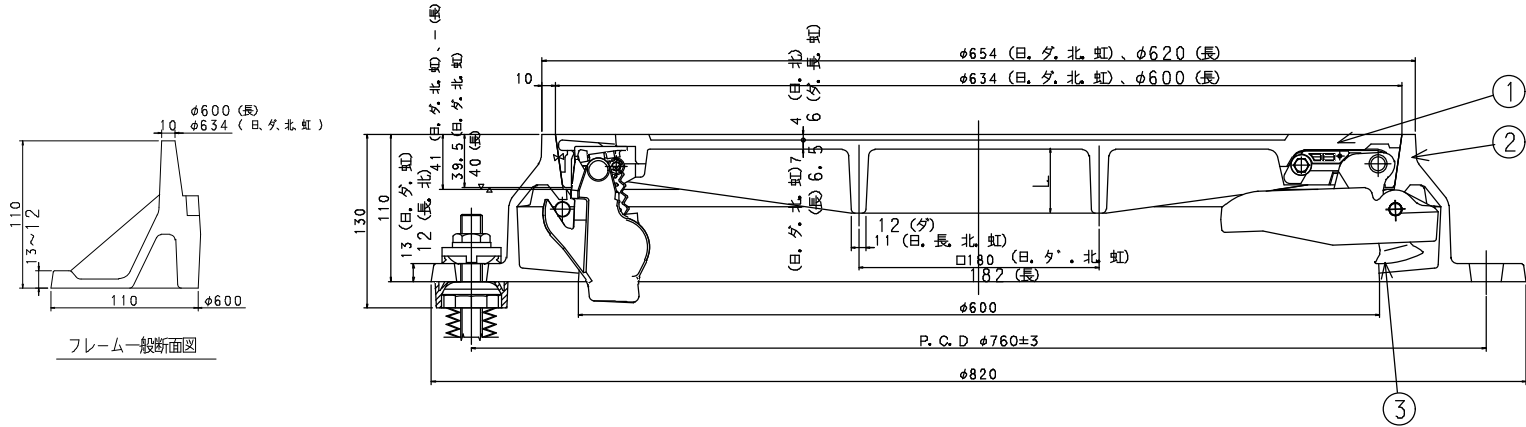
3. マンホール鉄蓋・防護蓋構造図(参考)

※マンホール鉄蓋、防護蓋の使用について

マンホール鉄蓋及び防護蓋は、本市水道局が定める「下水道用マンホール鉄蓋の仕様」・「下水道用防護蓋の仕様」（平成30年1月30日施行）に基づく構造、性能及び模様を有し、承認申請書の審査を経て、承認を受けたものを使用するものとする。

人 孔 目 次		
図面番号	図 面 名 称	
1	鉄蓋 (E II 600F T-14型) 構造図	
2	鉄蓋 (E II 600F T-25型) 構造図	
3	鉄蓋 (E II 600FS T-14型) 構造図	
4	鉄蓋 (E II 600FS T-25型) 構造図	
5	鉄蓋 (E II 900×600F T-14型) 構造図	
6	鉄蓋 (E II 900×600F T-25型) 構造図	
7	鉄蓋 (E II 900×600FS T-14型) 構造図	
8	鉄蓋 (E II 900×600FS T-25型) 構造図	
9	鉄蓋 (E II 500 T-14型) 構造図	
10	鉄蓋 (E II 500 T-25型) 構造図	
11	鉄蓋 (E II 300 T-14型) 構造図	
12	鉄蓋 (E II 300 T-25型) 構造図	
13	鉄蓋 (E II 300S T-14型) 構造図	
14	鉄蓋 (E II 300S T-25型) 構造図	
15	防護蓋300 T-14型構造図	
16	防護蓋300 T-25型構造図	
17	防護蓋300S T-14型構造図	
18	防護蓋300S T-25型構造図	
19	防護蓋200 T-14型構造図	
20	防護蓋150 T-14型構造図	
21	足掛金物構造図 (1)	
22	足掛金物構造図 [組立マンホール用] (2) 参考	
23	鉄蓋 (E III 600F T-14型) 構造図	
24	鉄蓋 (F600FS T-14型) 構造図	
25	鉄蓋 (F600FS T-25型) 構造図	
26		
27		

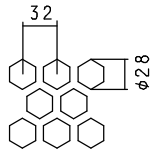
鉄蓋 (E II 600F T-14型) 構造図 (参考図)



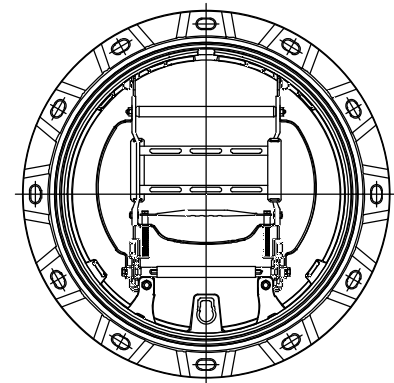
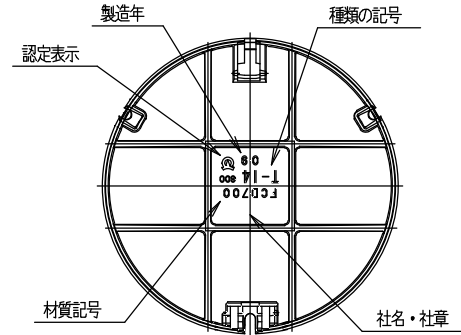
蝶番受け部詳細図

※転落防止梯子について、うすいは標準使用。
 おすいについては、入孔深2m以上のマンホール、
 又は腐食のおそれが高いマンホール。
 ※転落防止梯子については、鉄蓋の製造者ごとに規格
 が異なるため、確認を行うこと。

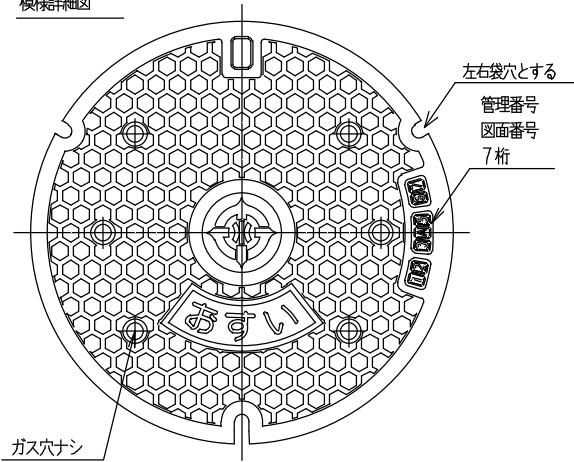
カバー、フレーム断面図



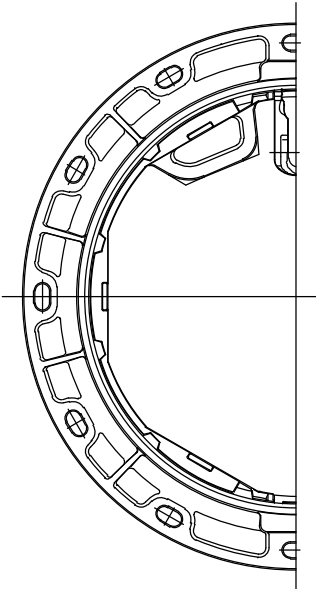
模様詳細図



蓋裏面図



① カバー平面図



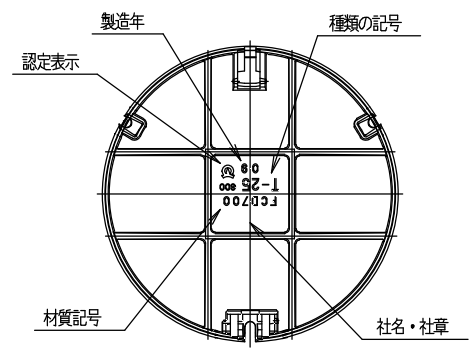
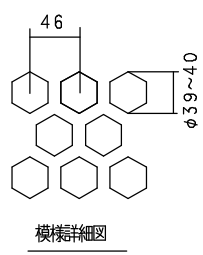
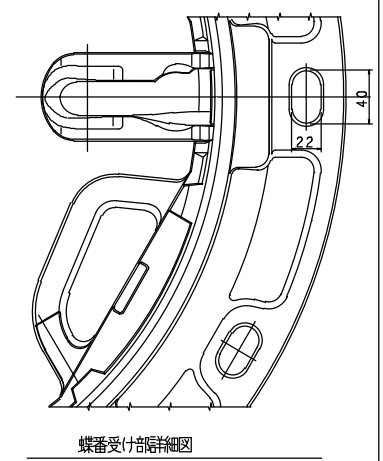
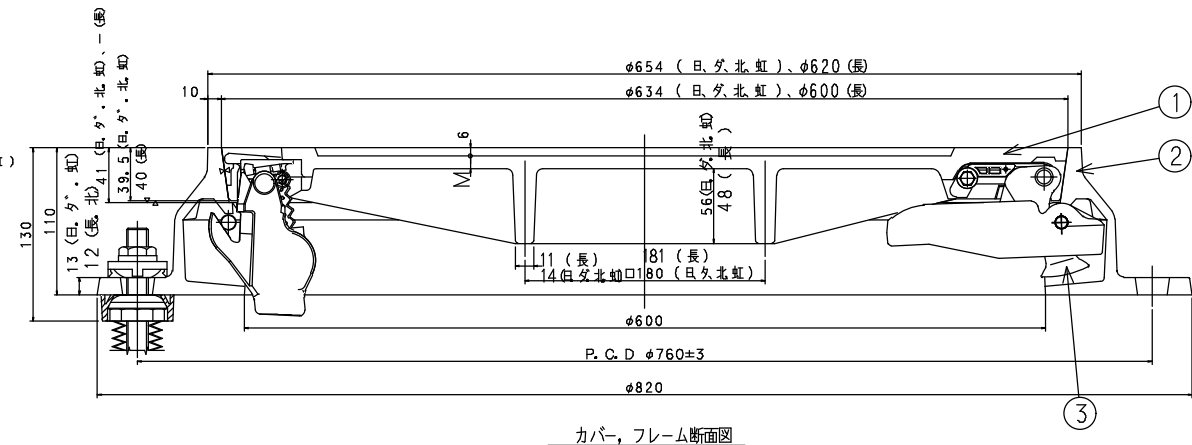
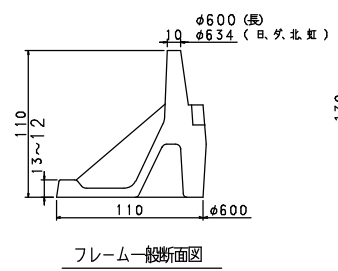
フレーム一般断面図

② フレーム平面図

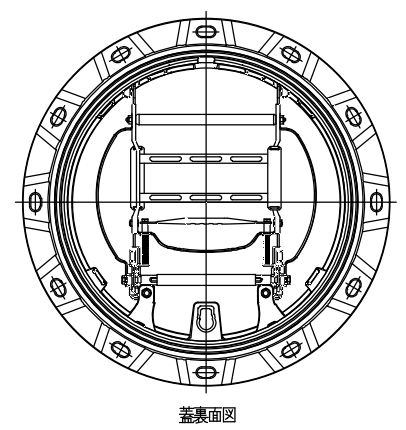
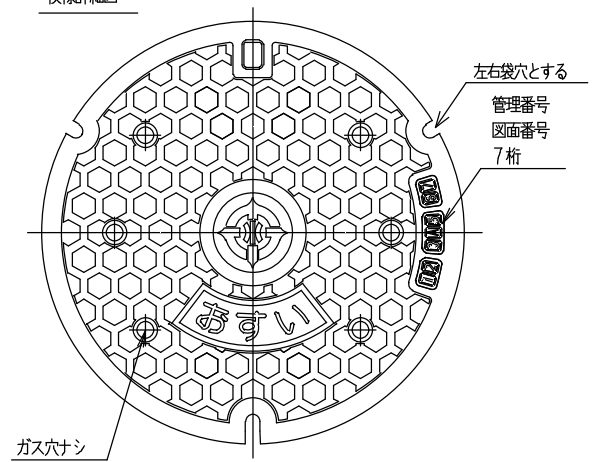
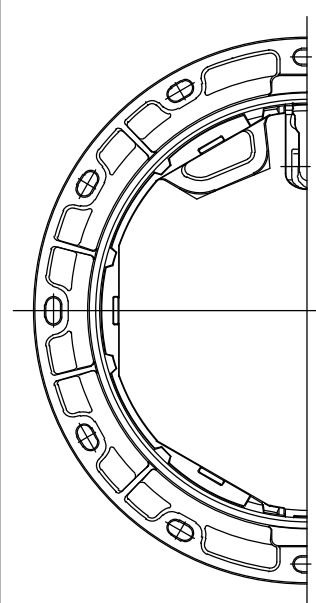
主要部寸法	
製造者	L
日之出、北勢、虹枝	48
ダイヤモンド	50
長島	38

3	蝶番		1	
2	フレーム(枠)	FCD600	1	
1	カバー(蓋)	FCD700	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称	EII600F			
種類	マンホール鉄蓋呼び600 T-14用			
不法解放防止性能、圧力解放耐爆圧性能				

鉄蓋 (E II 600F T-25型) 構造図 (参考図)



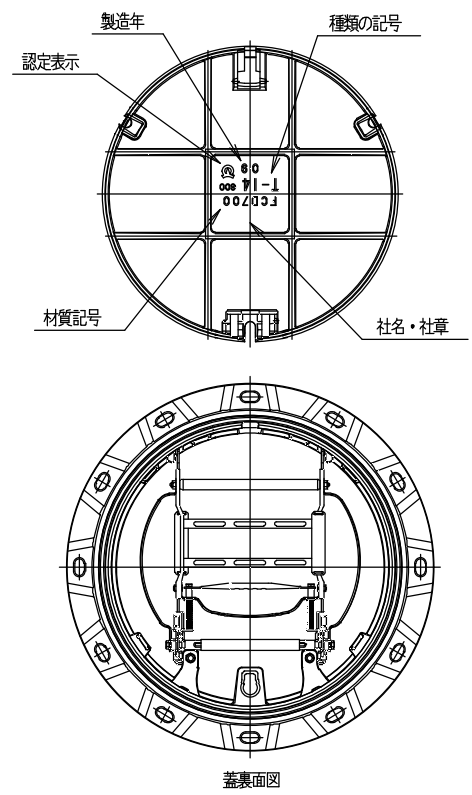
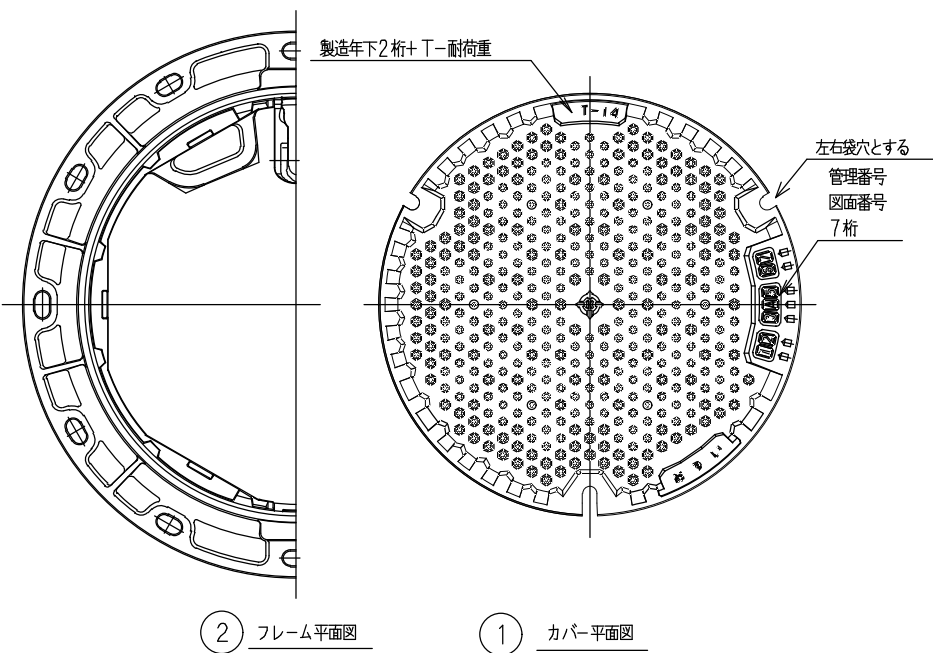
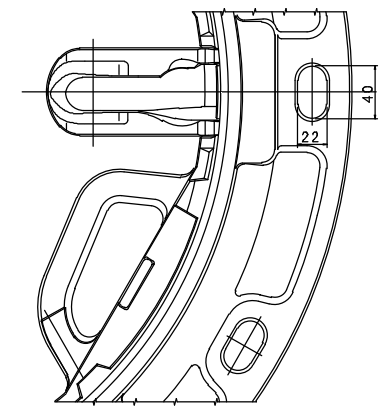
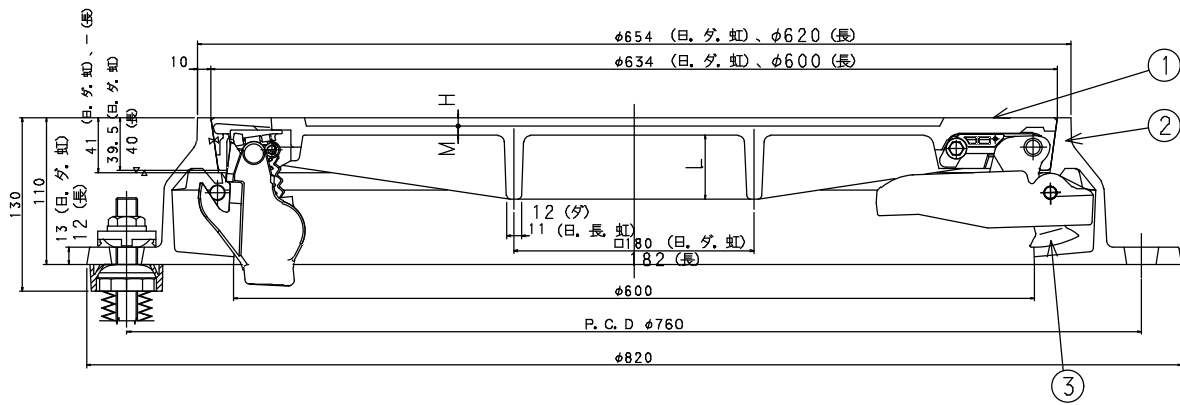
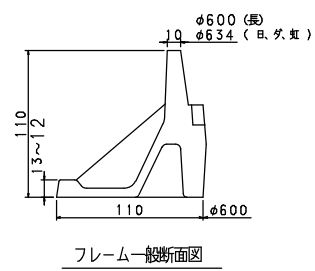
※転落防止梯子について、うすいは標準使用。
おすいについては、人孔深2m以上のマンホール、
又は腐食のおそれが高いマンホール。
※転落防止梯子については、鉄蓋の製造者ごとに規格
が異なるため、確認を行うこと。



主要部寸法	
製造者	M
日之出、虹、北、勢	9.5
ダイヤモンド	9.0
長島	7.0

3	蝶番		1	
2	フレーム (枠)	FCD600	1	
1	カバー (蓋)	FCD700	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称	E II 600F			
種類	マンホール鉄蓋呼びφ600 T-25用			
不発射防止性能、圧力解放耐燃性能				

鉄蓋 (E II 600FS T-14) 構造図 (参考図)

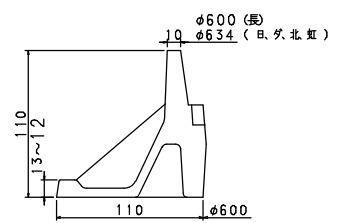


※転落防止梯子について、うすいは標準使用。
 おすいについては、入孔深2m以上のマンホール、
 又は腐食のおそれが高いマンホール。
 ※転落防止梯子については、鉄蓋の製造者ごとに規格
 が異なるため、確認を行うこと。

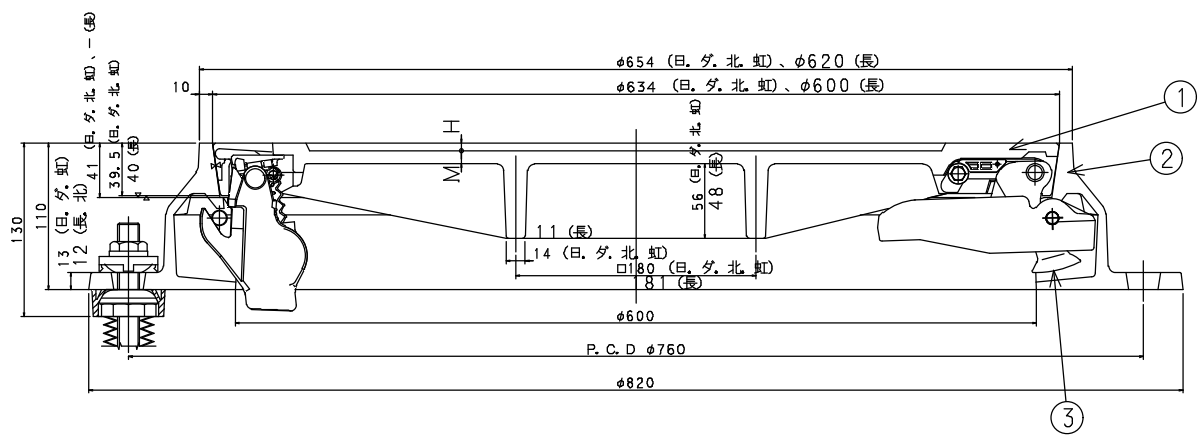
主要部寸法			
製造者	H	M	L
日之出	6.0	7.0	48
ダイヤモンド	6.0	7.0	50
長島	6.0	6.5	38
虹技	6.5 (5.5)	6.5 (7.5)	48

3	蝶番		1	
2	フレーム(枠)	FCD600	1	
1	カバー(蓋)	FCD700	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称	EII600FS			
種類	マンホール鉄蓋φ600 T-14用 耐スリップ型			
不法開放防止性能、圧力解放耐揚圧性能				

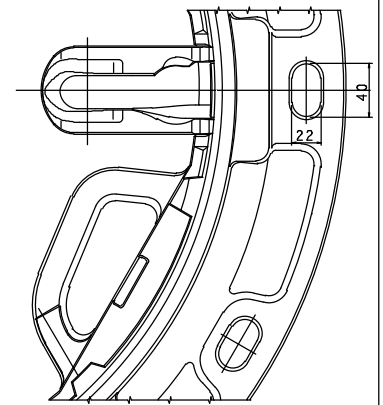
鉄蓋 (E II 600FS T-25) 構造図 (参考図)



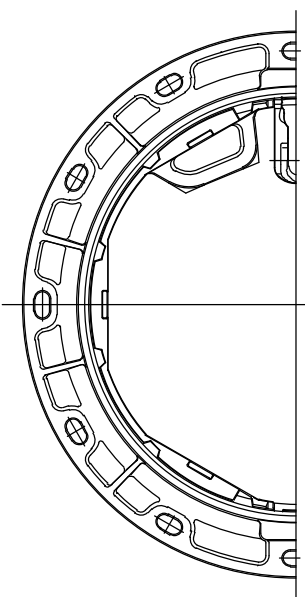
フレーム一般断面図



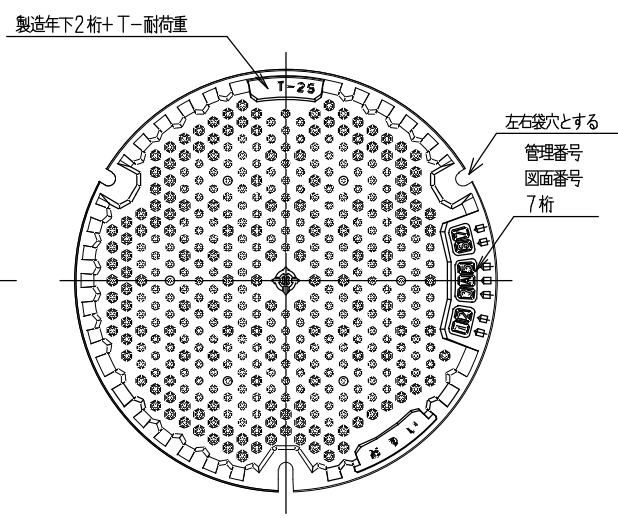
カバー、フレーム断面図



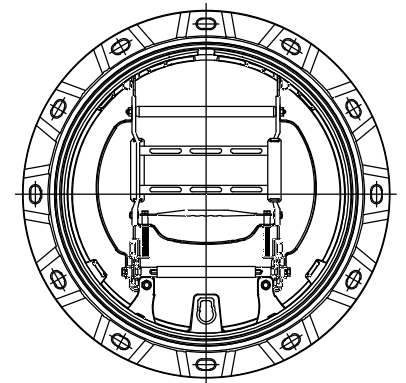
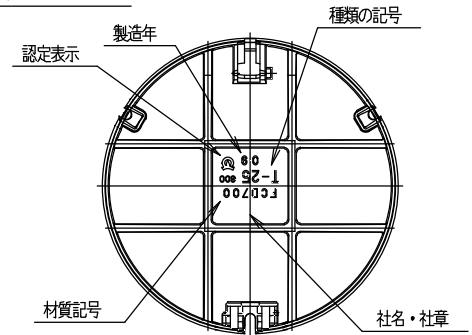
螺番受け部詳細図



② フレーム平面図



① カバー平面図



蓋裏面図

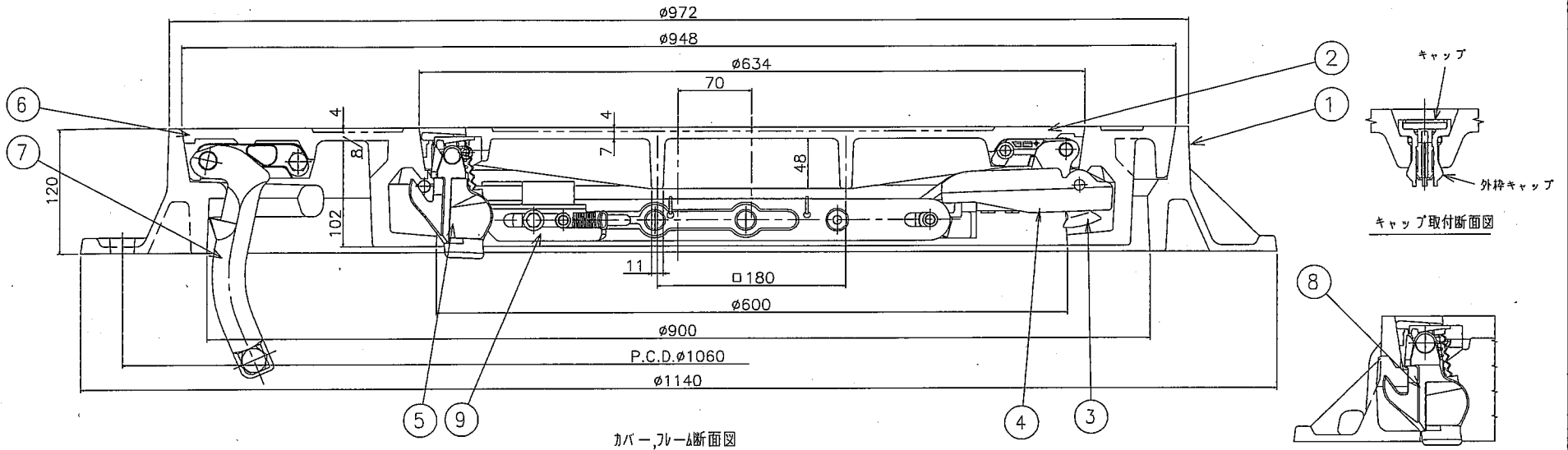
※転落防止梯子について、うすいは標準使用。
 おすいについては、入孔深2m以上のマンホール、
 又は腐食のおそれが高いマンホール。
 ※転落防止梯子については、鉄蓋の製造者ごとに規格
 が異なるため、確認を行うこと。

製造者	H	M
日之出、北勢	6.0	9.5
タ`イモン	6.0	9.0
長島	6.0	7.0
虹技	6.5 (5.5)	9.0 (10.0)

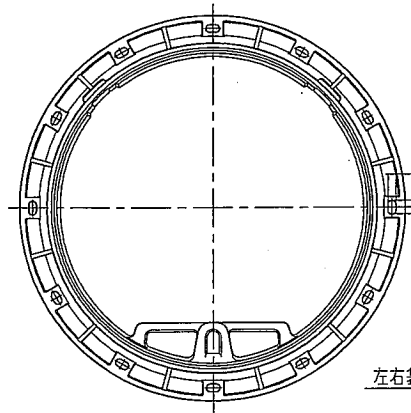
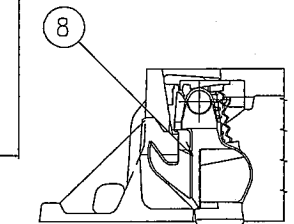
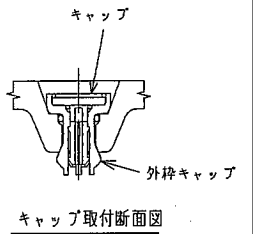
品番	名称	材質	個数	備考
3	螺番		1	
2	フレーム(枠)	FCD600	1	
1	カバー(蓋)	FCD700	1	
設計	図番	尺度	年月日	
名称	EII600FS			
種類	マンホール鉄蓋φ600 T-25用 耐スリップ型			
不法解放防止性能、圧力解放耐漏圧性能				

鉄蓋 (E II 900×600F T-14型) 構造図 (参考図)

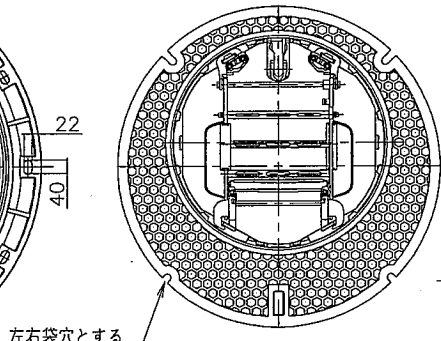
図面番号 5



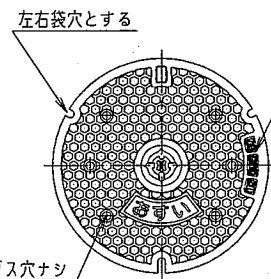
カバー、フレーム断面図



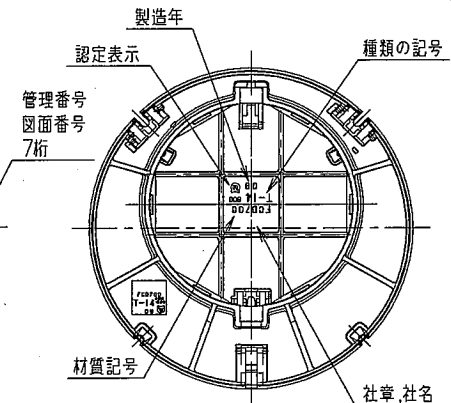
① フレーム平面図



⑤ カバー(親蓋)平面図



② カバー(子蓋)平面図

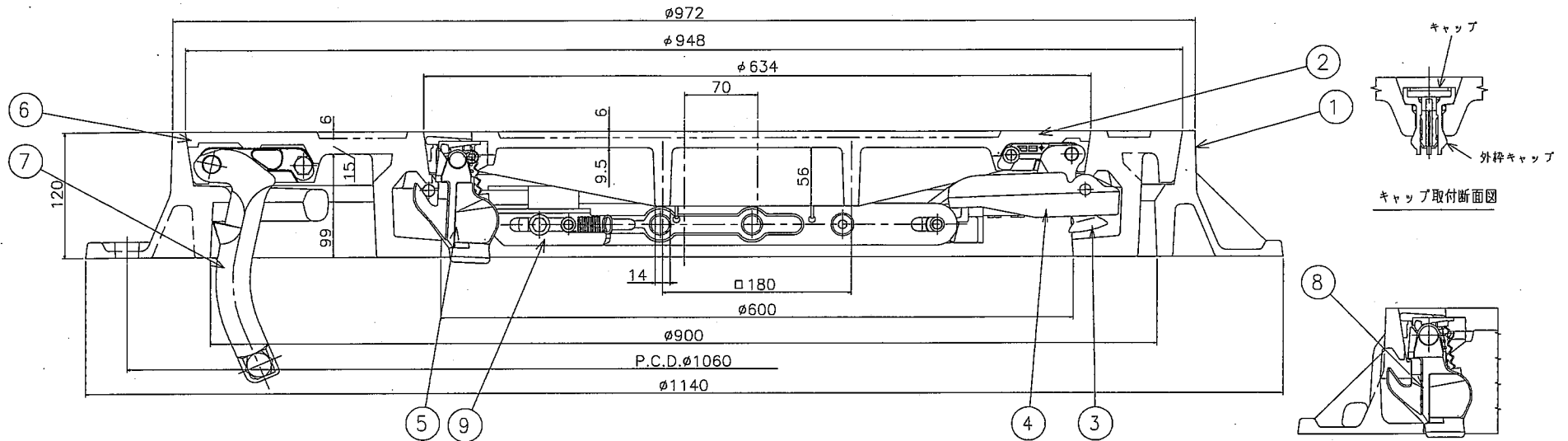


カバー裏面図

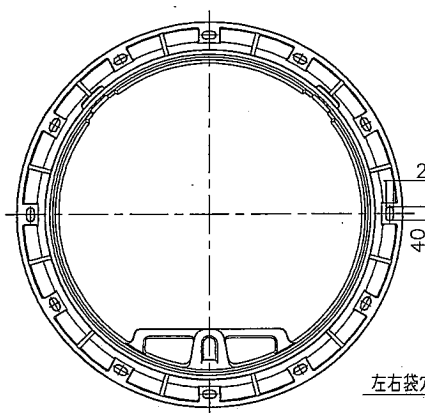
9	断落防止用梯子	SUS304他	1	
8	シ-107 (親蓋)	FCD600他	2	
7	3777 (親蓋母蓋)	FCD600	1	
6	カバー (親蓋)	FCD700	1	
5	シ-107 (子蓋)	FCD600他	1	
4	3777 (子蓋)	FCD600	1	
3	3777 (子蓋母蓋)	FCD600	1	
2	カバー (子蓋)	FCD700	1	
1	フレーム (枠)	FCD600	1	
品番 名称 材質 個数 備考				
設計	図番	尺度	年月日	
名称 E II 900×600F				
種類 親子蓋呼び900-600 T-14用 断落防止梯子付				
不法開放防止性能、圧力解放耐湯圧性能				

鉄蓋 (E II 900×600F T-25用) 構造図 (参考図)

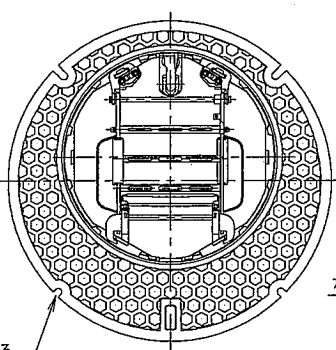
図面番号 6



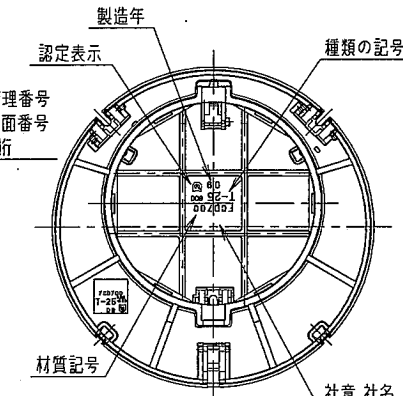
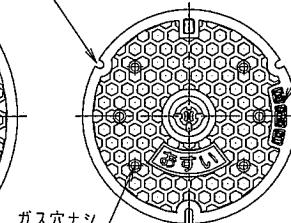
カバー、フレーム断面図



左右袋穴とする

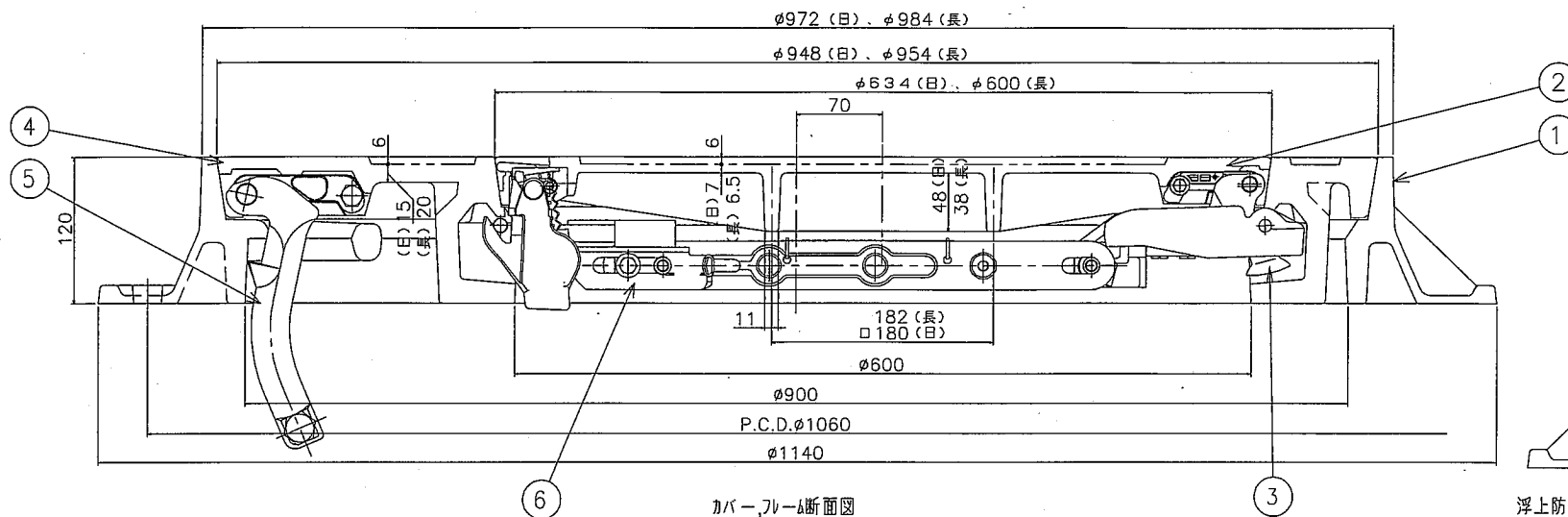


左右袋穴とする

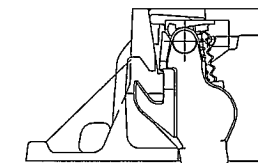


9	転落防止用梯子	SUS304他	1	
8	シ-ロウ(親蓋)	FCD600他	2	
7	シ-ロウ(親蓋設置)	FCD600	1	
6	カバー(親蓋)	FCD700	1	
5	シ-ロウ(子蓋)	FCD600他	1	
4	シ-ロウ(子蓋設置)	FCD600	1	
3	シ-ロウ(子蓋設置)	FCD600	1	
2	カバー(子蓋)	FCD700	1	
1	フレーム(枠)	FCD600	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称	E II 900×600F			
種類	親子蓋呼び900-600 T-25用 転落防止梯子付			
不法開放防止性能、圧力解放耐場圧性能				

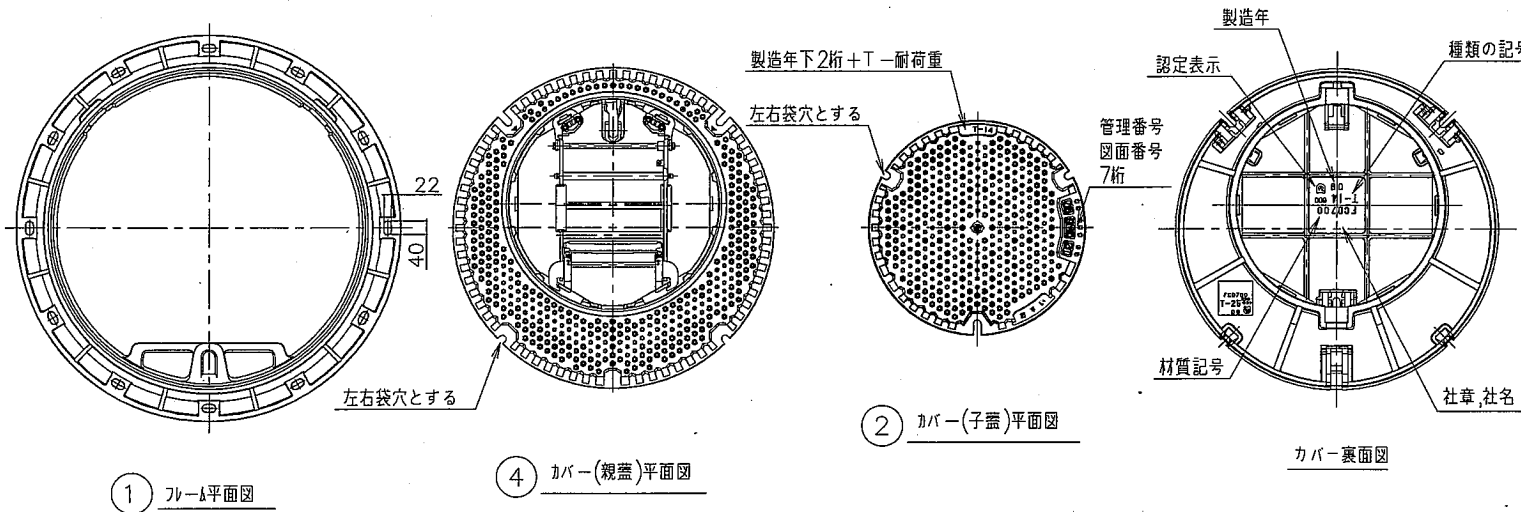
鉄蓋 (E II 900×600FS T-14型) 構造図 (参考図)



カバー、フレーム断面図



浮上防止用自動錠(親蓋)取付部詳細図



① フレーム平面図

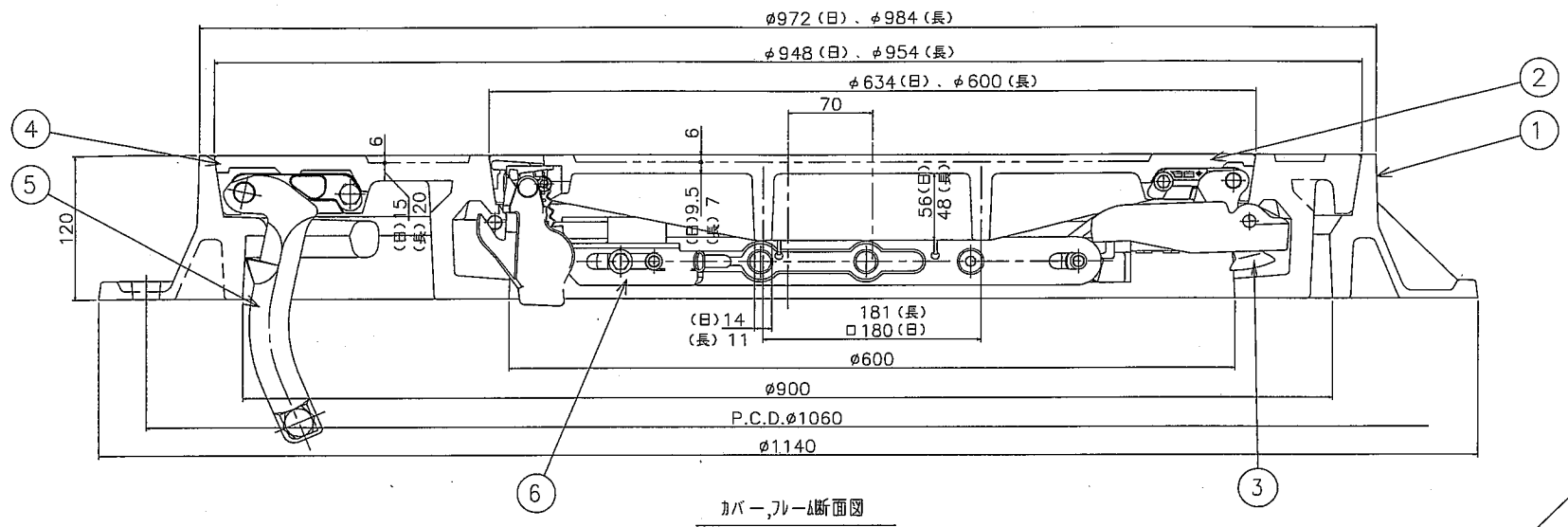
④ カバー(親蓋)平面図

② カバー(子蓋)平面図

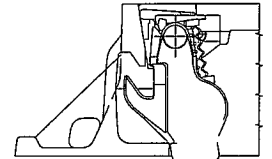
カバー裏面図

6	転落防止用梯子	SUS304他	1	
5	親蓋蝶番	FCD600	1	
4	カバー(親蓋)	FCD700	1	
3	子蓋蝶番	FCD600	1	
2	カバー(子蓋)	FCD700	1	
1	カバー(枠)	FCD600	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
型式 E II 900×600FS				
品名 親子蓋枠900-600 T-14用 耐入リッパ型/転落防止梯子付				
不法開放防止性能、圧力解放耐揚圧性能				

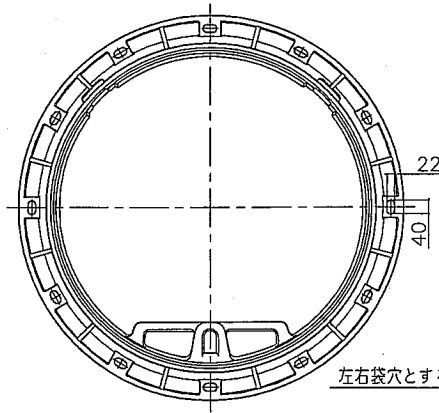
鉄蓋 (E II 900×600FS T-25型) 構造図 (参考図)



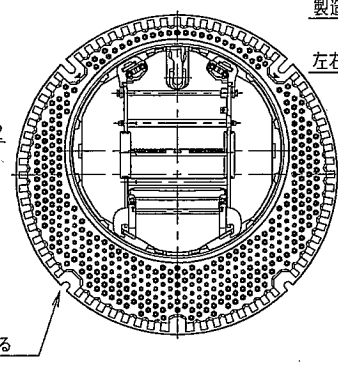
カバー、フレーム断面図



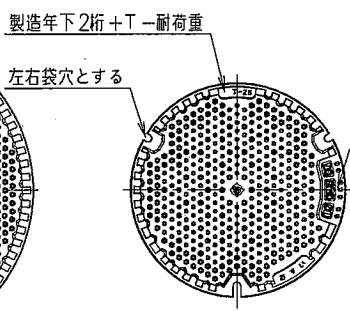
浮上防止用自動錠 (親蓋) 取付部詳細図



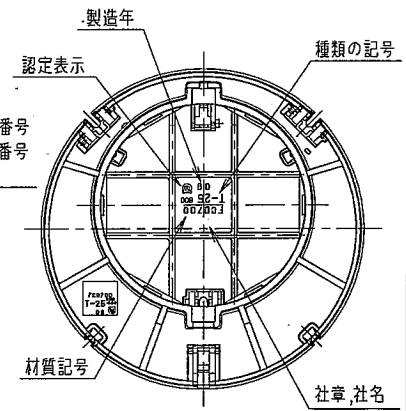
① フレーム平面図



④ カバー(親蓋)平面図



② カバー(子蓋)平面図

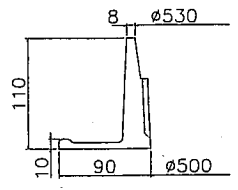


カバー裏面図

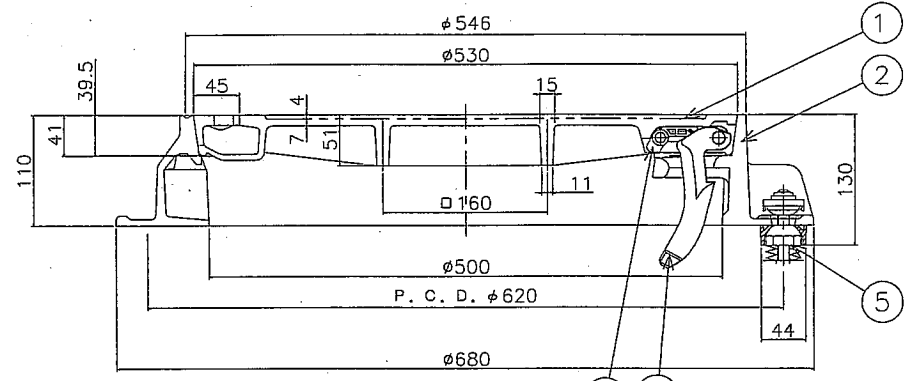
6	転落防止用梯子	SUS304他	1	
5	親蓋蝶番	FCD600	1	
4	カバー(親蓋)	FCD700	1	
3	子蓋蝶番	FCD600	1	
2	カバー(子蓋)	FCD700	1	
1	フレーム(枠)	FCD600	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	

名称 E II 900×600FS
 種類 親子蓋の900-600 T-25用 縦入り型/転落防止梯子付
 不法開放防止性能、圧力解放耐湯圧性能

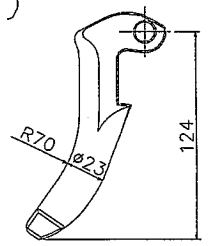
鉄蓋 (E II 500 T-14型) 構造図 (参考図)



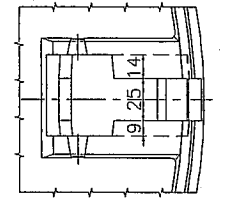
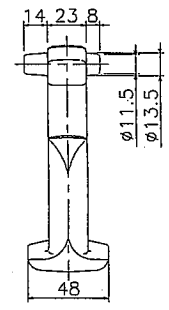
フレイム一般断面図



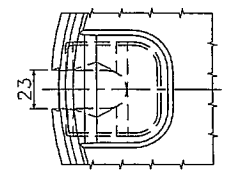
カバー、フレイム断面図



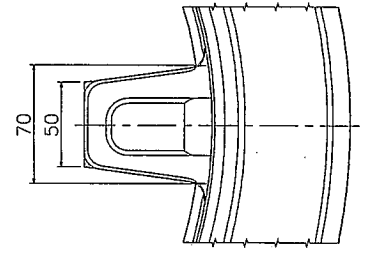
③ レバー詳細図



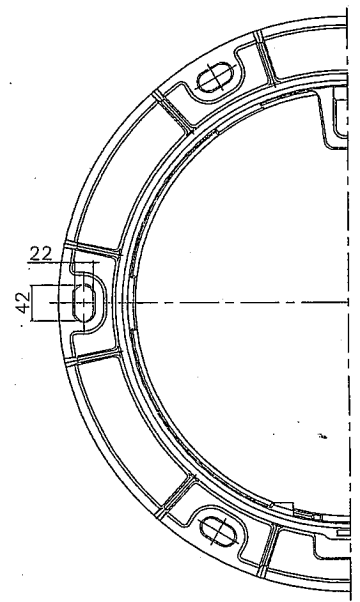
レバー取付座詳細図



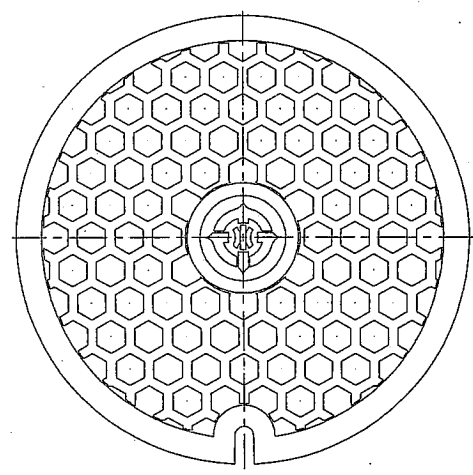
蓋裏パル穴詳細図



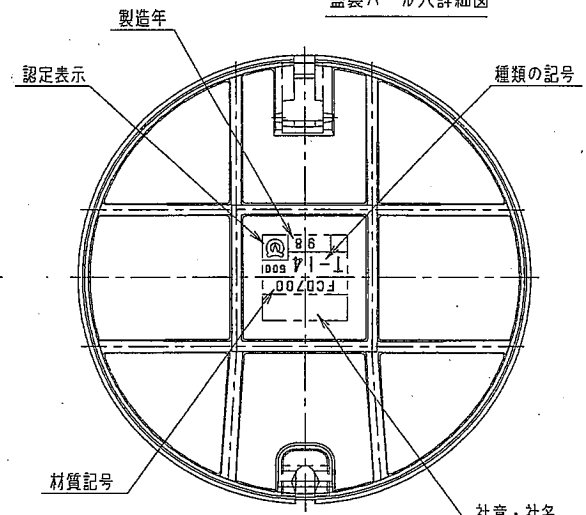
レバー受け部詳細図



② フレイム平面図



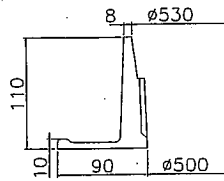
① カバー平面図



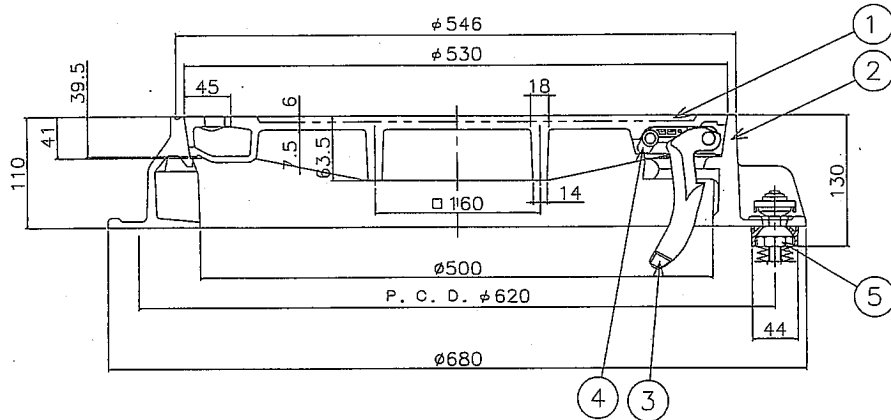
蓋裏面図

5	カバーリング	鉄板	3		
4	ストッパ	ナイロン	1		
3	レバー(兼番)	FCD600	1		
2	フレイム(枠)	FCD600	1		
1	カバー(蓋)	FCD700	1		
品番	名称	材質	個数	備考	
設計	図番	尺度	年月日		
名称 E II 500					
種類 マンホール鉄蓋呼び500 T-14用					

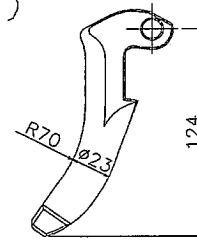
鉄蓋 (E II 500 T - 25型) 構造図 (参考図)



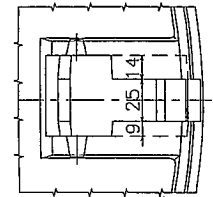
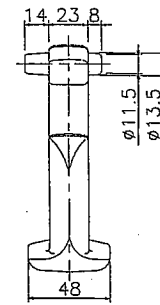
フレーム一般断面図



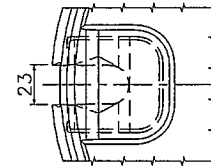
カバー、フレーム断面図



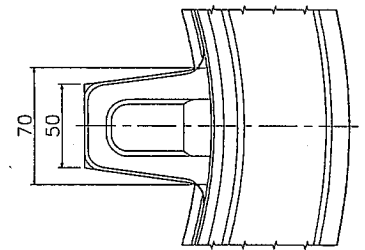
③ ハンドル詳細図



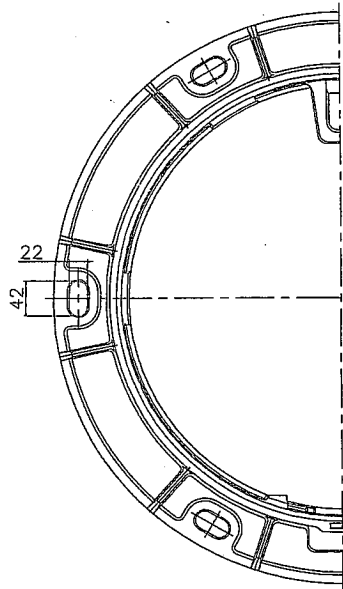
ハンドル取付座詳細図



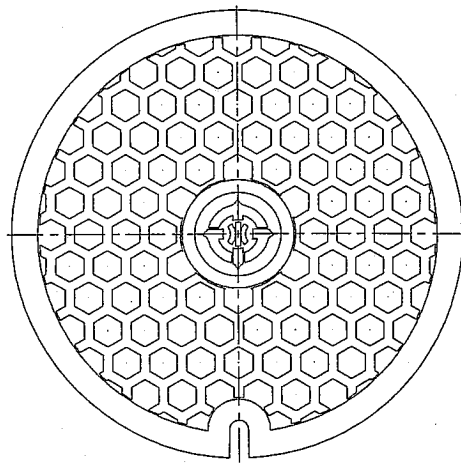
蓋裏パール穴詳細図



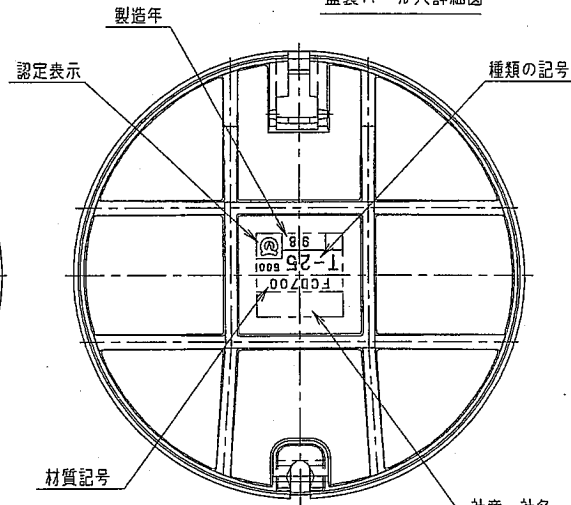
ハンドル受け部詳細図



② フレーム平面図



① カバー平面図

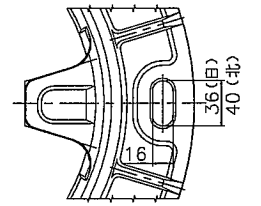
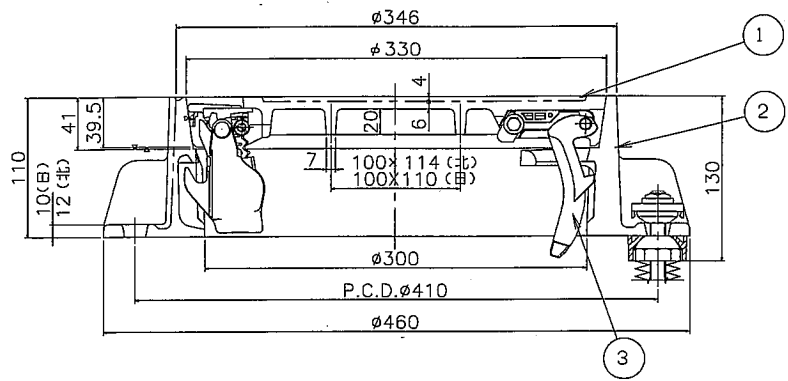


蓋裏面図

5	ハンドル	新地	3	
4	ハンドル	新地	1	
3	ハンドル(取付)	FCD600	1	
2	フレーム(枠)	FCD600	1	
1	カバー(蓋)	FCD700	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称 E II 500				
種類 マンホール鉄蓋呼び500 T-25用				

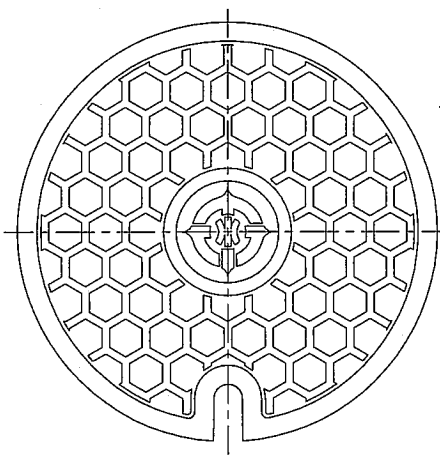
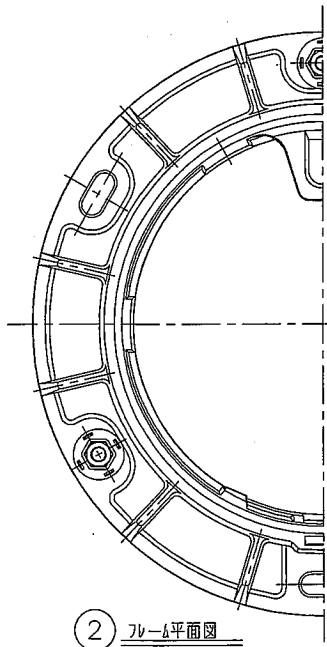
鉄蓋 (E II 300 T - 14型) 構造図 (参考図)

断面図

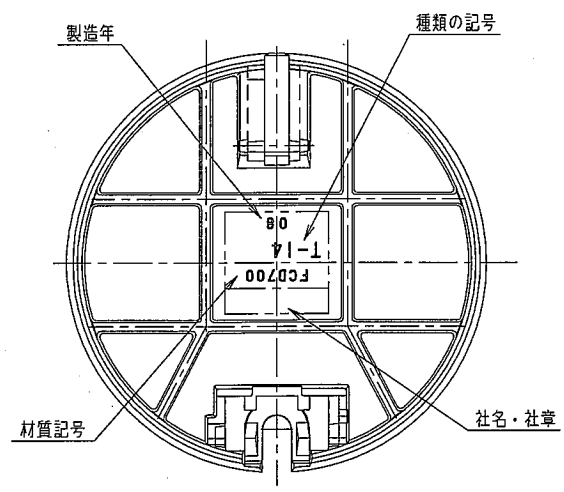


螺番受け部詳細図

平面図



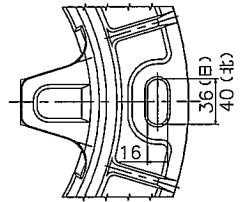
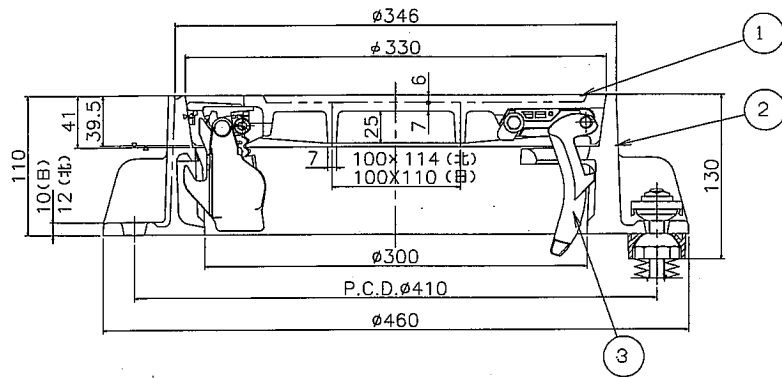
裏面図



3	螺番	FCD600	1	
2	フル-6(棒)	FCD600	1	
1	カバー(蓋)	FCD700	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称	E II 300			
種類	マンホール鉄蓋呼び 300 T-14用			
不法開放防止性能				

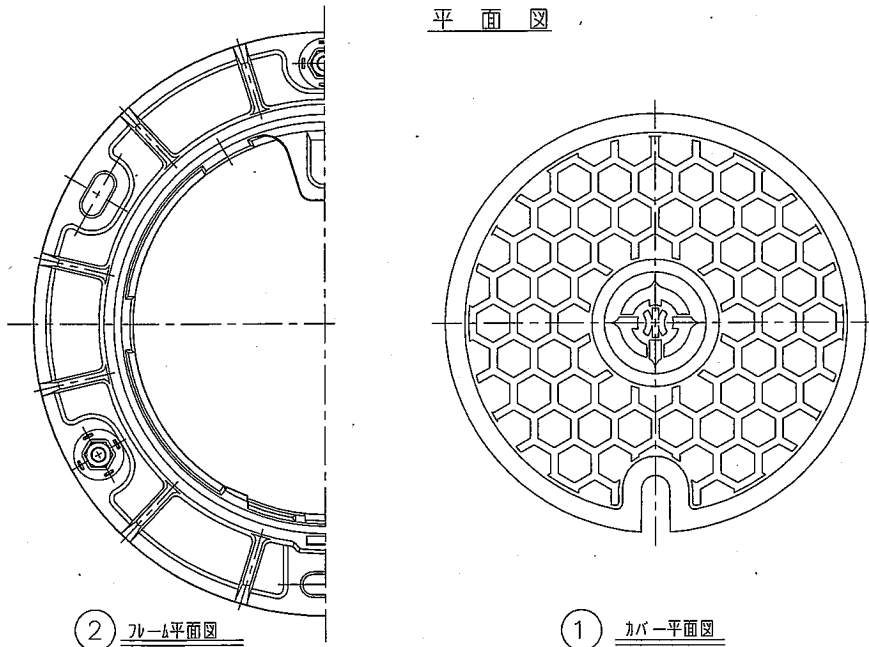
鉄蓋 (E II 300 T - 25型) 構造図 (参考図)

断面図

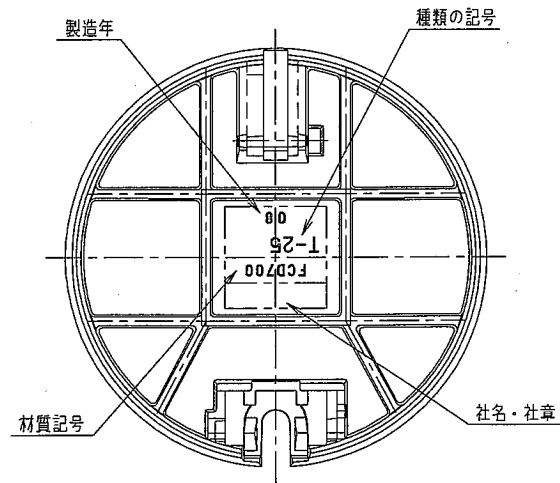


蝶番受け部詳細図

平面図



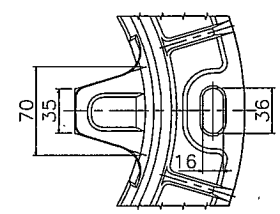
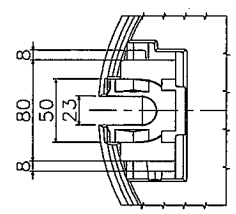
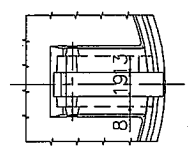
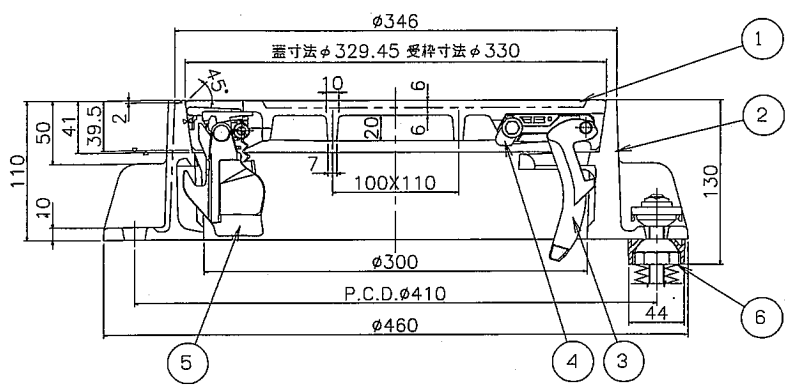
裏面図



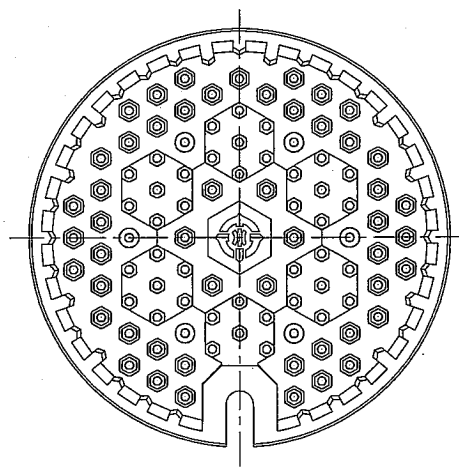
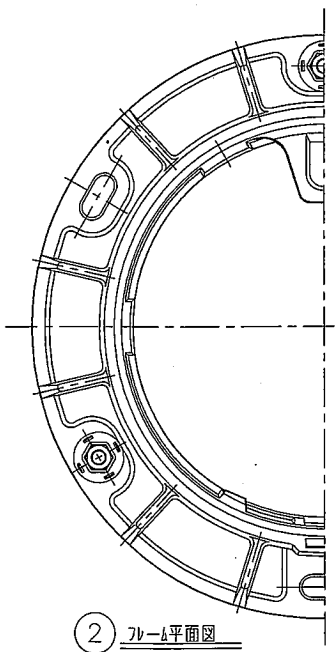
3	蝶番	FCD600	1	
2	ナット(母)	FCD600	1	
1	カバー(蓋)	FCD700	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称	E II 300			
種類	マンホール鉄蓋呼び 300. T - 25用			
不法開放防止性能				

鉄蓋 (E II 300S T-14型) 構造図 (参考図)

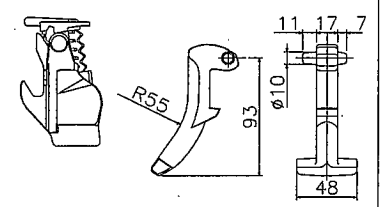
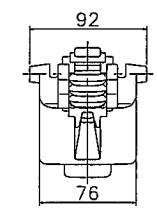
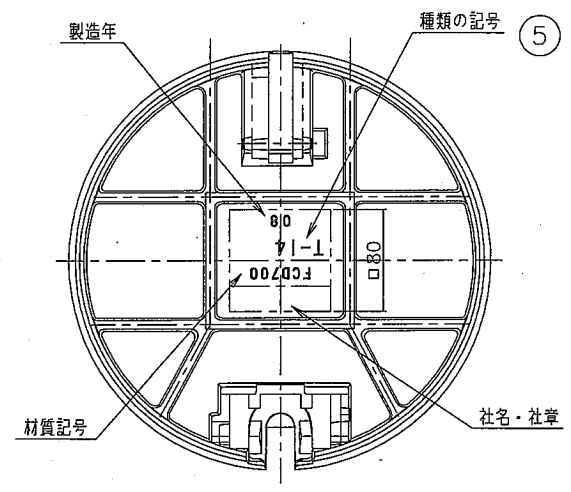
断面図



平面図



裏面図

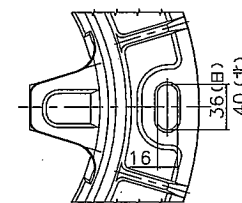
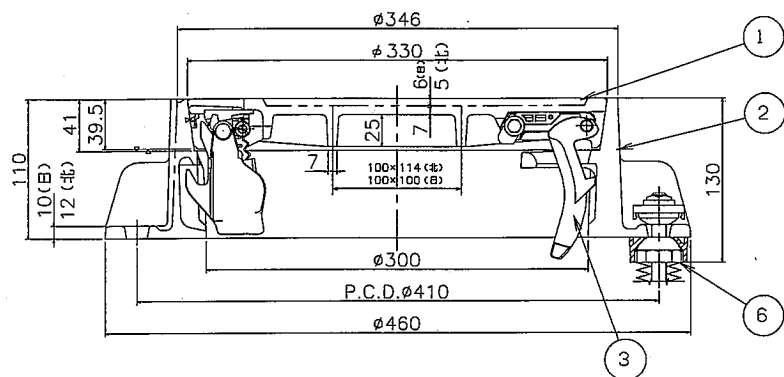


6	カバー	約生地	3		
5	シールロック	FCD600地	1		
4	スッパ	ナイロン	1	ホルト・リフト	
3	コバ(継番)	FCD600	1		
2	フル-6(枠)	FCD600	1		
1	カバー(蓋)	FCD700	1		
品番		名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日		
名称		E II 300S			
種類		マンホール鉄蓋呼び300 T-14用耐スリップ型			
不法開放防止性能					

鉄蓋 (E II 300S T-25型) 構造図 (参考図)

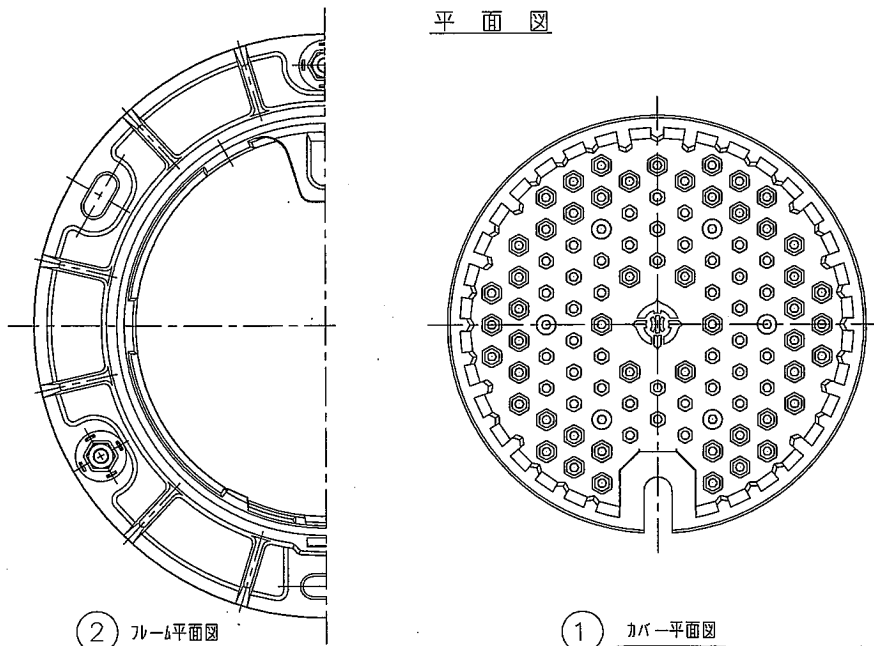
図面番号 14

断面図

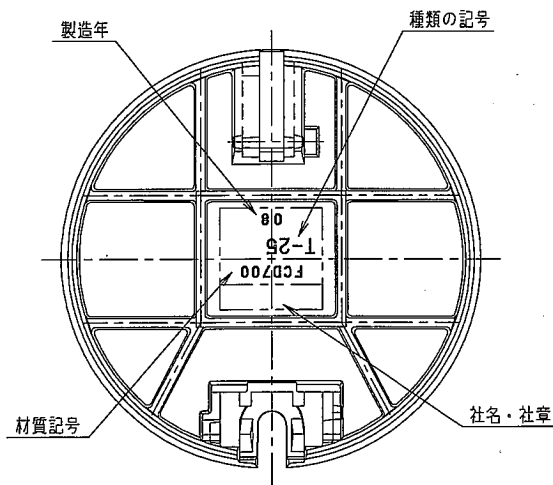


蝶番受け部詳細図

平面図



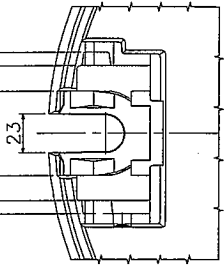
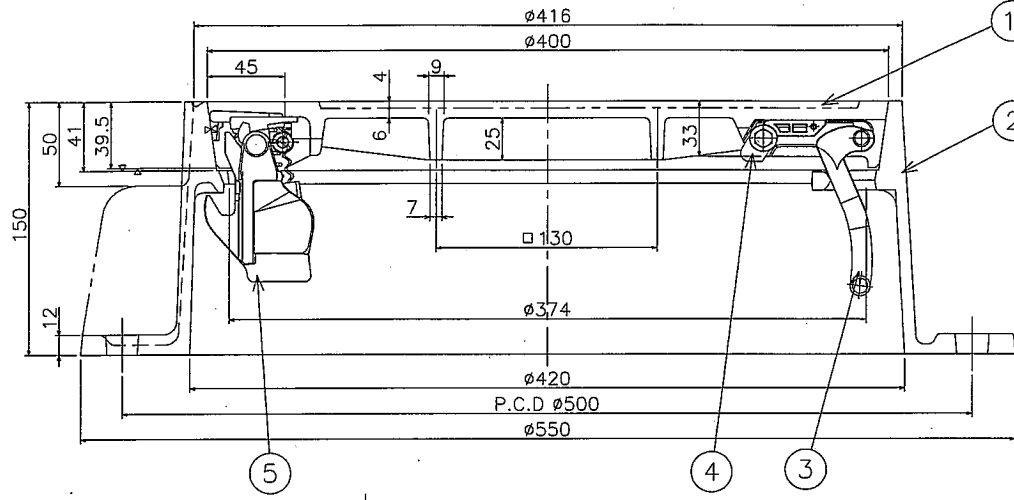
裏面図



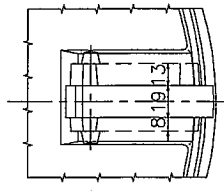
3	蝶番	FCD600	1	
2	フル-L(枠)	FCD600	1	
1	カバー(蓋)	FCD700	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称 E II 300S				
種類 マンホール鉄蓋呼び300 T-25用耐入リップ型 不法開放防止性能				

防護蓋 300 T-14型構造図 (参考図)

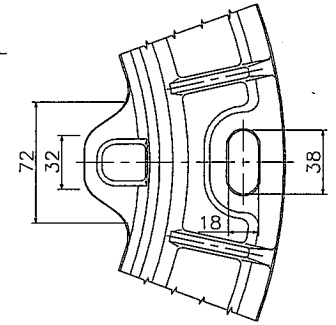
図面番号 15



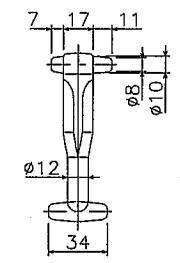
シ-ロウ取付座詳細図



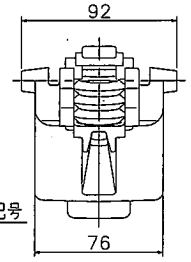
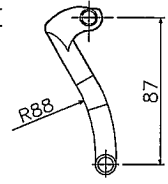
コブ取付座詳細図



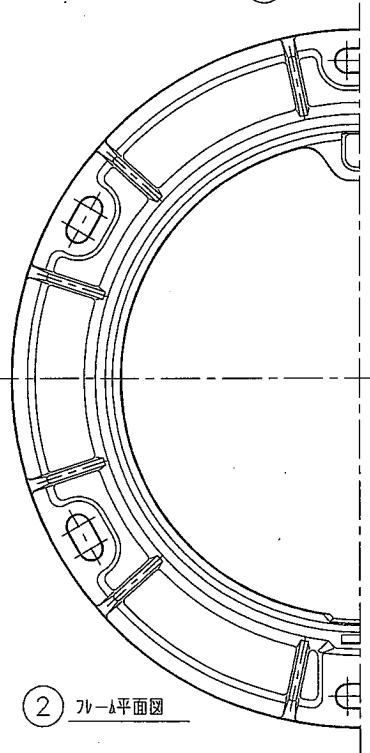
コブ受け部詳細図



コブ詳細図

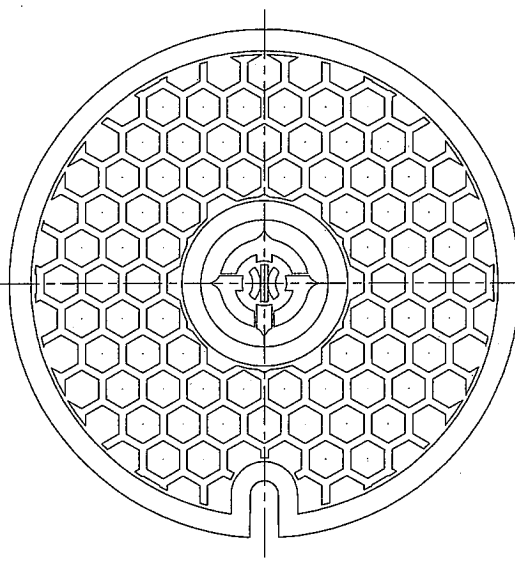


コブ詳細図

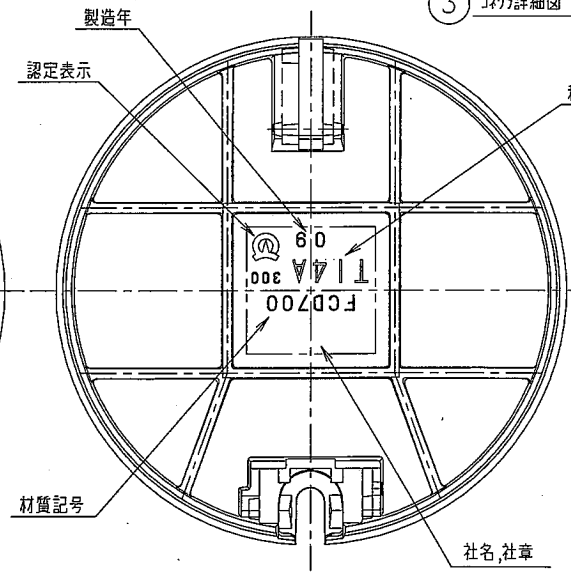


フレーム平面図

カバー、フレーム断面図



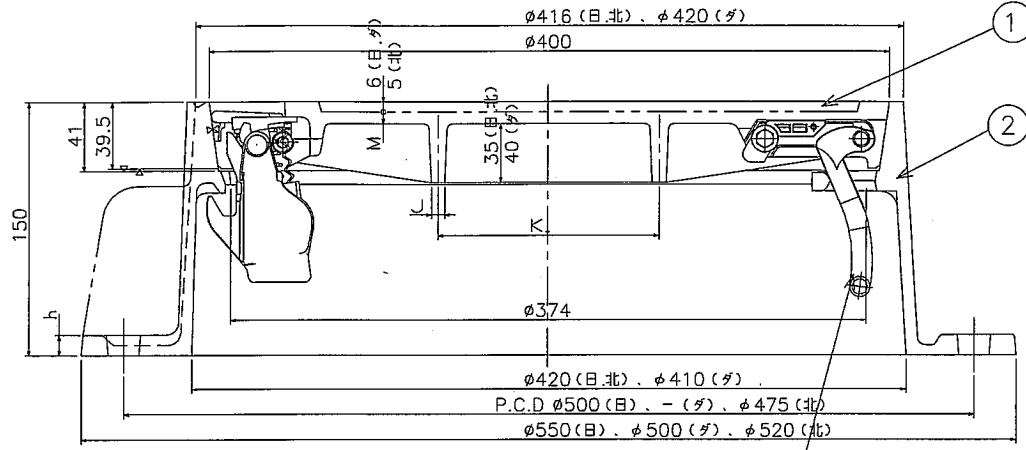
カバー平面図



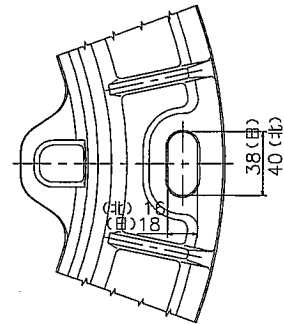
蓋裏面図

5	シ-ロウ	FCD600地	1	
4	スチバ	ナイロフ	1	ボルト・ナット
3	コブ(螺番)	FCD600	1	
2	フレーム(枠)	FCD600	1	
1	カバー(蓋)	FCD700	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称	防護蓋300			
種類	防護蓋呼び300 T-14用			
不法開放防止性能				

防護蓋 300 T-25型構造図 (参考図)



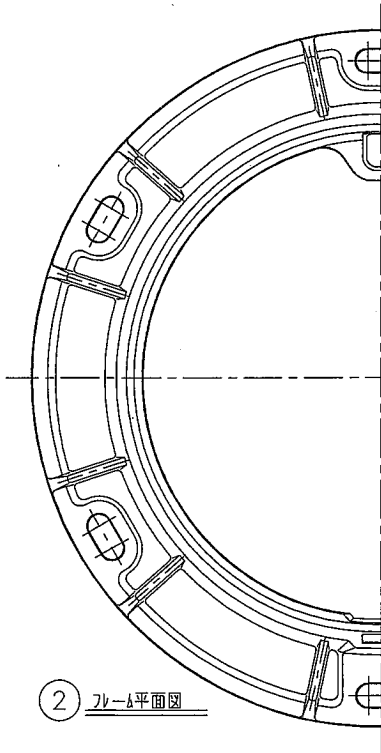
カバー、フレーム断面図



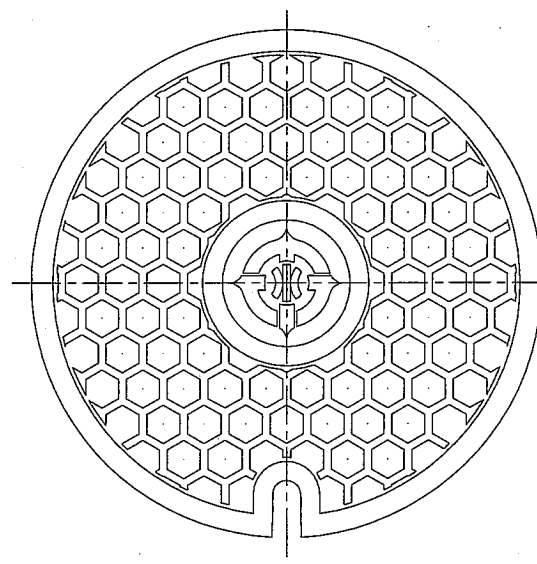
※ 緊結材用穴：タイプは無し

蝶番受け部詳細図

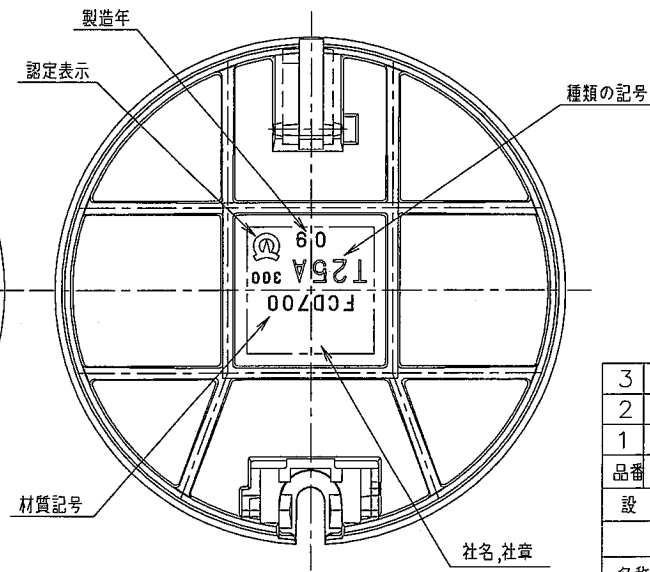
製造者	M	J	K	h
日之出	7.0	8.0	130	12
ダイヤモンド	6.0	10.0	120	8
北勢	8.0	12.0	120×150	10



② フレーム平面図



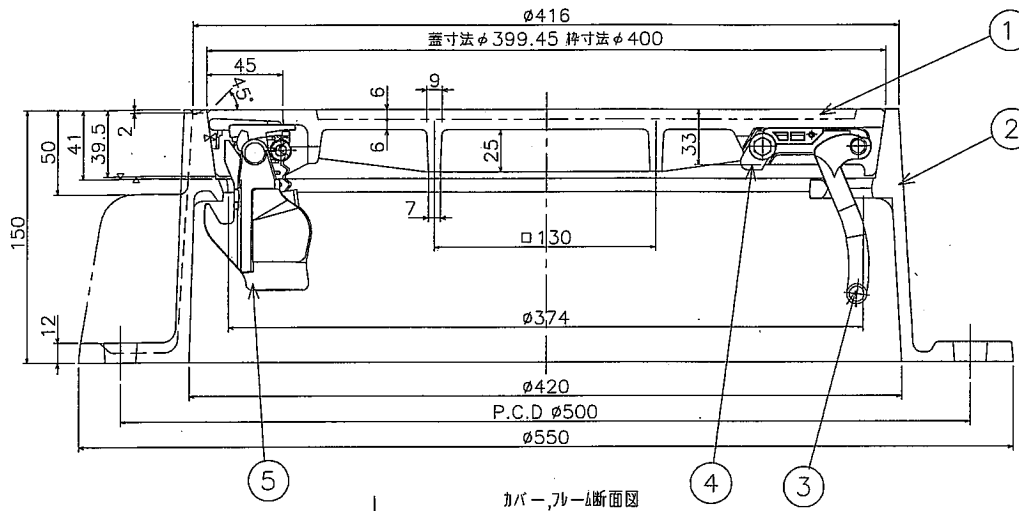
① カバー平面図



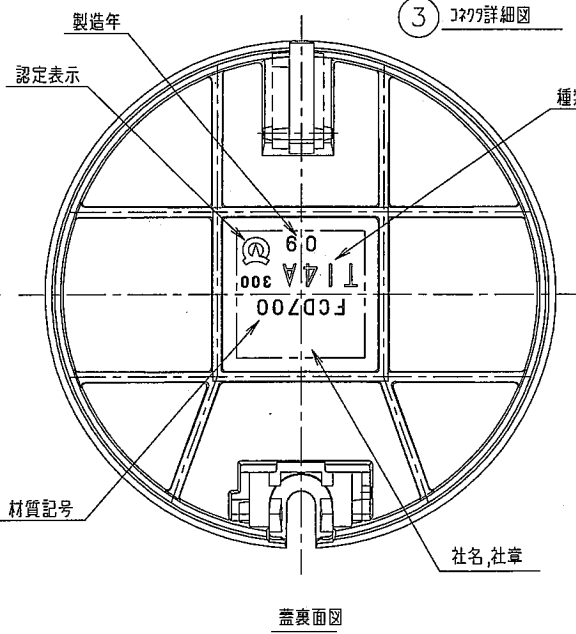
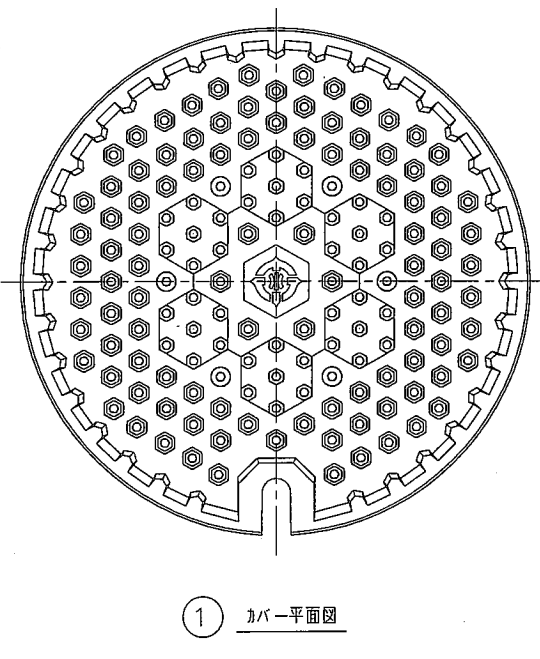
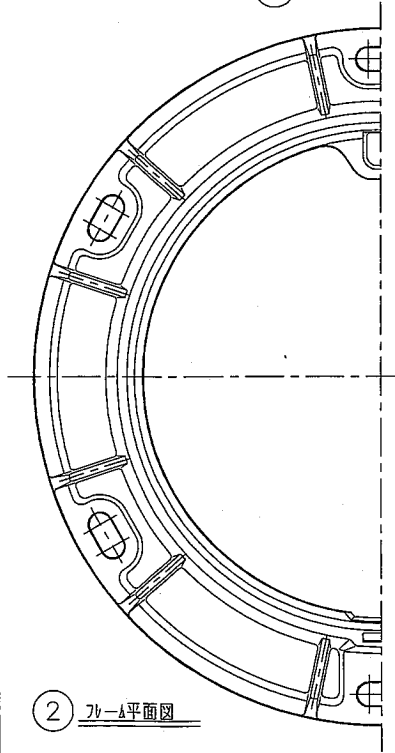
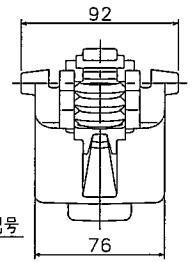
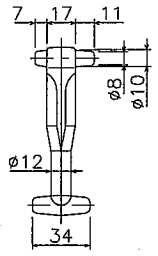
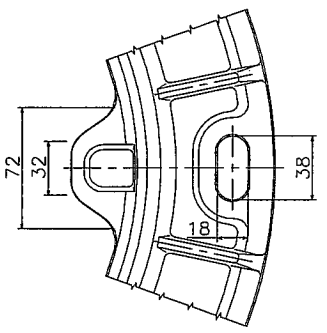
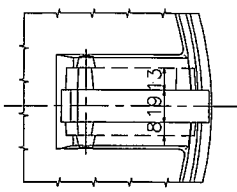
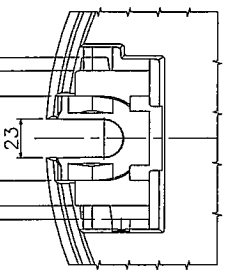
蓋裏面図

3	蝶番		1	
2	フレーム(枠)	FCD600	1	
1	カバー(蓋)	FCD700	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称 防護蓋300				
種類 防護蓋呼び300 T-25用				
不法開放防止性能				

防護蓋300S T-14型構造図(参考図)

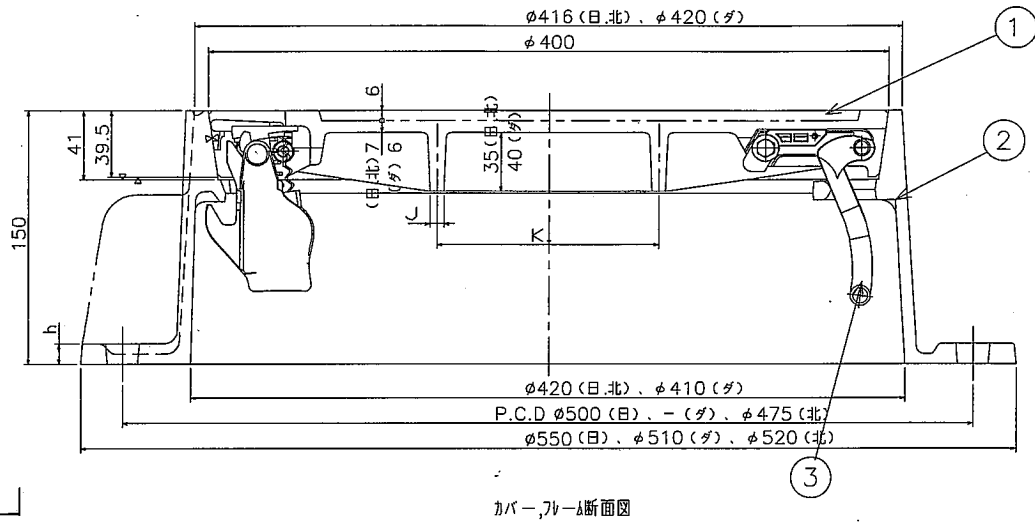


カバー、フレーム断面図

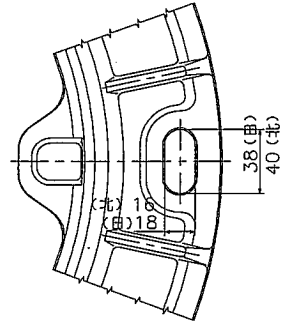


5	シ-ロツク	FCD600地	1		
4	スプリング	ナイロン	1	ボルト・ナット	
3	コバネ(蝶番)	FCD600	1		
2	フレーム(枠)	FCD600	1		
1	カバー(蓋)	FCD700	1		
品番	名称	材質	個数	備考	
設計	図番	尺度	年月日		
名称	防護蓋300S				
種類	防護蓋呼び300 T-14用耐スリップ型 不法開放防止性能				

防護蓋 300S T-25型構造図 (参考図)

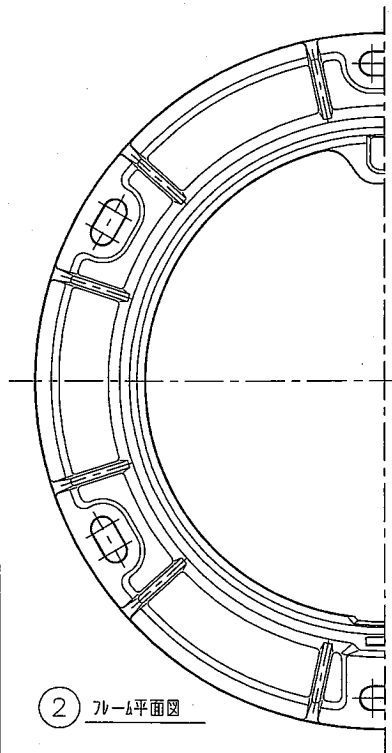


カバ-、フル-ム断面図

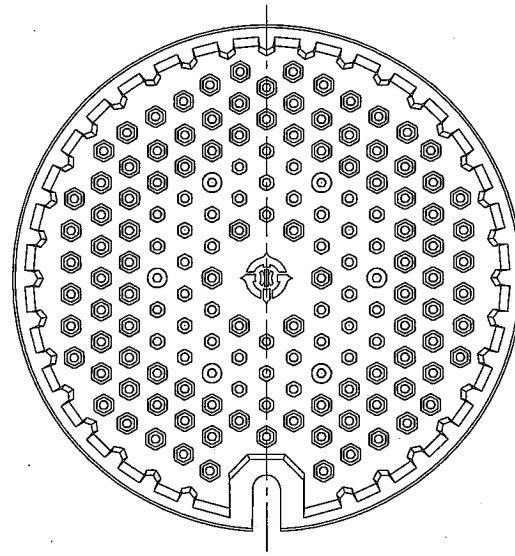


* 緊結の外用穴: タイフは無し

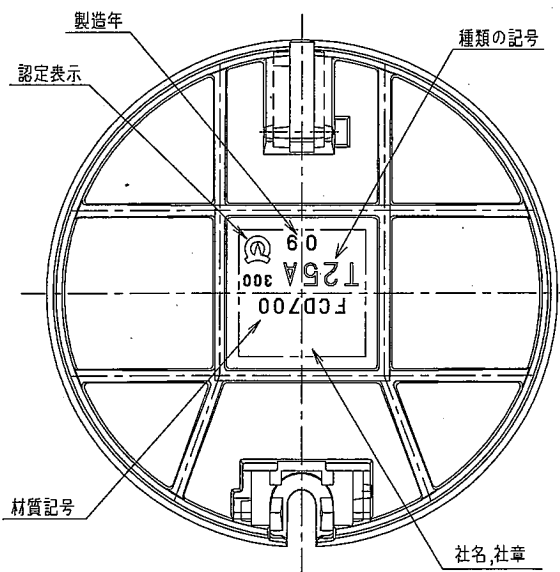
蝶番受け部詳細図



フル-ム平面図



カバ-平面図

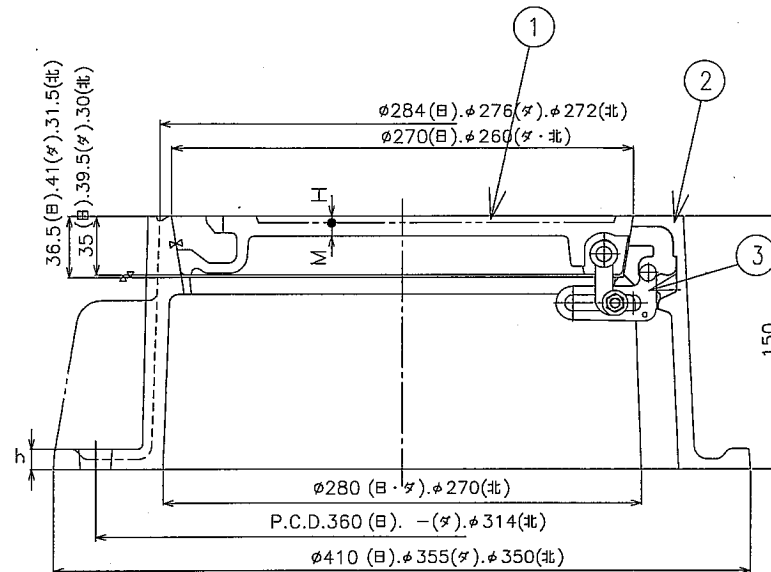
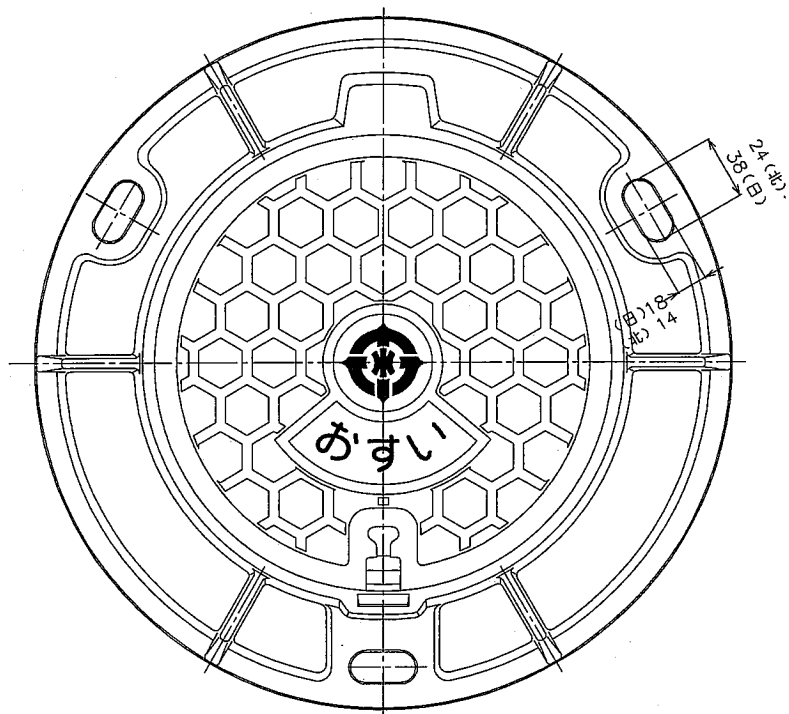


蓋裏面図

主要部寸法			
製造者	J	K	h
日之出	8.0	130	12
タイフ	10.0	120	8
北勢	12.0	120×150	10

3	蝶番		1	
2	フル-ム(枠)	FCD600	1	
1	カバ- (蓋)	FCD700	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称	防護蓋300S			
種類	防護蓋呼び300 T-25用耐スリップ型			
不法開放防止性能				

防護蓋200 T-14型構造図 (参考図)



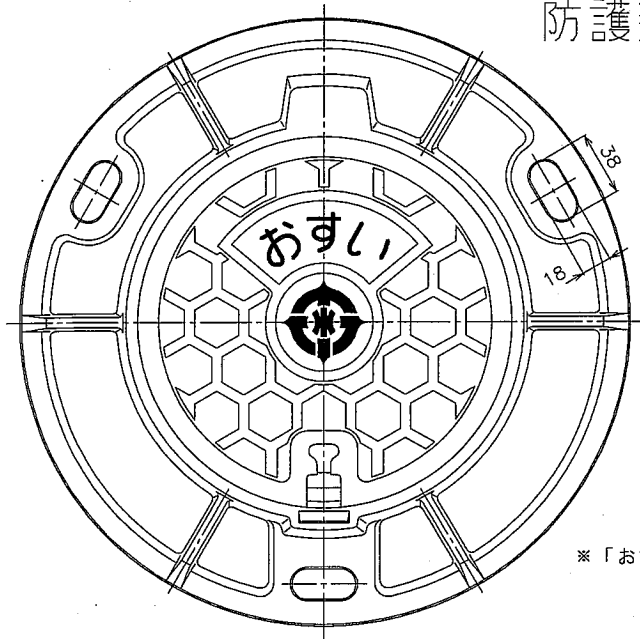
※「おすい」の表示は省略可

主要部寸法			
製造者	H	M	h
日之出	4	8	12
タイテ	6	6	8
北勢	5	7	10

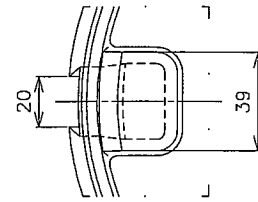
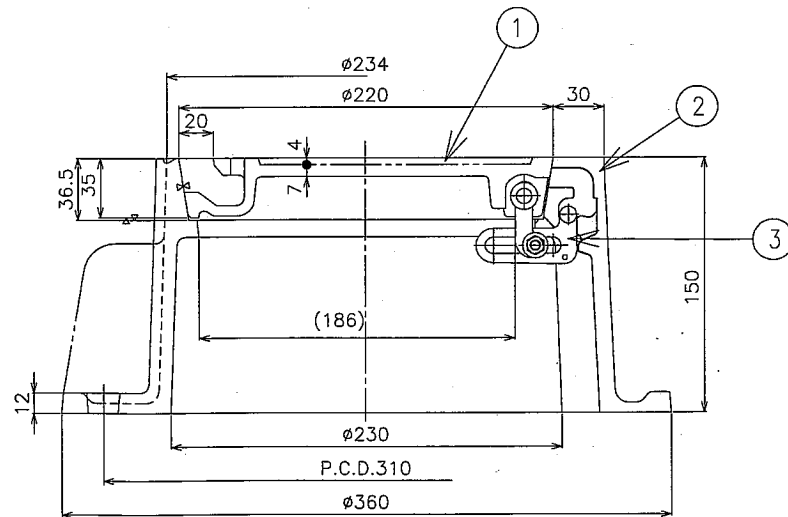
※タイテ、北勢はT-25型となる。

3	蝶番		1組	
2	受弁	FC0600	1	
1	蓋	FC0600	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称 防護蓋200				
種類 掃除口Ⅲ型 (φ200) T-14用				

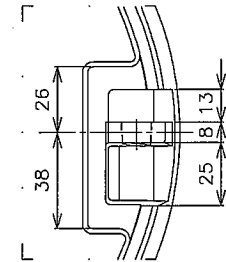
防護蓋 150 T-14型構造図 (参考図)



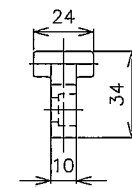
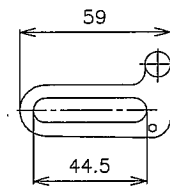
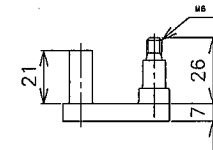
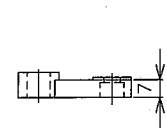
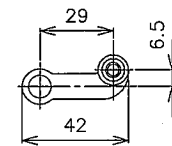
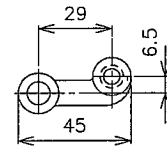
※「おすい」の表示は省略可



蓋裏袋式パール穴詳細



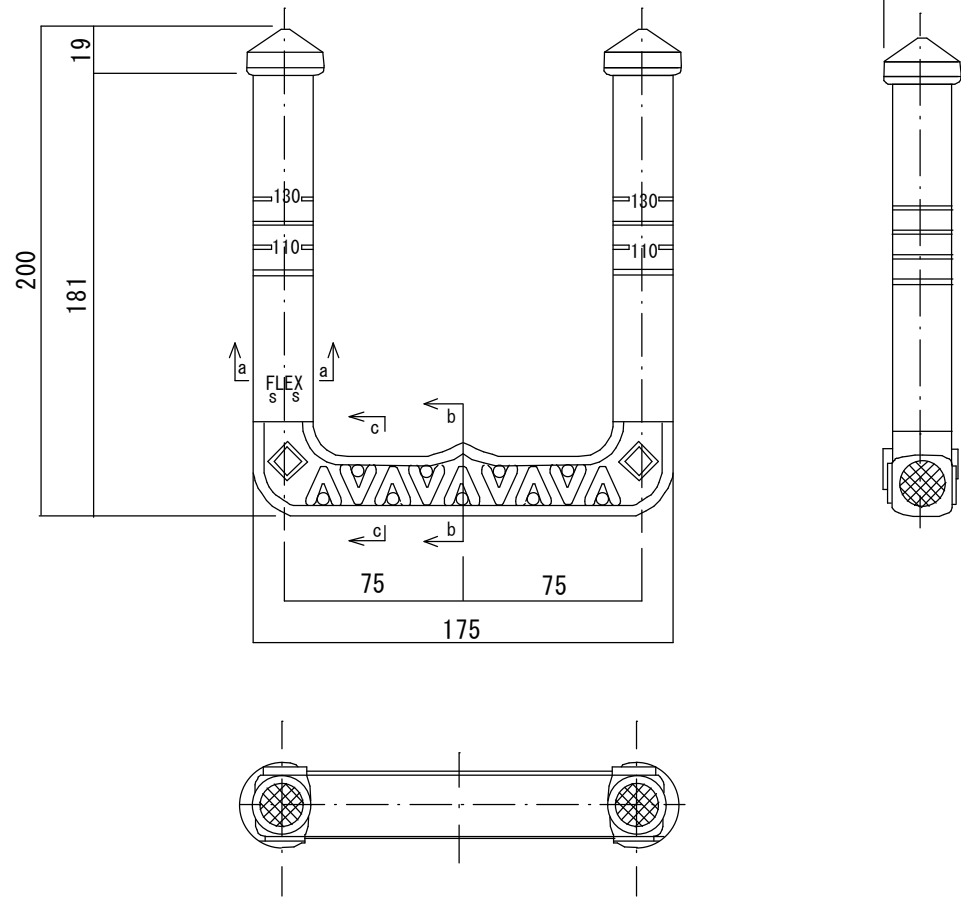
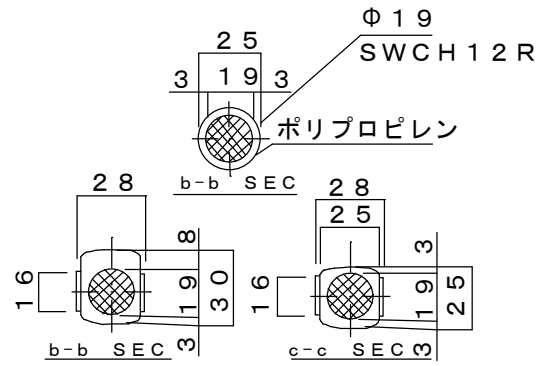
蓋裏蝶番部詳細



3 蝶番金物詳細

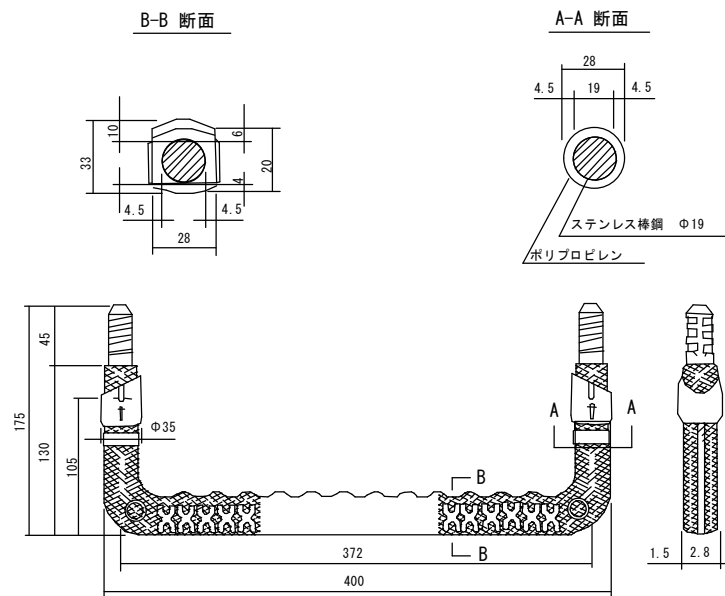
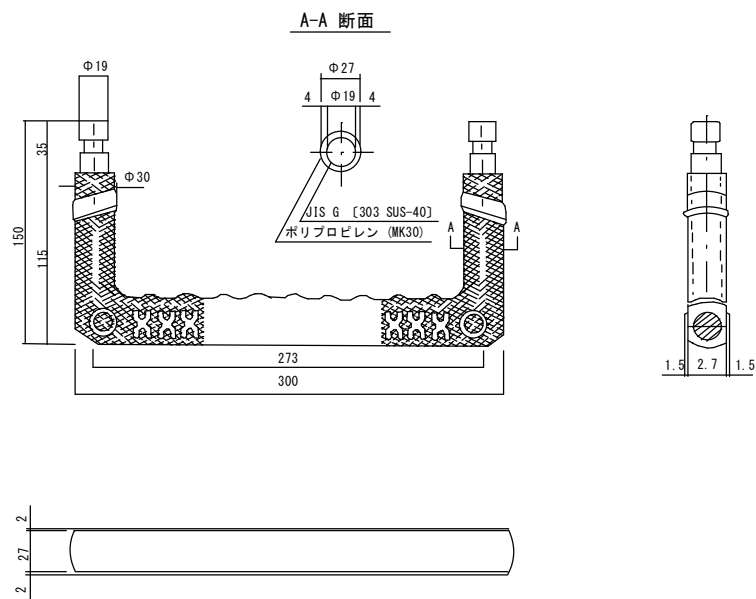
3	蝶番	SCS13A	1組	
2	受枠	FCD600	1	
1	蓋	FCD600	1	
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称	防護蓋 150			
種類	掃除口Ⅱ型 (φ150) T-14用			

足掛金物構造図 (1)

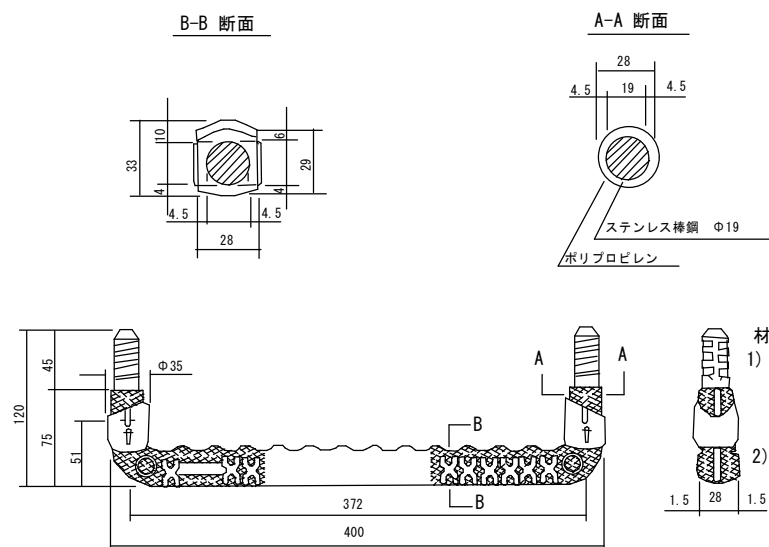
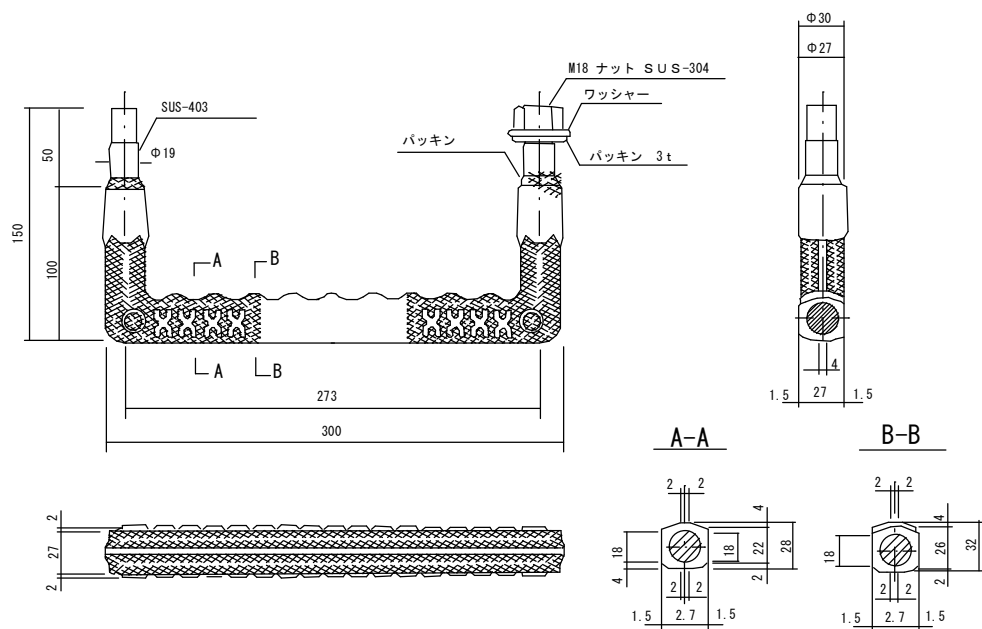


- (注)
1. この製品は、鹿児島市公共下水道または、これに準ずる施設のマンホール側塊（JIS）に取付けるものである。
 2. 形状寸法及び構造は図面のとおりである。
 3. 材質 (1) 芯材 S S材（鋼材）
(2) 被覆材 ポリプロピレン樹脂（完全被覆）
 4. 使用区分 この製品は、JISマンホール取付用である。

足掛金物構造図〔組立マンホール用〕 (2) 参考



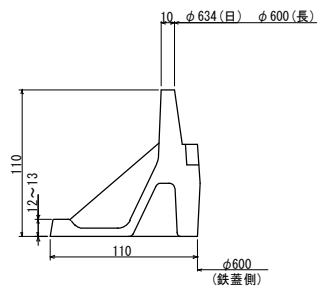
- 材質
- 1) 棒鋼材
J I S G 430G-SLS 403
に適合する材料とする。
 - 2) 被覆材
ポリプロピレン (MK-30)
防錆被覆とする。



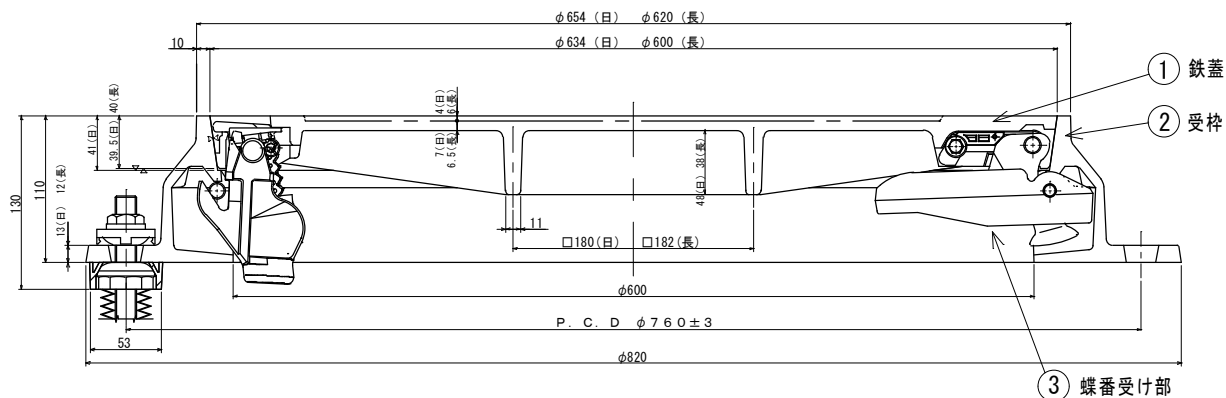
- 材質
- 1) 棒鋼材
J I S G 430G-SLS 403
に適合する材料とする。
 - 2) 被覆材
ポリプロピレン (MK-30)
防錆被覆とする。

鉄蓋 (EⅢ600F T-14型) 構造図 (参考図)

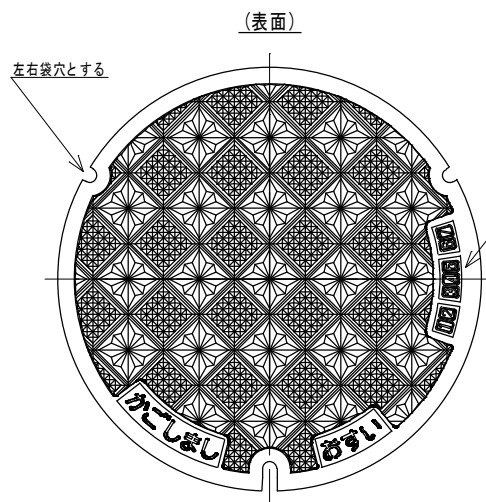
受枠断面図



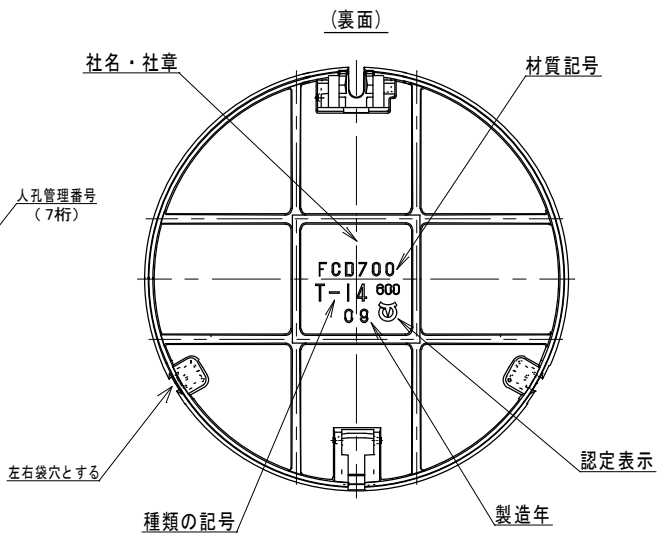
鉄蓋・受枠断面図



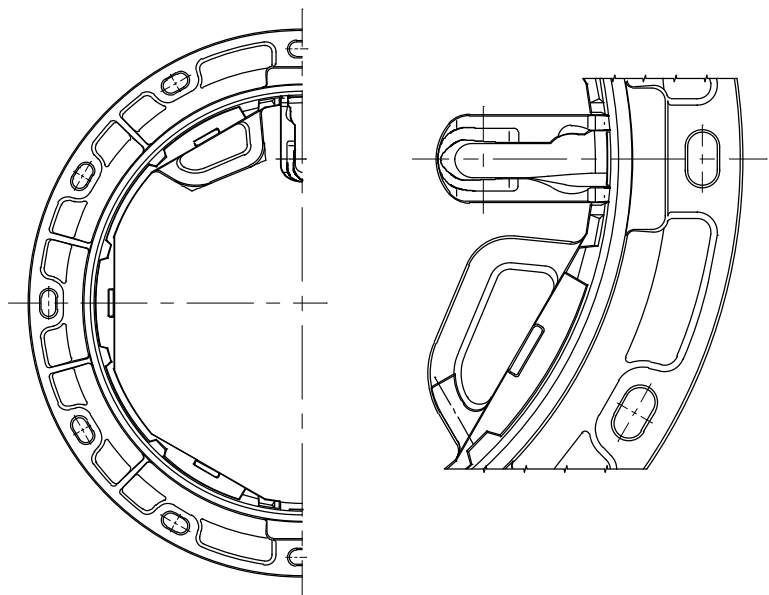
① 鉄蓋平面図



② 受枠平面図



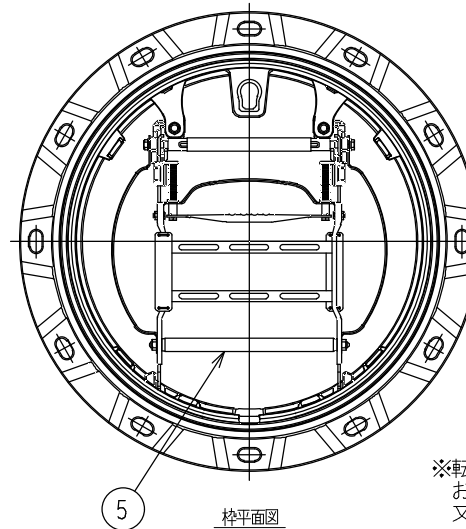
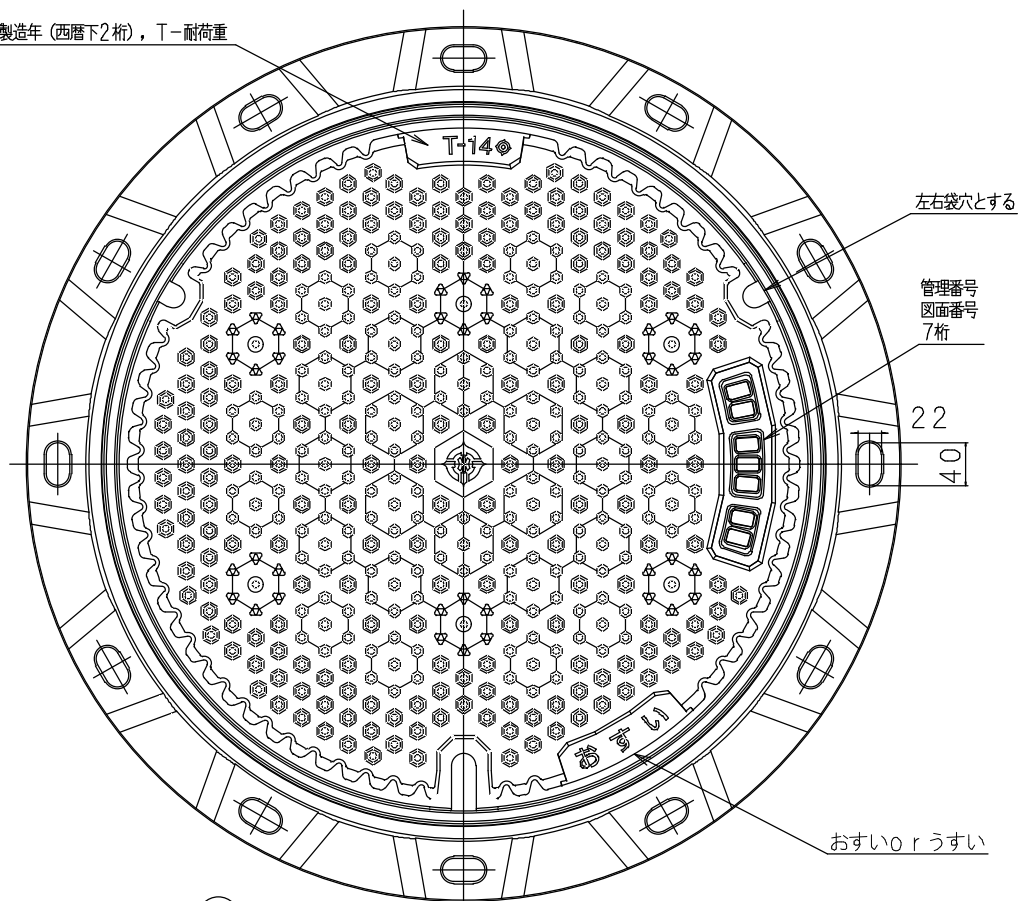
③ 蝶番受け部詳細図



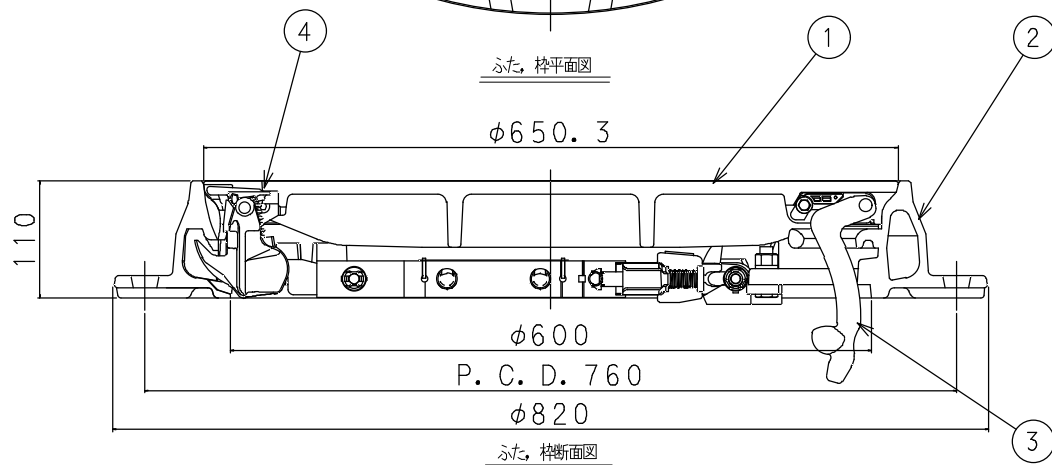
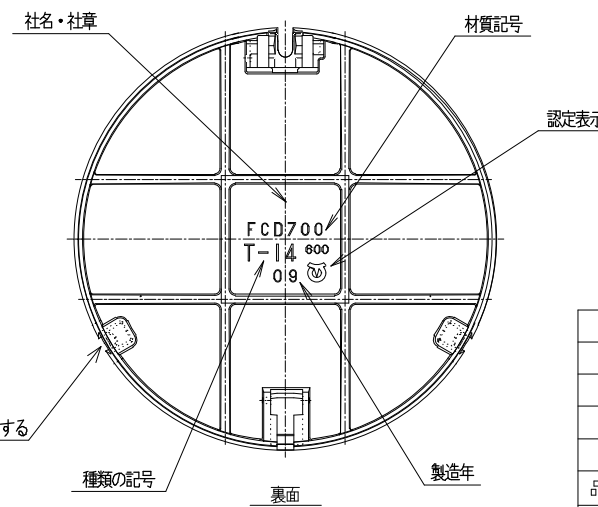
※製造者 (日): 日之出 (長): 長島

鉄蓋 (F600FS T-14) 構造図 (参考)

製造年 (西暦下2桁), T-耐荷重



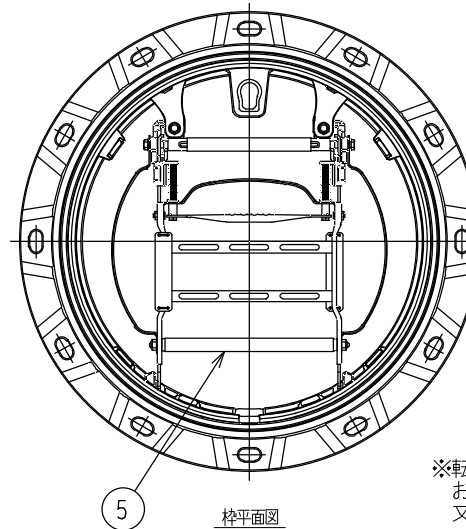
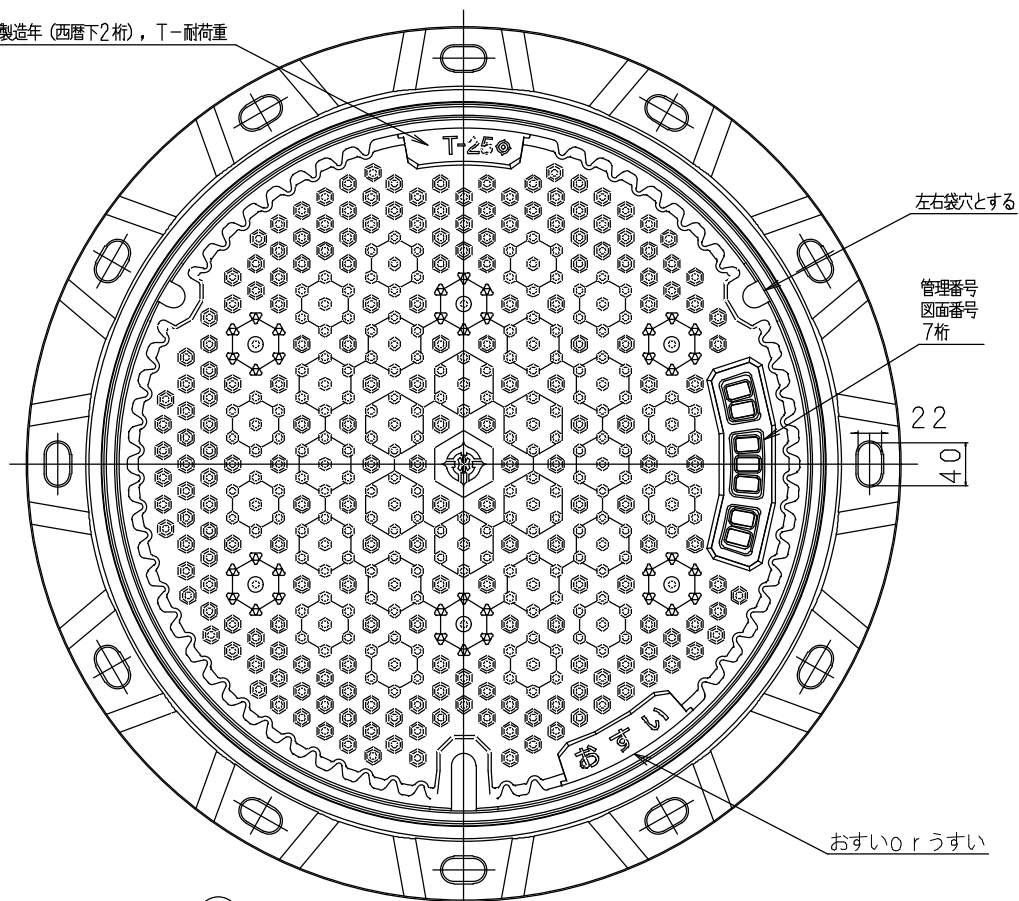
※転落防止梯子について、うすいは標準使用。
おすいについては、人孔深2m以上のマンホール、
又は腐食のおそれが高いマンホール。



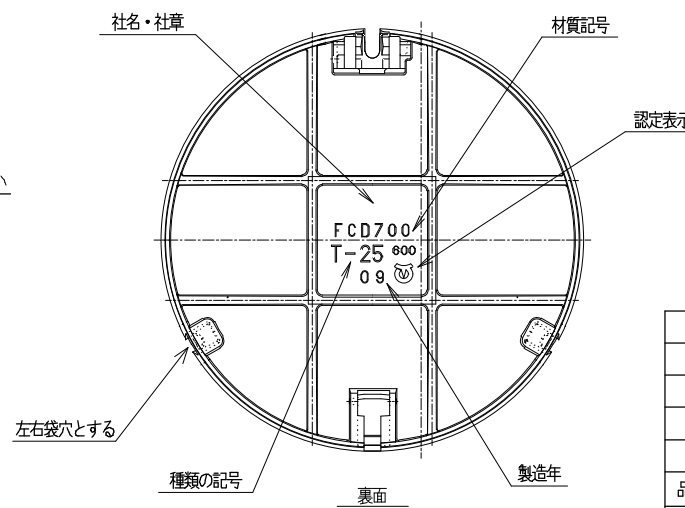
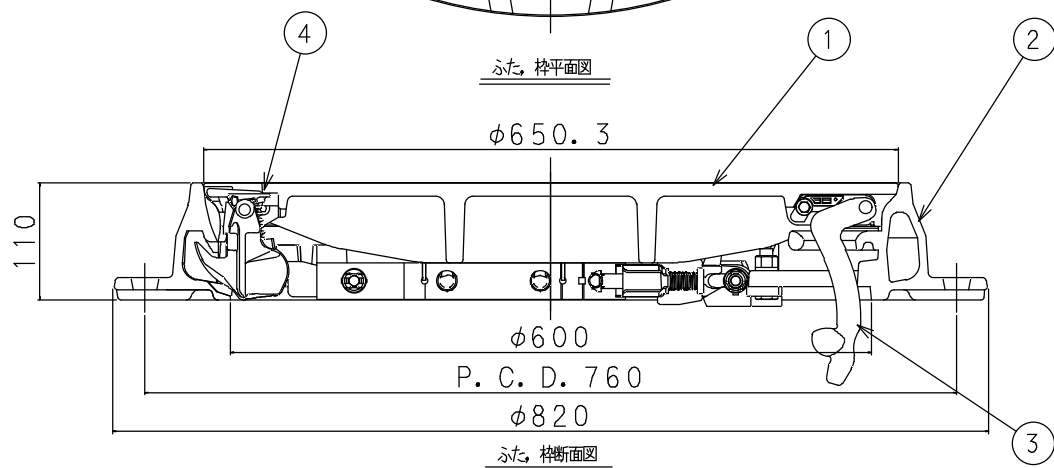
5	転落防止装置	SUS304材	1	
4	自動錠	FCD600材	1組	ボルト・ナット
3	蝶番	FCD600材	1	ボルト・ナット
2	枠	FCD600	1	
1	ふた	FCD700	1	荷重仕様:T-14
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
名称	F600FS			
種類	マンホール鉄蓋呼び600 T-14用 転落防止梯子付			
	不法解放防止性能、圧力解放耐掃圧性能 過剰くいこみ防止			

鉄蓋 (F600FS T-25) 構造図 (参考)

製造年 (西暦下2桁), T-耐荷重



※転落防止梯子について、うすいは標準使用。
おすいについては、人孔深2m以上のマンホール、
又は腐食のおそれが高いマンホール。



5	転落防止装置	SUS304材	1	
4	自動錠	FCD600材	1組	ボルト・ナット
3	蝶番	FCD600材	1	ボルト・ナット
2	枠	FCD600	1	
1	ふた	FCD700	1	荷重仕様:T-25
品番	名称	材質	個数	備考
設計	図番	尺度	年月日	
型式	F600FS			
品名	マンホール鉄蓋呼び600 T-25用 転落防止梯子付			
不法解放防止性能、圧力解放耐圧性能 過剰くこみ防止				